

平成29年度
南海トラフ地震（東海地震）
についての県民意識調査

静岡県危機管理部危機情報課

南海トラフ地震（東海地震）についての県民意識調査

目 次

I 調査の概要

1 調査の概要

1	調査目的	- 1 -
2	調査内容	- 1 -
3	調査実施概要	- 1 -
4	標本構成	- 3 -
5	摘要と標本誤差	- 4 -
6	「防災に関する世論調査」の概要	- 5 -

II 調査結果

1 南海トラフ地震(東海地震)について

1-1	南海トラフ地震(東海地震)への関心度	- 7 -
1-2	2～3年前に比べての関心度	- 11 -
1-3	南海トラフ地震(東海地震)発生メカニズムの認知	- 15 -
1-4	大規模地震が起こった場合に心配なこと【新規設問】	- 16 -
1-5	津波避難のタイミング【新規設問】	- 19 -
1-6	大規模地震発生時の津波の速さの認知	- 22 -
1-7	南海トラフ地震(東海地震)についての情報を定期的に提供する方法	- 25 -

2 日ごろの防災対策について

2-1	災害時に利用できる食料の備蓄日数	- 32 -
2-2	飲料水の備蓄日数	- 36 -
2-3	携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数【新規設問】	- 39 -
2-4	家具類の固定	- 40 -
2-5	ブロック塀・門柱などの安全点検	- 42 -
2-6	大規模地震に備えての防災対策	- 44 -
2-7	建物や家財に関わる保険加入状況について	- 51 -
2-8	災害対策の検討に相談したい人や組織【新規設問】	- 55 -

3 住宅の耐震補強について

3-1	家屋の構造と耐震診断	- 63 -
3-2	プロジェクト“TOUKAI-0”の認知	- 66 -

4 自主防災組織・防災訓練について

4-1	自主防災組織への加入と活動状況	- 69 -
4-2	地震防災訓練への参加状況	- 75 -
4-3	避難所で避難生活を送る場合の心配ごと	- 86 -

5 南海トラフ地震(東海地震)が突然発生したときの行動について	
5-1 突然地震が発生したときの行動.....	- 87 -
5-2 家族との安否確認手段【新規設問】.....	- 90 -
5-3 地震発生後の防災活動への参加.....	- 92 -
5-4 地震が突然発生したときの自分自身の安全性.....	- 96 -
5-5 地震が突然発生したときの避難行動.....	- 97 -
6 警戒宣言が発せられたときの行動について	
6-1 警戒宣言発令時の行動.....	- 100 -
6-2 避難該当地域であるかの認識.....	- 102 -
6-3 居宅で警戒宣言が発せられた場合の避難.....	- 103 -
7 地震に関する情報について	
7-1 東海地震に関連する情報体系の認知.....	- 105 -
7-2 東海地震予知の可能性.....	- 107 -
7-3 津波警報改善の認知.....	- 108 -
7-4 緊急地震速報についての認知.....	- 109 -
7-5 緊急地震速報入手時の行動.....	- 110 -
7-6 地震防災に必要な情報の入手状況.....	- 111 -
8 その他	
8-1 今後の行政への要望.....	- 113 -
8-2 充実して欲しい情報.....	- 115 -
8-3 重点を置くべき防災対策(自助、共助、公助)【新規設問】.....	- 117 -
付 調査票(単純集計入り).....	- 121 -

I 調査の概要

平成 29 年度南海トラフ地震（東海地震）についての県民意識調査報告書
目 次

I	調査概要	1
II	調査結果	
1	南海トラフ地震（東海地震）について	
1-1	南海トラフ地震（東海地震）への関心度	6
1-2	南海トラフ地震（東海地震）が発生する仕組み（メカニズム）の認知度	9
1-3	南海トラフ地震（東海地震）が起こった場合に心配なこと	10
1-4	南海トラフ地震（東海地震）があり津波が発生した場合の避難のタイミング	14
1-5	南海トラフ地震（東海地震）があり津波が発生した場合の津波の速さの認知	16
1-6	平常時に県や市町からの南海トラフ地震（東海地震）等の情報の提供方法	18
2	日ごろの防災対策について	
2-1	ローリングストック法の認知度【新規設問】	22
2-2	災害が発生したと仮定して利用できる食料の備蓄日数	24
2-3	災害が発生したと仮定して家族で1週間分の食料の備蓄の有無【新規設問】	30
2-4	飲料水の備蓄日数	33
2-5	携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数	38
2-6	地震に備えた家具類の固定	41
2-7	ブロック塀・門柱などの安全点検	43
2-8	南海トラフ地震（東海地震）に備えての防災対策	46
2-9	建物や家財に関わる保険加入状況	54
2-10	災害対策の検討に相談したい人や組織	58
2-11	避難地の認知度	61
3	住宅の耐震補強について	
3-1	住宅の構造と耐震診断	64
3-2	『プロジェクト「TOUKAI（東海・倒壊）—0（ゼロ）』の認知度	67
4	自主防災組織・防災訓練について	
4-1	自主防災組織への加入と活動状況	69
4-2	過去1年間の地震防災訓練への参加状況	74
5	避難所について	
5-1	災害発生後の自宅損壊やライフラインが使えない場合の避難生活【新規設問】	82
6	南海トラフ地震（東海地震）が突然発生したときの行動について	
6-1	突然地震が発生したときの行動	85
6-2	家族との安否確認手段	88
6-3	地震発生後の防災活動への参加意向	90
6-4	地震が突然発生したときの自分自身の安全状況	93
6-5	地震が突然発生したときの避難行動	95

7	警戒宣言が発せられたときの行動について	
7-1	警戒宣言発令時の行動	98
7-2	避難該当地域であるかの認識	100
7-3	自宅で警戒宣言が発せられた場合の避難行動	101
8	東海地震に関する情報について	
8-1	東海地震に関連する情報体系の認知	103
8-2	東海地震予知の可能性	105
8-3	緊急地震速報についての認知	106
8-4	緊急地震速報入手時の行動	107
8-5	地震防災に必要な情報の入手状況	108
9	不確実な地震予測情報下での避難と規制について	
9-1	不確実な地震予測情報下での避難行動【新規設問】	110
9-2	不確実な地震予測情報下での社会的規制の必要性【新規設問】	111
10	その他	
10-1	今後の行政への要望	112
10-2	充実して欲しい情報	114
10-3	重点を置くべき防災対策（公助、共助、自助）	116
付	調査票（単純集計入り）	119

I 調査の概要

1 調査の概要

1 調査目的

静岡県民の南海トラフ地震（東海地震）に対する防災対策の実施状況や注意情報及び警戒宣言発令時の対応・行動等を調査し、その意識の実態や経年的意識の変化等を把握することにより、地震防災に係る施策を検討する上での基礎資料を得るため。

2 調査内容

本調査の質問内容の概要は、以下のとおりである。詳細については巻末の「付 調査票」を参照。

- 1 南海トラフ地震（東海地震）について
- 2 日ごろの防災対策について
- 3 住宅の耐震補強について
- 4 自主防災組織・防災訓練について
- 5 避難所について
- 6 南海トラフ地震（東海地震）が突然発生したときの行動について
- 7 警戒宣言が発せられたときの行動について
- 8 東海地震に関する情報について
- 9 不確実な地震予測情報下での避難と規制について
- 10 その他

3 調査実施概要

本調査は、以下の要領で実施した。

- | | |
|----------|--|
| (1) 母集団 | 県内に居住する満20～74歳の男女（抽出時点） |
| (2) 標本数 | 2,000サンプル |
| (3) 標本抽出 | 選挙人名簿より無作為抽出 |
| (4) 調査地域 | 賀茂地域（6市町）
…下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町
東部地域（14市町）
…沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、長泉町、小山町
中部地域（7市町）
…静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町
西部地域（8市町）
…浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、森町
以上全43市区町 |
| (5) 調査期間 | 平成29年10月6日～11月2日 |
| (6) 調査方法 | 郵送調査法 |

(7) 回収状況

地 域	標本数	回収数	回収率 (%)
賀茂地域	34	14	41.2%
東部地域	618	288	46.6%
中部地域	632	312	49.4%
西部地域	716	393	54.9%
無 回 答	-	10	-
合 計	2,000	1,017	50.9%

※但し、上記回収数は集計対象数。

《性別》

	標本数	男性	女性	無回答
賀茂地域	14	7	7	0
東部地域	288	136	152	0
中部地域	312	140	172	0
西部地域	393	199	194	0
無回答	10	0	0	10
全体	1,017	482	525	10

《年齢》

	標本数	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 歳 以上	無回答
賀茂地域	14	0	2	2	1	6	3	0
東部地域	288	17	37	57	67	66	44	0
中部地域	312	34	32	64	62	79	41	0
西部地域	393	26	49	67	86	118	47	0
無回答	10	0	0	0	0	0	0	10
全体	1,017	77	120	190	216	269	135	10

《職業》

	標本数	正社員	正社員以外	自営業	農林漁業	学生	無職	その他	無回答
賀茂地域	14	4	5	1	0	0	4	0	0
東部地域	288	110	53	25	5	4	89	1	1
中部地域	312	110	71	27	6	4	90	1	3
西部地域	393	137	93	32	11	1	119	0	0
無回答	10	0	0	0	0	0	0	0	10
全体	1,017	361	222	85	22	9	302	2	14

《居住年数》

	標本数	1 年未 満	1 ～ 5 年未 満	5 ～ 10 年未 満	10 年 以上	無回答
賀茂地域	14	0	0	0	14	0
東部地域	288	1	11	16	260	0
中部地域	312	3	9	4	296	0
西部地域	393	1	12	8	372	0
無回答	10	0	0	0	0	10
全体	1,017	5	32	28	942	10

- (1) 図中の「N」は、回答総数 (Number) を示し、「MA」は、複数回答可 (Multi Answer) を示す。
- (2) すべての集計は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても、100%にならず、1%の範囲で増減することがある。
- (3) 回答比率 (%) は、その設問の回答者数を基数 (N) として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超える。
- (4) 標本誤差 (サンプル誤差) はおおよそ下表のとおりである。

$$\varepsilon = 2 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

ε : 標本誤差
 n : 標本の大きさ
 P : 回答比率

回答比率	基数	標本誤差 (%)	信頼範囲 (%)
10% (90%)	1,017	±1.9	8.1~11.9 (88.1~91.9)
20% (80%)	1,017	±2.5	17.5~22.5 (77.5~82.5)
30% (70%)	1,017	±2.9	27.1~32.9 (67.1~72.9)
40% (60%)	1,017	±3.1	36.9~43.1 (56.9~63.1)
50%	1,017	±3.1	46.9~53.1

この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答者が1,017人であり、その設問中の選択肢の回答率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.1%である。」

- (5) 図中のグラフについては回答比率により、5%未満については表示していない箇所もある。
- (6) 選択肢において、「その他」の具体的記述欄に同じ内容の回答が多数あった場合は、グラフ中で新たな回答項目として整理し、比較している。

「防災に関する世論調査」の概要

内閣府調査との比較は以下の設問で引用されている。

問3、問12、問15-1、問21、問21-2、問39、問40

内閣府調査は、以下の要領で実施されている。

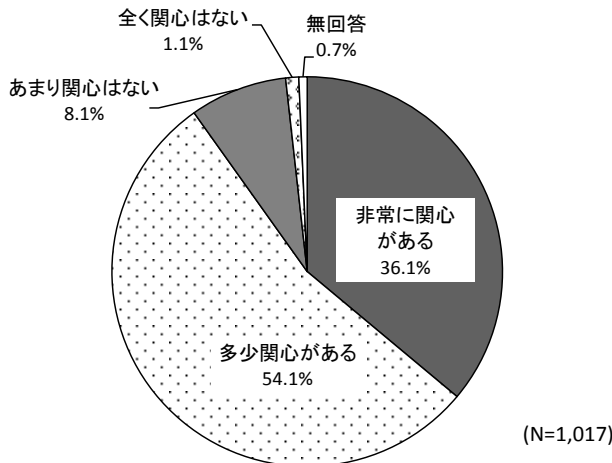
- (1) 調査対象 全国の日本国籍を有する 18 歳以上の者 3,000 人
有効回収数 1,839 人（回収率 61.3%）
- (2) 調査期間 平成 29 年 11 月 16 日 ～ 11 月 26 日（調査員による個別面接聴取）
- (3) 調査目的 防災に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。
- (4) 調査項目
 - 1 災害に関する意識
 - 2 地震対策に関する意識
 - 3 防災情報（自然災害全般）に関する意識
 - 4 防災訓練等に関する意識
 - 5 自助、共助、公助の対策に関する意識
- (5) 公開機関 内閣府政府広報室
- (6) 公開日 平成 30 年 1 月

II 調査結果

1 南海トラフ地震（東海地震）について

1-1 南海トラフ地震（東海地震）への関心度

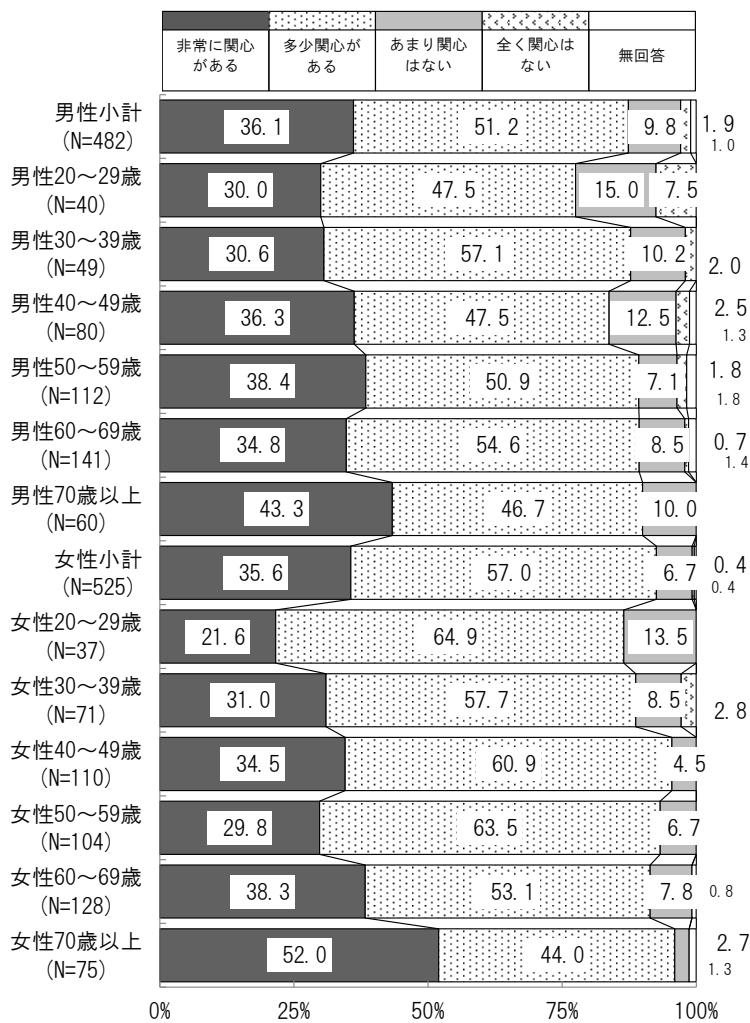
問1 あなたは現在、南海トラフ地震（東海地震）にどの程度の関心を持っていますか。



南海トラフ地震（東海地震）への関心度についてたずねたところ、「非常に関心がある」（36.1%）と「多少関心がある」（54.1%）を合わせた90.2%が関心を持っている。

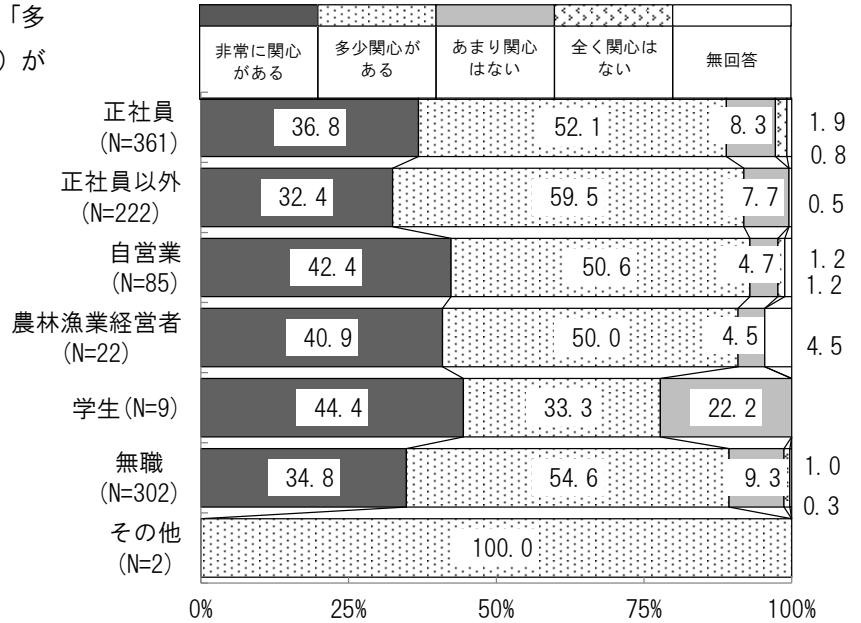
性・年齢別でみると、「非常に関心がある」については、男性・女性とも『70歳以上』が高く、『男性70歳以上』（43.3%）、『女性70歳以上』（52.0%）となっている。一方、「あまり関心はない」と「全く関心はない」の合計は、『男性20～29歳』（22.5%）が他の年齢層に比べ高くなっている。

南海トラフ地震（東海地震）への関心度
＜性・年齢別＞



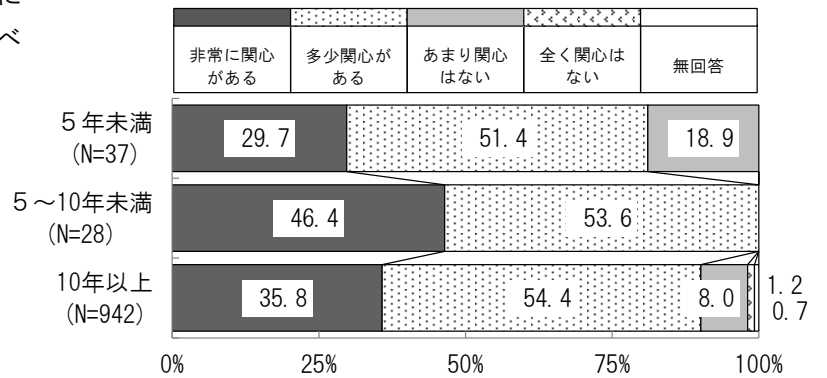
南海トラフ地震（東海地震）への関心度 <職業別>

職業別でみると、「非常に関心がある」と「多少関心がある」の合計は『自営業』（93.0%）が他の職業に比べ高くなっている。



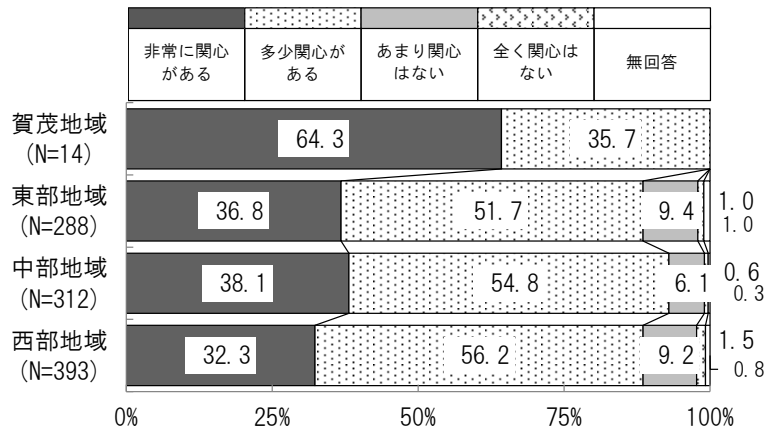
南海トラフ地震（東海地震）への関心度 <居住年数別>

居住年数別でみると、「非常に関心がある」については、『5～10年未満』（46.4%）と他に比べて高くなっている。



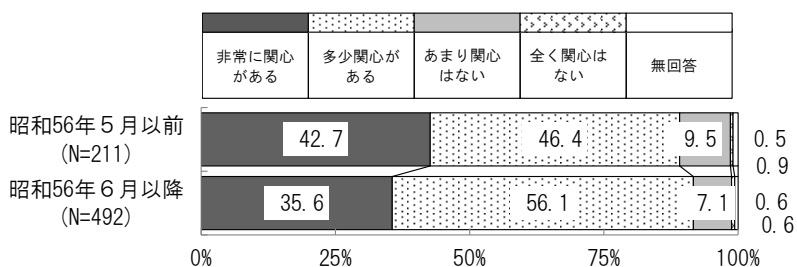
南海トラフ地震（東海地震）への関心度 <地域別>

地域別でみると、「非常に関心がある」については、最も高い『賀茂』（64.3%）と最も低い『西部』（32.3%）で32.0ポイントの差がある。



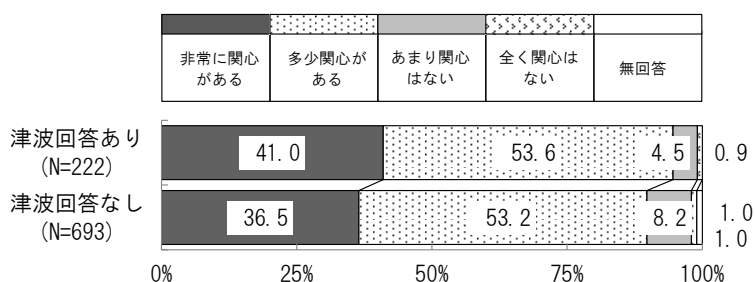
南海トラフ地震（東海地震）への関心度
 <昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較>

昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較でみると、「非常に関心がある」については、『昭和56年5月以前建築』（42.7%）と『昭和56年6月以降』（35.6%）で17.1ポイントの差がある。



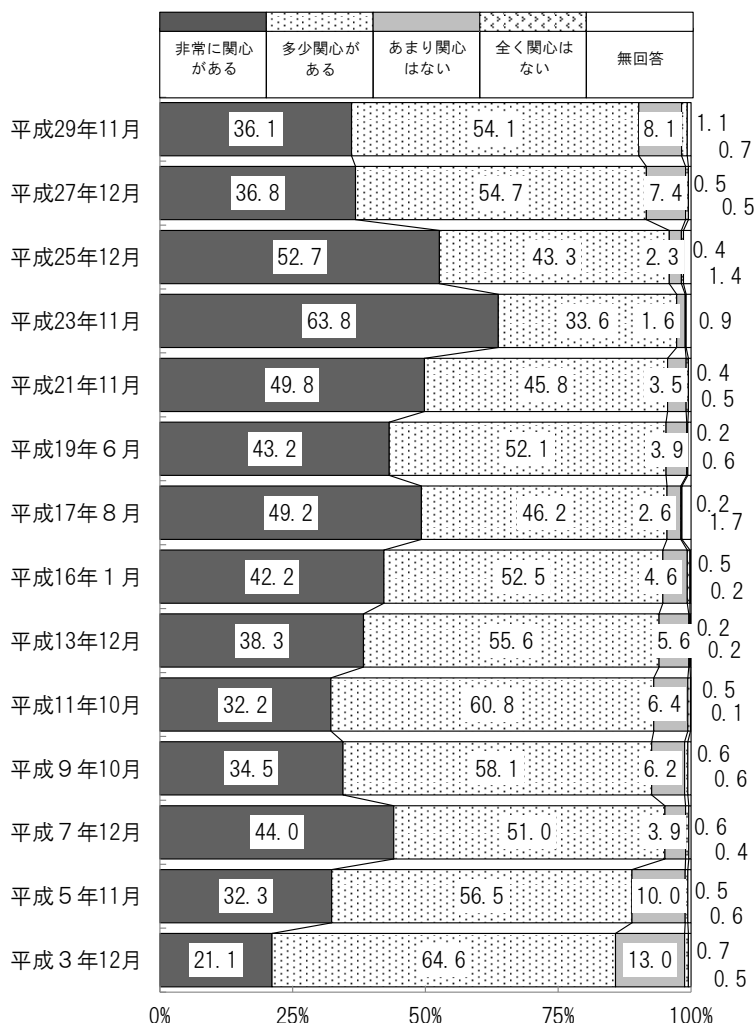
南海トラフ地震（東海地震）への関心度
 <予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>

予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、「非常に関心がある」については、『津波回答あり』（41.0%）、『津波回答なし』（36.5%）と『津波回答あり』が4.5ポイント高くなっている。



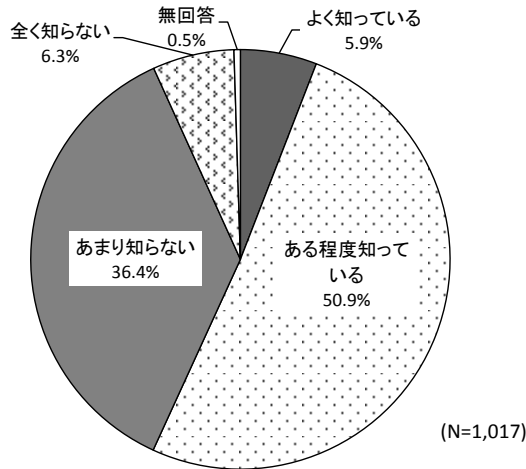
南海トラフ地震（東海地震）への関心度
 <経年比較>

経年比較でみると、「非常に関心がある」は、東日本大震災が起きた平成23年度11月調査（63.8%）と比べると27.7ポイントと徐々に下がっている。



1-2 南海トラフ地震（東海地震）が発生する仕組み（メカニズム）の認知度

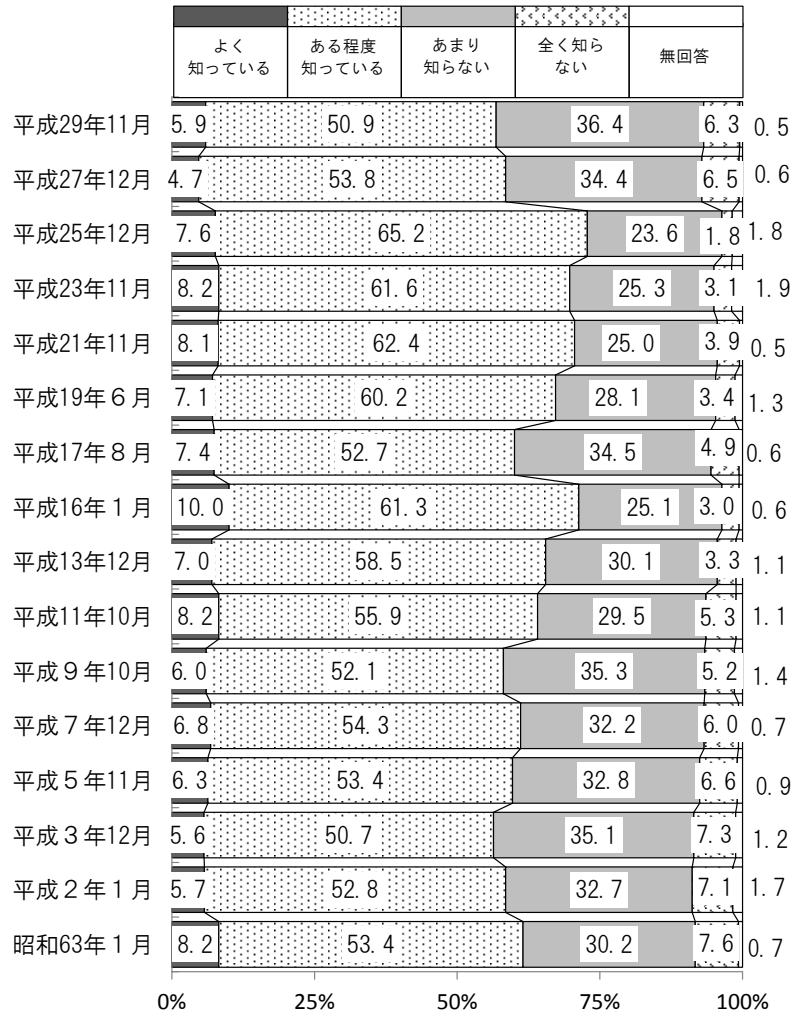
問2 あなたは、南海トラフ地震（東海地震）が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。



南海トラフ地震（東海地震）が発生する仕組み（メカニズム）の認知についてたずねたところ、「ある程度知っている」（50.9%）が最も高くなっている。次いで「あまり知らない」（36.4%）、「全く知らない」（6.3%）、「よく知っている」（5.9%）の順となっている。

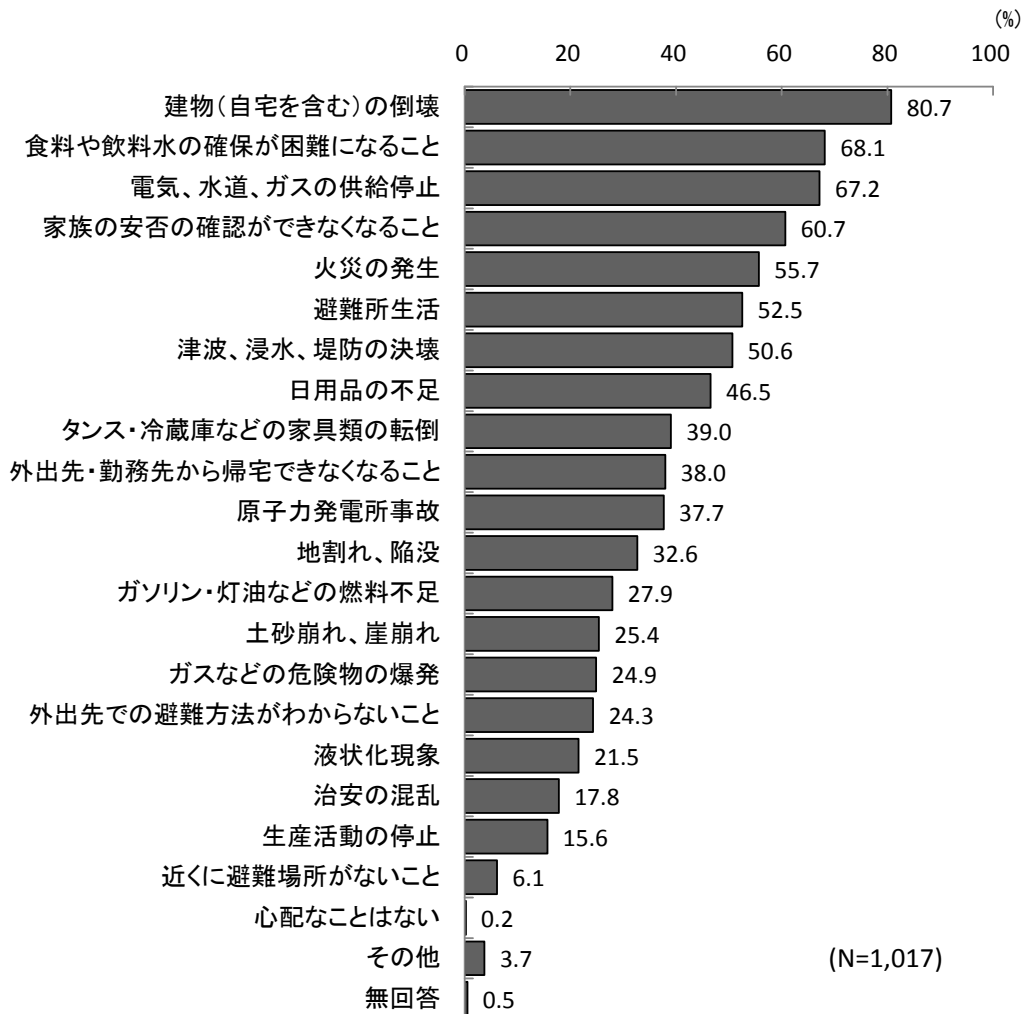
南海トラフ地震（東海地震）発生メカニズムの認知
 <経年比較>

経年比較でみると、「合計認知」（「よく知っている」+「ある程度知っている」）は、平成25年12月の前々回調査（72.8%）に比べると、16.0ポイント低くなっている。また、「あまり知らない」（36.4%）、が前々回調査より12.8ポイント高くなっている。



1-3 南海トラフ地震（東海地震）が起こった場合に心配なこと

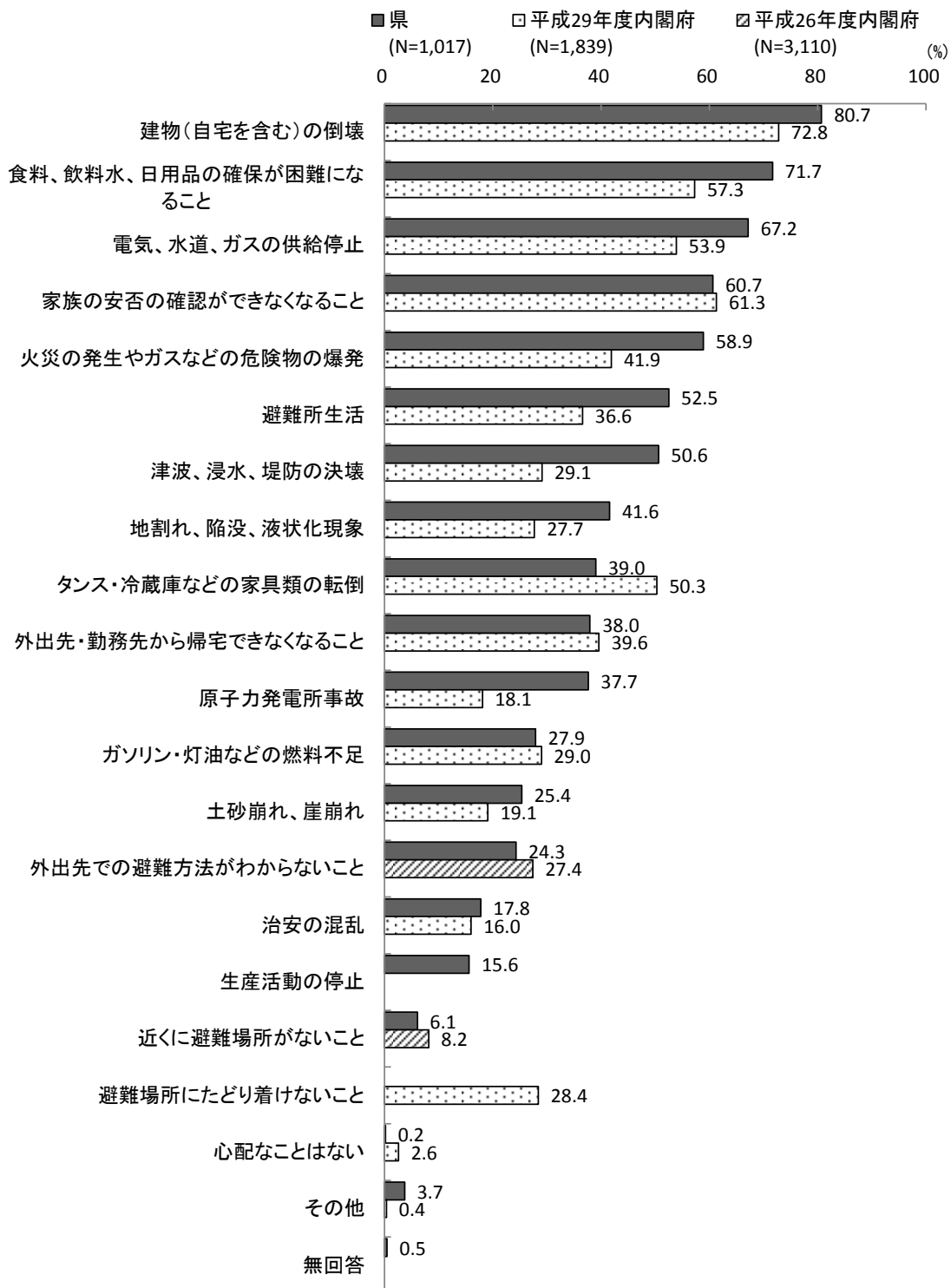
問3 あなたは、南海トラフ地震（東海地震）が起こった場合、どのようなことが心配ですか。（MA）



南海トラフ地震（東海地震）発生時の心配事についてたずねたところ、「建物（自宅を含む）の倒壊」（80.7%）、次いで「食料や飲料水の確保が困難になること」（68.1%）、「電気、水道、ガスの供給停止」（67.2%）、「家族の安否の確認ができなくなる」（60.7%）、「火災の発生」（55.7%）の順となっている。

内閣府調査との比較でみると、「建物の倒壊」は『県』（80.7%）が『内閣府』（72.8%）より7.9ポイント高くなっている。「食料、飲料水、日用品の確保が困難になること」は『県』（71.7%）が『内閣府』（57.3%）より14.4ポイント高くなっている。「原子力発電所事故」は『県』（37.7%）が『内閣府』（18.1%）より19.6ポイント高くなっている。

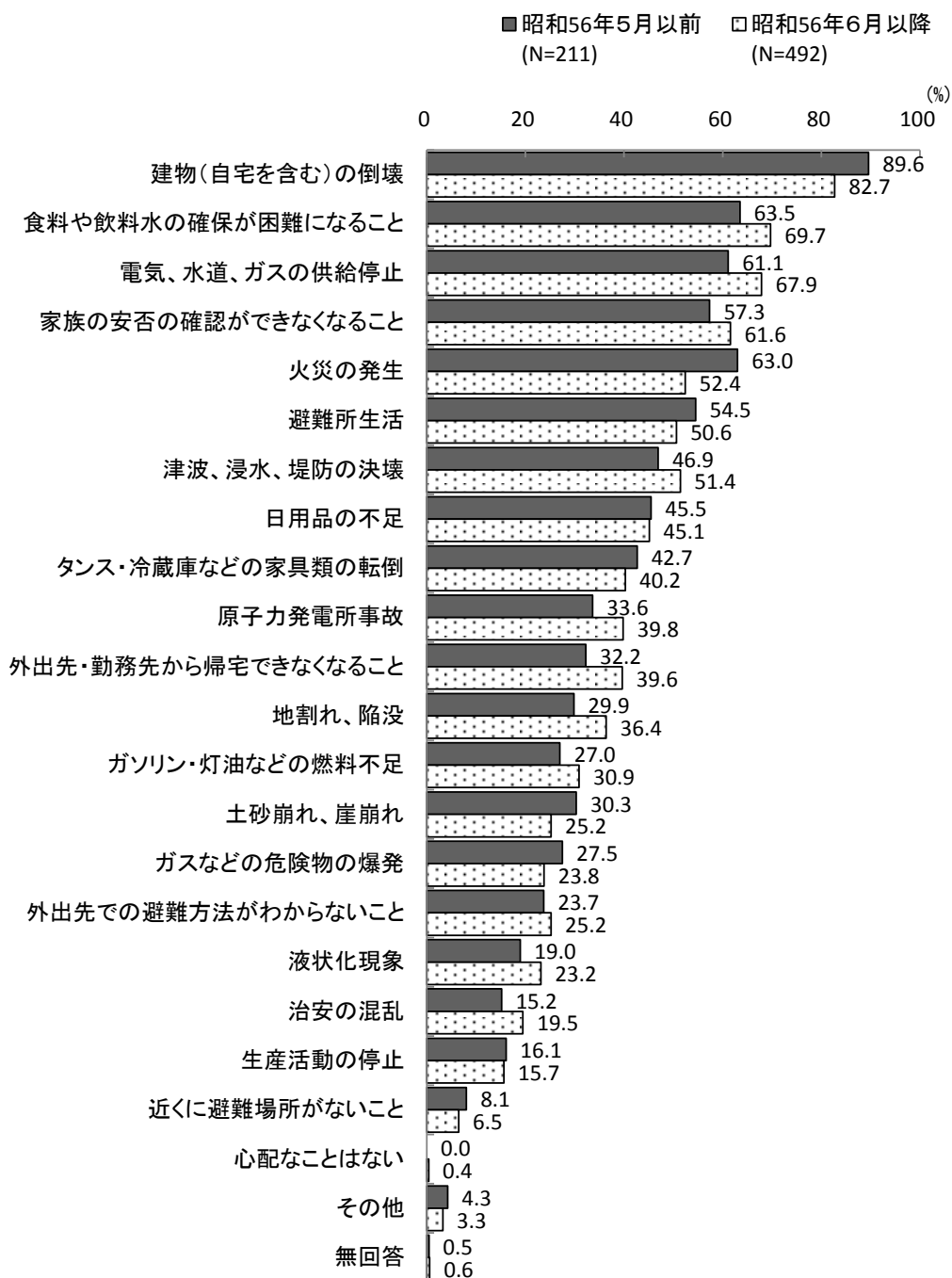
地震時の心配事<内閣府調査との比較>



※内閣府の調査と比較をするため、県の「食料や飲料水の確保が困難になること」「日用品の不足」を再集計し、内閣府の「食料、飲料水、日用品の確保が困難になること」と比較をしている。同様に県の「火災の発生」「ガスなどの危険物の爆発」を再集計し、内閣府の「火災の発生やガスなどの危険物の爆発」と比較し、県の「地割れ、陥没」「液状化現象」を再集計し、内閣府の「地割れ、陥没、液状化現象」と比較をしている。「外出先での避難方法がわからないこと」「近くに避難場所がないこと」は平成29年度の内閣府調査の選択肢にないため、平成26年度の内閣府調査と比較をしている。

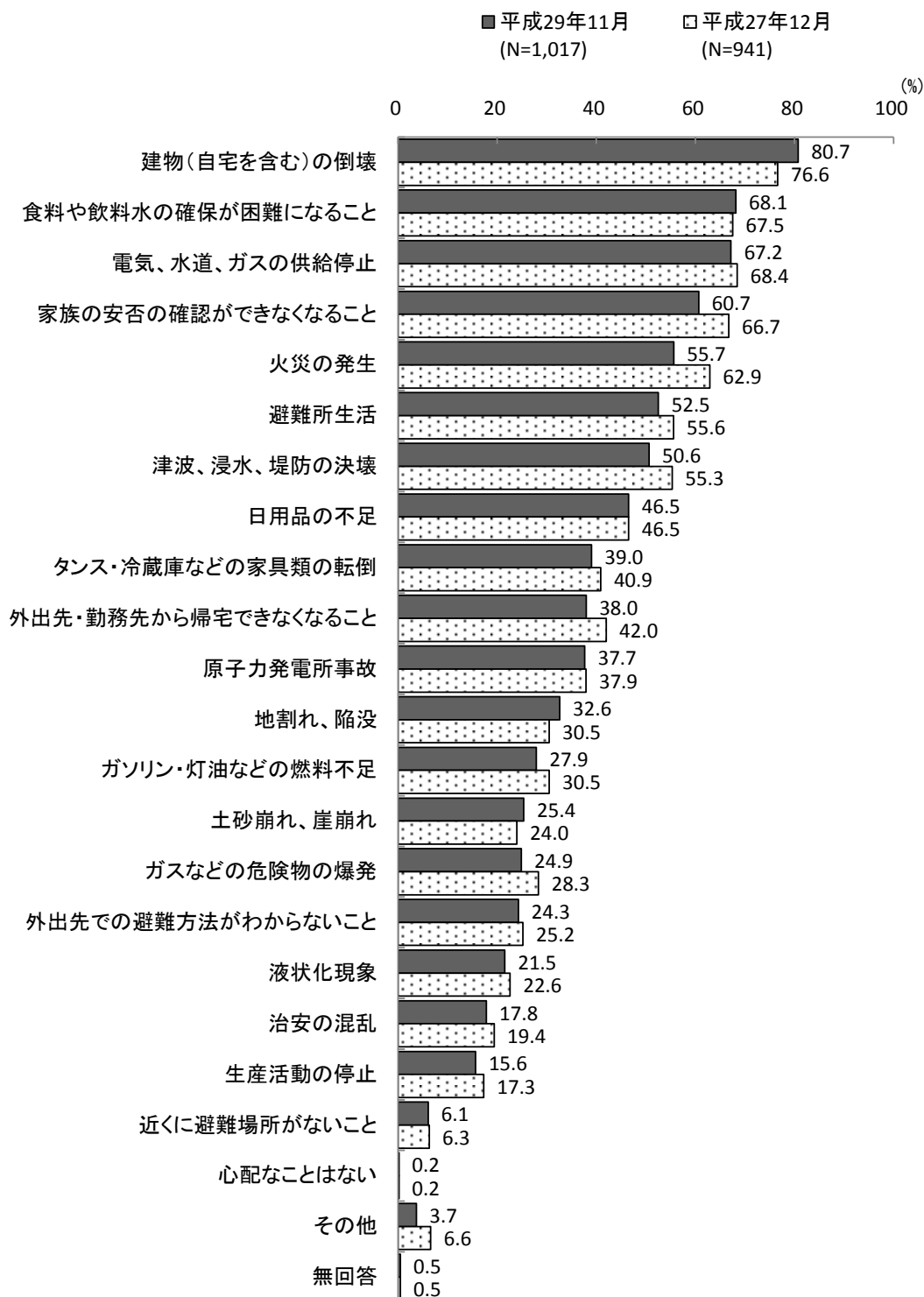
昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較でみると、「建物の倒壊」は『昭和56年5月以前建築』(89.6%)が『昭和56年6月以降』(82.7%)より6.9ポイント高くなっている。「火災の発生」は『昭和56年5月以前建築』(63.0%)が『昭和56年6月以降』(52.4%)より10.6ポイント高くなっている。「避難所生活」は『昭和56年5月以前建築』(54.5%)が『昭和56年6月以降』(50.6%)より3.9ポイント高くなっている。

地震時の心配事<昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較>



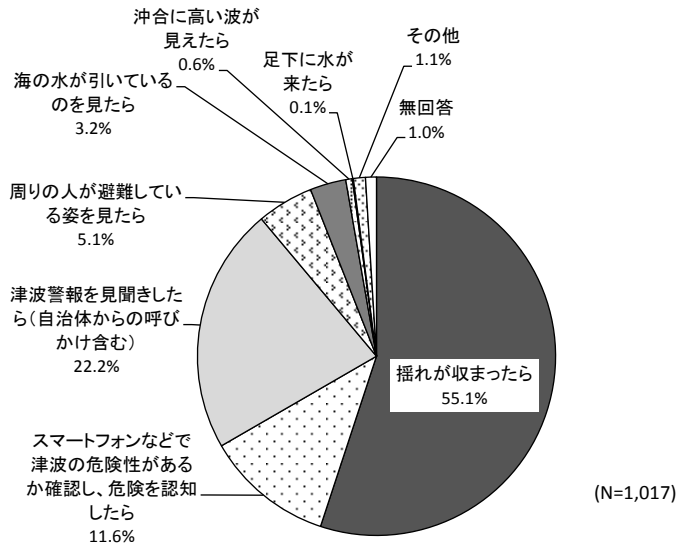
経年比較でみると、「建物の倒壊」は平成27年度12月の前回調査（76.6%）より4.1ポイント高くなっている。「家族の安否の確認ができなくなる事」は前回調査（66.7%）より6.0ポイント低くなっている。

地震時の心配事<経年比較>



1-4 南海トラフ地震（東海地震）があり津波が発生した場合の避難のタイミング

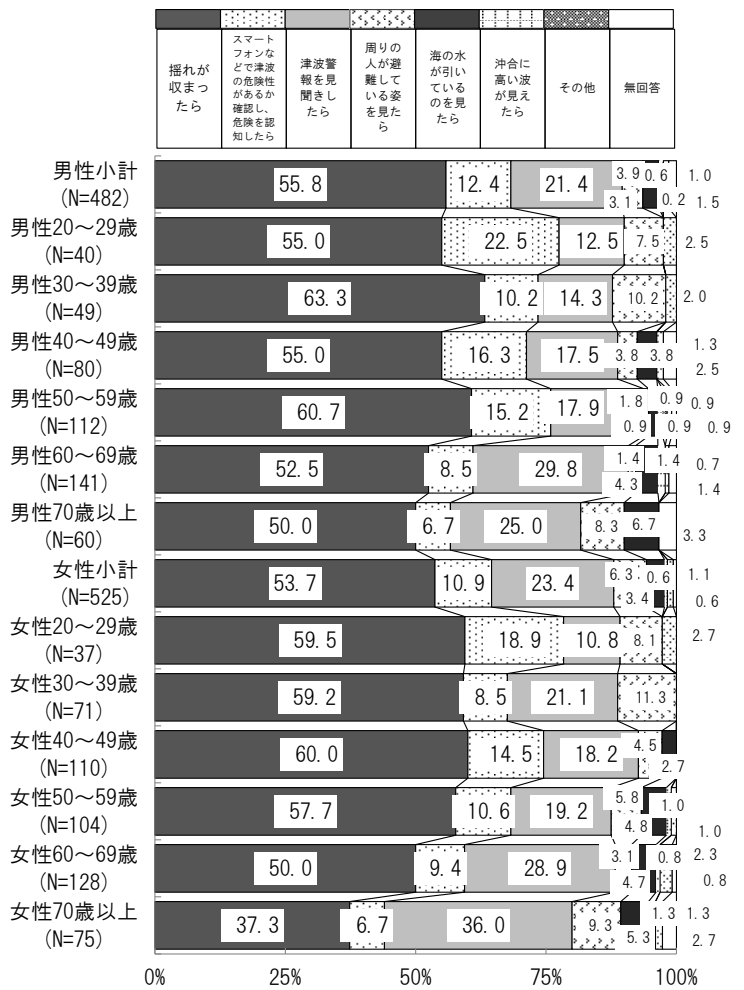
問4 あなたが海岸付近にいる際に突発的に南海トラフ地震（東海地震）があり津波が発生した場合、どのタイミングで避難すると思うかについてお答えください。



津波避難のタイミングについてたずねたところ、「揺れが収まったら」（55.1%）が最も高くなっており、次いで「津波警報を見聞きしたら（自治体からの呼びかけ含む）」（22.2%）、「スマートフォンなどで津波の危険性があるか確認し、危険を認知したら」（11.6%）、「周りの人が避難しているのを見たら」（5.1%）となっている。

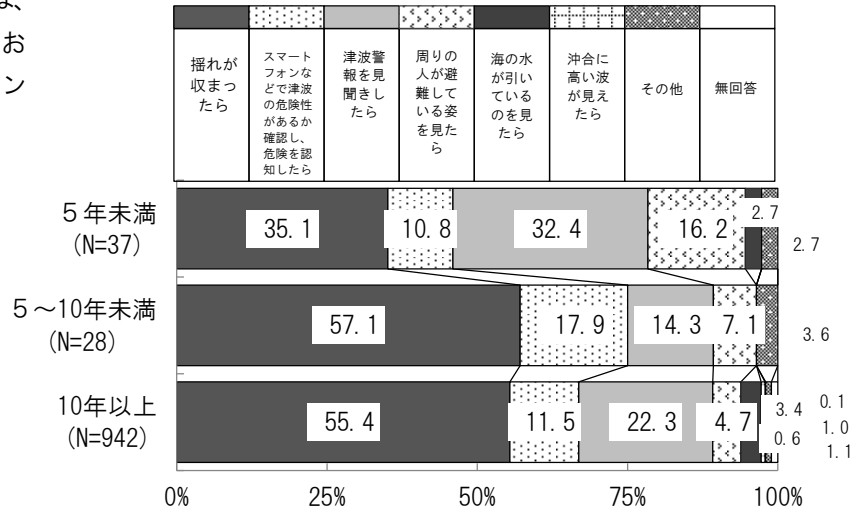
性・年齢別でみると、いずれも「揺れが収まったら」は、半数を超えているが、『女性70歳以上』（37.3%）は他の性・年齢層より低くなっている。

津波避難のタイミング<性・年齢別>



津波避難のタイミング<居住年数別>

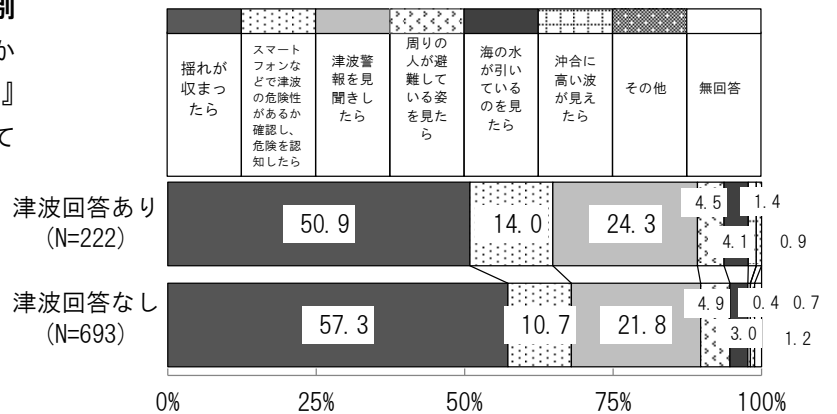
居住年数別でみると、「揺れが収まったら」は、『5～10年未満』(57.1%)が最も高くなっており、『5年未満』(35.1%)と比べると22.0ポイント高くなっている。



津波避難のタイミング

<予想される被害「津波」とそれ以外の回答別>

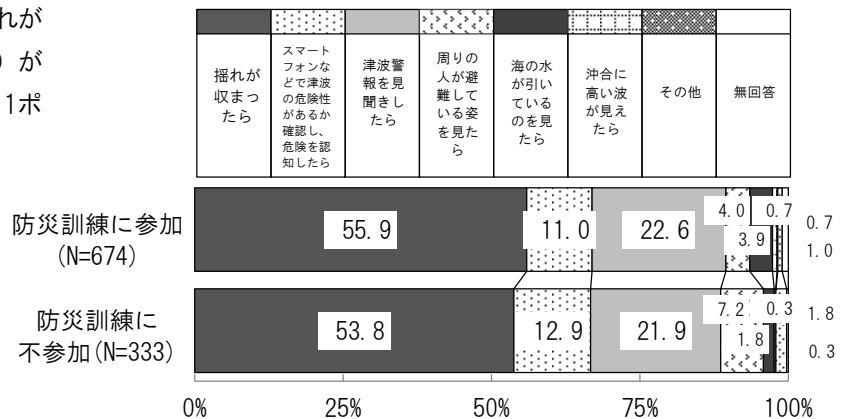
予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別でみると、「津波警報を見聞きしたら（自治体からの呼びかけ含む）」は『津波回答あり』(24.3%)、『津波回答なし』(21.8%)となっている。



津波避難のタイミング

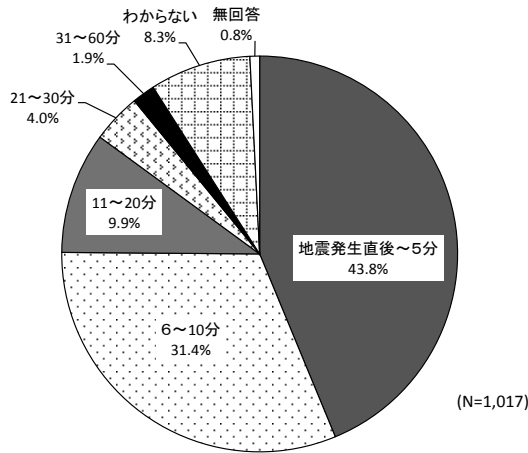
<地震防災訓練参加の有無別>

地震防災訓練参加の有無別でみると、「揺れが収まったら」は『防災訓練に参加』(55.9%)が『防災訓練に不参加』(53.8%)と比べると2.1ポイント高くなっている。



1-5 南海トラフ地震（東海地震）があり津波が発生した場合の津波の速さの認知

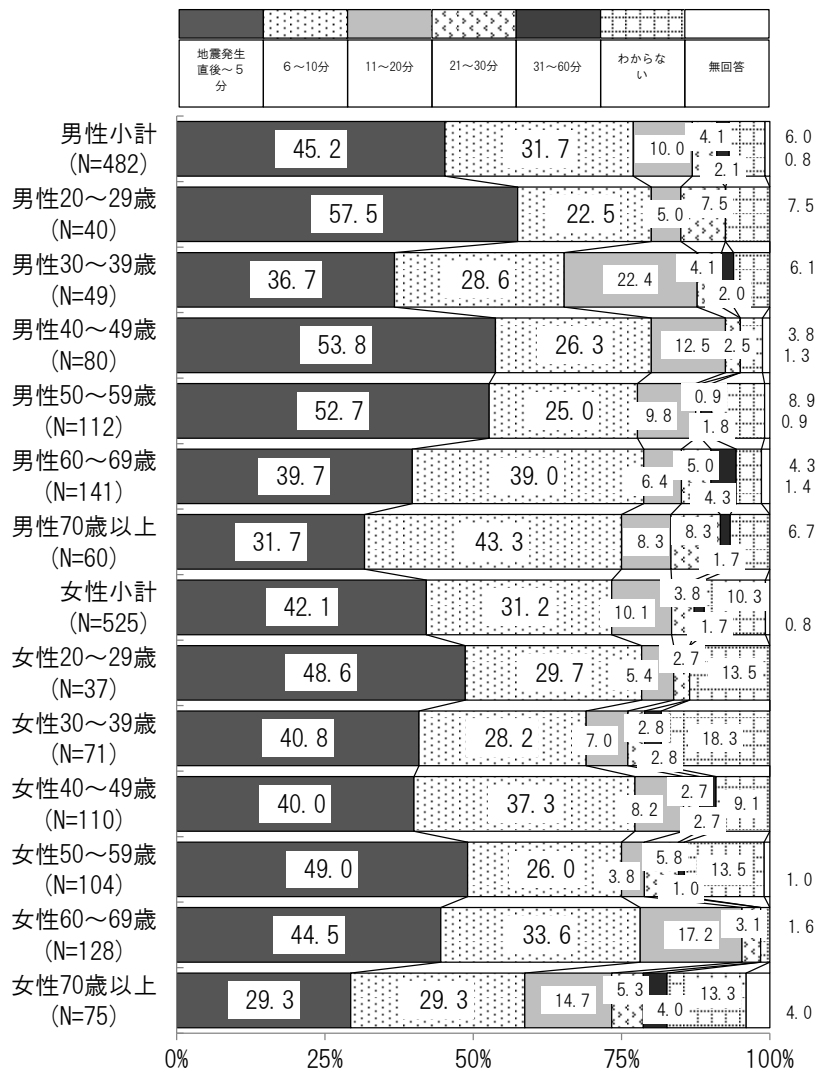
問5 南海トラフ地震（東海地震）が発生した場合、津波は、一番はやいところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来ると思いますか。



予想される到達時間は、駿河湾や遠州灘の沿岸では地震発生直後～5分程度であるが、南海トラフ地震（東海地震）発生時の津波の到達時間の認知についてたずねたところ、「地震発生直後～5分」（43.8%）が最も高く、次いで「6～10分」（31.4%）、「11～20分」（9.9%）の順となっている。

津波の速さの認知 <性・年齢別>

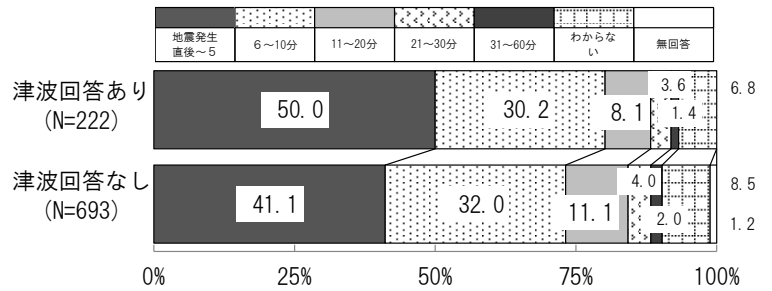
性・年齢別でみると、「地震発生直後～5分」と答えた人は、『男性20～29歳』（57.5%）、『男性40～49歳』（53.8%）、『男性50～59歳』（52.7%）が高く、いずれも5割を超えている。一方、『男性70歳以上』（31.7%）、『女性70歳以上』（29.3%）は「地震発生直後～5分」と答えた人が他の性・年齢層より低くなっている。



津波の速さの認知

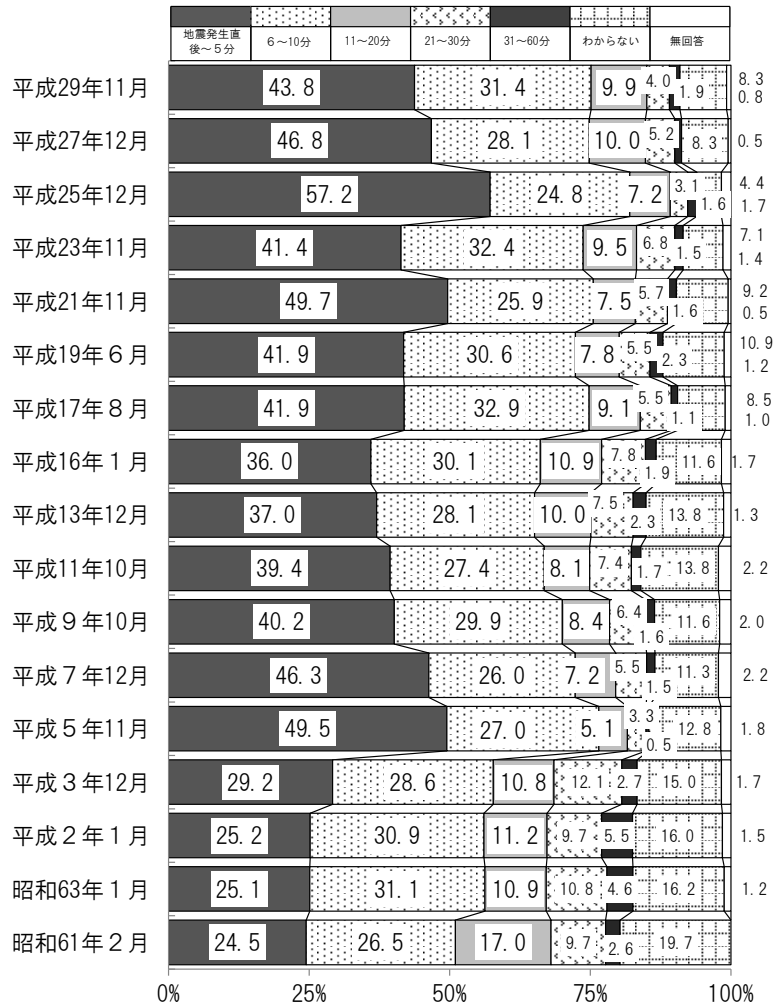
<予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>

予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別でみると、「地震発生直後～5分」は『津波回答なし』（41.1％）に比べて『津波回答あり』（50.0％）は8.9ポイント高くなっている。



経年比較でみると、「地震発生直後～5分」が今回調査（43.8％）は、平成27年12月の前回調査（46.8％）に比べると、3.0ポイント低くなっている。

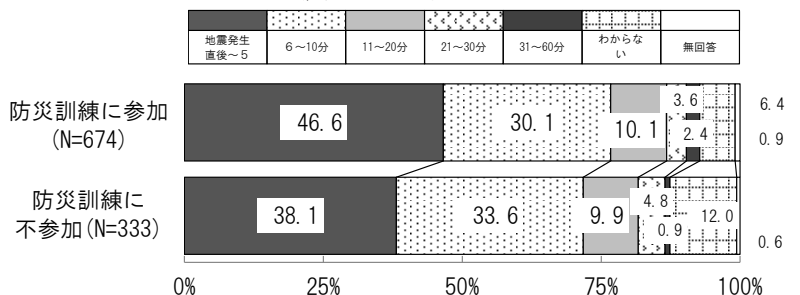
津波の速さの認知 <経年比較>



地震防災訓練参加の有無別でみると、「地震発生直後～5分」は『防災訓練に参加』（46.6％）に比べて『防災訓練に参加』（38.1％）は8.5ポイント高くなっている。

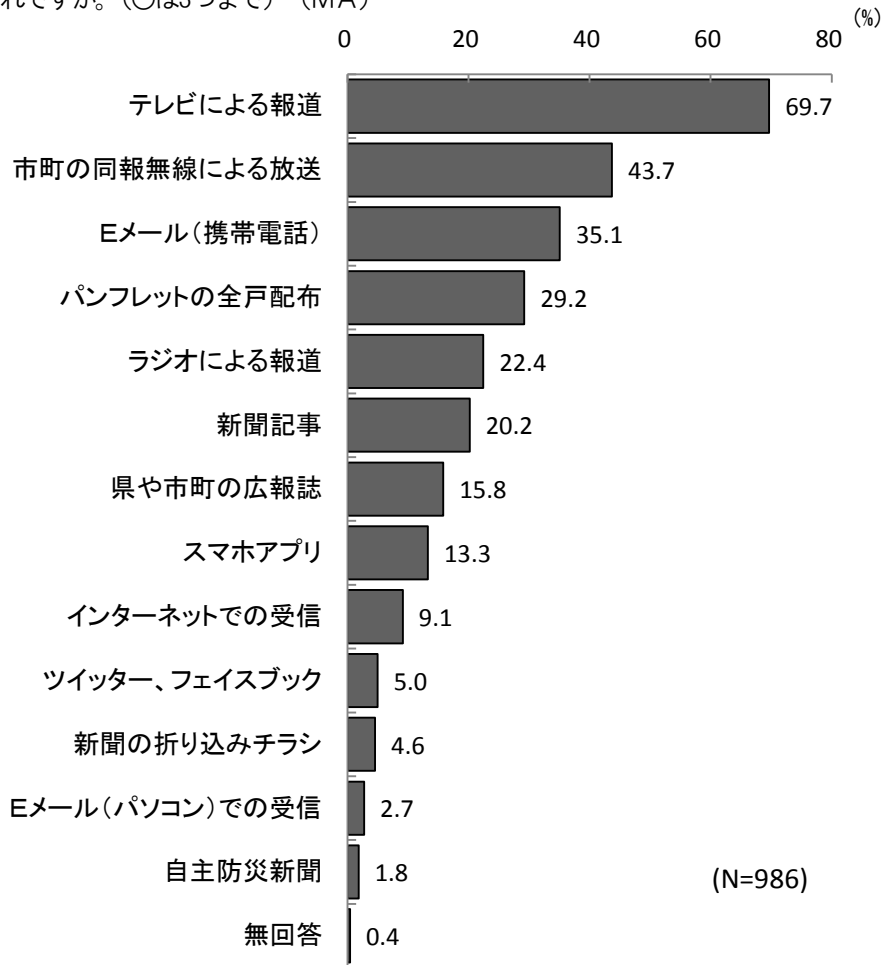
津波の速さの認知

<地震防災訓練参加の有無別>



1-6 平常時に県や市町からの南海トラフ地震（東海地震）等の情報の提供方法

問6 平常時に県や市町から南海トラフ地震（東海地震）等の情報を提供する場合、皆さまに確実に伝わると思う方法は次のどれですか。（〇は3つまで）（MA）



※〇を4つ以上の回答をした31件は無効回答とした。

南海トラフ地震（東海地震）を中心とした情報を定期的提供する方法についてたずねたところ、「テレビによる報道」（69.7%）、次いで「市町の同報無線による放送」（43.7%）、「Eメール（携帯電話）での受信」（35.1%）、「パンフレットの全戸配布」（29.2%）、「ラジオによる報道」（22.4%）の順となっている。

性・年齢別でみると、「テレビによる報道」がいずれも女性で高い傾向が見られ、特に『女性70歳以上』（81.7%）、『女性60～69歳』（74.6%）、『女性20～29歳』（73.5%）で高くなっている。「市町の同報無線による放送」では『女性70歳以上』（62.0%）が最も高く、『女性20～29歳』（17.6%）と比べると44.4ポイント高くなっている。また、「Eメール（携帯電話）での受信」では『男性50～59歳』（44.5%）が最も高く、「ツイッター、フェイスブック」では『男性20～29歳』（18.4%）、『女性20～29歳』（26.5%）と若年層が高くなっている。

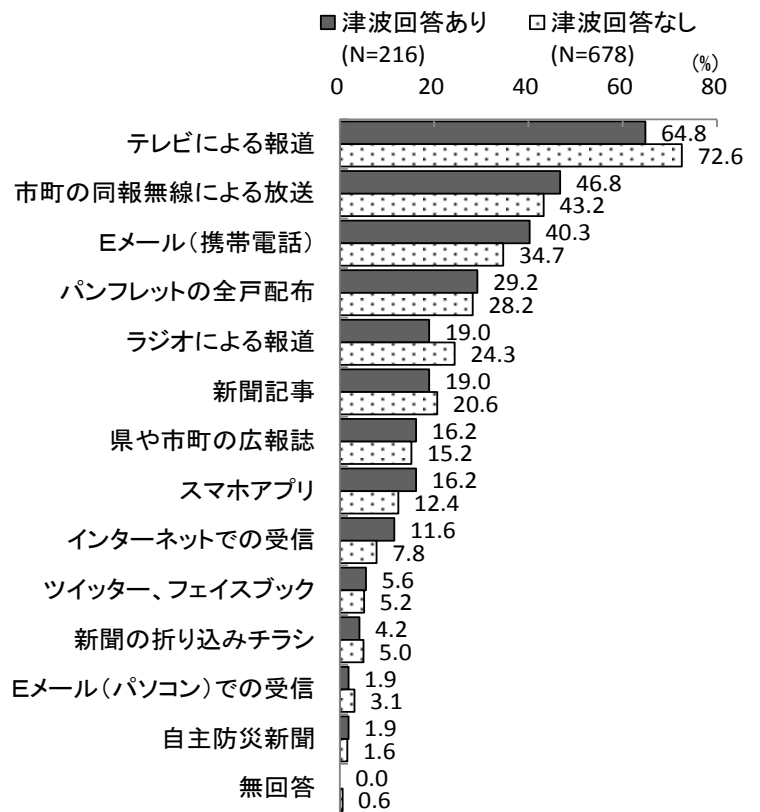
地域別でみると、「テレビによる報道」は『賀茂』（78.6%）が高く、「市町の同報無線による放送」も『賀茂』（85.7%）と高くなっている。「Eメール（携帯電話）での受信」では『西部』（37.5%）が最も高くなっている。

南海トラフ地震（東海地震）についての情報を定期的提供する方法＜性・年齢別、地域別＞

		回答者数	テレビによる報道	市町の同報無線による放送	Eメール（携帯電話）	パンフレットの全戸配布	ラジオによる報道	新聞記事	県や市町の広報誌	スマホアプリ	インターネットでの受信	ツイッター、フェイスブック	新聞の折り込みチラシ	Eメール（パソコン）での受信	自主防災新聞	無回答
全体		986	69.7	43.7	35.1	29.2	22.4	20.2	15.8	13.3	9.1	5.0	4.6	2.7	1.8	0.4
性・年齢別	男性	469	68.0	41.4	37.5	27.9	23.7	21.7	13.4	14.1	10.9	4.1	4.1	4.3	1.9	0.9
	男性20～29歳	38	65.8	42.1	36.8	23.7	18.4	23.7	13.2	13.2	5.3	18.4	2.6	5.3	2.6	0.0
	男性30～39歳	48	64.6	31.3	37.5	37.5	12.5	8.3	14.6	18.8	18.8	10.4	4.2	6.3	4.2	0.0
	男性40～49歳	77	59.7	35.1	36.4	29.9	19.5	22.1	14.3	19.5	11.7	3.9	5.2	1.3	2.6	1.3
	男性50～59歳	110	66.4	37.3	44.5	20.0	27.3	27.3	6.4	15.5	13.6	3.6	5.5	3.6	0.9	0.9
	男性60～69歳	137	70.1	48.9	35.8	34.3	24.8	18.2	17.5	13.1	8.0	0.0	2.9	5.1	1.5	1.5
	男性70歳以上	59	81.4	47.5	30.5	20.3	32.2	28.8	15.3	3.4	8.5	0.0	3.4	5.1	1.7	0.0
	女性	507	71.0	45.6	32.9	30.8	21.3	18.7	17.9	12.6	7.7	5.7	4.9	1.4	1.8	0.0
	女性20～29歳	34	73.5	17.6	17.6	23.5	14.7	8.8	11.8	20.6	20.6	26.5	2.9	0.0	2.9	0.0
	女性30～39歳	70	54.3	31.4	32.9	40.0	17.1	11.4	22.9	14.3	15.7	14.3	4.3	1.4	0.0	0.0
女性40～49歳	105	69.5	42.9	36.2	31.4	17.1	14.3	20.0	19.0	7.6	6.7	8.6	1.9	1.9	0.0	
女性50～59歳	101	71.3	47.5	35.6	34.7	20.8	25.7	14.9	11.9	7.9	3.0	4.0	0.0	3.0	0.0	
女性60～69歳	126	74.6	52.4	35.7	30.2	23.0	22.2	18.3	11.1	3.2	0.0	1.6	1.6	1.6	0.0	
女性70歳以上	71	81.7	62.0	26.8	19.7	32.4	21.1	16.9	1.4	1.4	0.0	8.5	2.8	1.4	0.0	
地域別	賀茂	14	78.6	85.7	28.6	28.6	14.3	14.3	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0
	東部	277	72.2	47.3	31.0	31.0	22.4	18.8	19.5	10.5	8.3	5.8	4.7	1.8	2.5	0.4
	中部	298	66.4	43.3	36.2	25.5	25.5	21.5	13.8	15.4	11.7	4.4	4.0	1.7	1.7	0.3
	西部	387	69.8	39.5	37.5	31.3	20.4	20.4	14.5	14.2	8.3	4.9	4.9	4.4	1.3	0.5

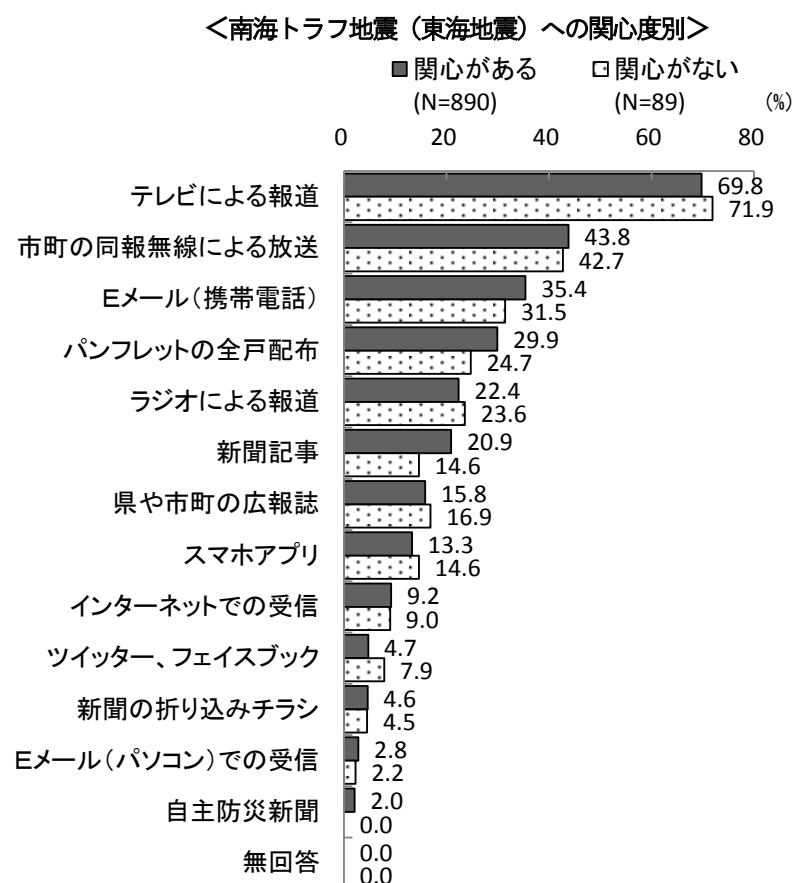
津波回答別でみると、「市町の同報無線による放送」が『津波回答あり』(46.8%)が『津波回答なし』(43.2%)に比べて3.6ポイント高くなっている。

南海トラフ地震（東海地震）を中心とした情報を定期的に提供する方法<津波回答別>



南海トラフ地震（東海地震）への関心度別でみると、「新聞記事」が『関心がある』(20.9%)が『関心がない』(14.6%)に比べて6.3ポイント高くなっている。

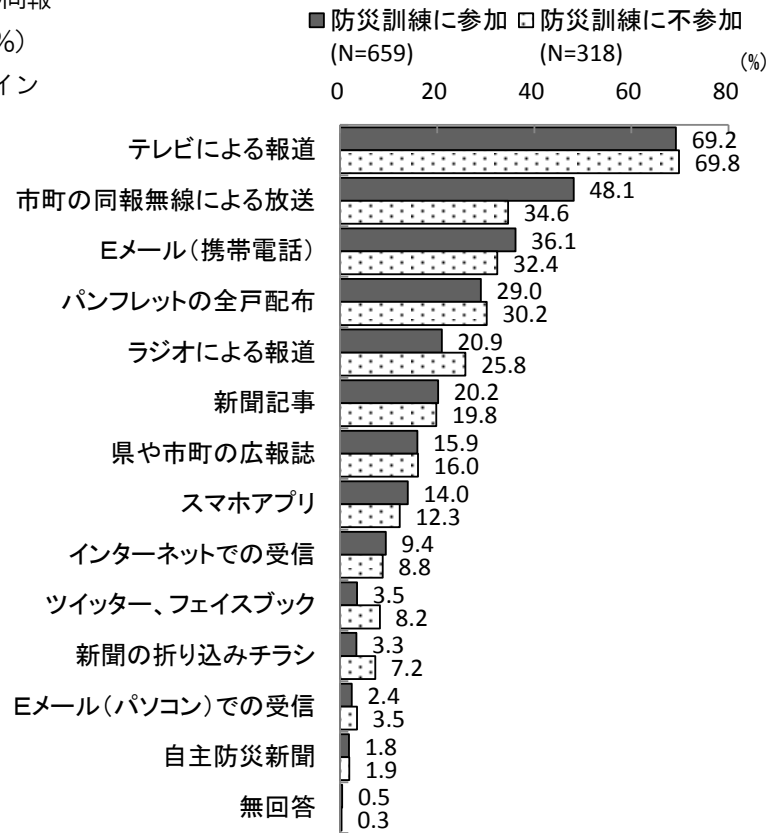
南海トラフ地震（東海地震）を中心とした情報を定期的に提供する方法<南海トラフ地震（東海地震）への関心度別>



南海トラフ地震（東海地震）を中心とした
情報を定期的に提供する方法

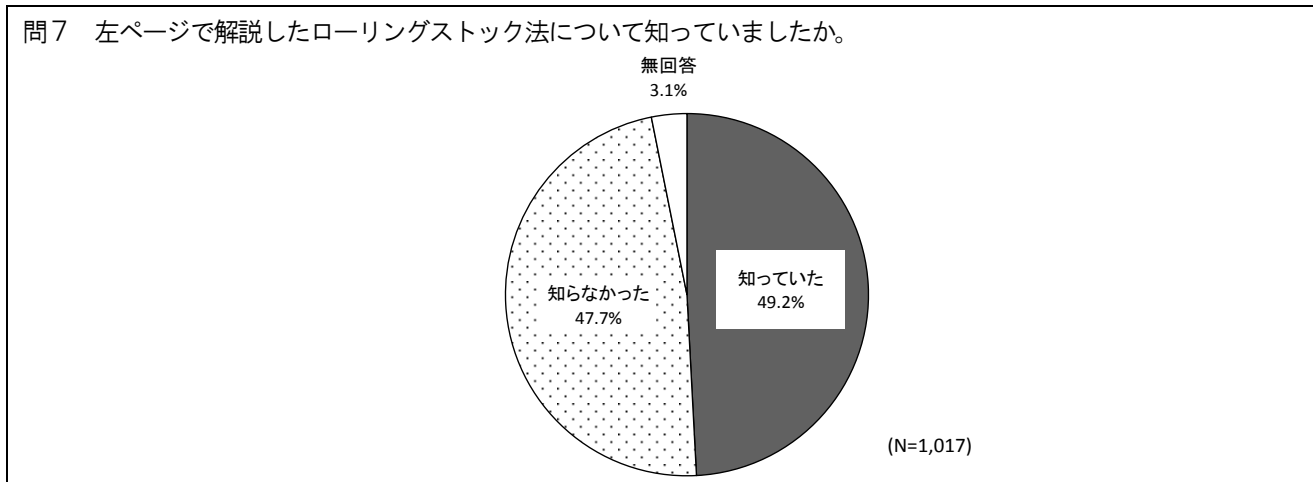
<地震防災訓練参加の有無別>

地震防災訓練参加の有無別で見ると、「市町の同報無線による放送」が『防災訓練に参加』（48.1%）に比べて『防災訓練に参加』（48.1%）が13.5ポイント高くなっている。



2 日ごろの防災対策について

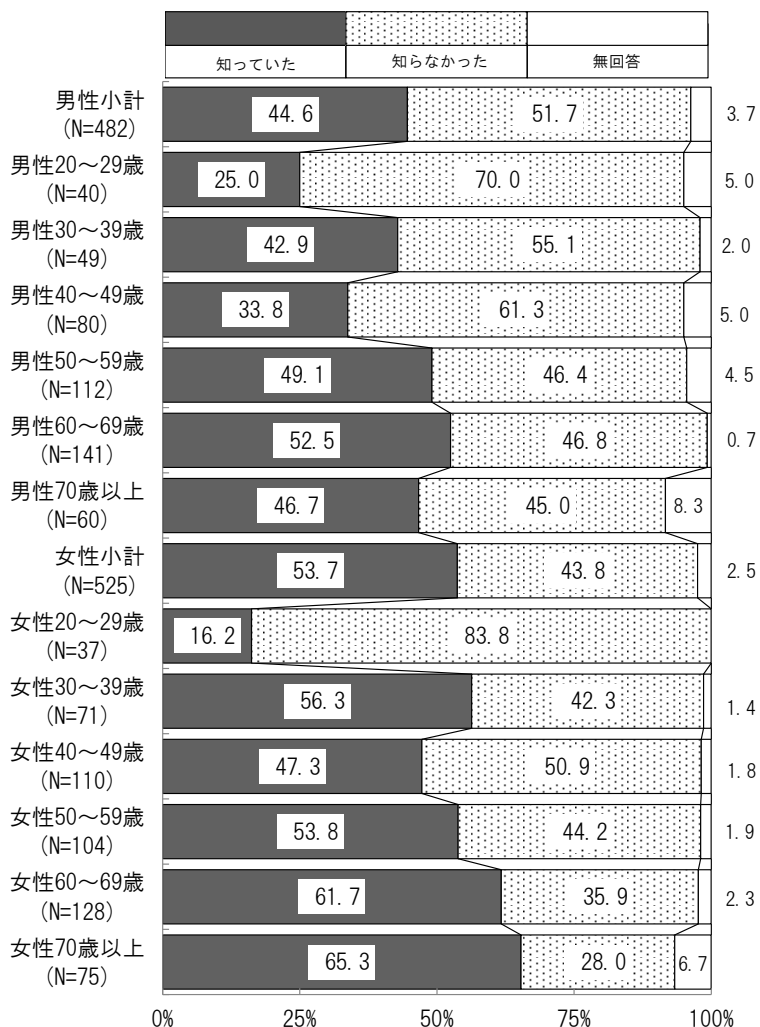
2-1 ローリングストック法の認知度【新規設問】



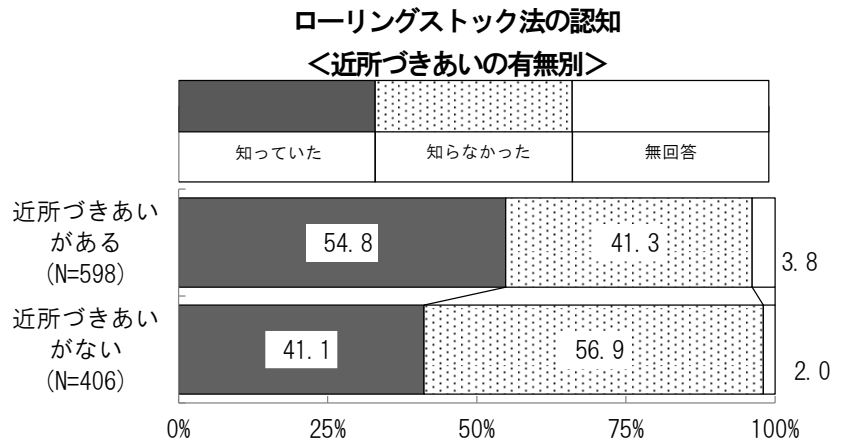
ローリングストック法の認知度についてたずねたところ、「知っていた」(49.2%)が「知らなかった」(47.7%)より1.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「知っていた」については、『女性70歳以上』(65.3%)が最も高く、『女性20～29歳』(16.2%)が最も低くなっている。

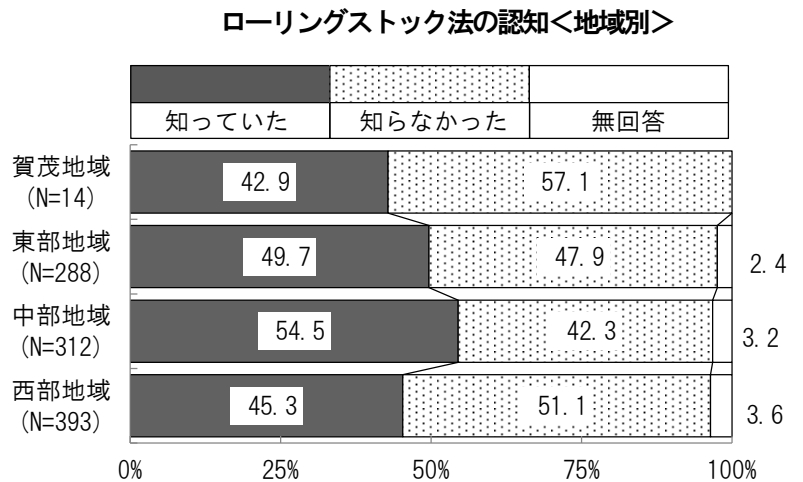
ローリングストック法の認知<性・年齢別>



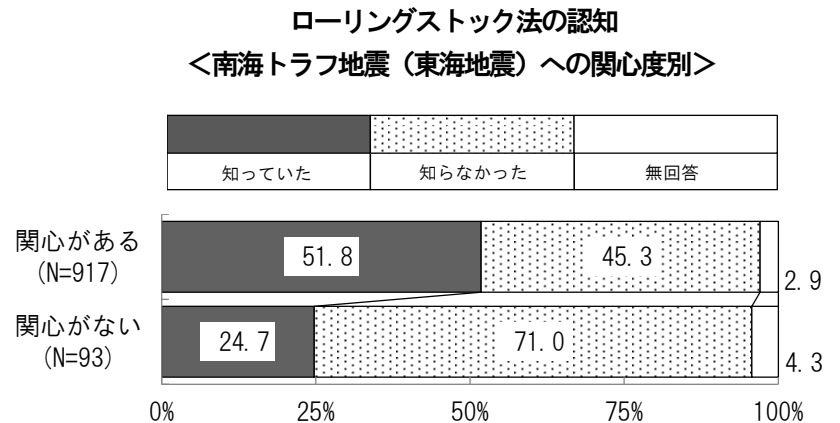
近所づきあいの有無別でみると、「知っている」については、『近所づきあいがある』(54.8%)は『近所づきあいが無い』(41.1%)より13.7ポイント高くなっている。



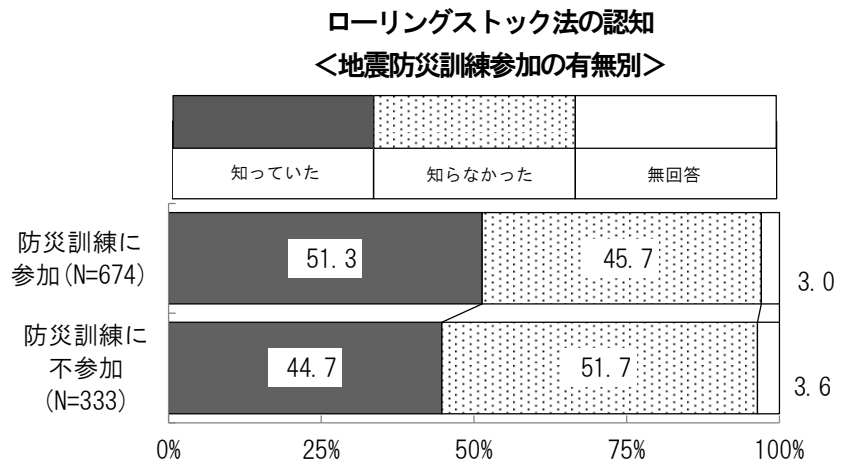
地域別でみると、「知っている」については、『中部』(54.5%)が最も高く、『賀茂』(42.9%)が最も低くなっている。



南海トラフ地震（東海地震）への関心度別でみると、「知っている」については、『関心がある』(51.8%)は『関心がない』(24.7%)より27.1ポイント高くなっている。

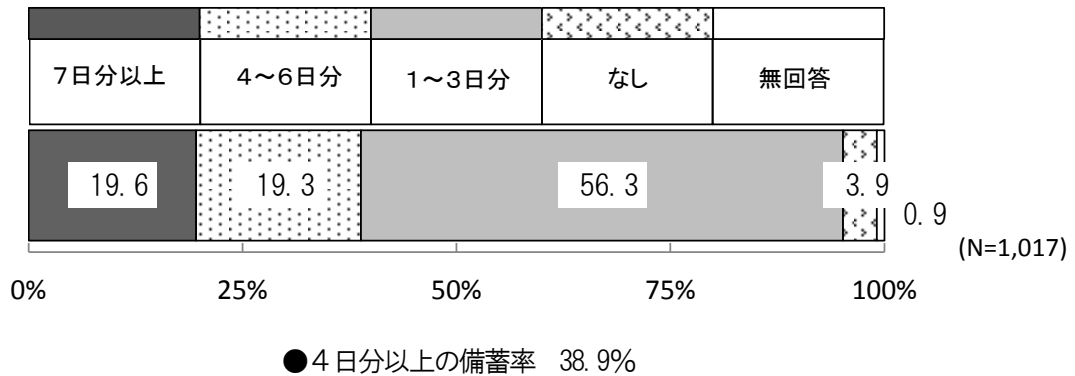


地震防災訓練参加の有無別でみると、「知っている」については、『防災訓練に参加』(51.3%)は『防災訓練に参加しない』(44.7%)より6.6ポイント高くなっている。



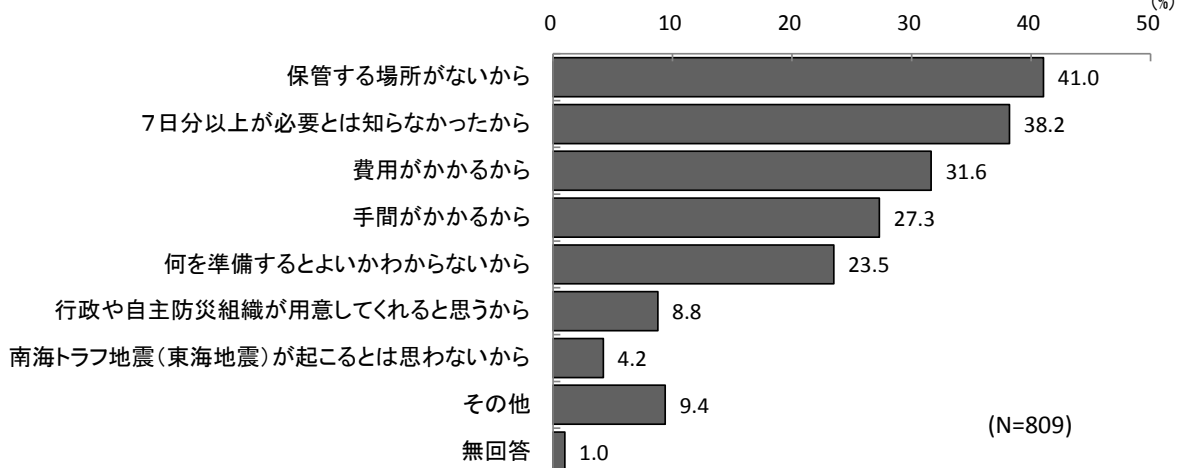
2-2 災害が発生したと仮定して利用できる食料の備蓄日数

問8 今、災害が発生したと仮定して、あなたのお宅では、利用できる食料は家族の何日分ありますか。



<問8で7日未満に該当した方にお伺いします。>

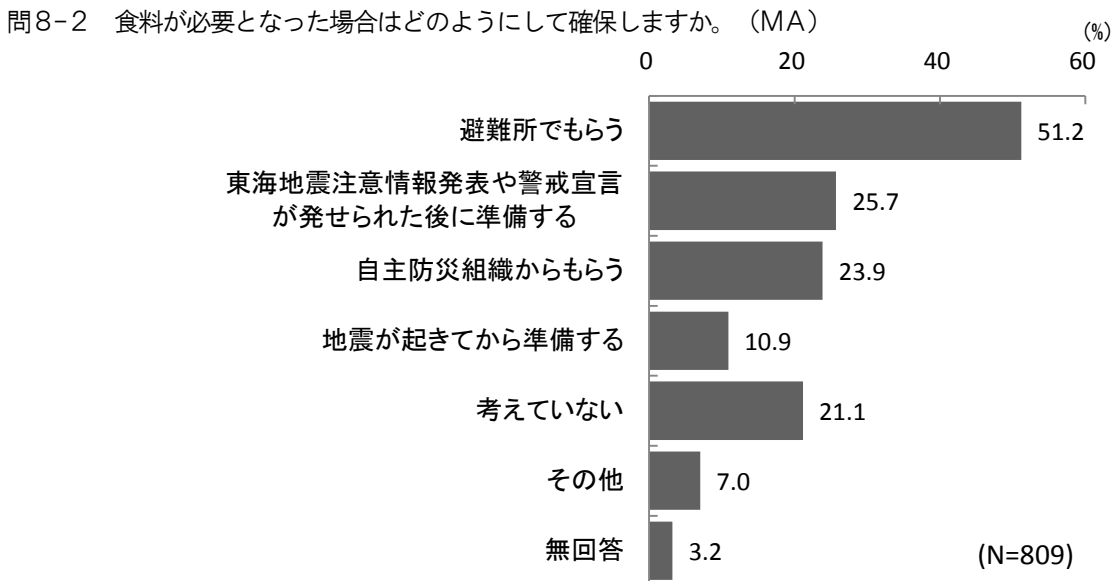
問8-1 県では現在、各家庭で災害時に利用できる食料として、家族の7日分以上の用意を勧めています。あなたのお宅で現在のところ7日分以上の食料を用意していないのはどのような理由からですか。(MA)



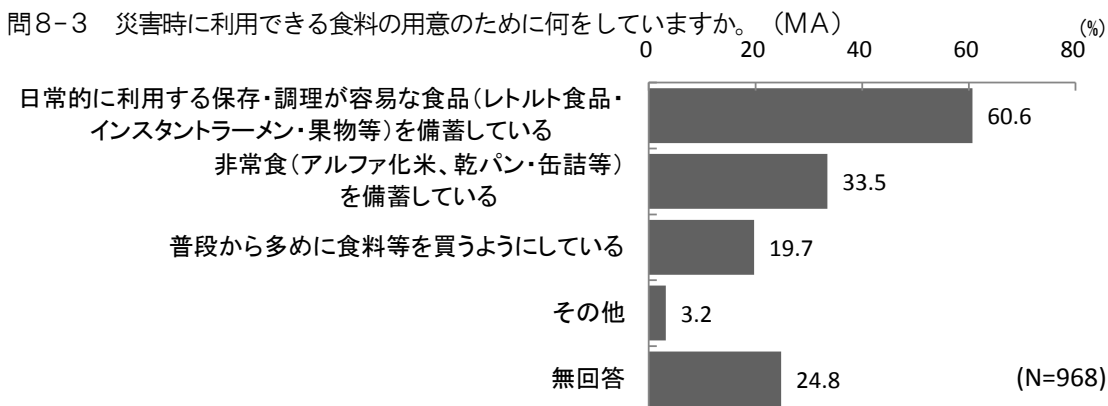
災害時に利用できる食料の備蓄日数についてたずねたところ、「1~3日分」(56.3%)が最も高く、次いで「7日分以上」(19.6%)、「4~6日分」(19.3%)、「なし」(3.9%)の順となっている。

また、7日分以上の食料を用意していない理由をたずねたところ、「保管する場所がないから」(41.0%)が最も高く、次いで「7日分以上が必要とは知らなかったから」(38.2%)、「費用がかかるから」(31.6%)の順となっている。

＜問8で7日未満に該当した方にお伺いします。＞



＜問8で「なし」以外を選んだ方にお伺いします。＞

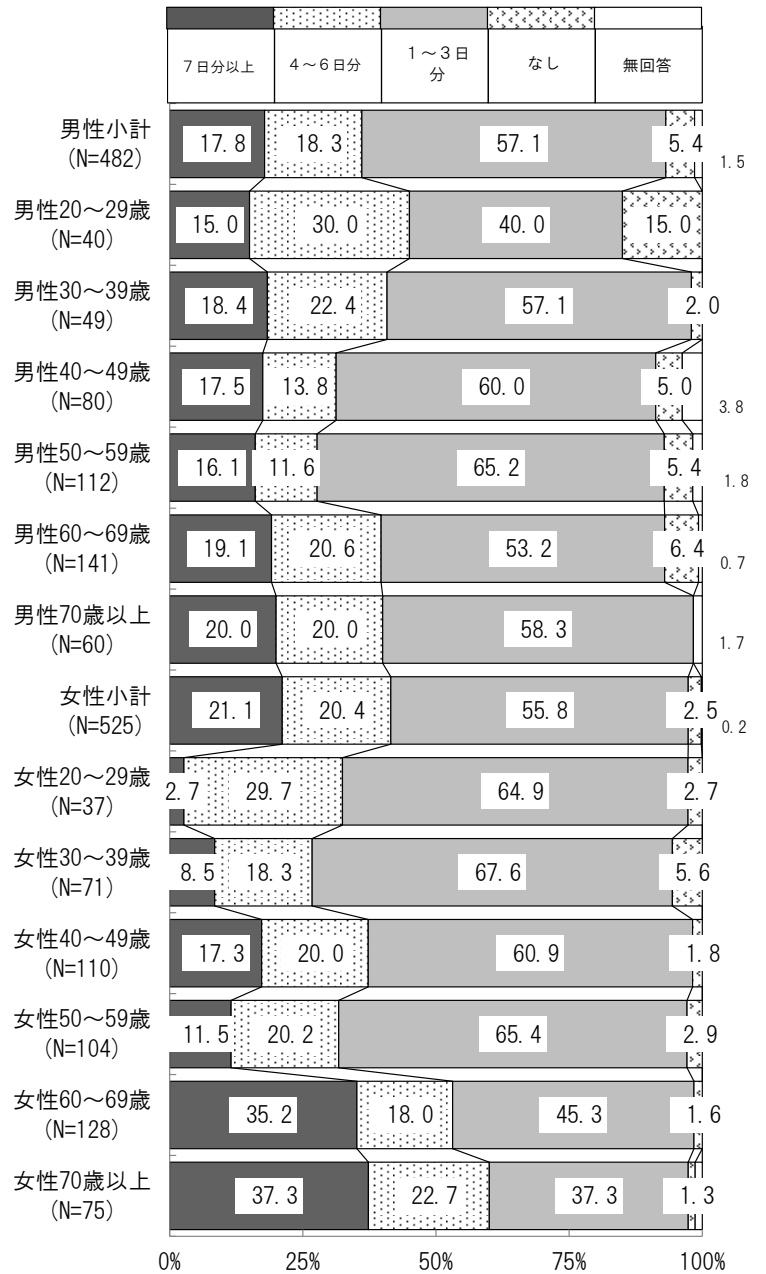


問8で7日未満と回答した人に、食料確保の手段をたずねたところ、「避難所でもらう」(51.2%)、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」(25.7%)、「自主防災組織からもらう」(23.9%)の順となっている。

また、問8で用意していると回答した人に災害時に利用できる食料の用意のために何をしているかたずねたところ、「日常的に利用する保存・調理が容易な食品(レトルト食品・インスタントラーメン・果物等)を備蓄している」(60.6%)が最も高く、次いで「非常食(アルファ化米、乾パン・缶詰等)を備蓄している」(33.5%)、「普段から多めに食料等を買うようにしている」(19.7%)となっている。

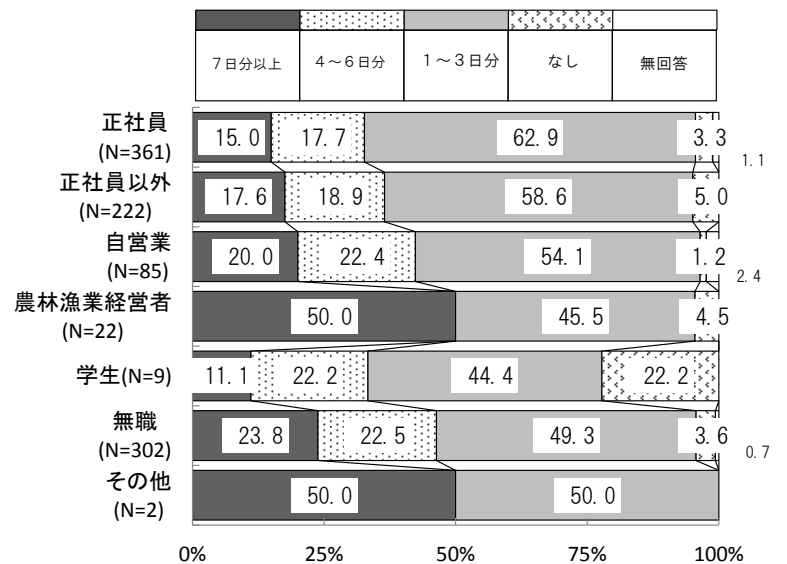
性・年齢別でみると、「7日以上」は『女性70歳以上』（37.3%）、『女性60～69歳』（35.2%）が他の性・年齢層より高くなっている。一方、「なし」は『男性20～29歳』（15.0%）が他の性・年齢層より高くなっている。

災害時に利用できる食料の備蓄日数<性・年齢別>



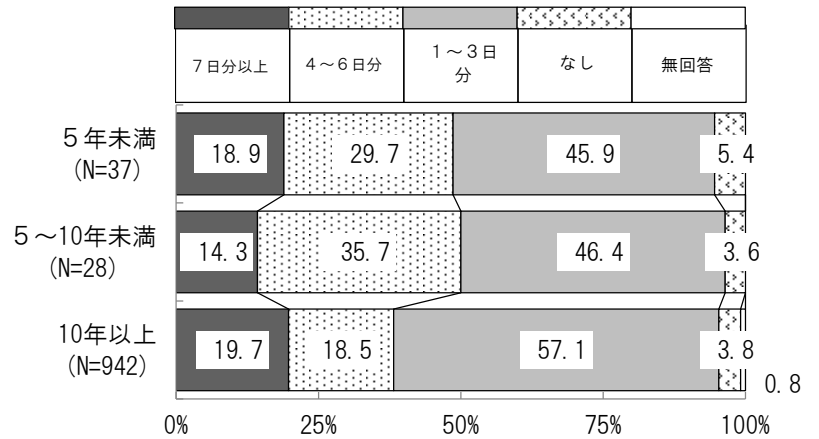
職業別でみると、「7日分以上」は『農林漁業経営者』（50.0%）が他の職業より高くなっている。

災害時に利用できる食料の備蓄日数<職業別>



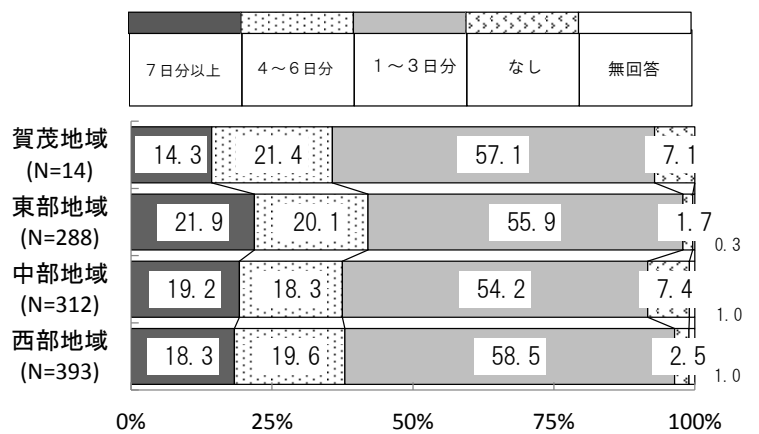
居住年数別でみると、「7日分以上」は『10年以上』（19.7%）が最も高くなっている。

災害時に利用できる食料の備蓄日数<居住年数別>



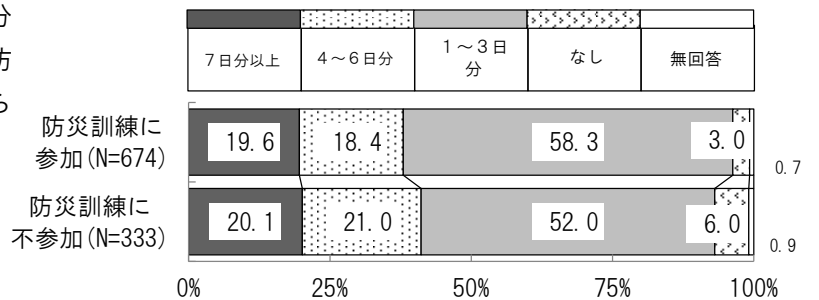
地域別でみると、「7日分以上」は『東部』（21.9%）が最も高く、『賀茂』（14.3%）が最も低くなっている。

災害時に利用できる食料の備蓄日数<地域別>



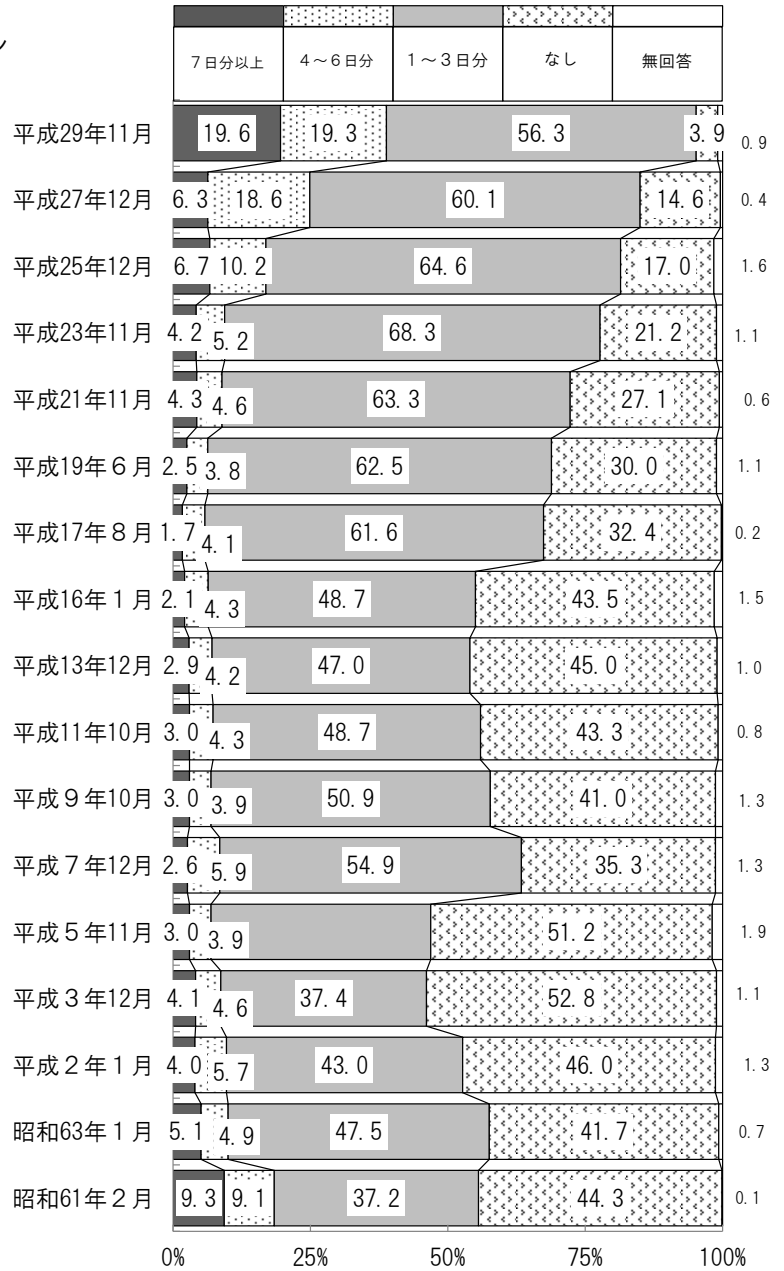
地震防災訓練参加の有無別でみると、「7日分以上」は、『防災訓練に参加』（19.6%）、『防災訓練に不参加』（20.1%）と大きな差異はみられない。

災害時に利用できる食料の備蓄日数<地震防災訓練参加の有無別>



災害時に利用できる食料の備蓄日数<経年比較>

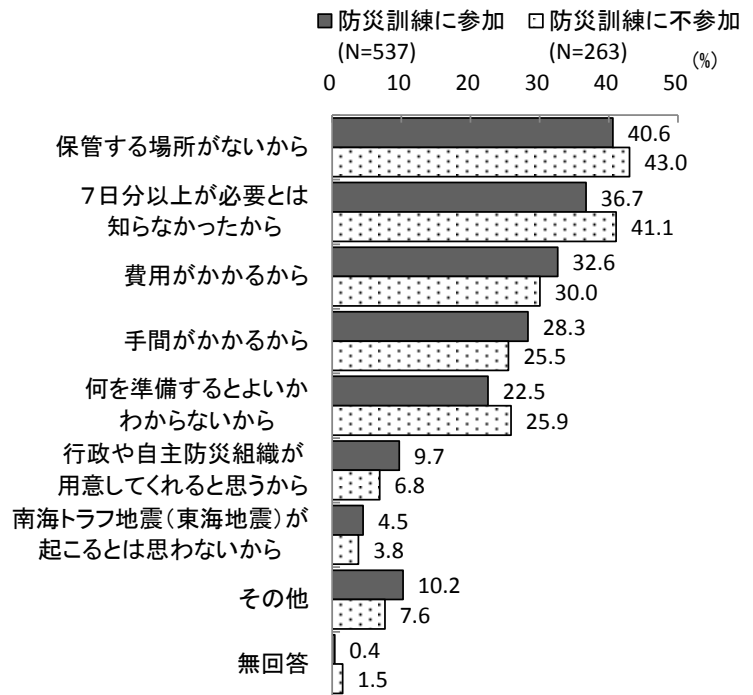
経年比較でみると、「7日分以上」(19.6%)
 は平成27年12月の前回調査と比較し、13.3ポイント
 高くなっている。



7日以上の食料を用意していない理由

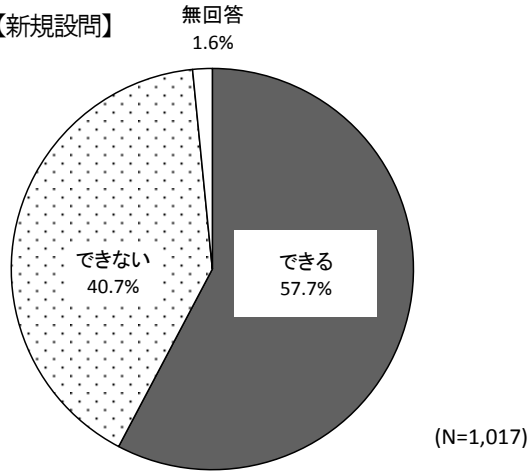
<地震防災訓練参加の有無別>

7日以上の食料を用意していない理由の地震防災訓練参加の有無別でみると、「7日以上が必要とは知らなかったから」では『防災訓練に参加』（41.1%）は『防災訓練に参加』（36.7%）より4.4ポイント高くなっている。



2-3 災害が発生したと仮定して家族で1週間分の食料の備蓄の有無

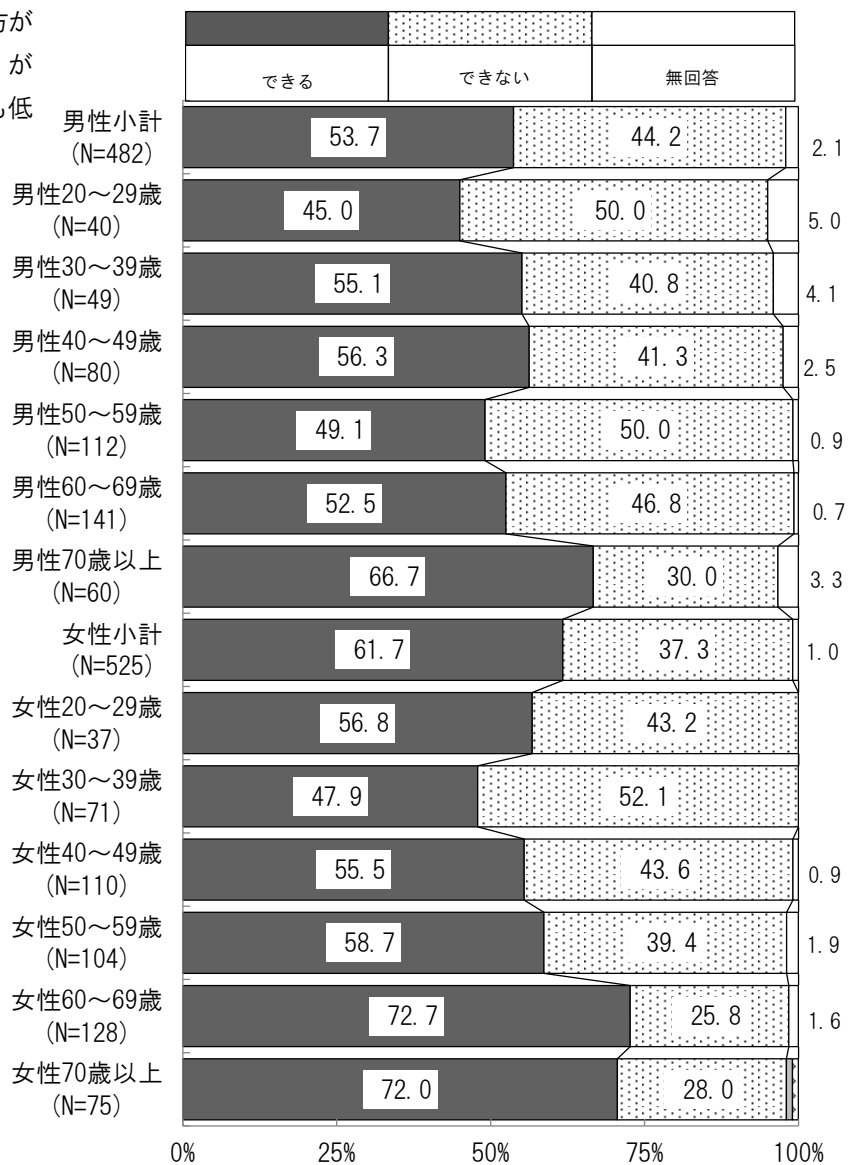
問9 改めてお伺いします。あなたのお宅にある食料を全てかき集めれば（菜園があればそれも含む、）家族で1週間だけなら耐えしのぐ事はできますか。【新規設問】



災害が発生したと仮定して家族で1週間分の食料の備蓄についてたずねたところ、「できる」（57.7%）が「できない」（40.7%）より17.0ポイント高くなっている。

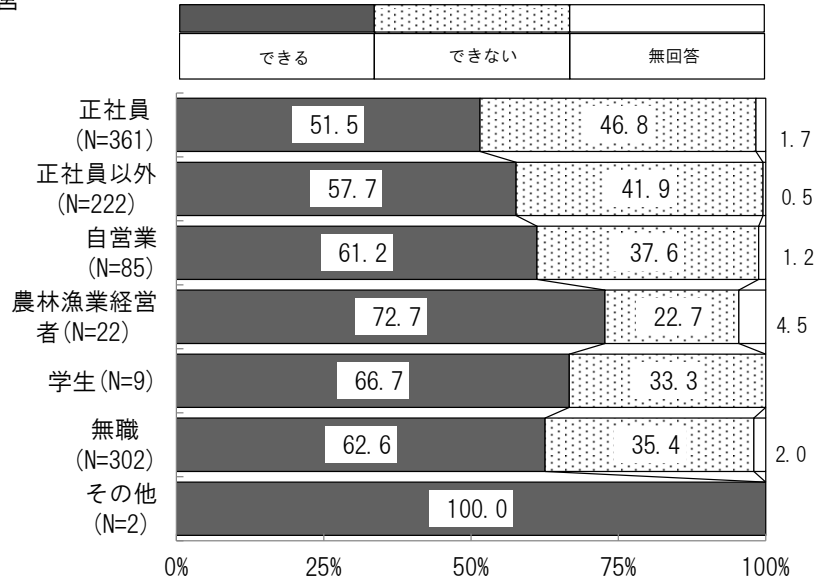
性・年齢別でみると、「できる」は女性の方が高い傾向にあり、『女性60～69歳』（72.7%）が最も高く、『男性20～29歳』（45.0%）が最も低くなっている。

1週間分の食料の備蓄の有無<性・年齢別>



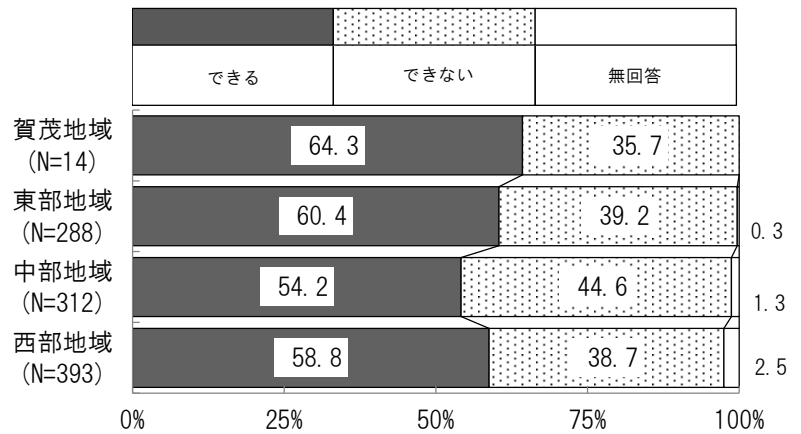
職業別でみると、「できる」は『農林漁業経営者』（72.7%）が他の職業より高くなっている。

1週間分の食料の備蓄の有無<職業別>



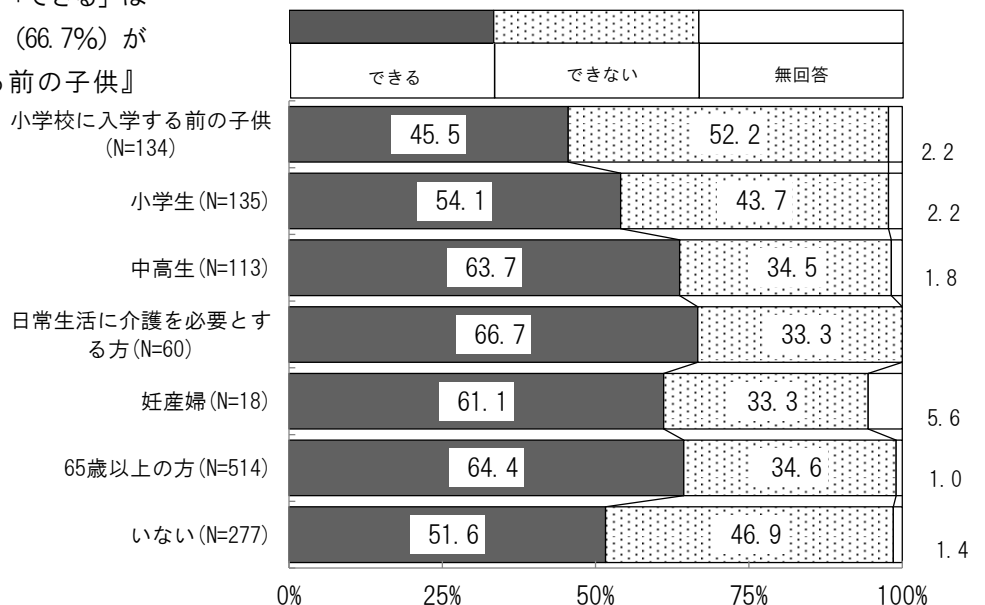
地域別でみると、「できる」は『賀茂』（64.3%）が最も高く、『中部』（54.2%）が最も低くなっている。

1週間分の食料の備蓄の有無<地域別>



要配慮者との同居別でみると、「できる」は『日常生活に介護を必要とする方』（66.7%）が最も高く、『小学校に入学する前の子供』（45.5%）が最も低くなっている。

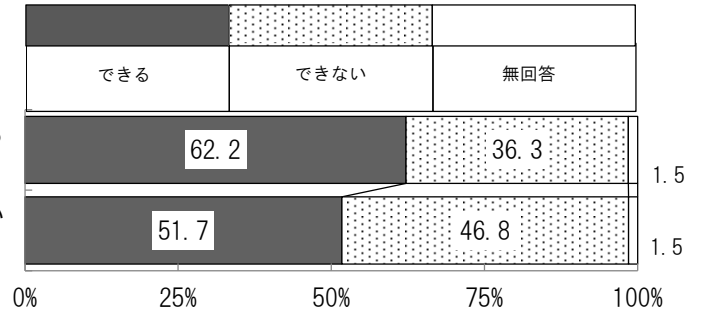
1週間分の食料の備蓄の有無<要配慮者との同居別>



1週間分の食料の備蓄の有無<近所づきあいの有無別>

近所づきあいの有無別でみると、「できる」は『近所づきあいがある』(62.2%)が『近所づきあいがない』(51.7%)に比べて10.5ポイント高くなっている。

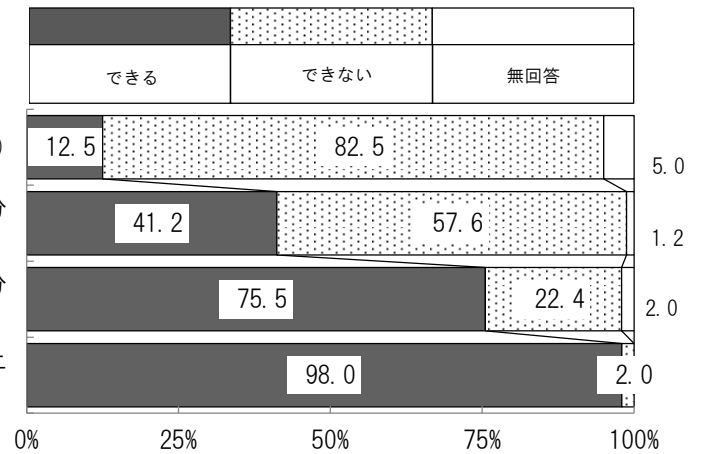
近所づきあいがある
(N=598)
近所づきあいがない
(N=406)



備蓄食料日数別でみると、「できる」は備蓄食料日数が多くなるにつれて高くなる傾向にあり、『なし』(12.5%)から『7日分以上』(98.0%)となっている。

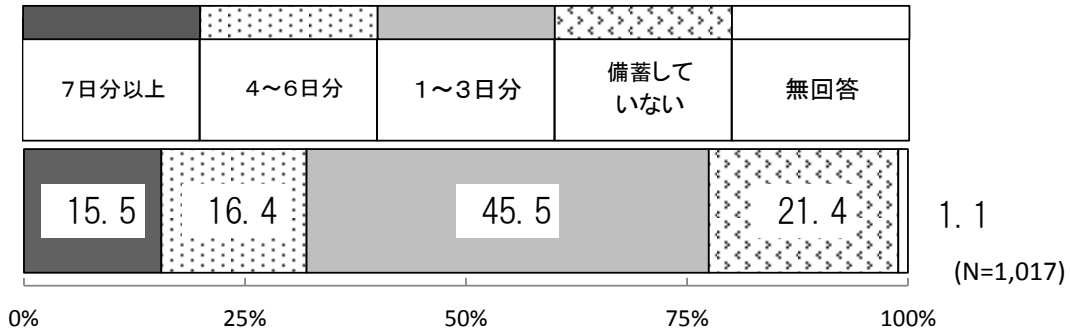
なし (N=40)
1~3日分 (N=573)
4~6日分 (N=196)
7日分以上 (N=199)

1週間分の食料の備蓄の有無<備蓄食料日数別>



2-4 飲料水の備蓄日数

問10 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。



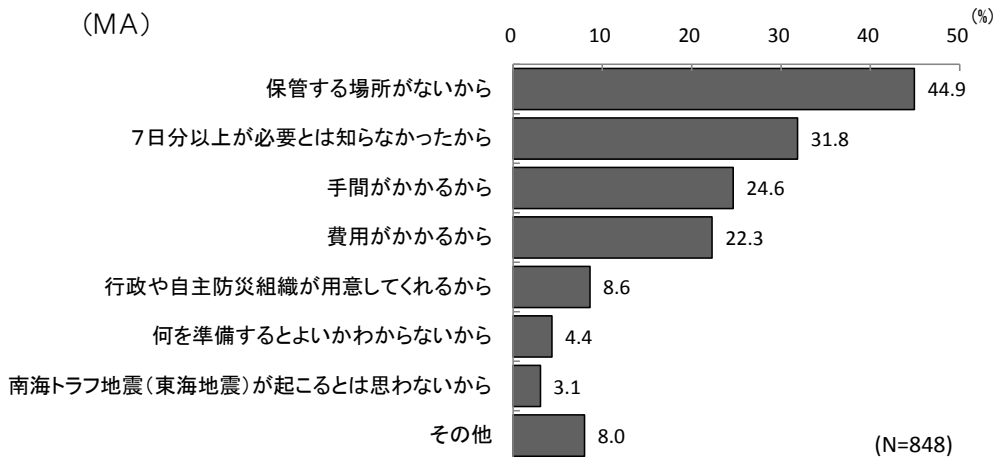
●4日分以上の備蓄率 31.9%

<問10で「4 7日分以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問10-1 県では現在、災害時に備えて、各家庭で家族の7日分以上の飲料水の備蓄を勧めています。

あなたのお宅で現在のところ7日分以上の飲料水を備蓄していないのはどのような理由からですか。

(MA)

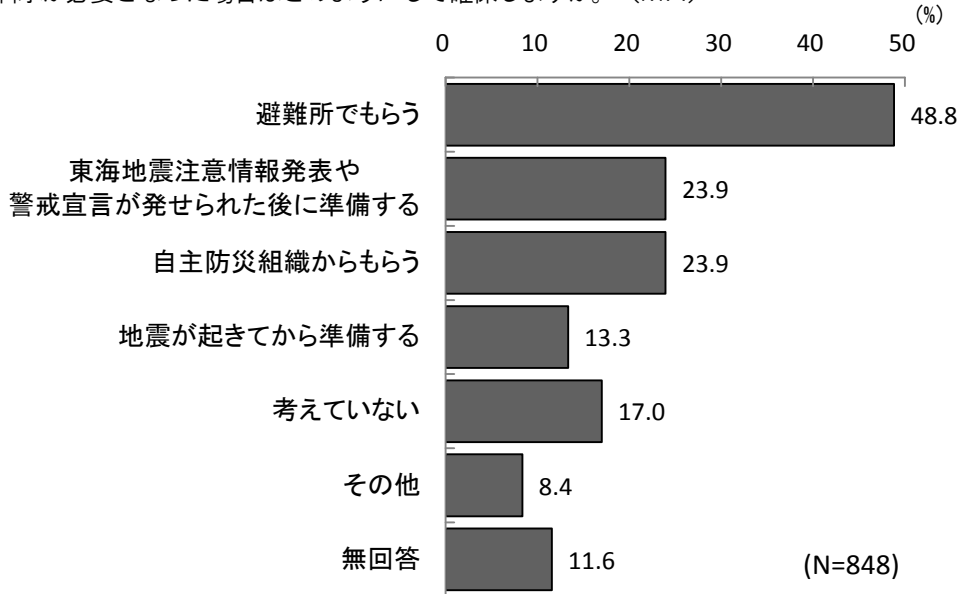


飲料水の備蓄日数についてたずねたところ、「1~3日分」(45.5%)が最も高くなっており、「4~6日分」(16.4%)、「7日分以上」(15.5%)となっている。

また、7日分以上の飲料水を備蓄していない理由をたずねたところ、「保管する場所がないから」(44.9%)が最も高く、次いで「7日分以上が必要とは知らなかったから」(31.8%)「手間がかかるから」(24.6%)の順となっている。

<問10で「4 7日分以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問10-2 飲料水が必要となった場合はどのようにして確保しますか。(MA)

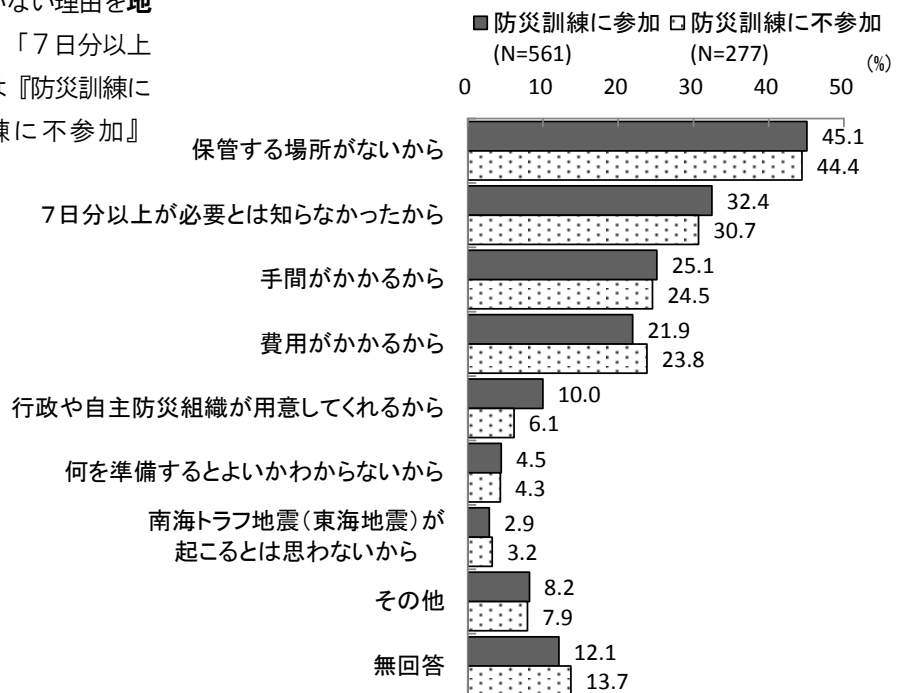


問10で「7日分以上」以外を回答した方に、飲料水が必要となった場合の確保手段をたずねたところ、「避難所でもらう」(48.8%)、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」「自主防災組織からもらう」(23.9%)の順となっている。

7日以上の飲料水の備蓄していない理由

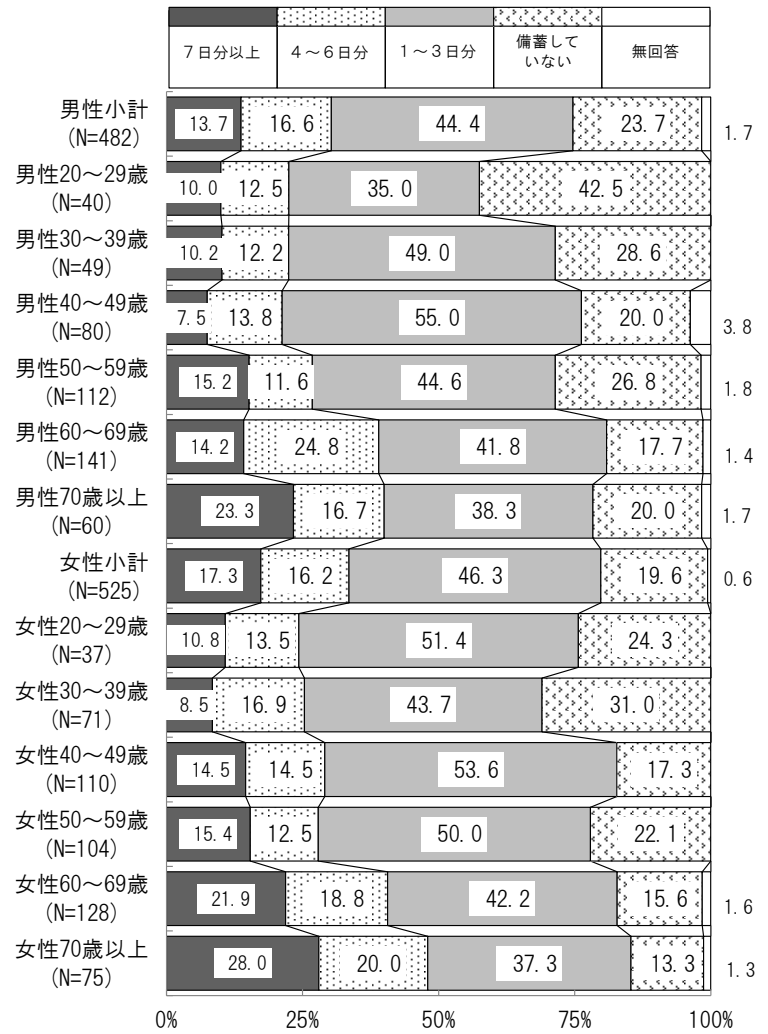
<地震防災訓練参加の有無別>

7日以上の飲料水の備蓄していない理由を地震防災訓練参加の有無別でみると、「7日分以上が必要とは知らなかったから」では『防災訓練に参加』(32.4%)は『防災訓練に不参加』(30.7%)より高くなっている。



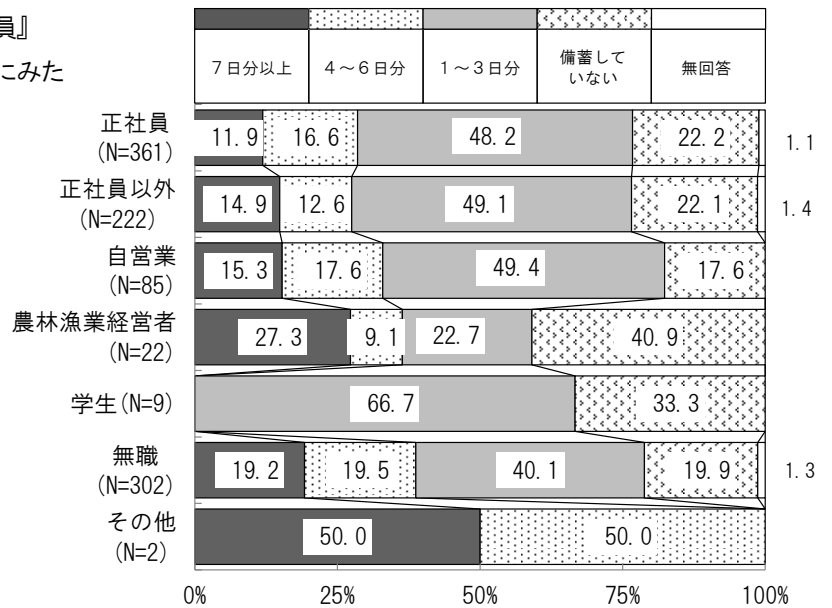
性・年齢別でみると、「備蓄していない」は、『男性20～29歳』（42.5%）、『女性30～39歳』（31.0%）が他の性・年齢層より高くなっている。

飲料水の備蓄日数 <性・年齢別>



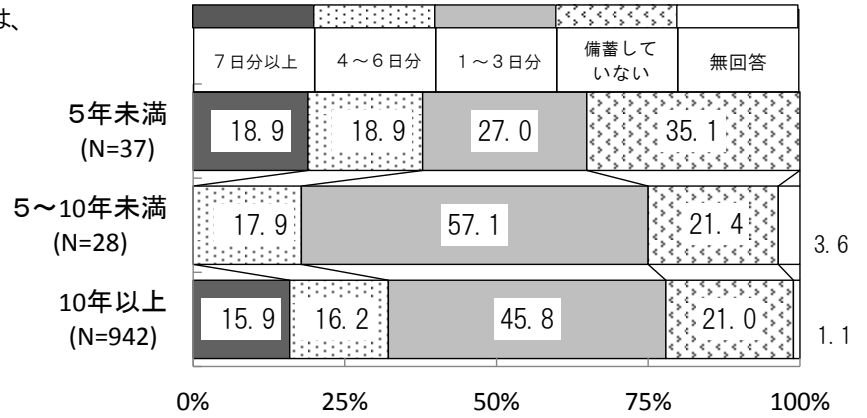
職業別でみると、「4日以上」は、『正社員』（28.5%）、『正社員以外』（27.5%）と3割にみたない。

飲料水の備蓄日数 <職業別>



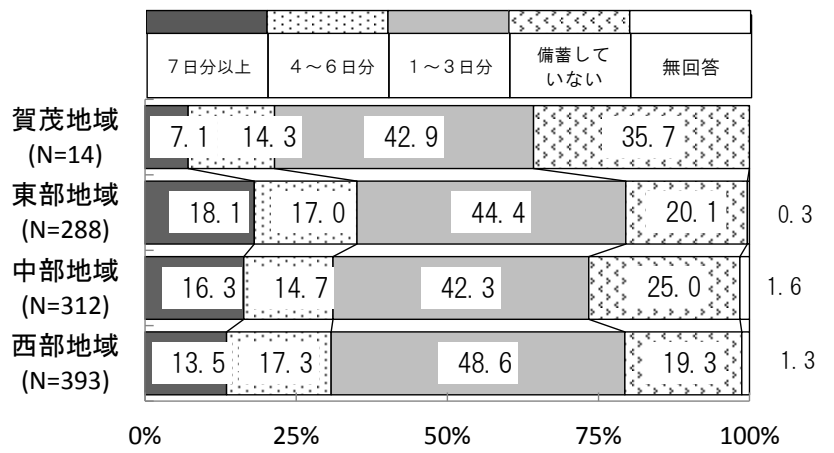
居住年数別でみると、「備蓄していない」は、『5年未満』（35.1%）と高くなっている。

飲料水の備蓄日数 <居住年数別>



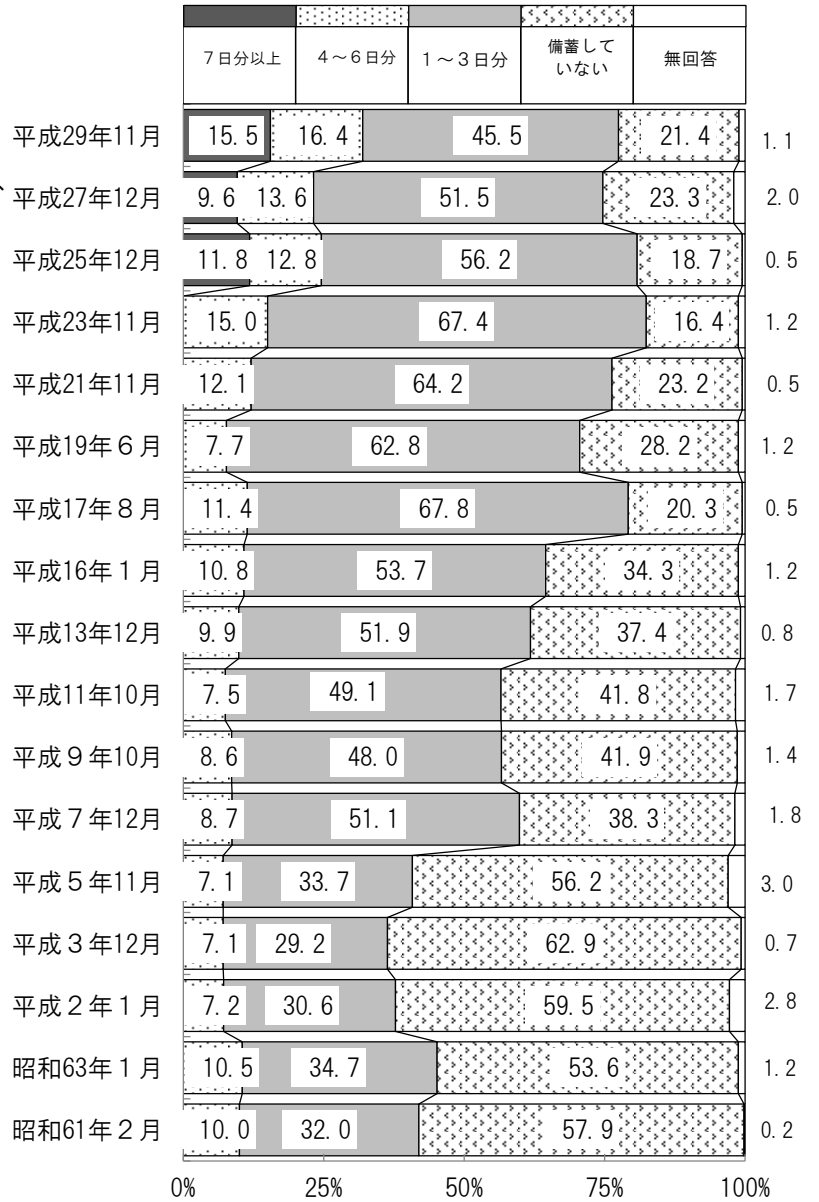
地域別でみると、「備蓄していない」は、『賀茂』（35.7%）が最も高く、『西部』（19.3%）が最も低くなっている。

飲料水の備蓄日数 <地域別>



飲料水の備蓄日数 <経年比較>

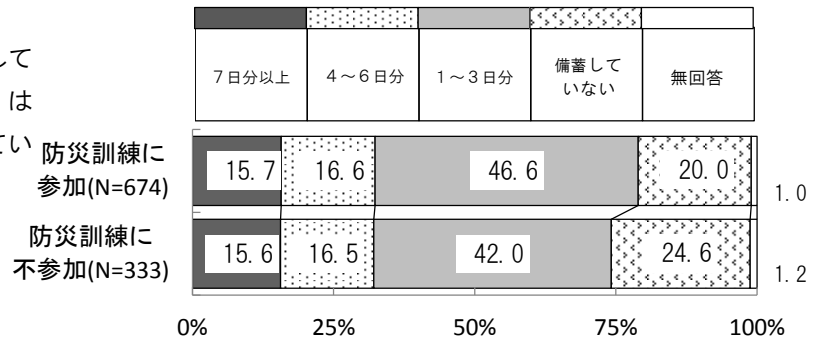
経年比較でみると、「4日分以上」は、今回調査（31.9%）では、平成27年12月の前回調査（23.2%）より8.7ポイント高くなっている。「備蓄していない」は、今回調査（21.4%）では、前回調査（23.3%）より1.9ポイント低くなっている。



※「7日分以上」の選択肢は平成25年度から設定した。

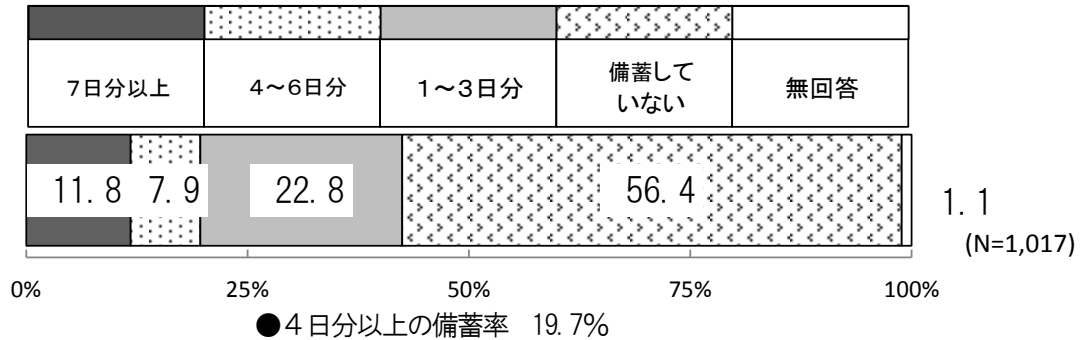
飲料水の備蓄日数 <地震防災訓練参加の有無別>

地震防災訓練参加の有無別でみると、「備蓄していない」は、『防災訓練に不参加』（24.6%）は、『防災訓練に参加』（20.0%）より高くなっている。



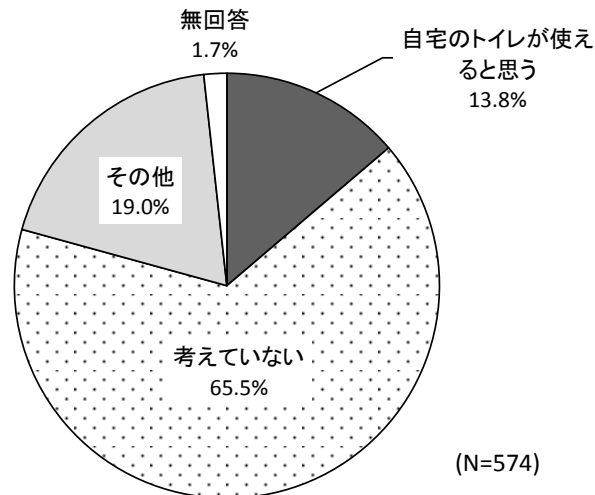
2-5 携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数

問11 あなたのお宅では、何日分の携帯トイレ・簡易トイレ（ビニール袋などによる代用を含む）を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり5回分で計算してください。



<問11で「1 備蓄していない」を選んだ方にお伺いします>

問11-1 被災時にはどのような対応を想定していますか。【新規設問】



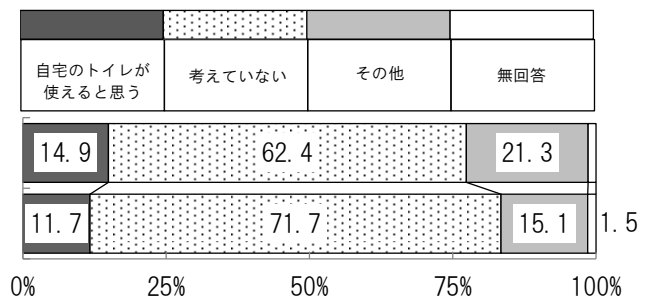
携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数についてたずねたところ、「備蓄していない」（56.4%）、「1～3日分」（22.8%）、「7日以上」（11.8%）、「4～6日分」（7.9%）の順となっている。

また、携帯トイレ・簡易トイレを備蓄していない方に、被災時にはどのような対応を想定しているかたずねたところ、「考えていない」（65.5%）、次いで「自宅のトイレが使えると思う」（13.8%）となっている。

被災時の想定している対応 <地震防災訓練参加の有無別>

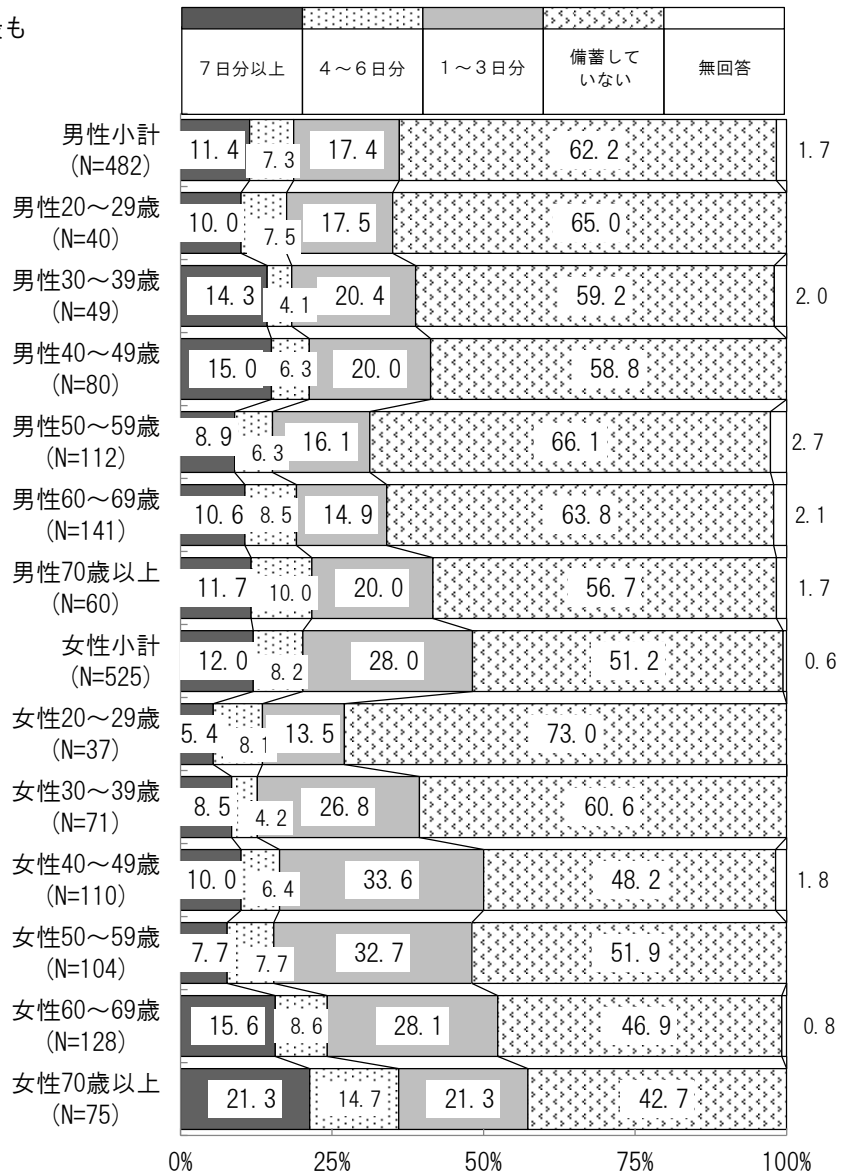
被災時の想定している対応を地震防災訓練参加の有無別でみると、「考えていない」は、『防災訓練に不参加』（71.7%）は『防災訓練に参加』（62.4%）より9.3ポイント高くなっている。

防災訓練に参加(N=362)
防災訓練に不参加(N=205)



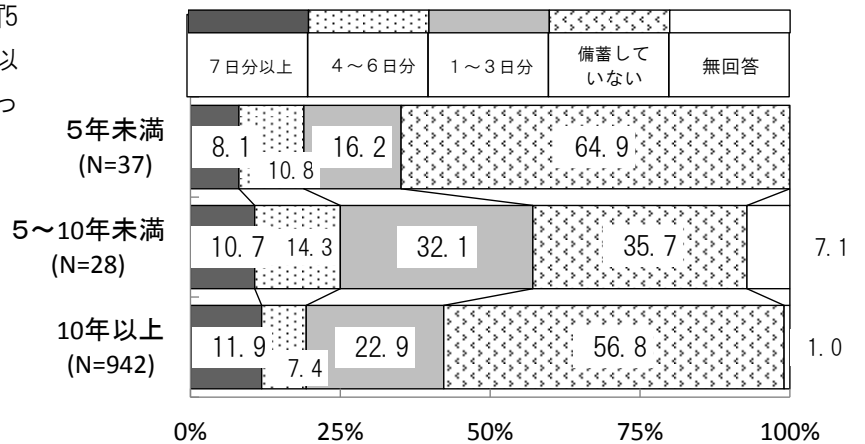
携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数<性・年齢別>

性・年齢別で見ると、「備蓄していない」は、若年層で高く『女性20～29歳』（73.0%）が最も高くなっている。



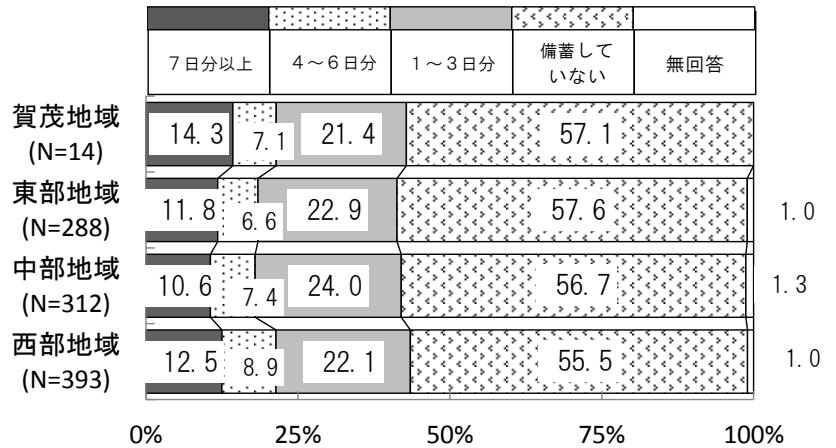
携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数<居住年数別>

居住年数別で見ると、「4日分以上」は、『5～10年未満』（25.0%）が最も高く、『10年以上』（19.3%）、『5年未満』（18.9%）となっている。



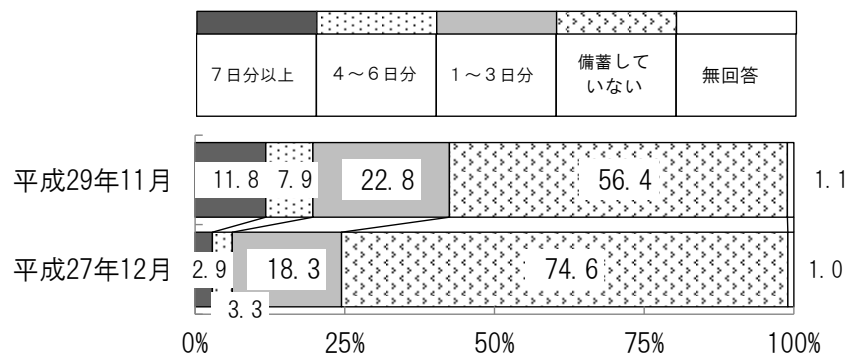
地域別でみると、「備蓄していない」は、『東部』（57.6%）が最も高く、『西部』（55.5%）が最も低くなっている。

携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数<地域別>



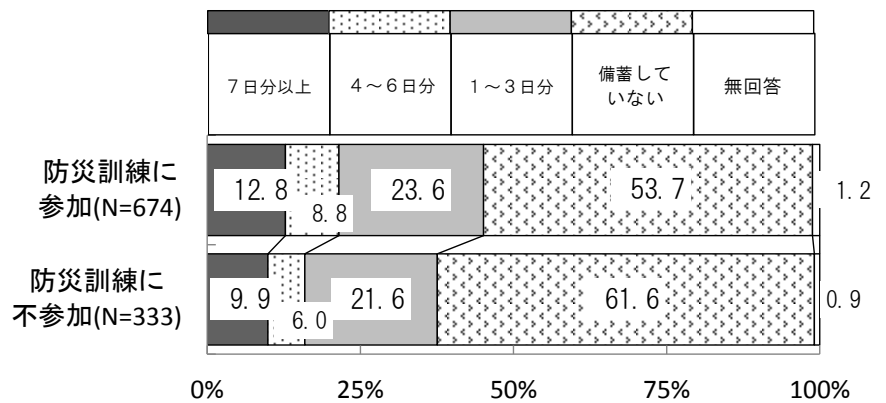
経年比較でみると、「7日分以上」は、今回調査（11.8%）では、平成27年12月の前回調査（2.9%）より8.9ポイント高くなっている。一方、「備蓄していない」は、今回調査（56.4%）では、前回調査（74.6%）より18.2ポイント低くなっている。

携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数<経年比較>



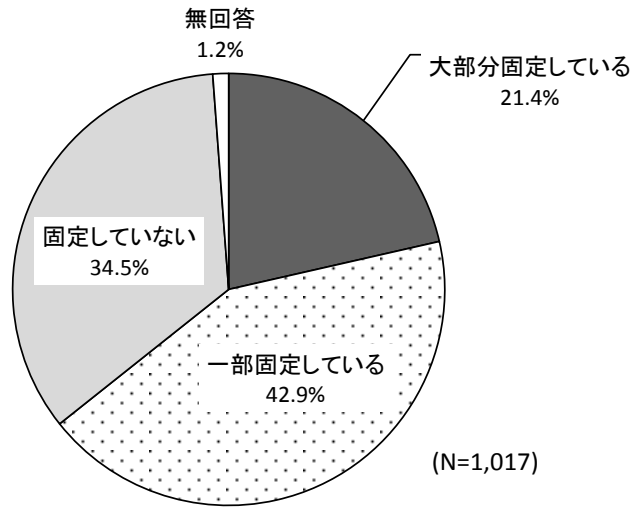
地震防災訓練参加の有無別でみると、「7日分以上」は、『防災訓練に参加』（12.8%）は、『防災訓練に参加しない』（9.9%）より2.9ポイント高くなっている。

携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数<地震防災訓練参加の有無別>



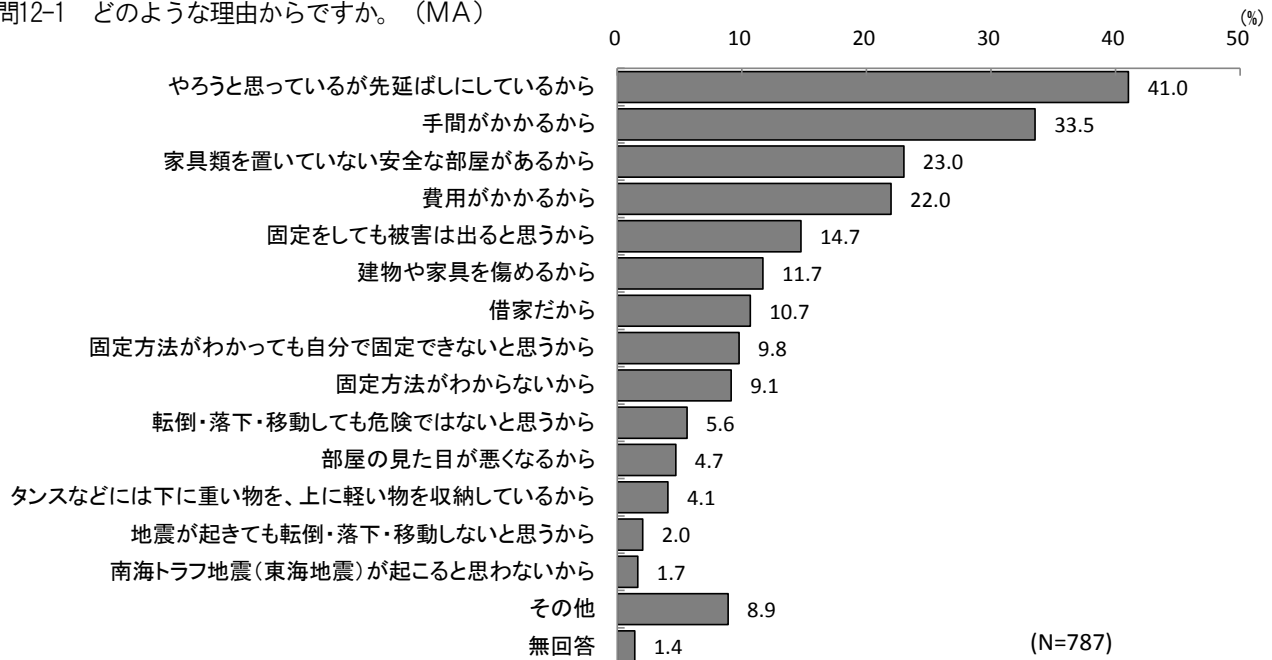
2-6 地震に備えた家具類の固定

問12 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。



<問12で「2 一部固定している」または「3 固定していない」を選んだ方にお伺いします。>

問12-1 どのような理由からですか。(MA)

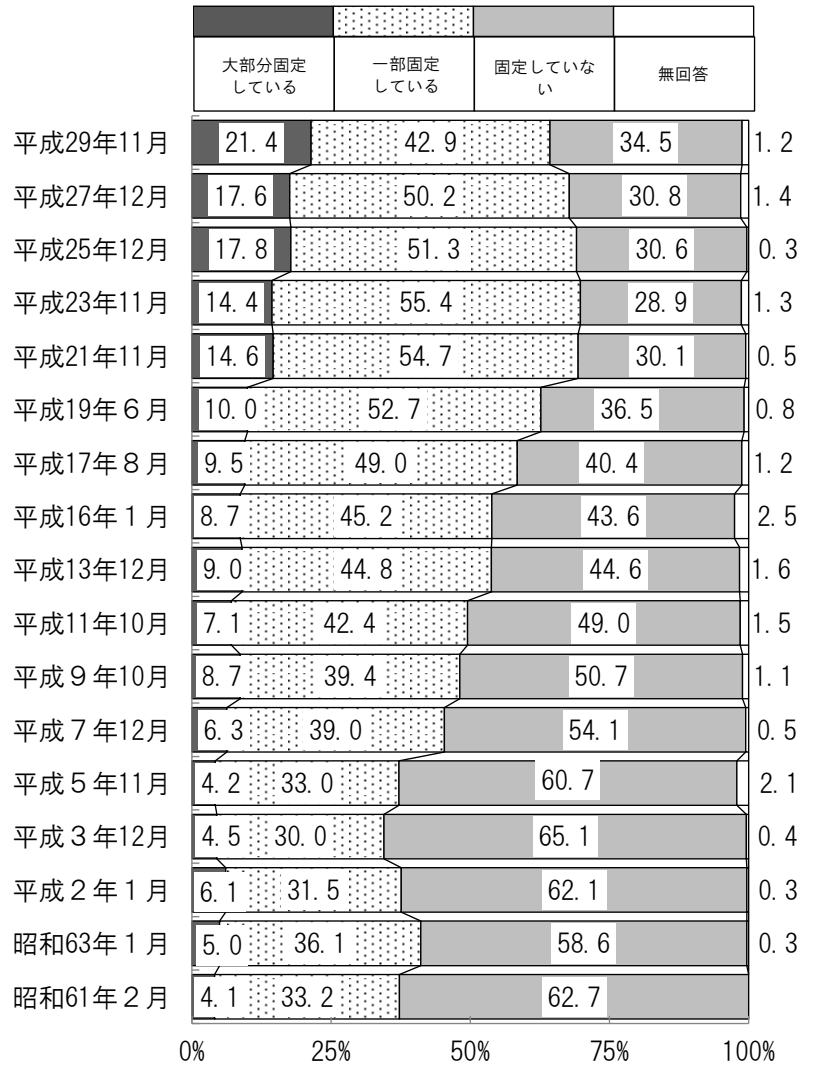


家具類の固定状況についてたずねたところ、「大部分固定している」(21.4%)と「一部固定している」(42.9%)を合わせると、固定実施率は64.3%となっている。内閣府調査では、「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」と回答した人が40.6%となっており、静岡県は23.7ポイント高くなっている。

また、問12で「一部固定している」「固定していない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「やろうと思っているが先延ばしにしているから」(41.0%)、「手間がかかるから」(33.5%)、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」(23.0%)、「費用がかかるから」(22.0%)、「固定をしても被害は出ると思うから」(14.7%)の順となっている。

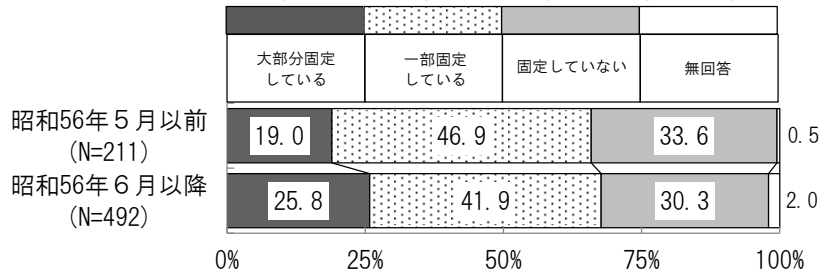
経年比較でみると、家具の固定実施率（「大部分固定している」＋「一部固定している」）が、今回調査（64.3%）は平成27年12月の前回調査（67.8%）と比べ3.5ポイント低くなっている。

家具類の固定実施状況 <経年比較>



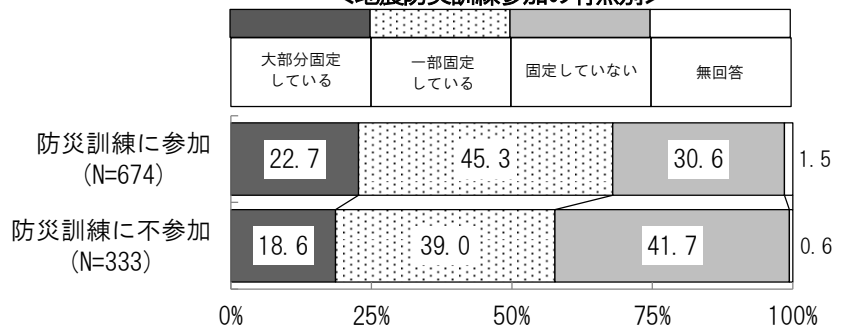
昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較でみると、家具の固定実施率（「大部分固定している」＋「一部固定している」）が、「昭和56年5月以前建築」（65.9%）は、「昭和56年6月以降建築」（67.7%）より1.8ポイント低くなっている。

家具類の固定実施状況 <昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較>



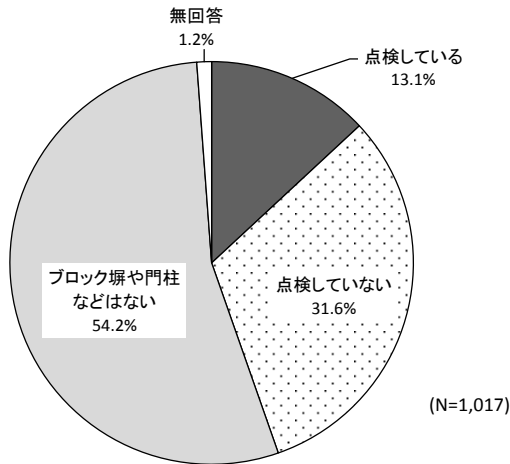
地震防災訓練参加の有無別でみると、家具の固定実施率が、『防災訓練に参加』（68.0%）は『防災訓練に不参加』（57.6%）より10.4ポイント高くなっている。

家具類の固定実施状況 <地震防災訓練参加の有無別>



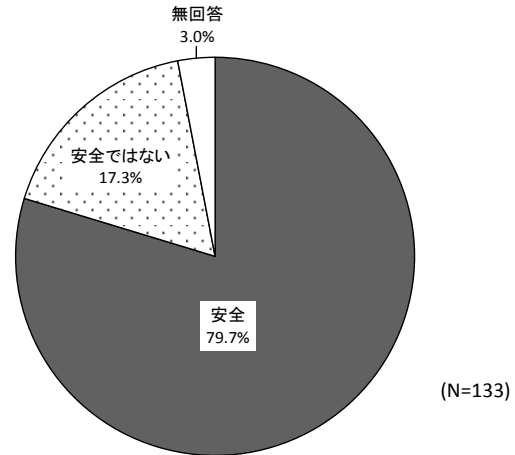
2-7 ブロック塀・門柱などの安全点検

問13 あなたのお宅では、ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。



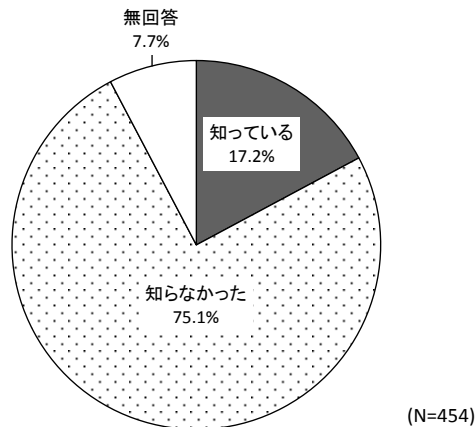
＜問13で「1 点検している」を選んだ方にお伺いします。＞

問13-1 点検結果はいかがでしたか。



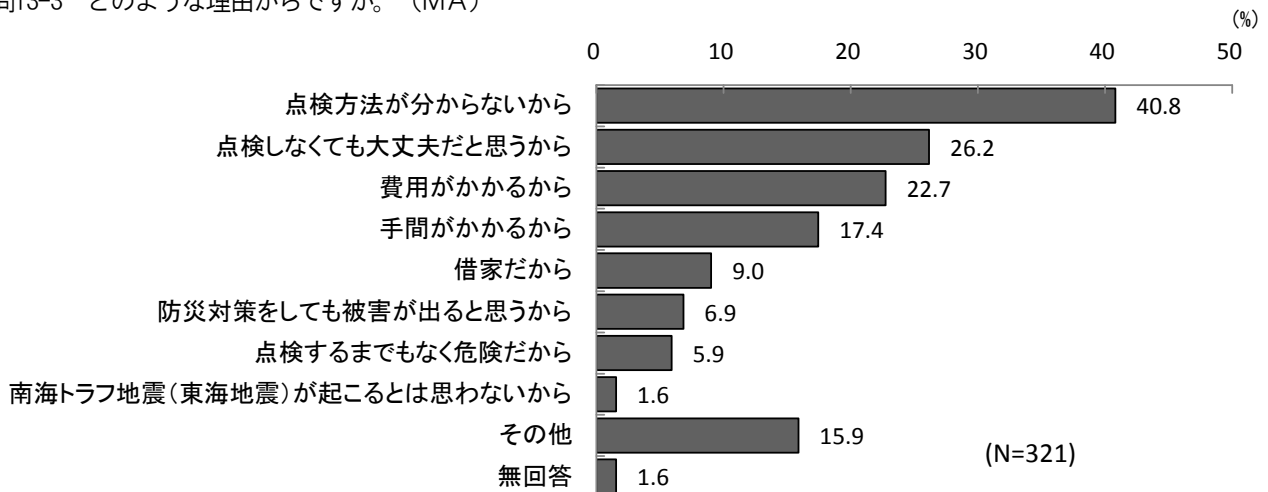
＜問13で「1 点検している」 または 「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。＞

問13-2 現在、静岡県では危険なブロック塀の撤去、改善に対して補助する制度がありますが、このことをご存知ですか。



＜問13で「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。＞

問13-3 どのような理由からですか。(MA)



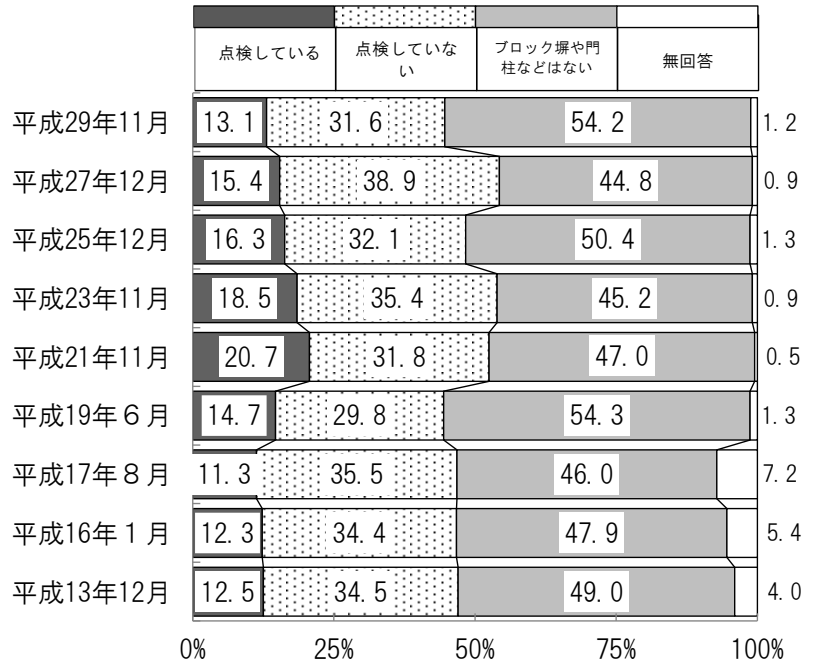
ブロック塀・門柱などの安全性の点検についてたずねたところ、「ブロック塀や門柱などはない」(54.2%)が最も高く、次いで「点検していない」(31.6%)、「点検している」(13.1%)の順となっている。

問13で「点検している」と回答した人に、結果をたずねたところ、「安全」(79.7%)が最も高く、次いで「安全ではない」(17.3%)となっている。また、問13で「点検していない」と回答した人の理由については、「点検方法が分からないから」(40.8%)が最も高く、次いで「点検しなくても大丈夫だと思うから」(26.2%)、「費用がかかるから」(22.7%)の順となっている。

問13で「点検した」および「点検していない」と回答した人に、ブロック塀の撤去、改善の補助制度の認知についてたずねたところ、「知らなかった」(75.1%)、「知っている」(17.2%)の順となっている。

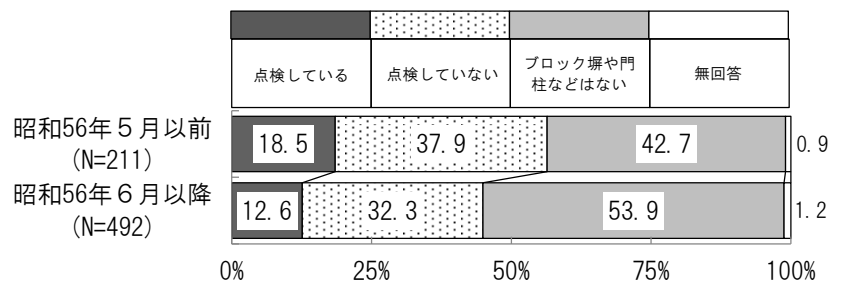
経年比較でみると、ブロック塀の安全性点検率は「点検していない」が、平成27年12月の前回調査(38.9%)より、今回調査(31.6%)の方が7.3ポイント低くなっている。

ブロック塀の安全点検<経年比較>



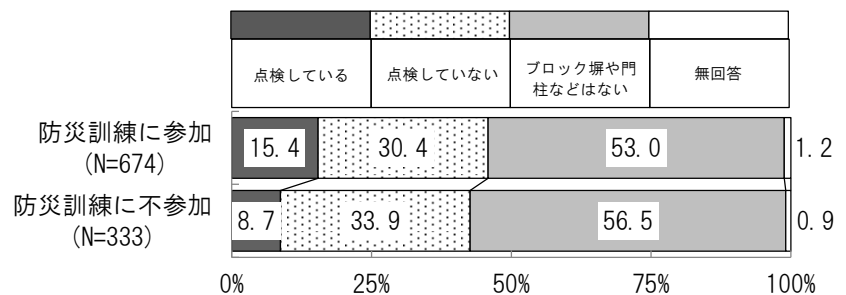
昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較でみると、ブロック塀の安全性点検率は、「点検している」が『昭和56年5月以前建築』(18.5%)は『昭和56年6月以降』(12.6%)より5.9ポイント高くなっている。

ブロック塀の安全点検<昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較>



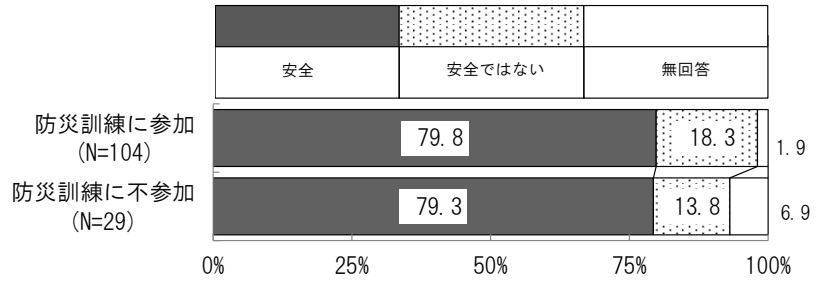
地震防災訓練参加の有無別でみると、ブロック塀の安全性点検率は「点検している」が、『防災訓練に参加』(15.4%)は『防災訓練に参加しない』(8.7%)より6.7ポイント高くなっている。

ブロック塀の安全点検<地震防災訓練参加の有無別>



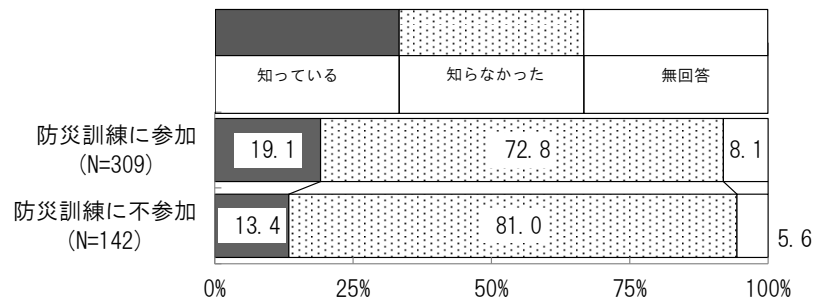
地震防災訓練参加の有無別でみると、点検結果は「安全」が、『防災訓練に参加』(79.8%)、『防災訓練に不参加』(79.3%)となっている。

点検結果<地震防災訓練参加の有無別>



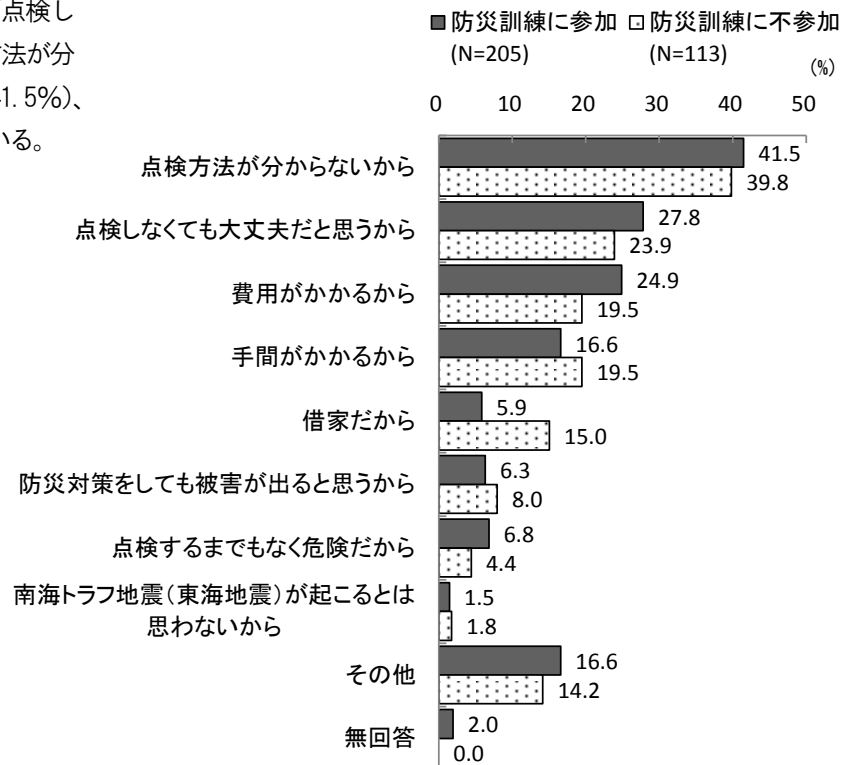
地震防災訓練参加の有無別でみると、改善の補助制度の認知は「知っている」が、『防災訓練に参加』(19.1%)、『防災訓練に不参加』(13.4%)より5.7ポイント高くとなっている。

改善の補助制度の認知
<地震防災訓練参加の有無別>



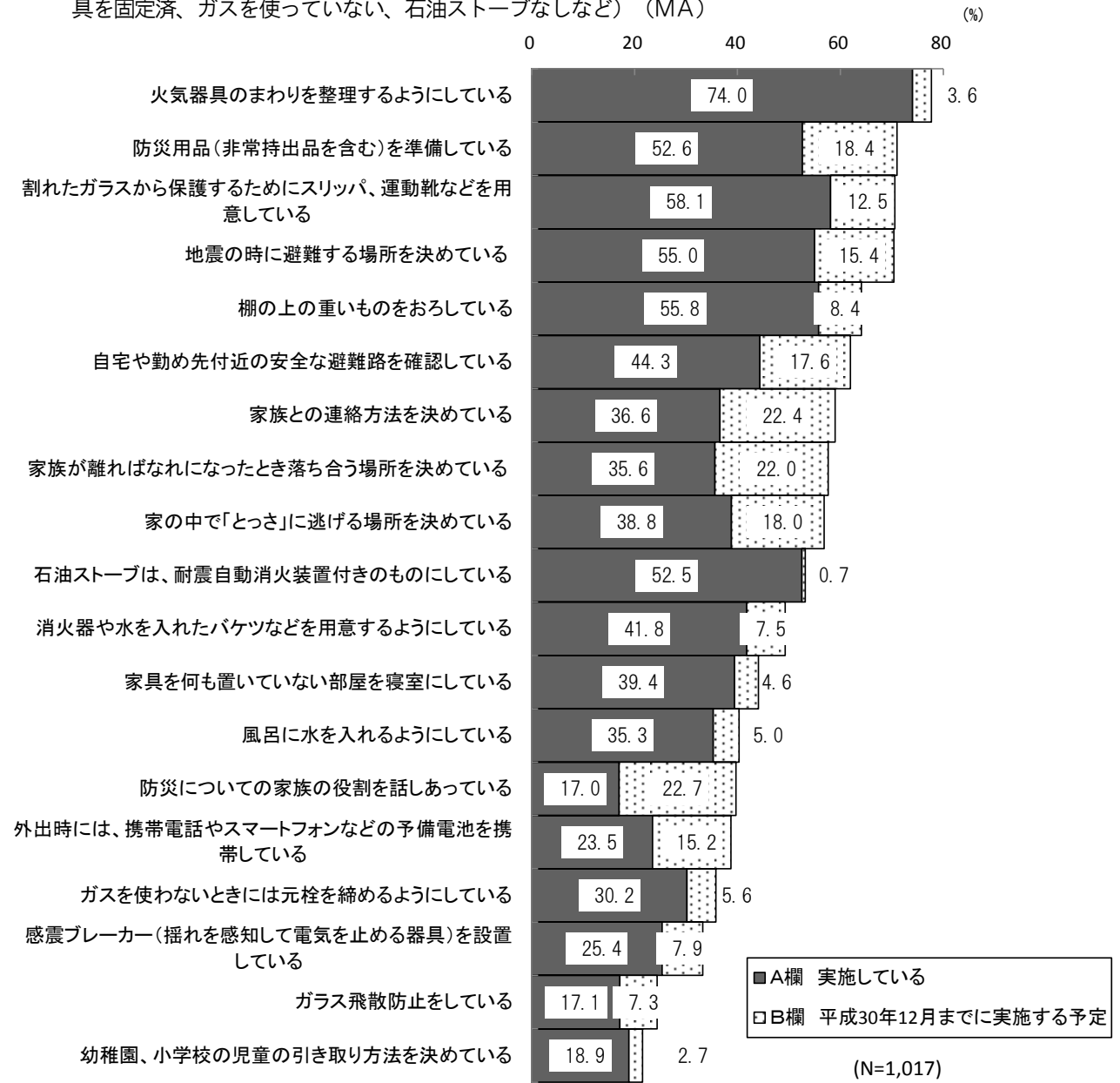
地震防災訓練参加の有無別でみると、「点検していない」と回答した人の理由は「点検方法が分からないから」が、『防災訓練に参加』(41.5%)、『防災訓練に不参加』(39.8%)となっている。

「点検していない」と回答した人の理由
<地震防災訓練参加の有無別>



2-8 南海トラフ地震（東海地震）に備えての防災対策

問14 次にあげるものの中で、南海トラフ地震（東海地震）に備えて自宅や日常生活で実施している防災対策がありますか。質問項目のA欄～D欄のどれか一つに○をお付けください。（※D欄 質問項目は該当しないとは、例 家具を固定済、ガスを使っていない、石油ストーブなしなど）（MA）



南海トラフ地震（東海地震）に備えて行っている防災対策についてたずねたところ、実施していることは「火気器具のまわりを整理するようにしている」（74.0%）が最も高く、次いで「割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意している」（58.1%）、「棚の上の重いものをおろしている」（55.8%）の順となっている。

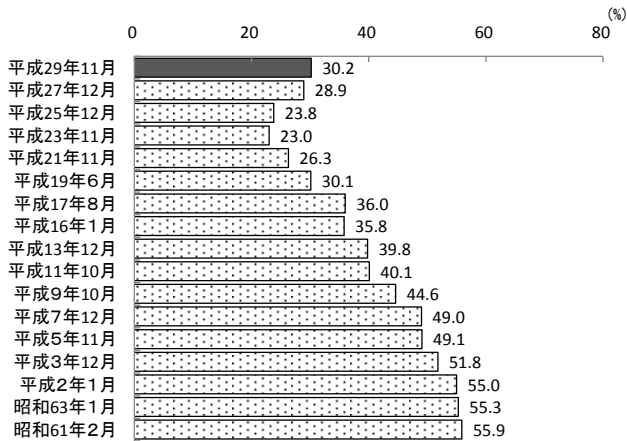
平成30年12月までに実施する予定は、「防災についての家族の役割を話しあっている」（22.7%）が最も高く、次いで「家族との連絡方法を決めている」（22.4%）、「家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めている」（22.0%）、「防災用品（非常持出品を含む）を準備している」（18.4%）の順となっている。

「実施している」と「平成30年12月までに実施する予定」の数字を合わせた項目では、「火気器具のまわりを整理するようにしている」（77.6%）、「防災用品（非常持出品を含む）を準備している」（71.0%）、「割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意している」（70.6%）、「地震の時に避難する場所を決めている」（70.4%）の4項目が7割を超えている。

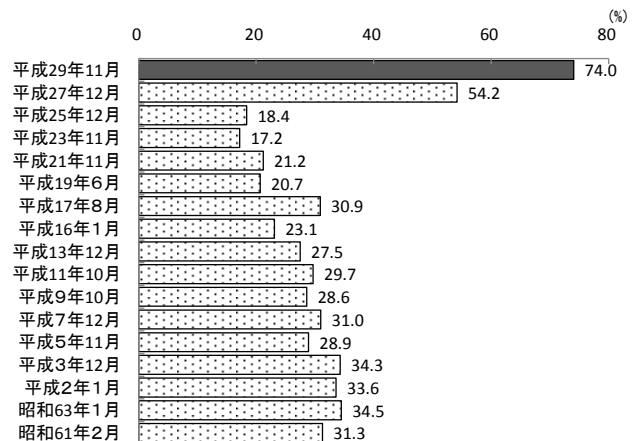
経年比較でみると、いずれの項目でも平成27年12月の前回調査より高くなっており、特に「火気器具のまわりを整理するようにしている」が今回調査（74.0%）は前回調査（54.2%）に比べて19.8ポイント高くなっている。

大規模地震に備えての防災対策 <経年比較>

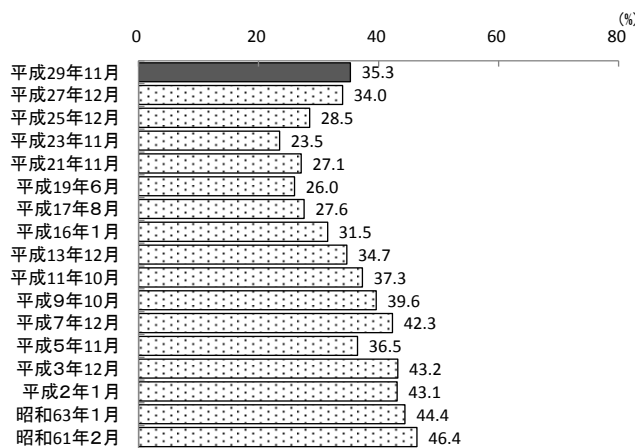
ガスを使わないときには元栓を閉めるようにしている



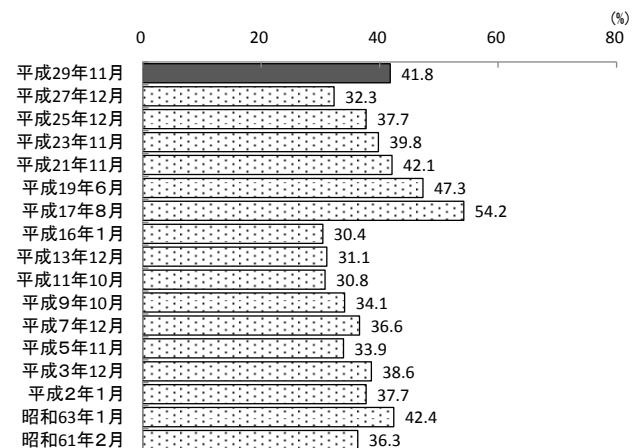
火気器具のまわりを整理するようにしている



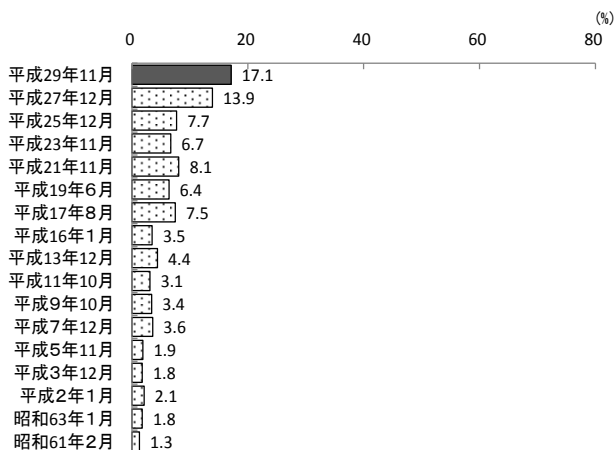
風呂に水を入れるようにしている



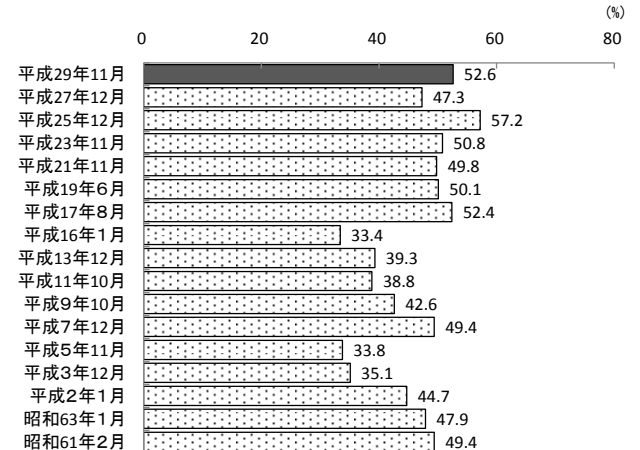
消火器や水に入れたバケツなどを用意するようにしている



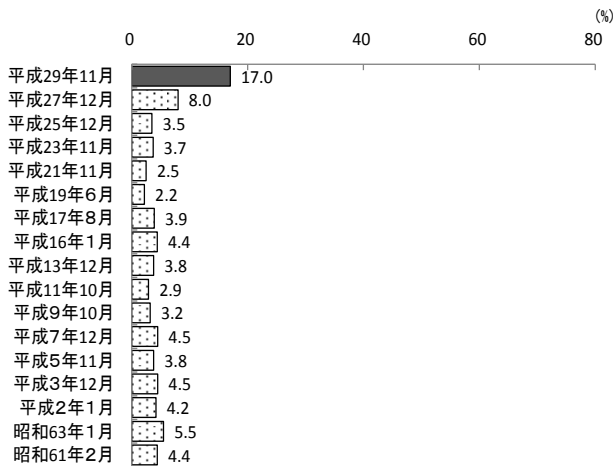
ガラス飛散防止をしている



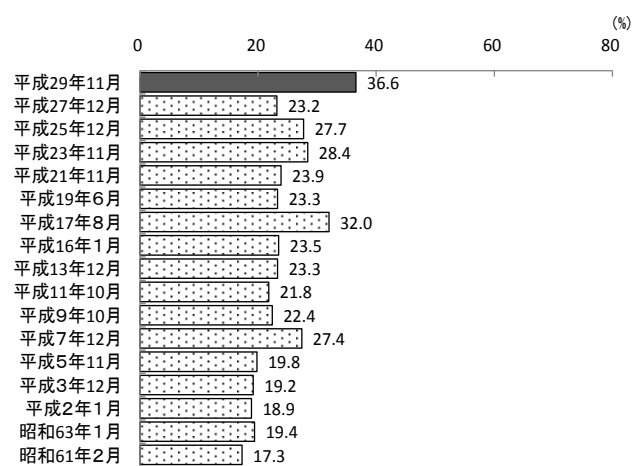
防災用品（非常持出品を含む）を用意している



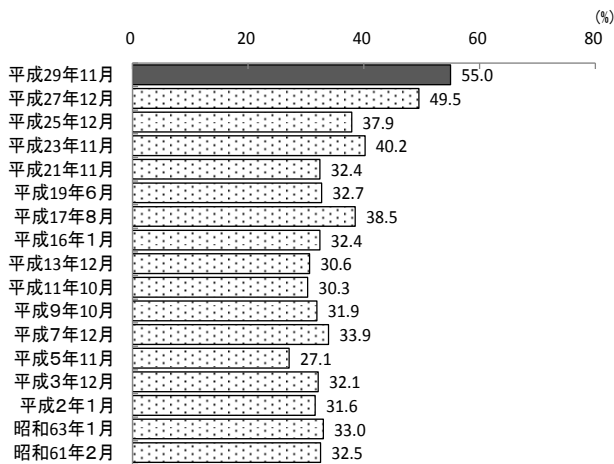
防災についての家族の役割を話しあっている



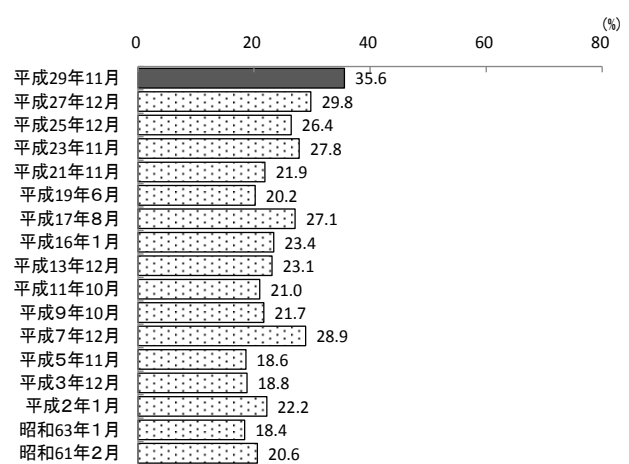
家族との連絡方法を決めている



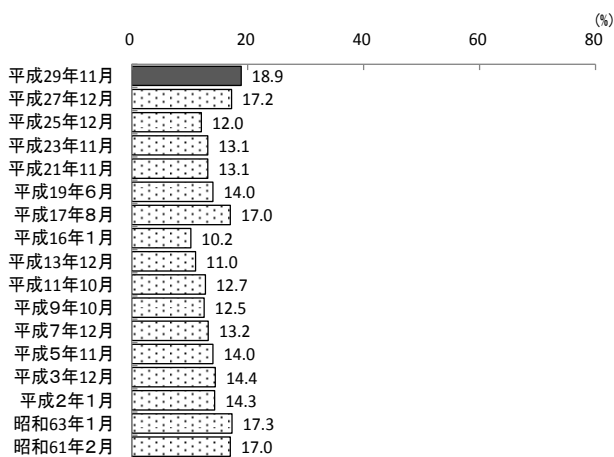
地震の時に避難する場所を決めている



家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めている



幼稚園、小学生の児童の引き取り方法を決めている



経年比較でみると、日常面での備えの上位1位「火気器具のまわりを整理するようにしている」は、今回調査(74.0%)が平成27年12月の前回調査(54.2%)より19.8ポイント上昇している。また、2位「割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意している」は、今回調査(58.1%)が前回調査(39.9%)より18.2ポイント上昇している。3位「棚の上の重いものをおろしている」は、今回調査(55.8%)が前回調査(35.4%)より20.4ポイント上昇している。

行動面での備えは、上位5項目ともに前回調査と比べてポイント上昇の傾向となっている。上位2位「自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認している」は、今回調査(44.3%)が前回調査(28.7%)より15.6ポイント上昇している。

日常面での備え 上位5位 (平成29年) <経年比較>

上位5位	平成29年11月	前回の差	平成27年12月	平成25年12月	平成23年11月	平成21年11月	平成19年6月	平成17年8月	平成16年1月	平成13年12月	平成11年10月	平成9年10月	平成7年12月	平成5年11月	平成3年12月	平成2年1月	昭和63年1月	昭和61年2月
1位 火気器具のまわりを整理するようにしている	74.0	19.8	54.2	18.4	17.2	21.2	20.7	30.9	23.1	27.5	29.7	28.6	31.0	28.9	34.3	33.6	34.5	31.3
2位 割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意している	58.1	18.2	39.9	31.2	21.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3位 棚の上の重いものをおろしている	55.8	20.4	35.4	23.8	20.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4位 防災用品(非常持出品を含む)を準備している	52.6	5.3	47.3	57.2	50.8	49.8	50.1	52.4	33.4	39.3	38.8	42.6	49.4	33.8	35.1	44.7	47.9	49.4
5位 石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにしている	52.5	-3.2	55.7	31.2	10.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

行動面での備え 上位5位 (平成29年) <経年比較>

上位5位	平成29年11月	前回の差	平成27年12月	平成25年12月	平成23年11月	平成21年11月	平成19年6月	平成17年8月	平成16年1月	平成13年12月	平成11年10月	平成9年10月	平成7年12月	平成5年11月	平成3年12月	平成2年1月	昭和63年1月	昭和61年2月
1位 地震の時に避難する場所を決めている	55.0	5.5	49.5	37.9	40.2	32.4	32.7	38.5	32.4	30.6	30.3	31.9	33.9	27.1	32.1	31.6	33.0	32.5
2位 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認している	44.3	15.6	28.7	19.2	14.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3位 家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めている	38.8	11.4	27.4	24.1	19.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4位 家族との連絡方法を決めている	36.6	13.4	23.2	27.7	28.4	23.9	23.3	32.0	23.5	23.3	21.8	22.4	27.4	19.8	19.2	18.9	19.4	17.3
5位 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めている	35.6	5.8	29.8	26.4	27.8	21.9	20.2	27.1	23.4	23.1	21.0	21.7	28.9	18.6	18.8	22.2	18.4	20.6

日常面での備えを「実施している」＋「平成30年12月までに実施する予定」を**避難のタイミング別**でみると、全体と大きな差異はみられないが、上位1位「火気器具のまわりを整理するようにしている」は、『津波警報を見聞きしたら（自治体からの呼びかけ含む）』（79.2%）、2位「防災用品（非常持出品を含む）を準備している」は、『スマートフォンなどで津波の危険性があるか確認し、危険を認知したら』（72.9%）となっている。

行動面での備えを「実施している」＋「平成30年12月までに実施する予定」は、「地震の時に避難する場所を決めている」は、『スマートフォンなどで津波の危険性があるか確認し、危険を認知したら』（74.6%）となっている。

日常面での備え 「実施している」＋「平成30年12月までに実施する予定」

<避難のタイミング別>

	回答者数	火気器具のまわりを整理する	防災用品（非常持出品を含む）を準備している	用意したガラス、バスから運動靴などをた	割れたガラスから保護するた	棚の上の重いものをおろして	石油ストーブは、耐震自動消火器や水を入れたバケツなどを用意するよう	消火器や水を入れたバケツなどを用意するよう	家具を何もしない部屋を寝室にしている	風呂に水を入れるようにして	外出時には、携帯電話やスマートフォンを携帯している	ガスを使わないときには元栓を締めるようにしている	感震ブレーカー（揺れを感知して電気を止める器具）を感知	ガラス飛散防止をしている
全体	1,017	77.7	71.0	70.6	64.7	53.2	49.3	44.1	40.3	38.7	35.8	33.2	24.4	
避難のタイミング別	揺れが収まったら	560	77.0	70.7	71.6	64.5	52.5	49.5	45.9	41.4	39.3	33.8	34.3	25.7
	スマートフォンなどで津波の危険性があるか確認し、危険を認知したら	118	78.0	72.9	72.9	66.7	48.3	40.7	46.6	36.4	47.5	37.3	36.4	22.0
	津波警報を見聞きしたら（自治体からの呼びかけ含む）	226	79.2	71.7	68.6	63.7	57.1	54.4	39.4	40.3	29.2	38.9	30.5	18.1
	周りの人が避難している姿を見たら	52	71.2	65.4	59.6	51.9	51.9	36.5	30.8	34.6	46.2	28.8	19.2	25.0
	海の水が引いているのを見たら	33	75.8	87.9	75.8	72.7	63.6	60.6	45.5	42.4	48.5	37.6	42.4	48.5
	沖合に高い波が見えたら	6	83.3	16.7	83.3	83.3	33.3	50.0	50.0	33.3	50.0	50.0	16.7	16.7
	足下に水が来たら	1	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0
	その他	11	90.9	54.5	72.7	72.7	36.4	54.5	45.5	45.5	63.6	36.4	54.5	54.5

行動面での備え 「実施している」＋「平成30年12月までに実施する予定」

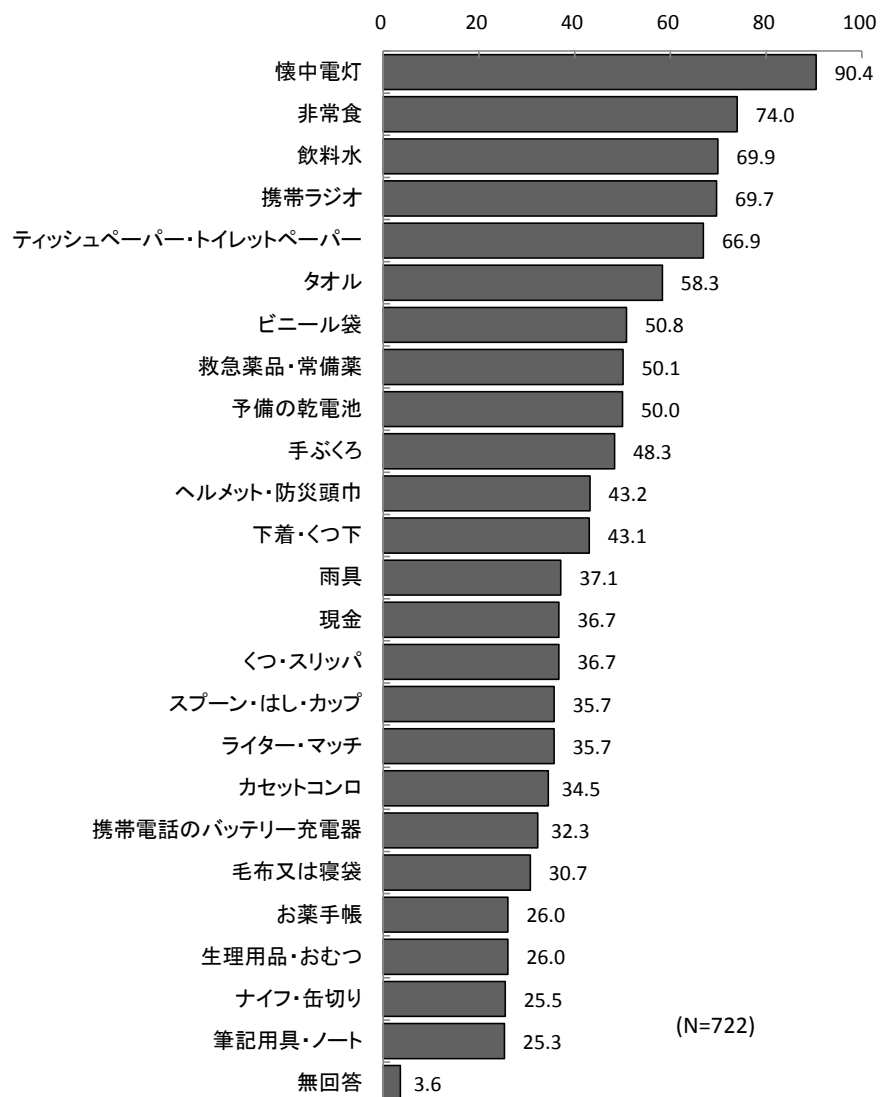
<避難のタイミング別>

	回答者数	地震の時に避難する場所を決	自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認している	家族との連絡方法を決めてい	家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めている	家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めている	場所の中で「とっさ」に逃げる	防犯について家族の役割を話しあっている	幼稚園、小学校の児童の引き
全体	1,017	70.4	61.9	59.0	57.6	56.8	39.7	21.5	
避難のタイミング別	揺れが収まったら	560	70.4	64.1	59.6	58.8	57.9	40.9	24.1
	スマートフォンなどで津波の危険性があるか確認し、危険を認知したら	118	74.6	66.1	62.7	62.7	60.2	42.4	19.5
	津波警報を見聞きしたら（自治体からの呼びかけ含む）	226	69.5	57.5	57.1	56.2	53.5	37.6	17.7
	周りの人が避難している姿を見たら	52	61.5	48.1	53.8	46.2	51.9	32.7	15.4
	海の水が引いているのを見たら	33	81.8	75.8	66.7	66.7	72.7	42.4	15.2
	沖合に高い波が見えたら	6	50.0	33.3	33.3	16.7	50.0	33.3	0.0
	足下に水が来たら	1	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	11	63.6	63.6	54.5	45.5	54.5	45.5	36.4

＜問14で「8 防災用品（非常持出品を含む）を準備している」のA欄、B欄で○が付いた方にお伺いします。＞

問14-1 非常持出品として何を用意している、もしくは用意する予定ですか。（MA）

(%)



(N=722)

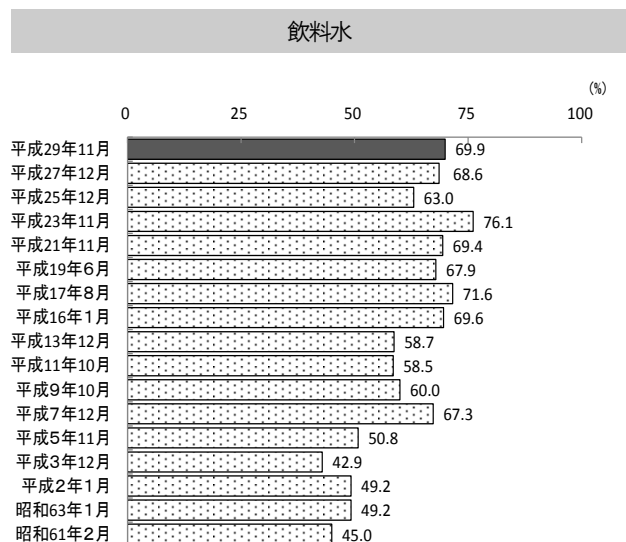
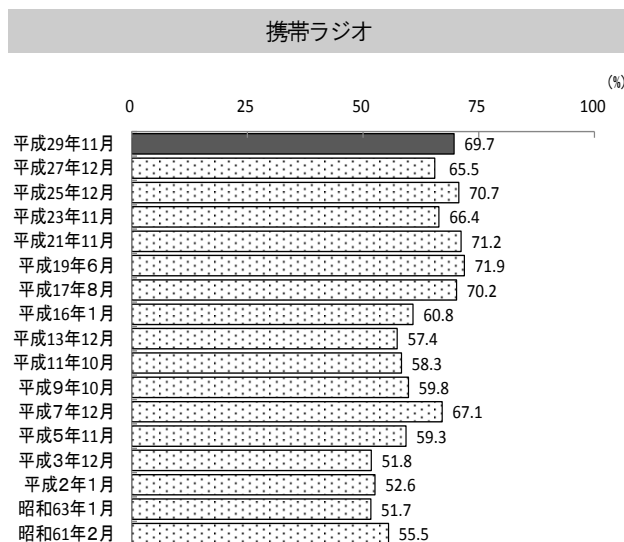
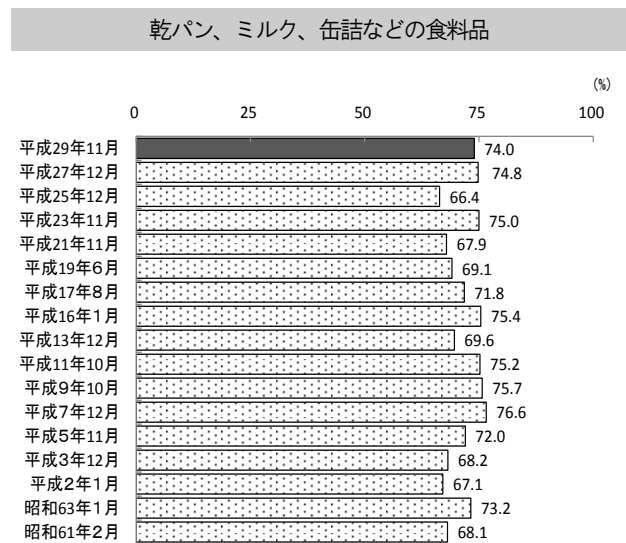
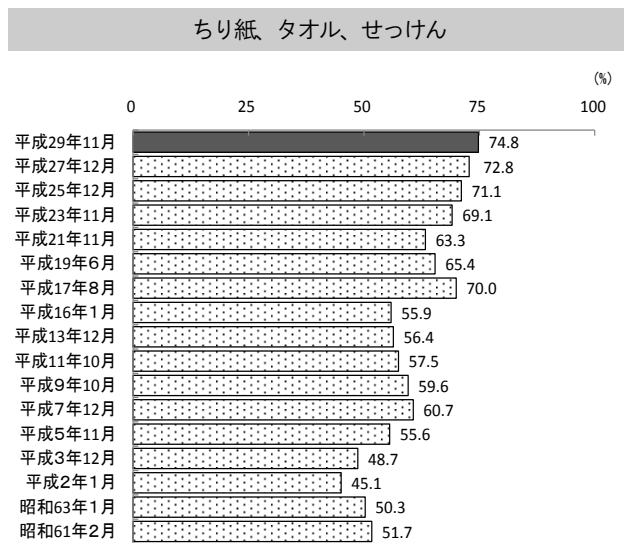
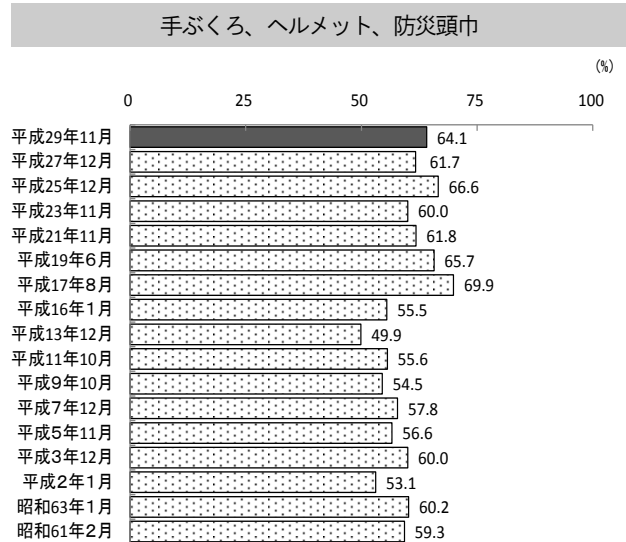
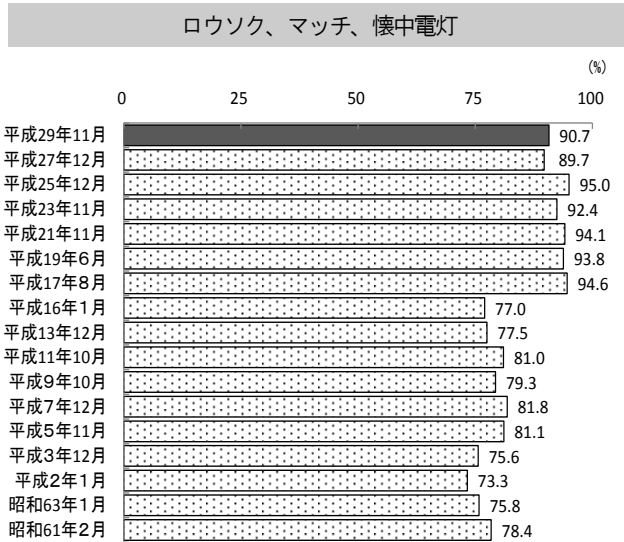
● 平均準備品目数 11.4

問14で「防災用品（非常持出品を含む）を準備している」と回答した人に何を用意しているかをたずねたところ、「懐中電灯」（90.4%）が最も高く、次いで「非常食」（74.0%）、「飲料水」（69.9%）、「携帯ラジオ」（69.7%）、「ティッシュペーパー・トイレトペーパー」（66.9%）の順となっている。

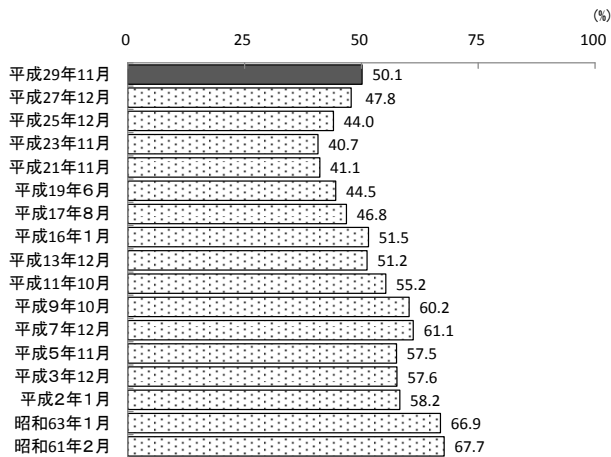
用意している非常持出品を**経年比較**で見ると、今回調査では「乾パン、ミルク、缶詰などの食料品」（74.0%）が平成27年12月の前回調査より低くなっている。

平均準備品目数を**経年比較**で見ると、今回調査では「11.4品目（24項目中）」が平成27年12月の前回調査「9.7品目（22項目中）」より多くなっている。

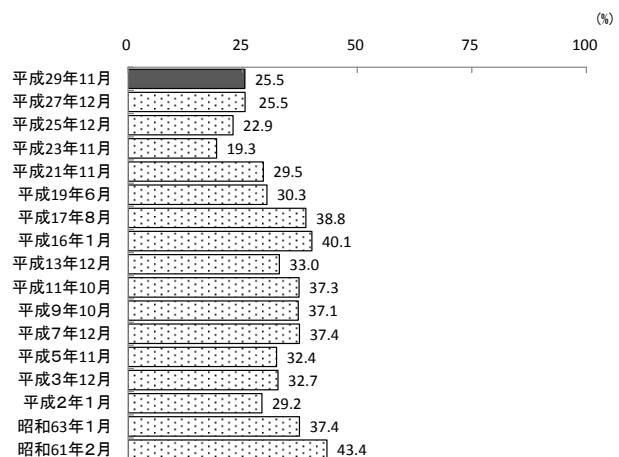
用意している非常持出品 <経年比較>



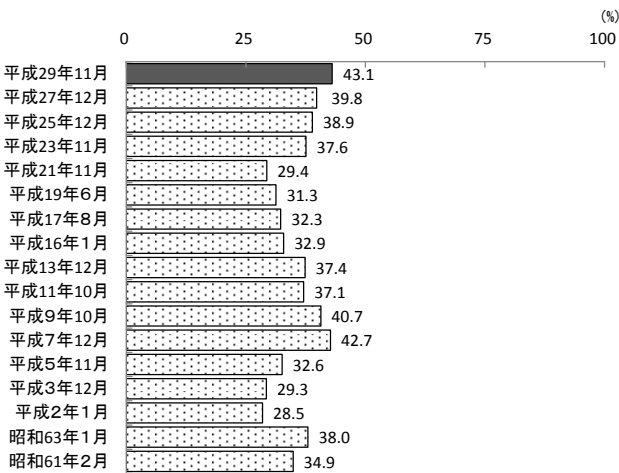
救急医療品、常備薬



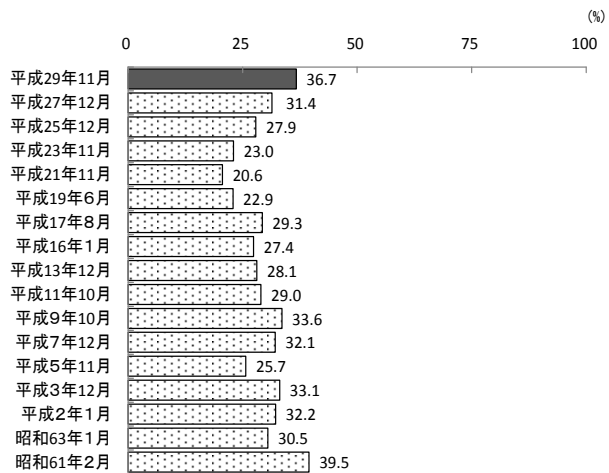
ナイフ、缶きり、ロープ、ひも



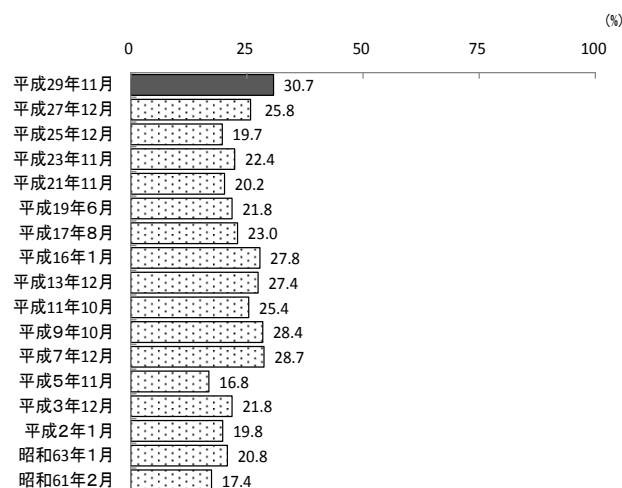
下着類



現金



毛布又は寝袋



平均準備品目数

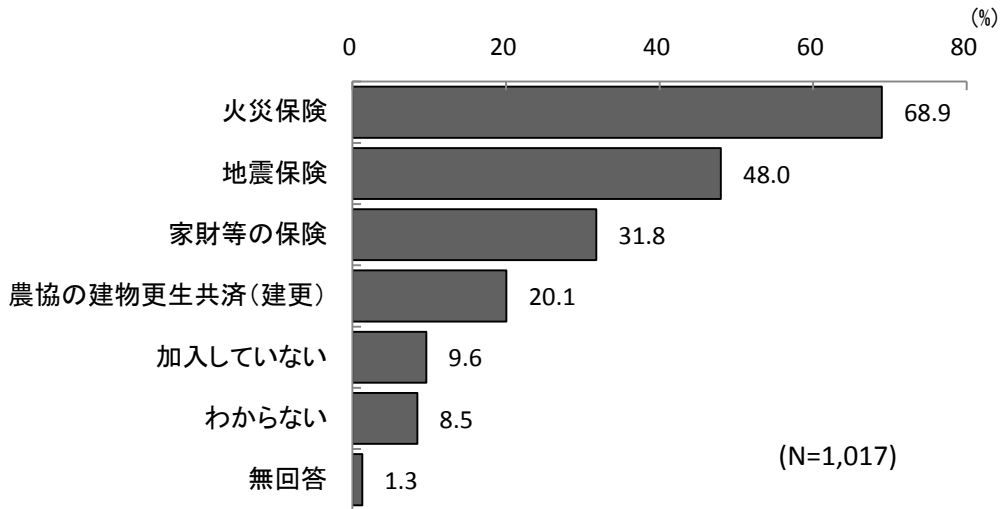
経年比較

平成29年11月	11.4	(24項目中)
平成27年12月	9.7	(22項目中)
平成25年12月	9.9	(23項目中)
平成23年11月	9.6	(23項目中)
平成21年11月	9.3	(23項目中)
平成19年6月	9.5	(23項目中)
平成17年8月	10.1	(23項目中)
平成16年1月	6.2	(14項目中)
平成13年12月	6.0	(14項目中)
平成11年10月	6.2	(14項目中)
平成9年10月	6.4	(14項目中)
平成7年12月	6.6	(13項目中)
平成5年11月	5.9	(13項目中)
平成3年12月	5.7	(12項目中)
平成2年1月	5.5	(12項目中)
昭和63年1月	6.0	(12項目中)
昭和61年2月	6.2	(12項目中)

※経年比較については、質問項目が追加されているため、複数の質問項目を集約して割合を算出しているものがある。

2-9 建物や家財に関わる保険加入状況

問15 あなたのお宅はどのような建物や家財に関わる保険に加入していますか。(MA)

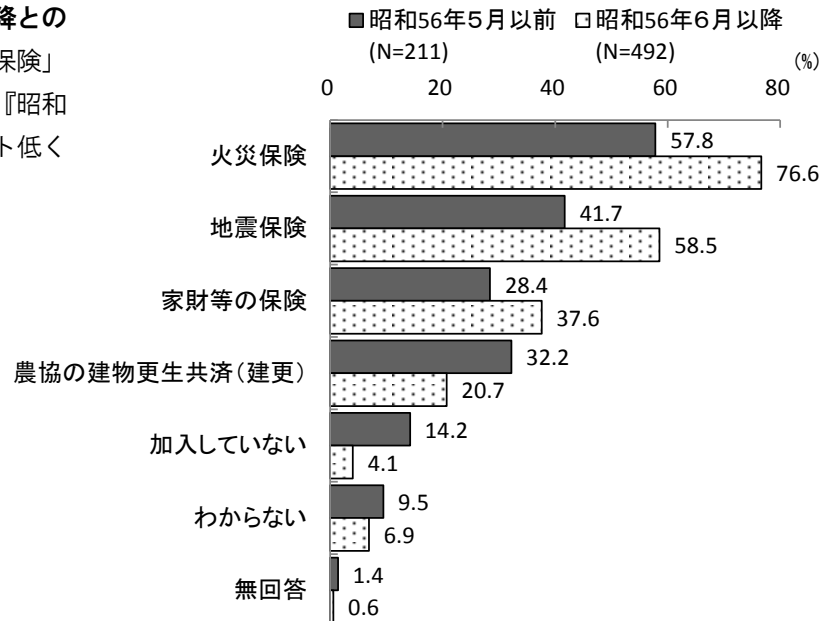


建物や家財に関わる保険の加入についてたずねたところ、「火災保険」(68.9%)が最も高く、次いで「地震保険」(48.0%)、「家財等の保険」(31.8%)の順となっている。

昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較でみると、保険の加入状況は、「地震保険」が『昭和56年5月以前建築』(41.7%)が『昭和56年6月以降』(58.5%)より16.8ポイント低くなっている。

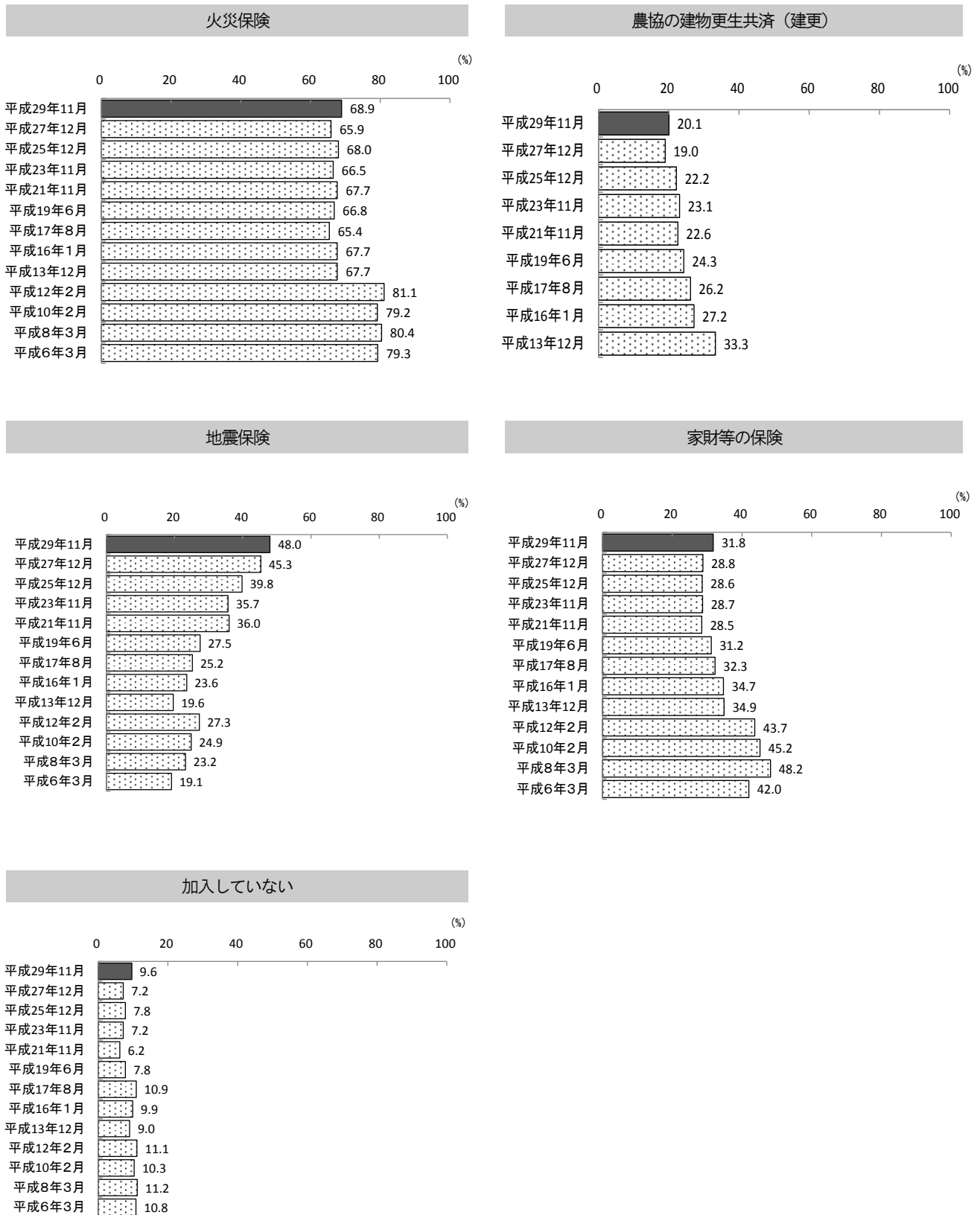
保険加入状況

<昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較>



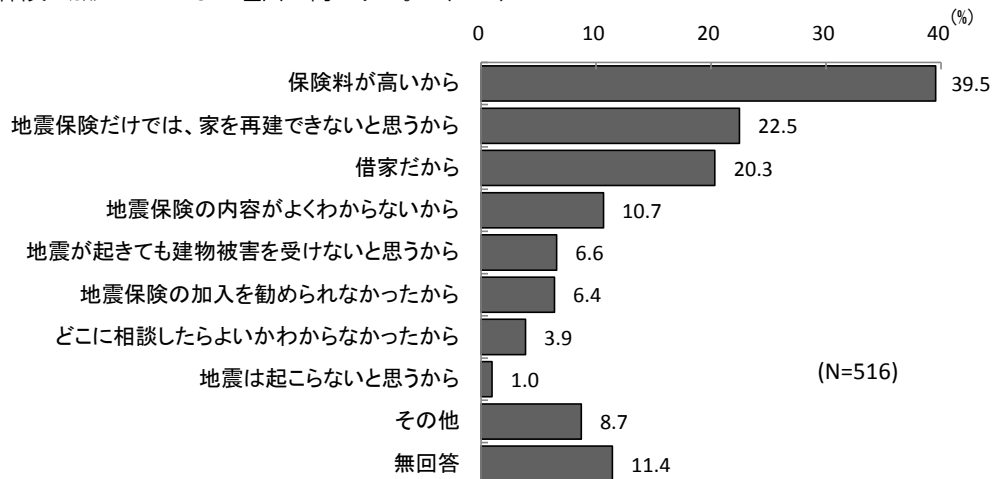
経年比較でみると、今回調査では「地震保険」(48.0%)が平成27年12月の前回調査(45.3%)より2.7ポイント上昇している。

保険加入 <経年比較>



<問15で「1 地震保険」を選ばなかった方にお伺いします。>

問15-1 地震保険に加入していない理由は何ですか。(MA)

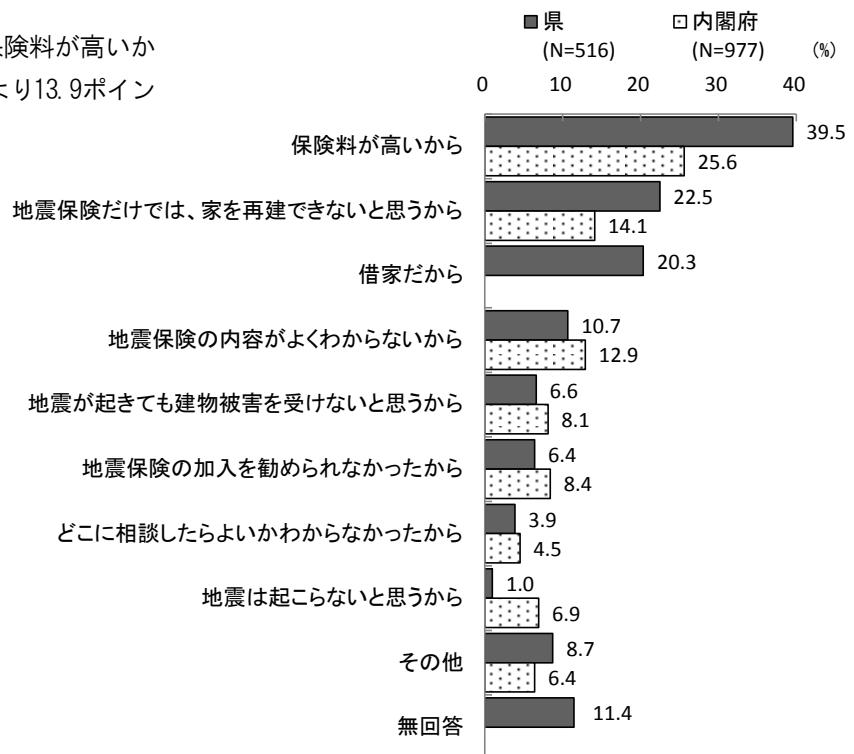


地震保険に加入していない理由についてたずねたところ、「保険料が高いから」(39.5%)が最も高く、次いで「地震保険だけでは、家を再建できないと思うから」(22.5%)、「借家だから」(20.3%)の順となっている。

地震保険に加入していない理由

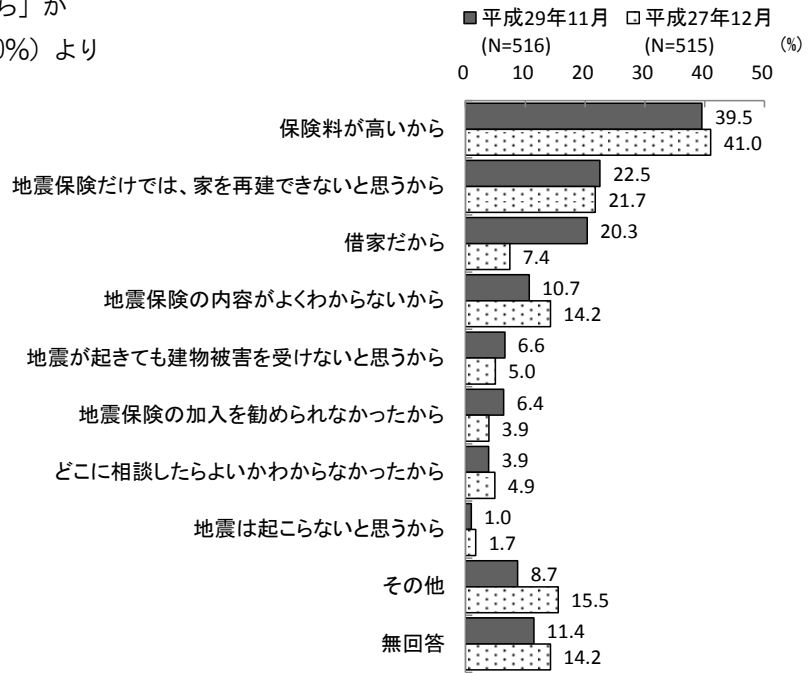
<内閣府調査との比較>

内閣府調査との比較でみると、「保険料が高いから」が39.5%と『内閣府』(25.6%)より13.9ポイント高くなっている。



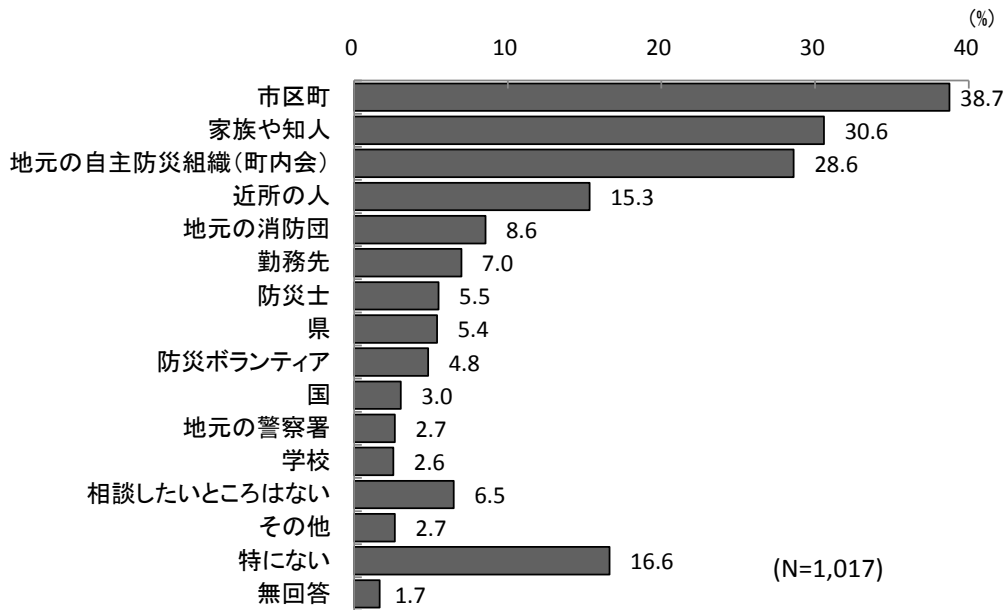
地震保険に加入していない理由<経年比較>

経年比較でみると、「保険料が高いから」が
 39.5%と平成27年12月の前回調査（41.0%）より
 1.5ポイント低くなっている。



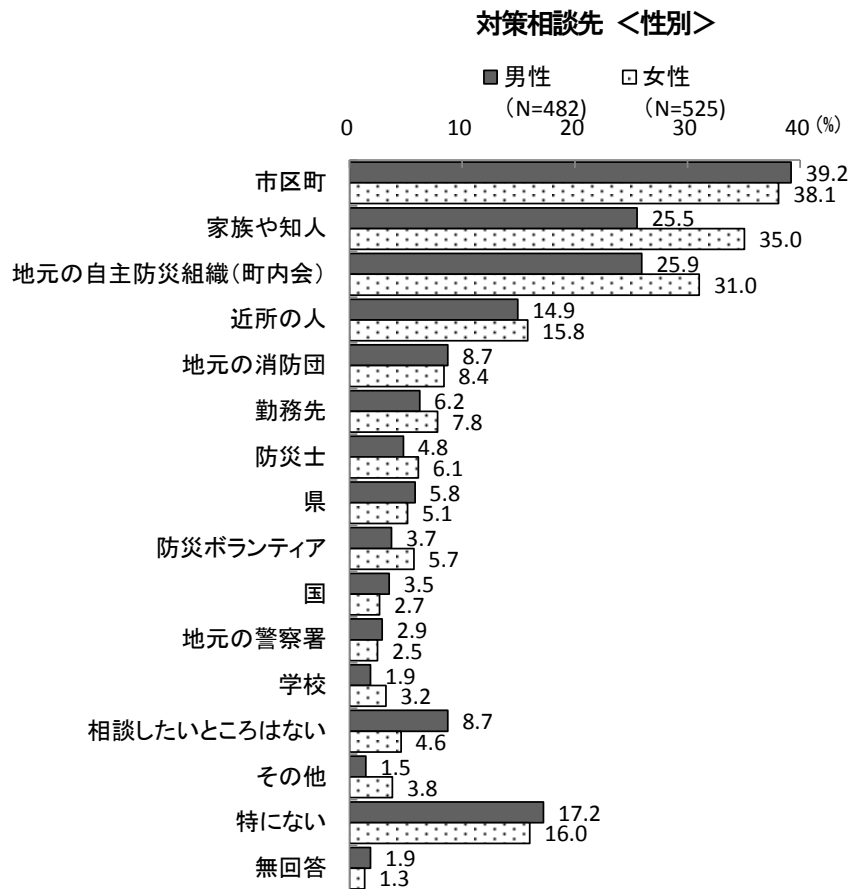
2-10 災害対策の検討に相談したい人や組織

問16 あなたは、日常において防災対策を検討するにあたり具体的に相談したいのはどこですか。(MA)



対策相談先についてたずねたところ、「市区町」(38.7%)が最も高く、次いで「家族や知人」(30.6%)、「地元の自主防災組織(町内会)」(28.6%)の順となっている。

性別で見ると、「市区町」は『男性』(39.2%)、『女性』(38.1%)と大きな差異はみられない。「家族や知人」は『男性』(25.5%)、『女性』(35.0%)と女性の方が9.5ポイント高く、「地元の自主防災組織(町内会)」は『男性』(25.9%)、『女性』(31.0%)と女性の方が5.1ポイント高くなっている。



性・年齢別でみると、「市区町」は『男性40～49歳』（45.0%）、『男性50～59歳』（44.6%）、『女性40～49歳』（48.2%）と他の年齢層より高くなっている。「地元の自主防災組織（町内会）」は『男性70歳以上』（43.3%）、『女性60～69歳』（40.6%）と他の年齢層より高くなっている。

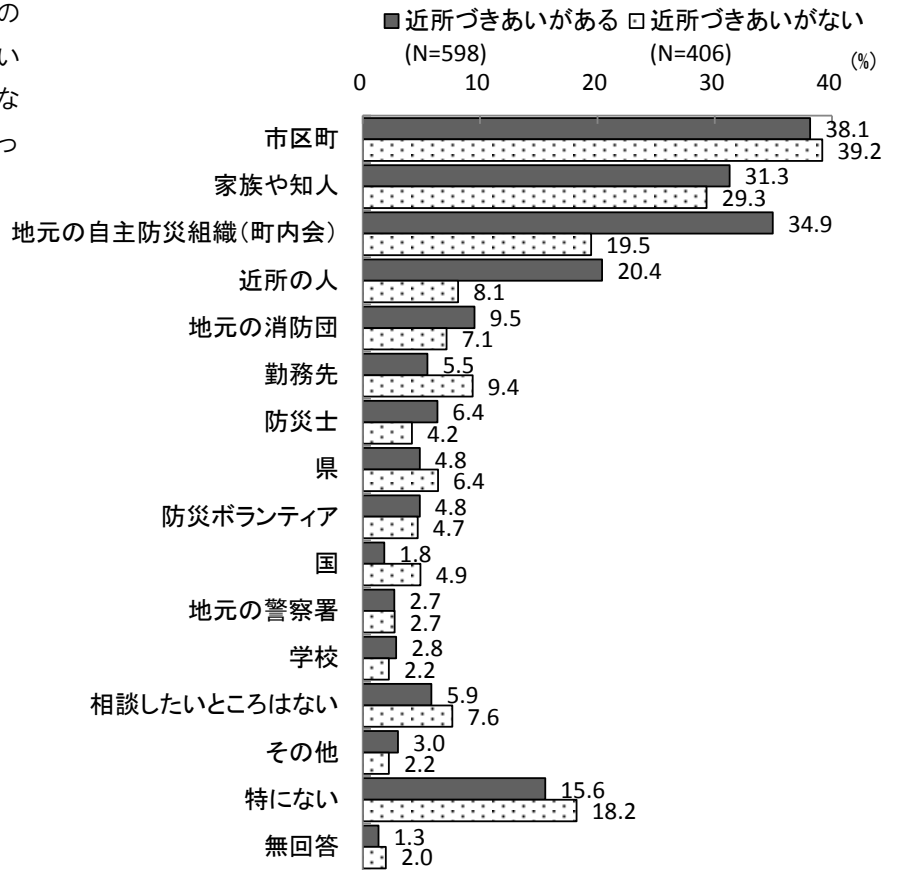
地域別でみると、「市区町」は『賀茂』（71.4%）、『東部』（42.4%）と他の地域より高くなっている。「地元の自主防災組織（町内会）」は『賀茂』（35.7%）、『中部』（33.0%）と他の地域より高くなっている。

対策相談先 <性・年齢別、地域別>

		回答者数	市区町	家族や知人	地元の自主防災組織（町内会）	近所の人	地元の消防団	勤務先	防災士	県	防災ボランティア	国	地元の警察署	学校	相談したいところはない	その他	特にない	無回答
全体		1,017	38.7	30.6	28.6	15.3	8.6	7.0	5.5	5.4	4.8	3.0	2.7	2.6	6.5	2.7	16.6	1.7
性・年齢別	男性	482	39.2	25.5	25.9	14.9	8.7	6.2	4.8	5.8	3.7	3.5	2.9	1.9	8.7	1.5	17.2	1.9
	男性20～29歳	40	25.0	32.5	20.0	12.5	5.0	10.0	0.0	10.0	5.0	0.0	5.0	2.5	15.0	2.5	17.5	0.0
	男性30～39歳	49	42.9	18.4	4.1	6.1	4.1	8.2	6.1	8.2	2.0	14.3	6.1	2.0	8.2	2.0	14.3	2.0
	男性40～49歳	80	45.0	25.0	26.3	20.0	12.5	8.8	5.0	6.3	2.5	6.3	1.3	5.0	10.0	3.8	11.3	1.3
	男性50～59歳	112	44.6	28.6	24.1	16.1	6.3	7.1	7.1	7.1	4.5	3.6	3.6	0.9	3.6	0.0	14.3	0.9
	男性60～69歳	141	39.0	20.6	29.1	14.2	9.9	3.5	5.7	4.3	5.0	0.7	1.4	0.7	7.8	1.4	23.4	2.8
	男性70歳以上	60	28.3	33.3	43.3	16.7	11.7	3.3	0.0	1.7	1.7	0.0	3.3	1.7	15.0	0.0	18.3	3.3
	女性	525	38.1	35.0	31.0	15.8	8.4	7.8	6.1	5.1	5.7	2.7	2.5	3.2	4.6	3.8	16.0	1.3
	女性20～29歳	37	29.7	40.5	10.8	0.0	2.7	16.2	5.4	5.4	2.7	5.4	2.7	2.7	8.1	2.7	27.0	0.0
	女性30～39歳	71	38.0	42.3	21.1	15.5	11.3	8.5	14.1	7.0	5.6	1.4	7.0	7.0	1.4	8.5	14.1	0.0
	女性40～49歳	110	48.2	36.4	30.0	14.5	11.8	10.9	9.1	6.4	10.9	4.5	0.9	7.3	3.6	4.5	10.9	0.0
	女性50～59歳	104	34.6	30.8	30.8	16.3	6.7	15.4	4.8	5.8	4.8	2.9	1.0	1.9	4.8	1.9	19.2	1.9
女性60～69歳	128	37.5	31.3	40.6	12.5	8.6	0.0	3.1	3.9	3.9	1.6	2.3	0.8	4.7	3.1	13.3	1.6	
女性70歳以上	75	33.3	36.0	36.0	30.7	5.3	1.3	1.3	2.7	4.0	1.3	2.7	0.0	6.7	2.7	20.0	4.0	
地域別	賀茂地域	14	71.4	14.3	35.7	14.3	7.1	0.0	7.1	7.1	7.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0
	東部地域	288	42.4	27.8	21.9	14.9	6.9	5.9	6.3	6.3	5.9	3.8	2.4	1.4	8.0	2.4	20.1	2.4
	中部地域	312	35.3	30.4	33.0	15.7	9.9	8.0	4.2	6.4	3.5	1.9	3.2	1.9	3.8	3.5	15.1	1.3
	西部地域	393	37.4	33.1	29.8	15.5	8.7	7.4	5.9	4.1	4.8	3.1	2.5	4.1	7.9	2.3	15.5	1.3

近所づきあいの有無別でみると、「地元の自主防災組織（町内会）」は『近所づきあいがある』（34.9%）が『近所づきあいが無い』（19.5%）より15.4ポイント高くなっている。

対策相談先 <近所づきあいの有無別>



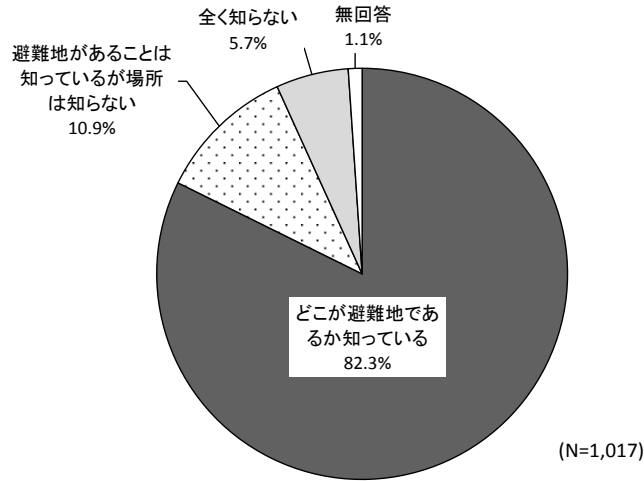
要配慮者との同居別でみると、「家族や知人」と「地元の自主防災組織（町内会）」、「近所の人」は『日常生活に介護を必要とする方』のいる世帯、『65歳以上の方』のいる世帯で特に高いという傾向が見られる。

対策相談先<要配慮者との同居別>

		回答者数	市区町	家族や知人	地元の自主防災組織(町内会)	近所の人	地元の消防団	勤務先	防災士	県	防災ボランティア	国	地元の警察署	学校	相談したいところはない	その他	特にない	無回答
全体		1,017	38.7	30.6	28.6	15.3	8.6	7.0	5.5	5.4	4.8	3.0	2.7	2.6	6.5	2.7	16.6	1.7
要配慮者との同居別	小学校に入学する前の子供	134	44.8	35.8	25.4	13.4	8.2	12.7	8.2	5.2	7.5	2.2	6.0	9.0	3.0	2.2	11.9	2.2
	小学生	135	40.7	31.1	29.6	14.1	8.9	5.2	8.9	4.4	5.2	1.5	3.0	11.1	3.7	3.0	17.8	1.5
	中高生	113	37.2	30.1	32.7	14.2	11.5	9.7	7.1	3.5	3.5	2.7	1.8	8.0	7.1	3.5	15.0	4.4
	日常生活に介護を必要とする方	60	28.3	30.0	36.7	16.7	10.0	3.3	3.3	5.0	6.7	1.7	1.7	0.0	10.0	3.3	16.7	3.3
	妊産婦	18	16.7	44.4	16.7	5.6	11.1	16.7	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	5.6	22.2	0.0
	65歳以上の方	514	37.2	30.2	34.4	17.5	10.1	6.4	6.0	4.3	3.7	2.9	2.3	1.9	6.6	2.3	17.1	1.4
	いない	277	40.4	28.9	19.9	13.7	6.9	5.8	2.9	6.5	5.1	4.0	2.9	0.0	8.3	3.6	17.7	0.7

2-11 避難地の認知度

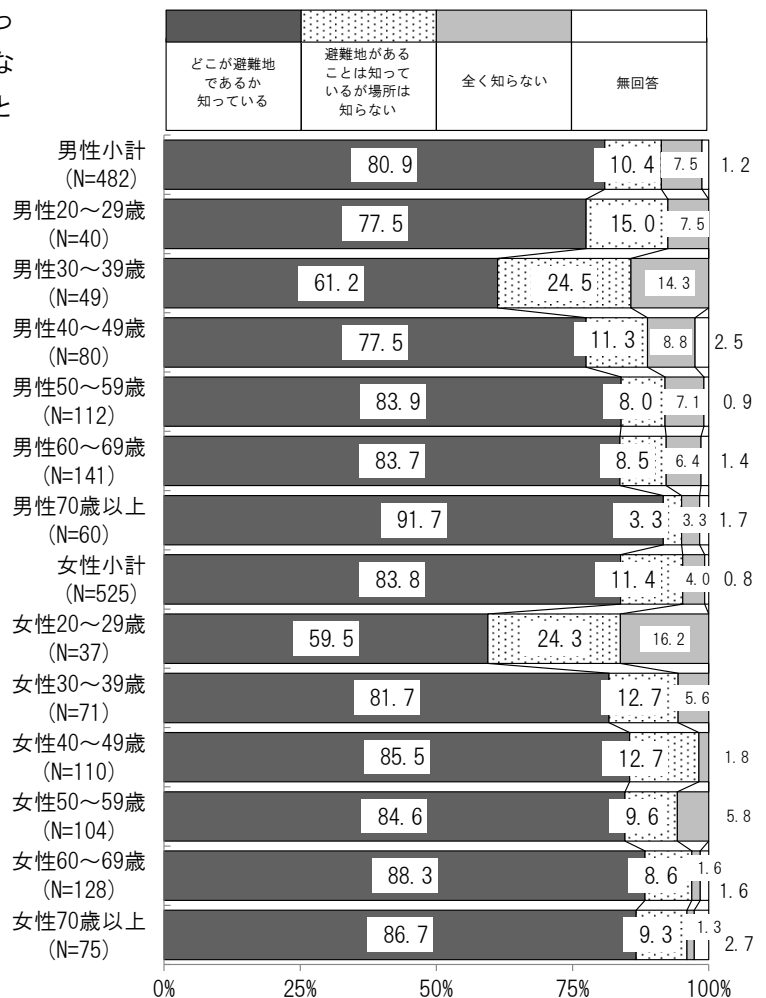
問17 南海トラフ地震（東海地震）が予知され警戒宣言が発せられたときや、突然起きたときの避難のため、市町はあらかじめ避難地を指定していますが、あなたの住む地域の避難地をご存知ですか。



市町の指定避難地の認知についてたずねたところ、「どこが避難地であるか知っている」（82.3%）が最も高く、次いで「避難地があることは知っているが場所は知らない」（10.9%）、「全く知らない」（5.7%）の順となっている。

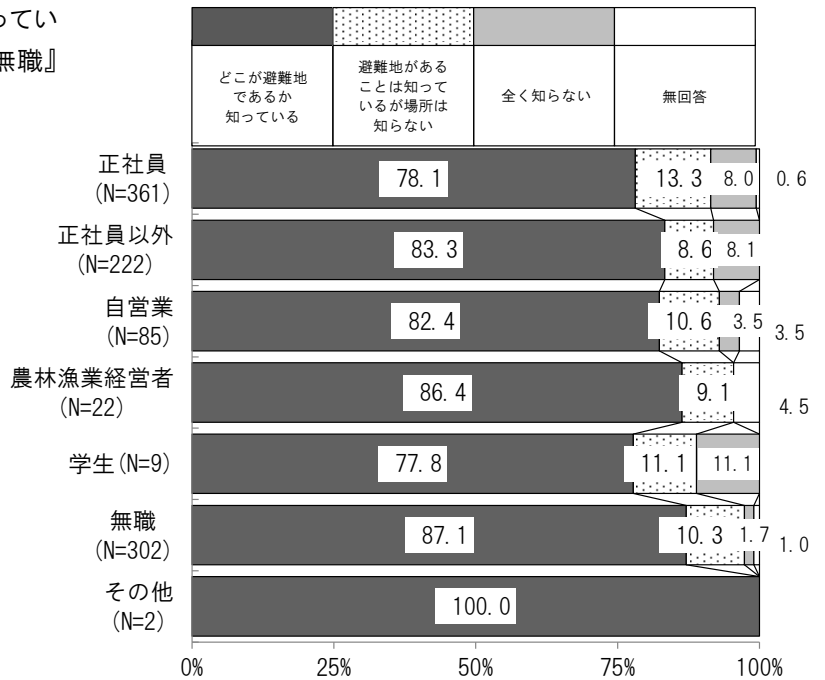
性・年齢別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『男性70歳以上』（91.7%）が最も高くなっている。最も低い『女性20～29歳』（59.5%）と32.2ポイントの差が見られる。

避難地認知＜性・年齢別＞



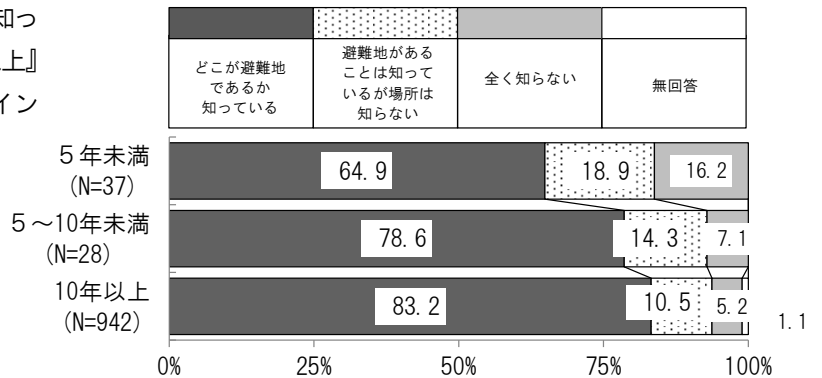
職業別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『農林漁業経営者』(86.4%)、『無職』(87.1%)が他の職業より高くなっている。

避難地認知<職業別>



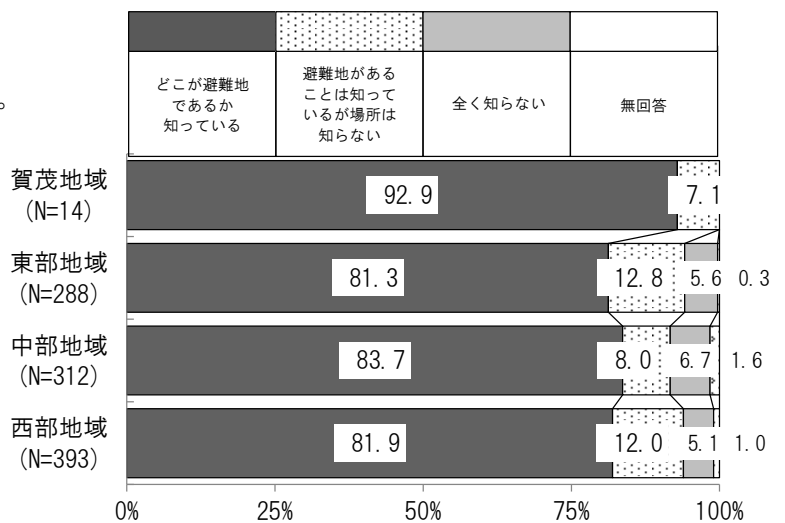
居住年数別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は居住年数が多いほど高くなり『10年以上』(83.2%)と『5年未満』(64.9%)では18.3ポイントの差が見られる。

避難地認知<居住年数別>



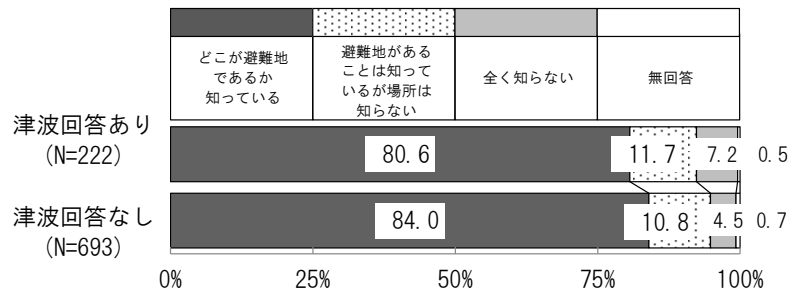
地域別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『賀茂』(92.9%)が高くなっている。最も低い『東部』(81.3%)と11.6ポイントの差が見られる。

避難地認知<地域別>



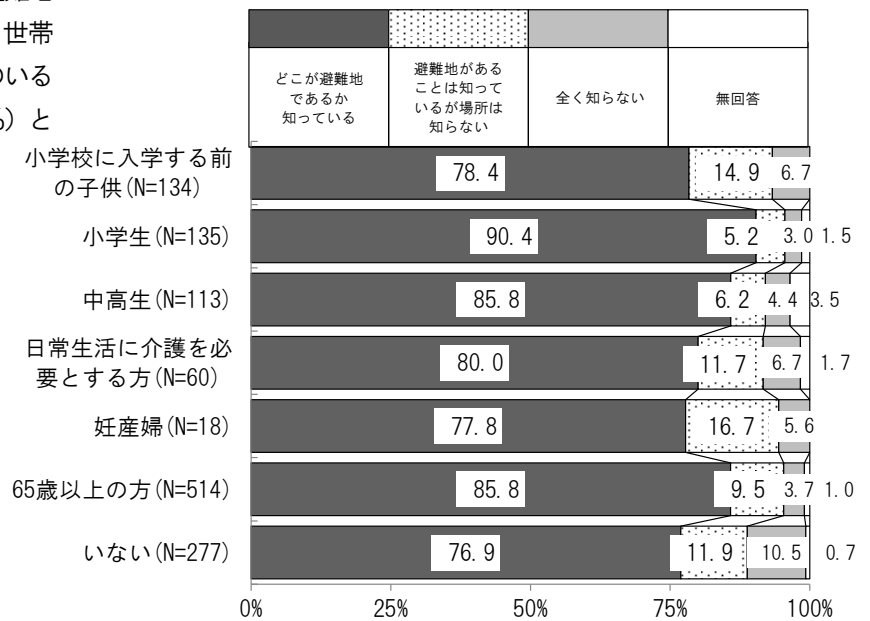
津波回答別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『津波回答あり』(80.6%)、『津波回答なし』(84.0%)となっている。

避難地認知<津波回答別>



要配慮者との同居別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『小学生』のいる世帯(90.4%)が最も高く、次いで『中高生』のいる世帯、『65歳以上の方』のいる世帯(85.8%)となっている。

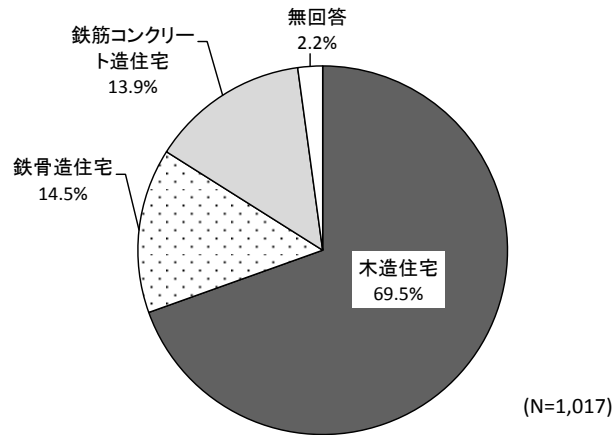
避難地認知<要配慮者との同居別>



3 住宅の耐震補強について

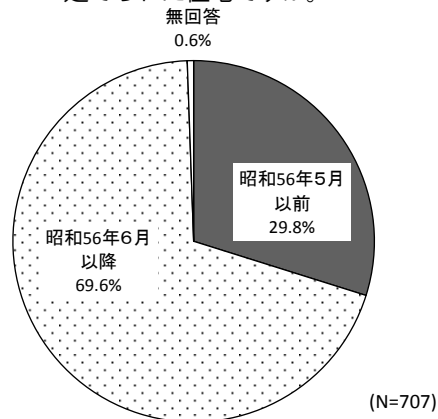
3-1 住宅の構造と耐震診断

問18 あなたのお住まいの家は、次のどれにあたりますか。



<問18で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問18-1 あなたのお住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。

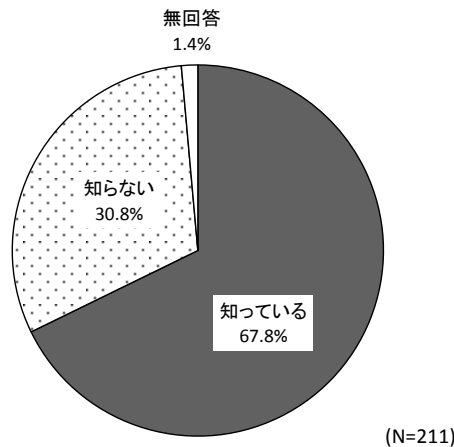


住宅の構造をたずねたところ、「木造住宅」(69.5%)が最も高く、次いで「鉄骨造住宅」(14.5%)、「鉄筋コンクリート造住宅」(13.9%)の順となっている。

問18で「木造住宅」と回答した人の時期についてたずねたところ、建築基準法が改正された『昭和56年6月以降』(69.6%)となっている。

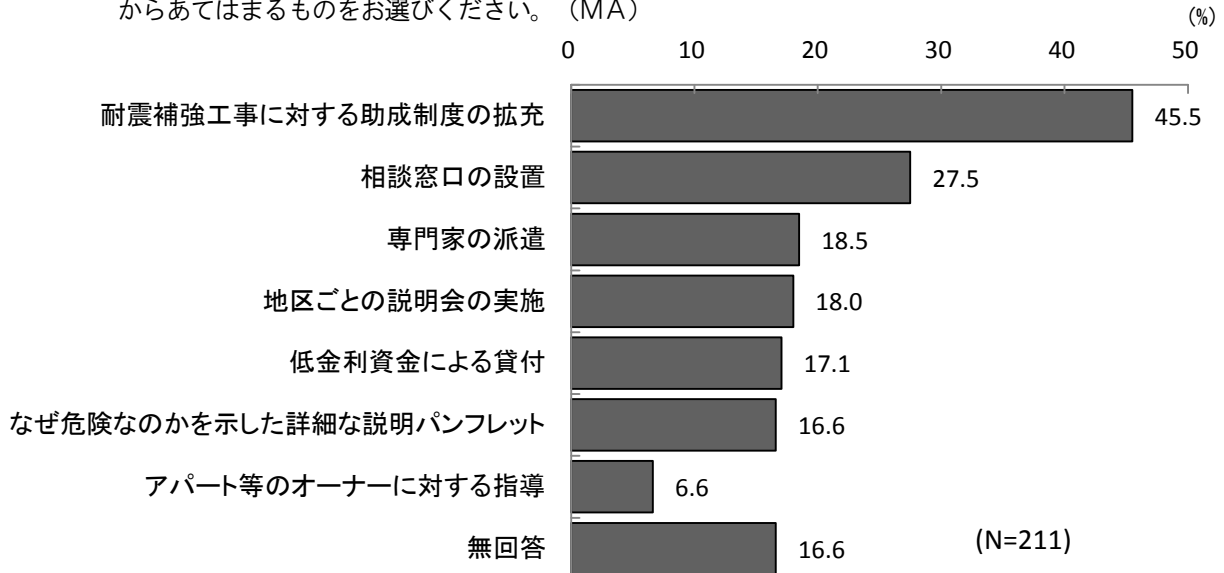
<問18-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問 18-2 市町では、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料で実施していることを知っていますか。



<問18-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問 18-3 今後、あなたのお住まいの家の耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがありますか。次の中からあてはまるものをお選びください。(MA)

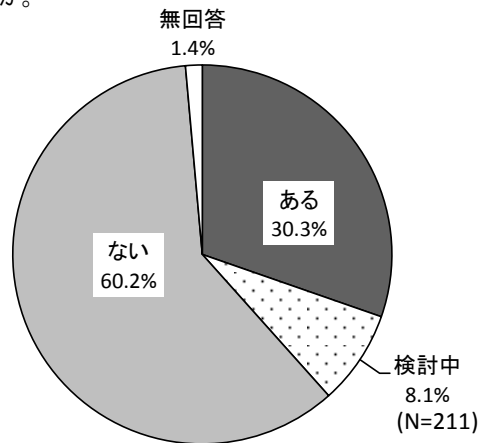


市町で昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料で実施していることを知っているかたずねたところ、『知っている』(67.8%)、『知らない』(30.8%)となっている。

また、耐震化について県や市町に対して要望することがあるかをたずねたところ、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」(45.5%)、次いで「相談窓口の設置」(27.5%)、「専門家の派遣」(18.5%)の順となっている。

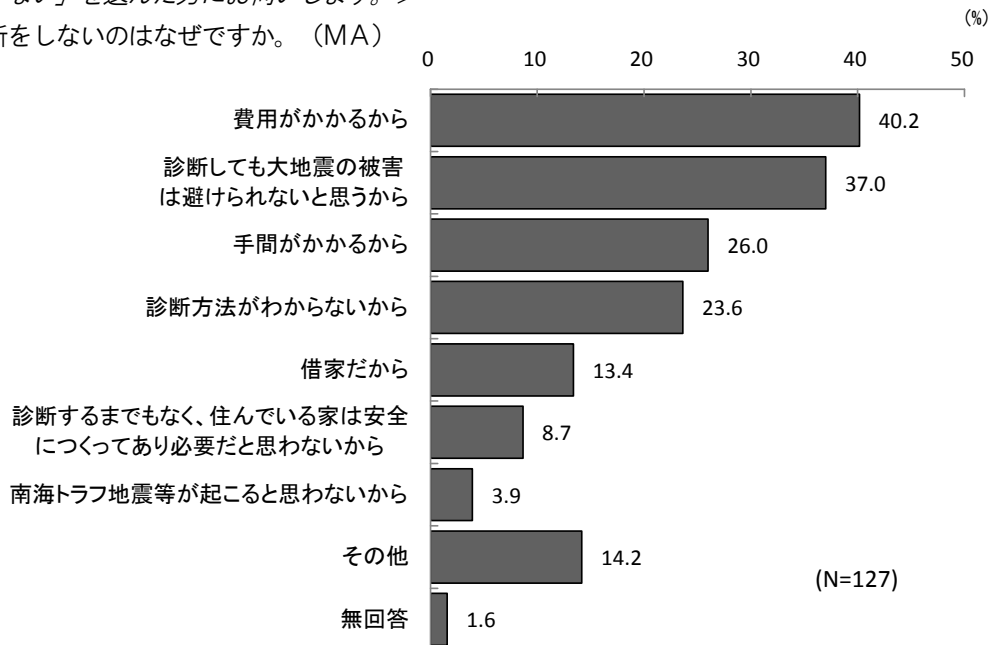
<問18-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問18-4 耐震診断をしたことがありますか。



<問18-4で「3 ない」を選んだ方にお伺いします。>

問18-5 耐震診断をしないのはなぜですか。(MA)

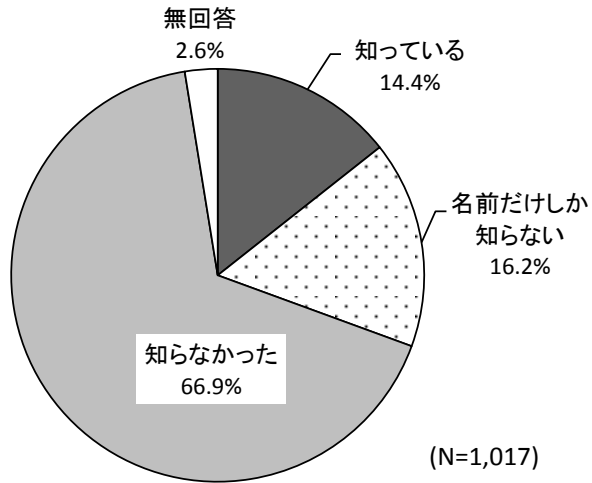


昭和56年5月以前に建てられた木造住宅に住んでいる方に耐震診断の有無についてたずねたところ、耐震診断したことが「ない」(60.2%)が最も多く、次いで「ある」(30.3%)、「検討中」(8.1%)の順となっており、耐震診断したことが「ない」という人が6割となっている。

問18-4で耐震診断をしたことが「ない」と回答した人に耐震診断をしない理由をたずねたところ、「費用がかかるから」(40.2%)が最も高く、次いで「診断しても大地震の被害は避けられないと思うから」(37.0%)、「手間がかかるから」(26.0%)の順となっている。

3-2 『プロジェクト「TOUKAI（東海・倒壊）ー0（ゼロ）」の認知度

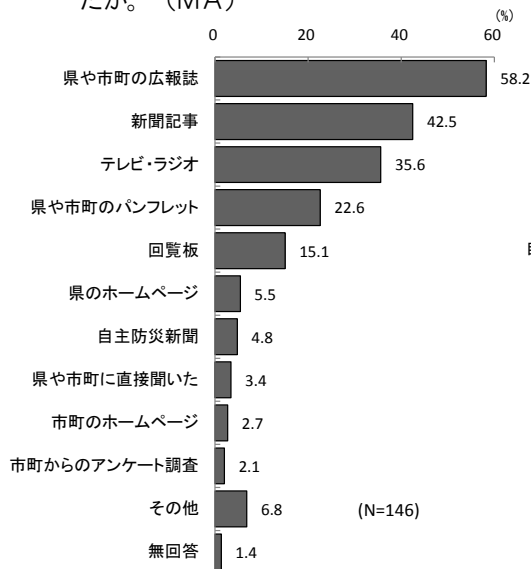
問19 あなたは『プロジェクト“TOUKAI（東海・倒壊）ー0（ゼロ）”』をご存知ですか。



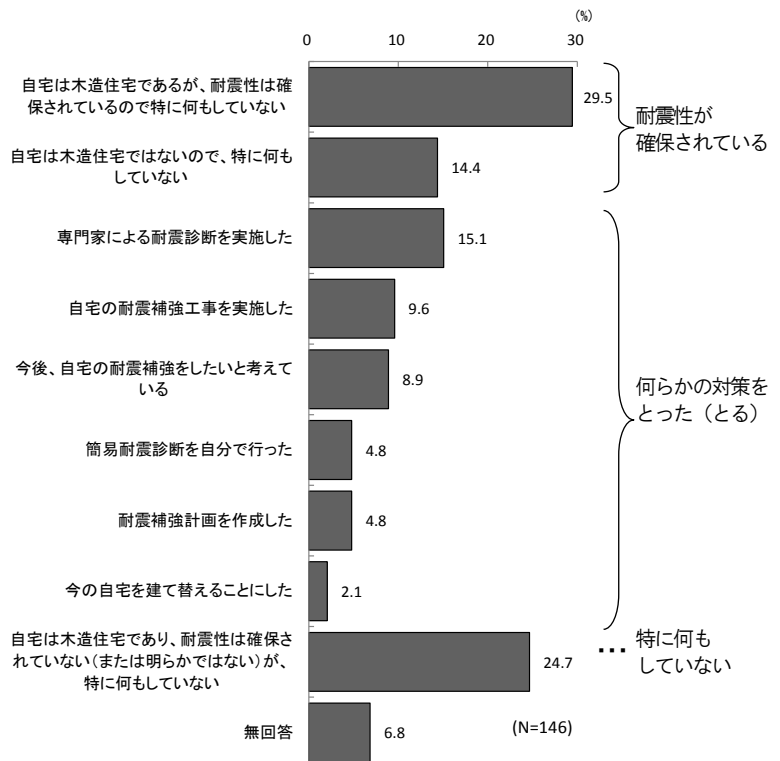
<問19で「1 知っている」を選んだ方にお伺いします。>

<問19で「1 知っている」を選んだ方にお伺いします。>

問19-1 あなたは『プロジェクト“TOUKAI（東海・倒壊）ー0（ゼロ）”』をどのようにして知りましたか。（MA）



問19-2 あなたは『プロジェクト“TOUKAI（東海・倒壊）ー0（ゼロ）”』を知って、何か行った行動（現在行っている場合を含む）はありますか。次の中からあてはまるものをお選びください。（MA）



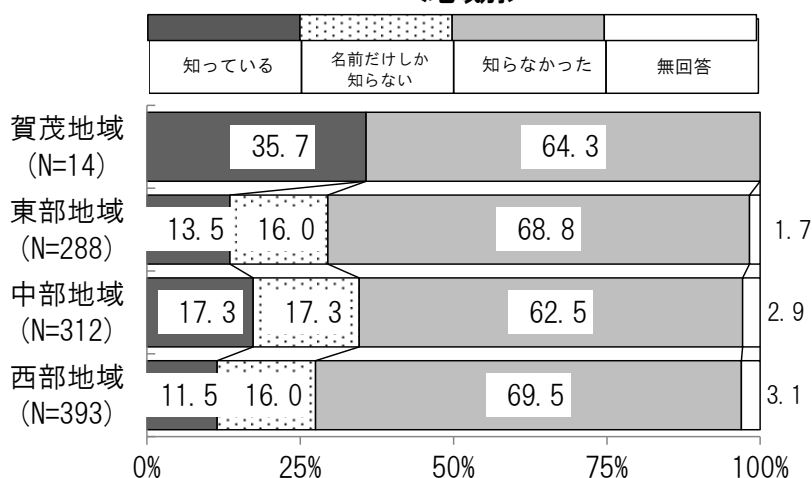
『プロジェクト「TOUKAI（東海・倒壊）ー0（ゼロ）」の認知度についてたずねたところ、「知らなかった」（66.9%）が最も高く、次いで「知っている」（14.4%）、「名前だけしか知らない」（16.2%）となっている。

ある程度内容を理解している人（「知っている」）の認知方法については、「県や市町の広報誌」（58.2%）が最も高く、次いで「新聞記事」（42.5%）、「テレビ・ラジオ」（35.6%）、「県や市町のパンフレット」（22.6%）の順となっている。

また、認知後の行動についてたずねたところ、「自宅は木造住宅であるが、耐震性は確保されているので特に何もしていない」（29.5%）が最も高く、次いで「自宅は木造住宅であり、耐震性は確保されていない（または明らかではない）が、特に何もしていない」（24.7%）、「専門家による耐震診断を実施した」（15.1%）、「自宅は木造住宅ではないので、特に何もしていない」（14.4%）の順となっている。具体的に取った行動としては、「専門家による耐震診断を実施した」（15.1%）が最も高く、次いで「自宅の耐震補強工事を実施した」（9.6%）となっている。

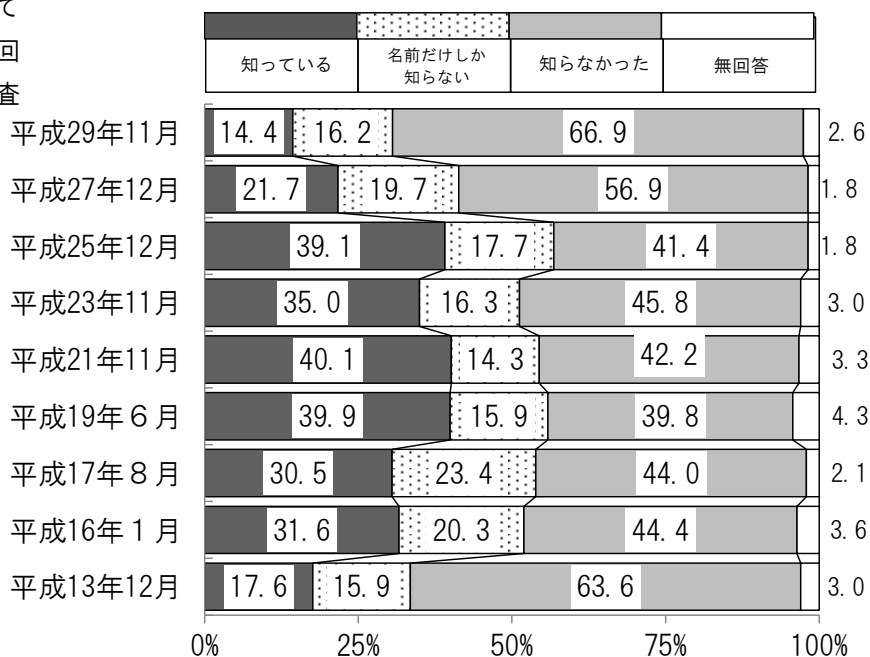
地域別でみると、知っている人（「知っている」＋「名前だけしか知らない」）は、『賀茂』（35.7%）が最も高く、最も低い『西部』（27.5%）とは8.2ポイントの差が見られる。

プロジェクト“TOUKAIー0”の認知率
＜地域別＞



経年比較でみると、知っている人（「知っている」＋「名前だけしか知らない」）は、今回調査（30.6%）では平成27年12月の前回調査（41.4%）より10.8ポイント減少している。

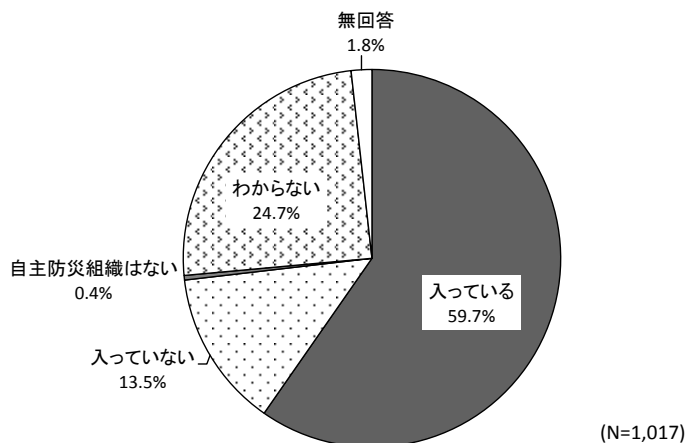
プロジェクト“TOUKAIー0”の認知率
＜経年比較＞



4 自主防災組織・防災訓練について

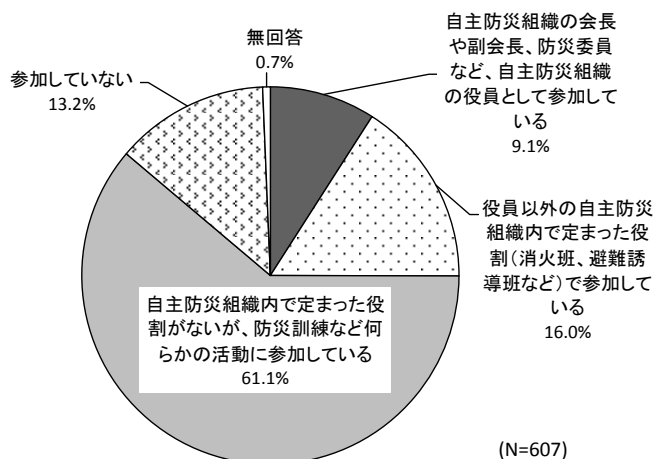
4-1 自主防災組織への加入と活動状況

問20 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。



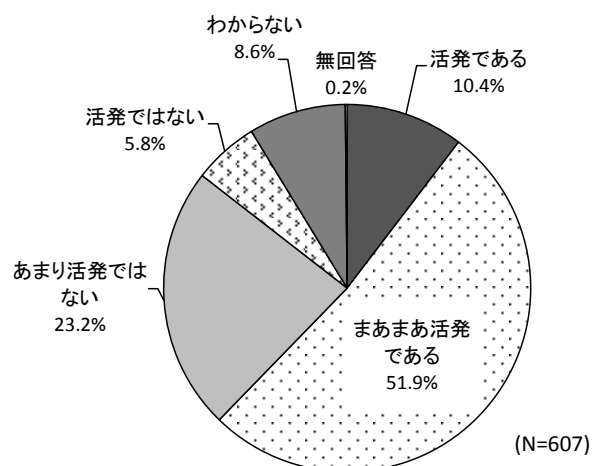
<問20で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

問20-1 あなた自身は、自主防災組織の活動に参加していますか。



<問20で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

問20-2 あなたの地区の自主防災組織の活動は活発と思いますか。



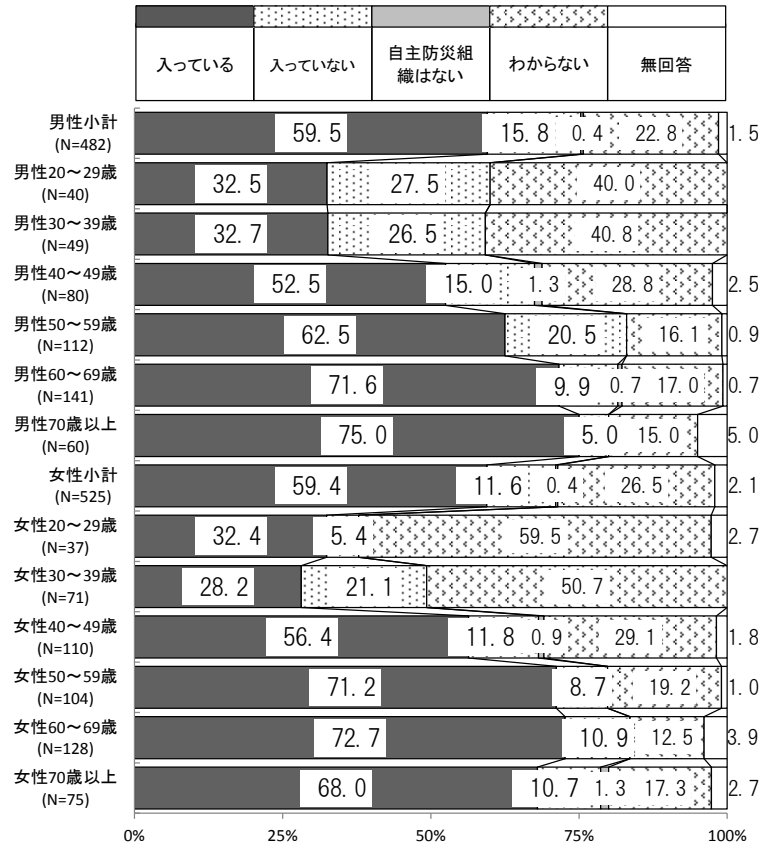
自主防災組織への加入についてたずねたところ、「入っている」(59.7%)が最も高く、次いで「わからない」(24.7%)、「入っていない」(13.5%)、「自主防災組織はない」(0.4%)の順となっている。

また、問20で自主防災組織に「入っている」と回答した人に、自主防災組織の活動に参加しているかたずねたところ、「自主防災組織内で定まった役割がないが、防災訓練など何らかの活動に参加している」(61.1%)が最も高く、次いで「役員以外の自主防災組織内で定まった役割(消火班、避難誘導班など)で参加している」(16.0%)、「参加していない」(13.2%)、「自主防災組織の会長や副会長、防災委員など、自主防災組織の役員として参加している」(9.1%)の順となっている。

さらに、自主防災組織の活動状況についてたずねたところ、「活発である」と「まあまあ活発である」を合わせると62.3%となり、6割程度の人が地区の自主防災組織の活動が活発だと感じている。

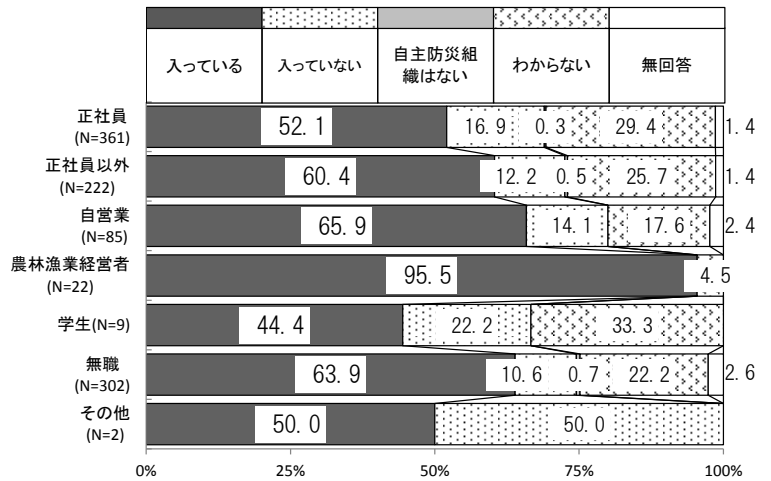
自主防災組織への加入状況<性・年齢別>

性・年齢別でみると、「入っている」は『男性70歳以上』(75.0%)が最も高く、次いで『女性60～69歳』(72.7%)、『男性60～69歳』(71.6%)、『女性50～59歳』(71.2%)の順となっている。



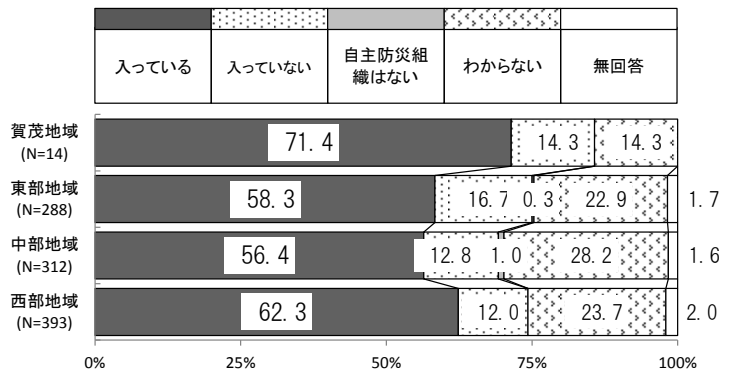
職業別でみると、「入っている」は『農林漁業経営者』(95.5%)が最も高くなっている。

自主防災組織への加入状況<職業別>



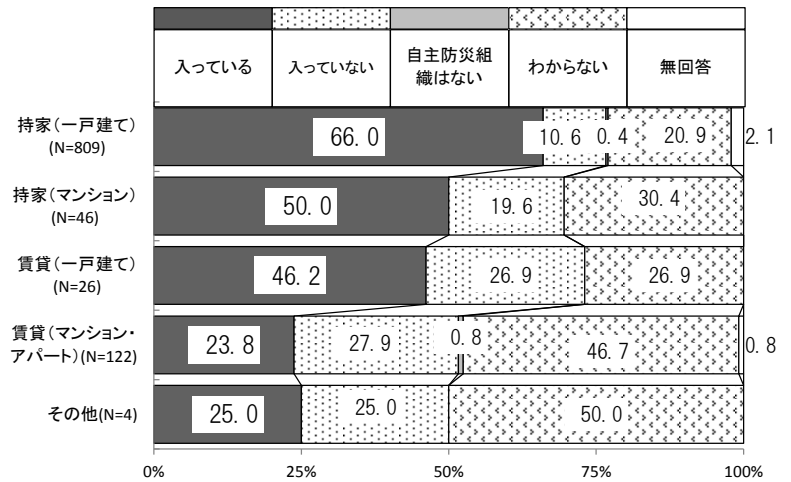
地域別でみると、「入っている」は『賀茂』(71.4%)が最も高く、『中部』(56.4%)が最も低くなっている。

自主防災組織への加入状況<地域別>



住居形態別でみると、「入っている」は『持家（一戸建て）』（66.0%）が最も高く、『賃貸（マンション・アパート）』（23.8%）が最も低く、42.2ポイントの差が見られる。

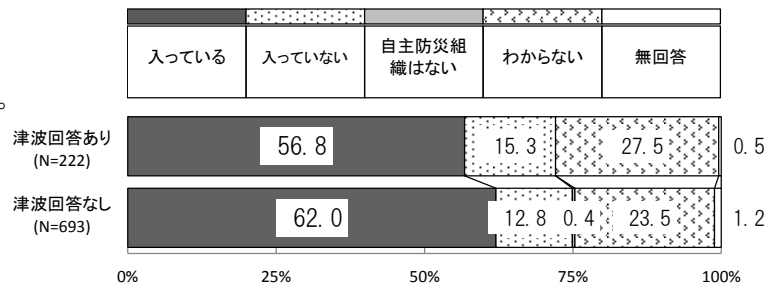
自主防災組織への加入状況<住居形態別>



予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、「入っている」は『津波回答あり』（56.8%）、『津波回答なし』（62.0%）となっている。

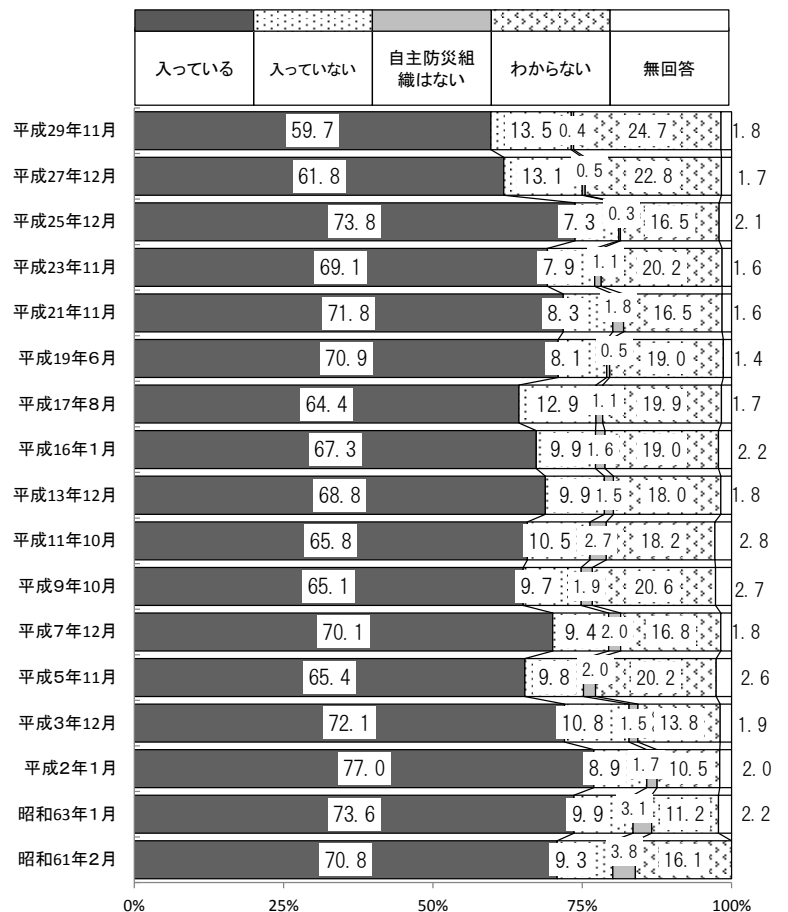
自主防災組織への加入状況

<予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>



経年比較でみると、平成2年1月の調査で、「入っている」（77.0%）が最も高くなっており、以降は7割前後で推移しているが、今回調査（59.7%）は、平成27年12月の前回調査（61.8%）より2.1ポイント減少している。

自主防災組織への加入状況 <経年比較>

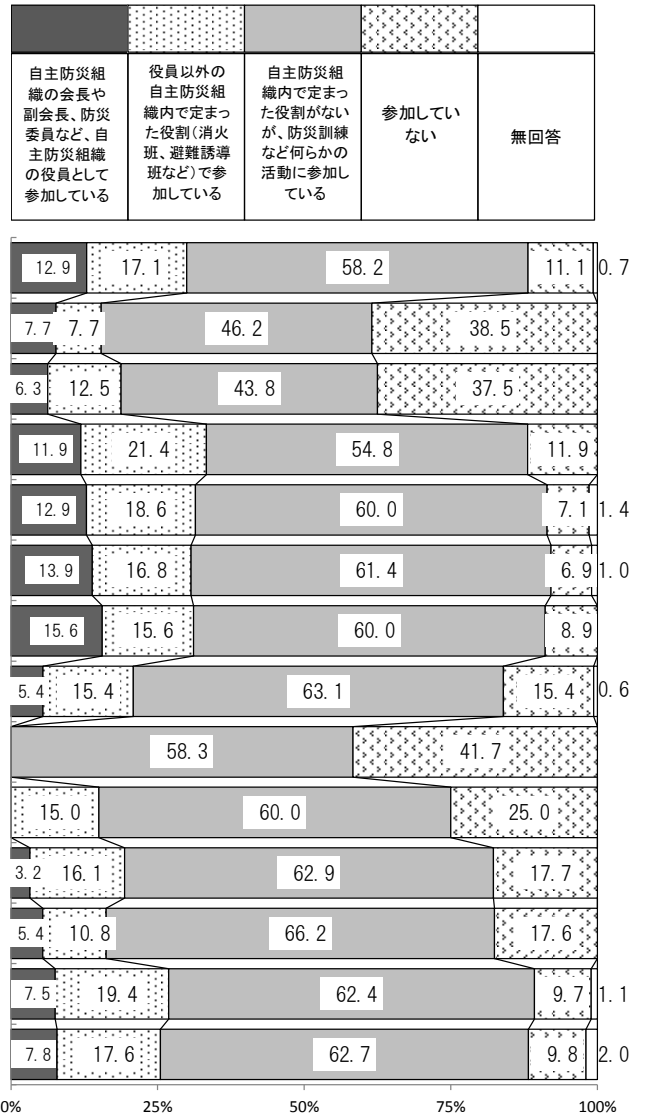


参加している自主防災組織の活動<性・年齢別>

参加している自主防災組織の活動を性・年齢別でみると、「自主防災組織内で定まった役割がないが、防災訓練など何らかの活動に参加している」は、『女性50～59歳』（66.2%）が最も高くなっている。「役員以外の自主防災組織内で定まった役割（消化班、避難誘導班など）で参加している」は、『男性40～49歳』（21.4%）が最も高くなっている。「自主防災組織の会長や副会長、防災委員など、自主防災組織の役員と参加している」は、『男性70歳以上』（15.6%）が最も高くなっている。「参加していない」は『女性20～29歳』（41.7%）が最も高くなっている。

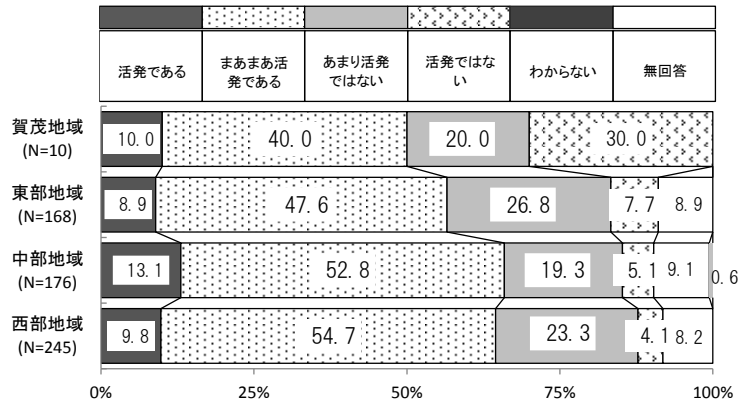
◇男女の自主防災組織での活動率◇

男性 88.2%
女性 84.0%



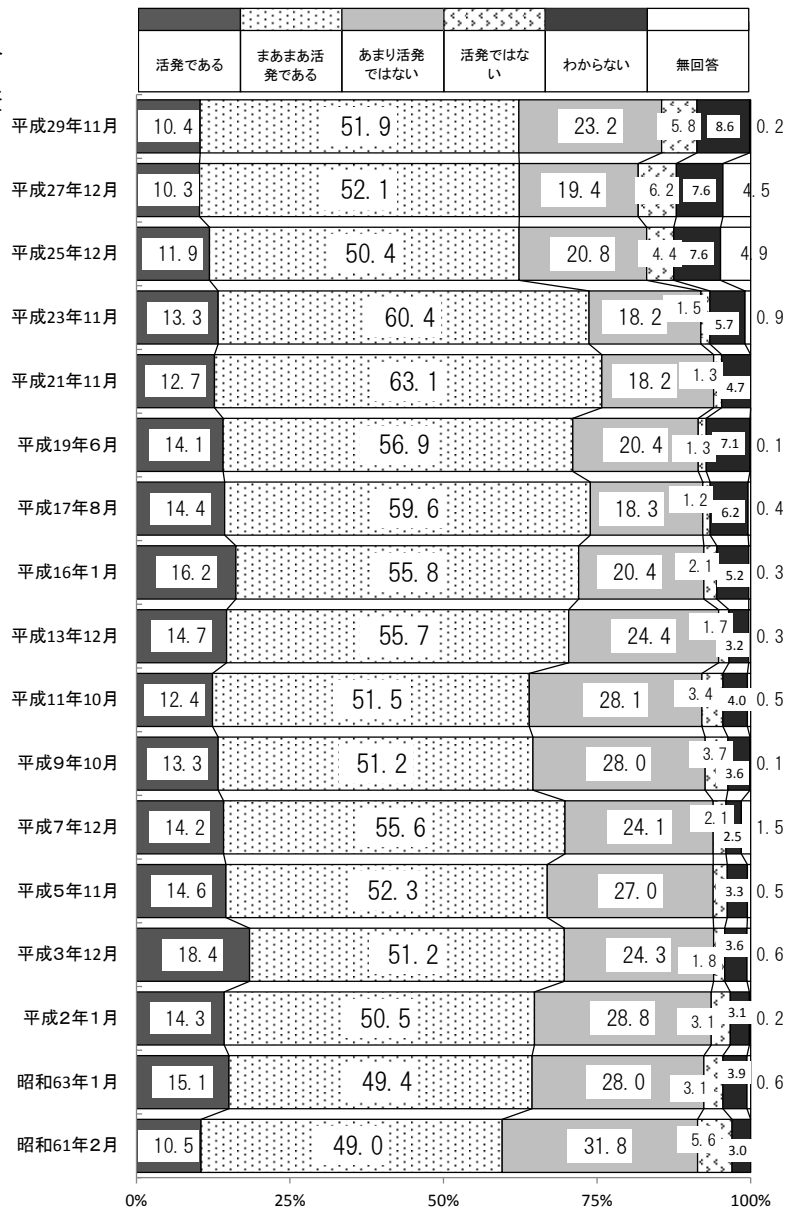
自主防災組織の活動状況<地域別>

自主防災組織の活動状況を地域別でみると、「活発である」+「まあまあ活発である」は、『中部』（65.9%）が最も高く、『賀茂』（50.0%）が最も低くなっている。



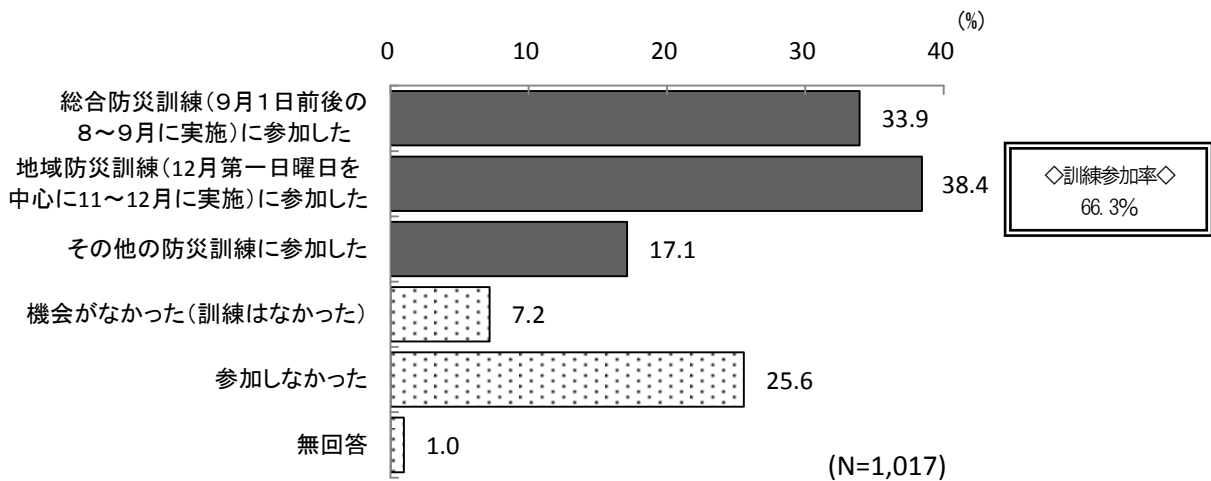
自主防災組織の活動状況<経年比較>

自主防災組織の活動状況を経年比較でみると、「活発である」+「まあまあ活発である」は、今回調査（62.3%）は、平成27年12月の前回調査（62.4%）と差異はみられない。

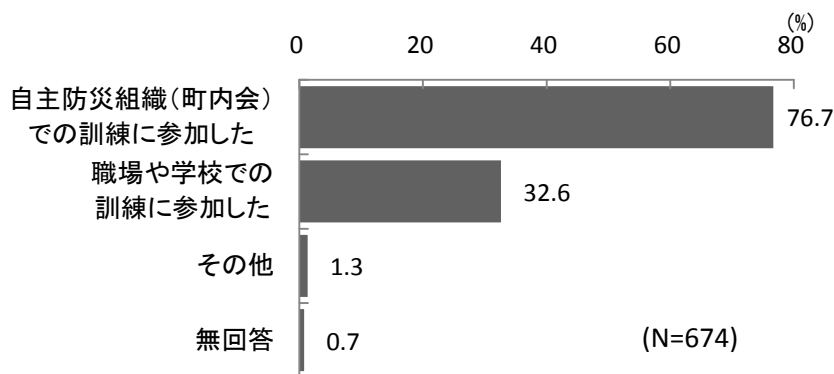


4-2 過去1年間の地震防災訓練への参加状況

問21 あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。(MA)



<問21で「1 総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した」「2 地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>
問21-1 その防災訓練はどちらで参加しましたか。(MA)

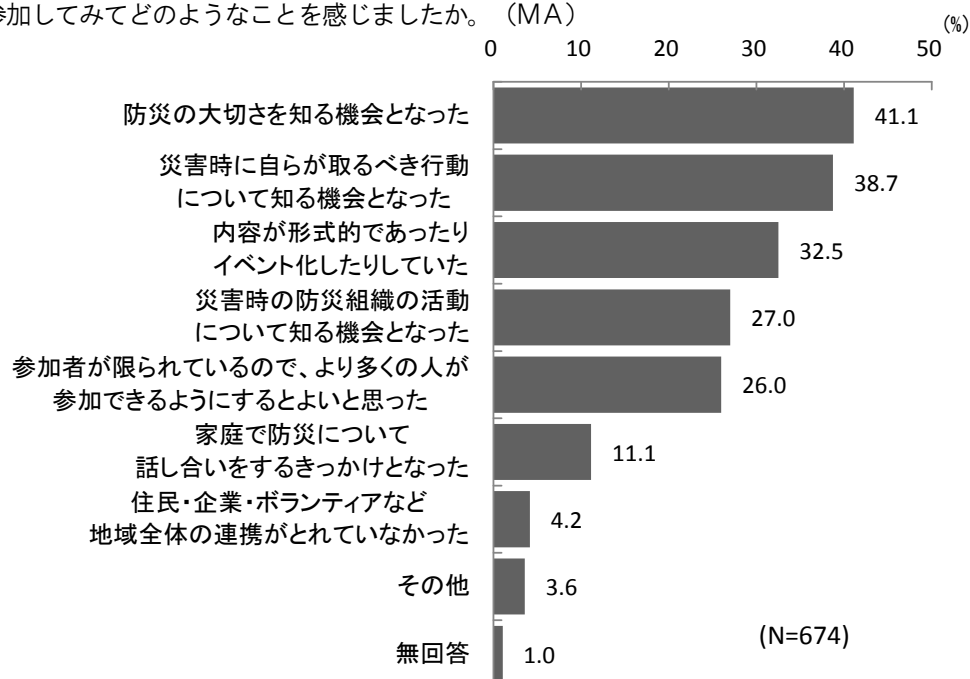


過去1年間の地震防災訓練参加状況についてたずねたところ、「地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した」(38.4%)が最も高く、次いで「総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した」(33.9%)、「参加しなかった」(25.6%)、「その他の防災訓練に参加した」(17.1%)、「機会がなかった(訓練はなかった)」(7.2%)の順となっており、いずれかの訓練に参加した人は66.3%となっている。

また、問21で地震防災訓練に「参加した」と回答した人の参加形態についてたずねたところ、「自主防災組織(町内会)での訓練に参加した」(76.7%)が最も高く、次いで「職場や学校での訓練に参加した」(32.6%)となっている。

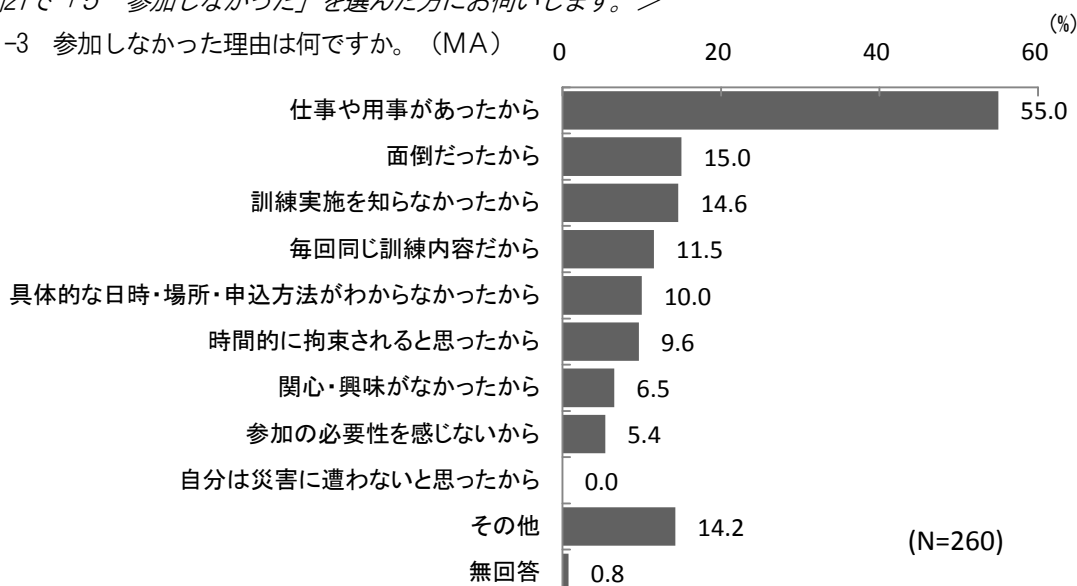
<問21で「1 総合防災訓練（9月1日前後の8～9月に実施）に参加した」「2 地域防災訓練（12月第一日曜日を中心に11～12月に実施）に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問21-2 参加してみてどのようなことを感じましたか。（MA）



<問21で「5 参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。>

問21-3 参加しなかった理由は何ですか。（MA）



また、参加してみてどのようなことを感じたかをたずねたところ、「防災の大切さを知る機会となった」（41.1%）が最も多く、次いで「災害時に自らが取るべき行動について知る機会となった」（38.7%）「内容が形式的であったりイベント化したりしていた」（32.5%）の順となっている。

一方、問21で地震防災訓練に「参加しなかった」と回答した人の理由は、「仕事や用事があったから」（55.0%）が最も高く、次いで「面倒だったから」（15.0%）、「訓練実施を知らなかったから」（14.6%）、「毎回同じ訓練内容だから」（11.5%）、「具体的な日時・場所・申込方法がわからなかったから」（10.0%）の順となっている。

性・年齢別で見ると「地域防災訓練（12月第一日曜日を中心に11月～12月に実施）に参加した」は『男性70歳以上』（53.3%）、『女性70歳以上』（58.7%）と他の年齢層より高くなっている。「総合防災（9月1日前後の8～9月に実施）に参加した」は『男性60～69歳』（40.4%）、『男性40～49歳』『男性70歳以上』（40.0%）、『女性60～69歳』（35.2%）、『女性40～49歳』（33.6%）と他の年齢層より高くなっている。

地域別で見ると「地域防災訓練（12月第一日曜日を中心に11月～12月に実施）に参加した」は『賀茂』（50.0%）が最も高く、『東部』（32.3%）が最も低くなっている。

地震防災訓練の参加状況<性・年齢別、地域別>

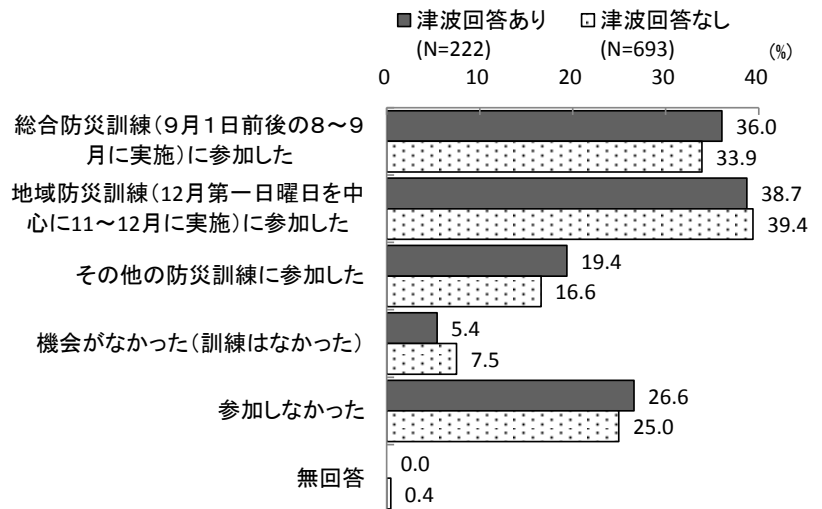
		回答者数	8月～9月に総合防災訓練（9月1日前後の実施）に参加した	11月～12月に地域防災訓練（12月第一日曜日を中心に実施）に参加した	その他の防災訓練に参加した	機会がなかった（訓練はなかった）	参加しなかった	無回答
全体		1,017	33.9	38.4	17.1	7.2	25.6	1.0
性・年齢別	男性	482	37.3	39.6	17.0	5.8	25.1	0.4
	男性20～29歳	40	20.0	22.5	17.5	12.5	35.0	0.0
	男性30～39歳	49	30.6	20.4	16.3	8.2	36.7	0.0
	男性40～49歳	80	40.0	30.0	20.0	8.8	21.3	1.3
	男性50～59歳	112	39.3	40.2	16.1	6.3	21.4	0.0
	男性60～69歳	141	40.4	50.4	17.7	3.5	22.0	0.0
	男性70歳以上	60	40.0	53.3	13.3	0.0	28.3	1.7
	女性	525	30.3	37.1	17.1	8.6	25.9	1.5
	女性20～29歳	37	18.9	16.2	29.7	21.6	24.3	0.0
	女性30～39歳	71	22.5	16.9	19.7	15.5	36.6	0.0
	女性40～49歳	110	33.6	30.0	15.5	13.6	26.4	0.0
	女性50～59歳	104	29.8	40.4	23.1	5.8	22.1	1.9
	女性60～69歳	128	35.2	45.3	11.7	2.3	24.2	3.1
女性70歳以上	75	30.7	58.7	12.0	2.7	24.0	2.7	
地域別	賀茂	14	71.4	50.0	7.1	0.0	7.1	0.0
	東部	288	36.8	32.3	16.3	8.0	26.4	0.7
	中部	312	37.2	39.4	14.4	6.7	25.3	1.3
	西部	393	27.2	41.5	20.1	7.4	25.7	1.0

◇男女の地震防災訓練の参加率◇
 男性 68.7%
 女性 64.0%

地震防災訓練の参加状況

<予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>

予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、『津波回答あり』は「総合防災（9月1日前後の8～9月に実施）に参加した」（36.0%）が高く、『津波回答なし』（33.9%）と2.1ポイント差がある。



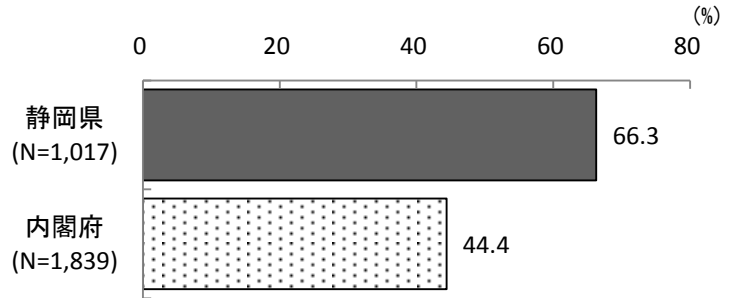
要配慮者との同居別でみると、「地域防災訓練（12月第一日曜日を中心に11～12月に実施）に参加した」は『日常生活に介護を必要とする人』のいる世帯（51.7%）で最も高く、次いで「中高生」のいる世帯（46.9%）となっている。一方、「参加しなかった」は『妊産婦』のいる世帯（33.3%）が最も高くなっている。

地震防災訓練の参加状況<要配慮者との同居別>

	回答者数	参加状況 (%)						
		総合防災訓練(9月1日前後の8～9月に実施)に参加した	地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11～12月に実施)に参加した	その他の防災訓練に参加した	機会がなかった(訓練はなかった)	参加しなかった	無回答	
全体	1,017	33.9	38.4	17.1	7.2	25.6	1.0	
要配慮者との同居別	小学校に入学する前の子供	134	29.9	32.1	17.9	11.9	27.6	0.0
	小学生	135	37.0	45.9	21.5	5.2	17.8	1.5
	中高生	113	41.6	46.9	15.0	4.4	17.7	2.7
	日常生活に介護を必要とする方	60	30.0	51.7	16.7	3.3	16.7	1.7
	妊産婦	18	22.2	16.7	22.2	16.7	33.3	0.0
	65歳以上の方	514	35.8	45.5	14.2	5.1	23.9	1.4
	いない	277	29.2	29.6	22.0	9.7	28.9	0.7

内閣府調査との比較でみると、地震防災訓練の参加率（何らかの訓練に参加）は『静岡県』（66.3%）、『内閣府』（44.4%）と、『静岡県』が21.9ポイント高くなっている。

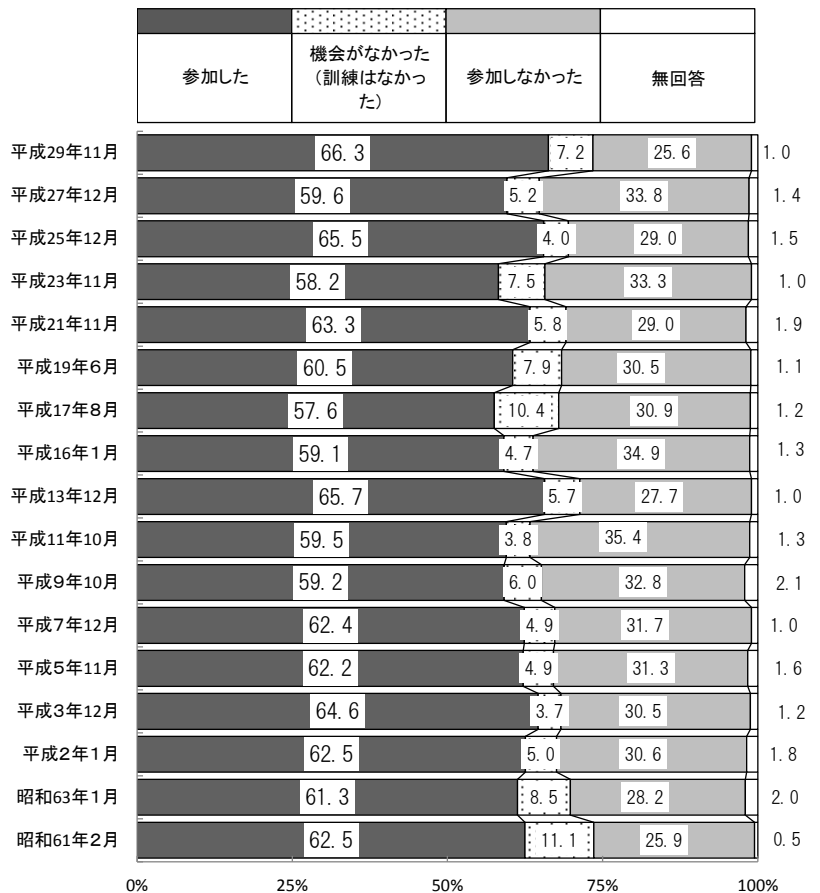
地震防災訓練の参加率 <内閣府調査との比較>



※静岡県は、過去1年間の参加率である。内閣府は過去についての数字であり、見学者を含む。

経年比較でみると、「参加した」が今回調査（66.3%）は、平成27年12月の前回調査（59.6%）より6.7ポイント高くなっている。「参加しなかった」（25.6%）は、前回調査（33.8%）より8.2ポイント低くなっている。

地震防災訓練の参加率 <経年比較>



地震防災訓練の参加形態を性・年齢別で見ると、男女ともに年齢が上がるにつれて「自主防災組織（町内会）」での参加率が高くなり、「職場や学校」が低くなっている。

地震防災訓練の参加形態 <性・年齢別>

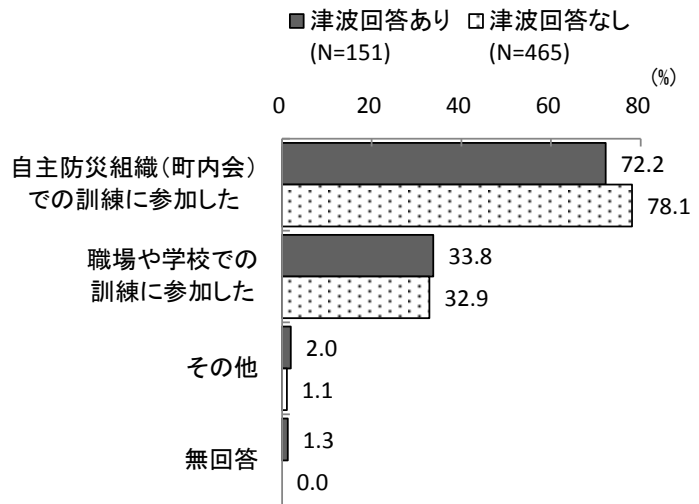
(%)

	回答者数	自主防災組織（町内会）	職場や学校での訓練に参加	その他	無回答	
全体	674	76.7	32.6	1.3	0.7	
性・年齢別	男性	331	76.4	31.1	2.4	0.9
	男性20～29歳	21	28.6	61.9	4.8	4.8
	男性30～39歳	27	44.4	66.7	3.7	0.0
	男性40～49歳	55	60.0	43.6	5.5	1.8
	男性50～59歳	81	79.0	38.3	0.0	0.0
	男性60～69歳	105	93.3	15.2	1.9	1.0
	男性70歳以上	42	95.2	2.4	2.4	0.0
	女性	336	76.8	33.9	0.3	0.6
	女性20～29歳	20	35.0	80.0	0.0	0.0
	女性30～39歳	34	58.8	55.9	0.0	0.0
	女性40～49歳	66	66.7	43.9	0.0	1.5
	女性50～59歳	73	75.3	42.5	0.0	1.4
	女性60～69歳	90	91.1	15.6	0.0	0.0
女性70歳以上	53	94.3	9.4	1.9	0.0	

地震防災訓練の参加形態

<予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>

予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、「自主防災訓練組織（町内会）での訓練に参加した」は『津波回答あり』（72.2%）、『津波回答なし』（78.1%）となっている。



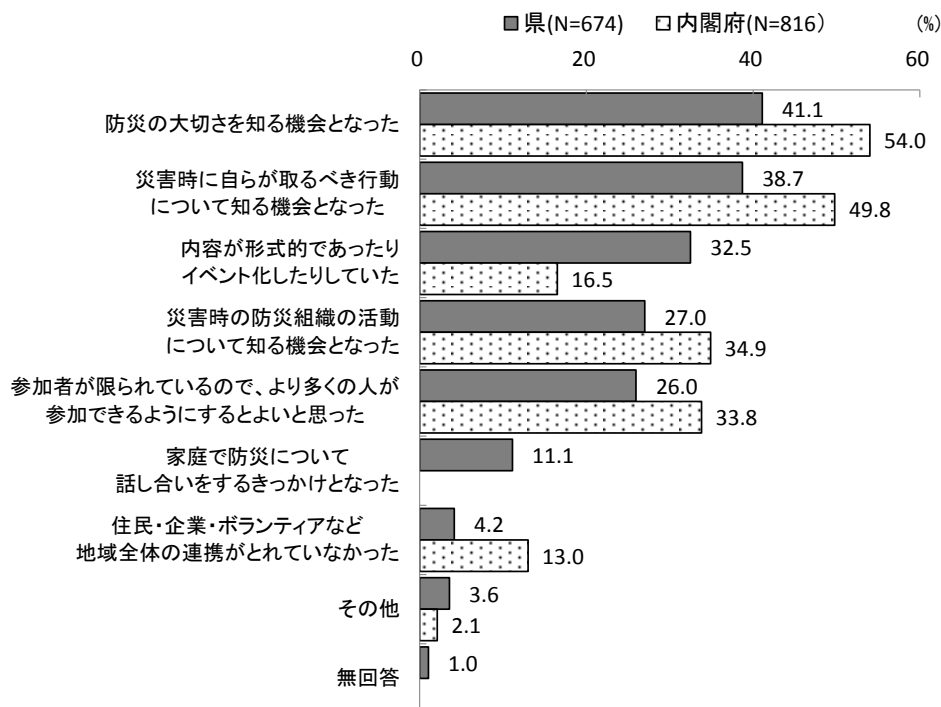
地震防災訓練の参加形態を経年比較でみると、「自主防災組織（町内会）での訓練に参加した」は、今回調査（76.7%）が、平成27年12月の前回調査（64.4%）より12.3ポイント高くなっている。「職場や学校での訓練に参加した」は、今回調査（32.6%）が、前回調査（25.7%）より6.9ポイント高くなっている。

地震防災訓練の参加形態<経年比較>

		参加形態 (%)			
		自主防災訓練組織(町内会)での訓練に参加した	職場や学校での訓練に参加した	その他	無回答
経年比較	平成29年11月	76.7	32.6	1.3	0.7
	平成27年12月	64.4	25.7	1.9	17.2
	平成25年12月	80.3	28.0	2.2	1.9
	平成23年11月	69.4	36.0	1.0	5.4
	平成21年11月	70.2	37.1	0.7	4.3
	平成19年6月	71.9	35.4	0.1	3.5
	平成17年8月	69.3	39.2	2.6	1.3
	平成16年1月	78.0	32.5	2.9	0.9
	平成13年12月	79.4	27.5	2.3	2.3
	平成12年2月	71.4	25.1	1.6	2.0
	平成10年2月	74.2	27.5	3.5	4.0
	平成8年3月	74.6	28.4	2.2	2.3
	平成6年3月	70.9	31.8	2.0	2.1

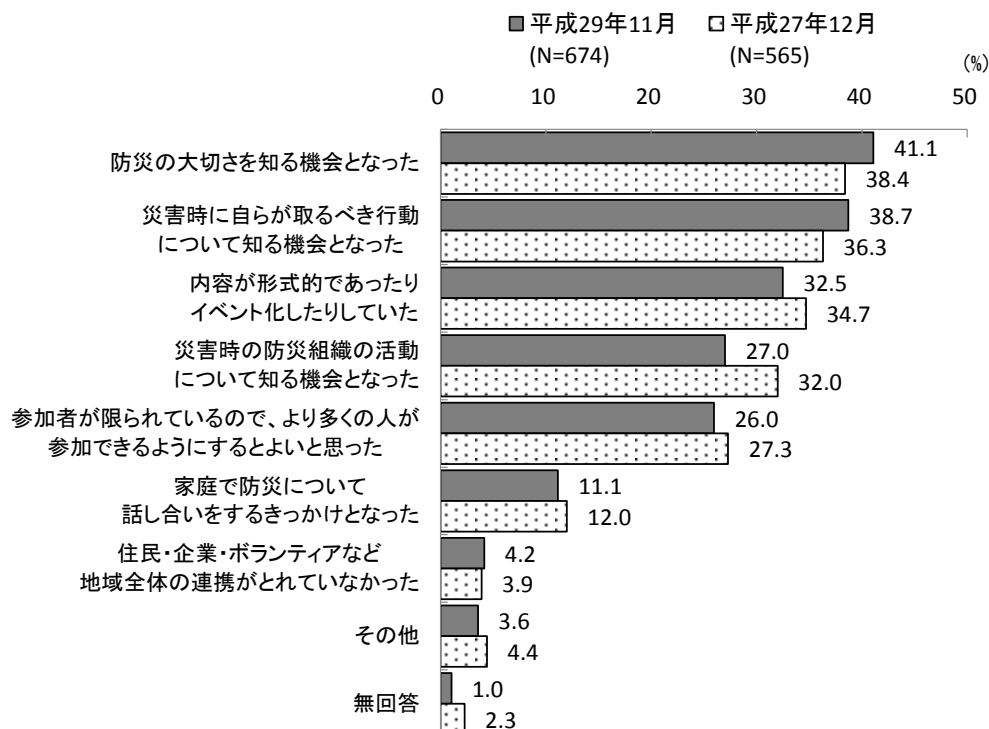
訓練参加感想を**内閣府調査との比較**でみると、「防災の大切さを知る機会となった」は41.1%と、『内閣府』(54.0%)より12.9ポイント下回っている。また、「災害時に自らが取るべき行動について知る機会となった」は38.7%と、『内閣府』(49.8%)より11.1ポイント下回っている。一方、「内容が形式的であったりイベント化したりしていた」は32.5%と、『内閣府』(16.5%)より16.0ポイント上回っている。

参加してどのようなことを感じたか<内閣府調査との比較>



訓練参加感想を**経年比較**でみると、「防災の大切さを知る機会となった」は今回調査(41.1%)が、平成27年12月の前回調査(38.4%)より2.7ポイント高くなっている。また、「災害時に自らが取るべき行動について知る機会となった」は今回調査(38.7%)が、前回調査(36.3%)より2.4ポイント高くなっている。

参加してどのようなことを感じたか<経年比較>

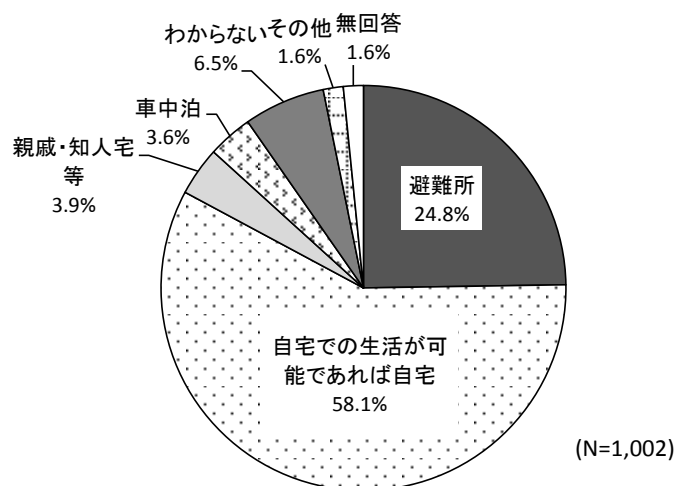


5 避難所について

5-1 災害発生後の自宅損壊やライフラインが使えない場合の避難生活

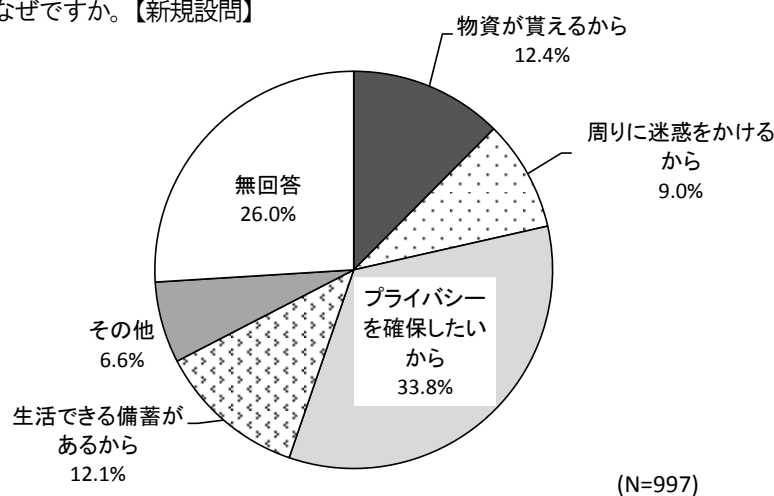
問22 災害が発生した後、自宅が損壊した場合やライフラインが使えない場合、あなたはどこで避難生活をしますか。

【新規設問】



※○を2つ以上の回答をした15件は無効回答とした。

問22-1 また、その理由はなぜですか。【新規設問】



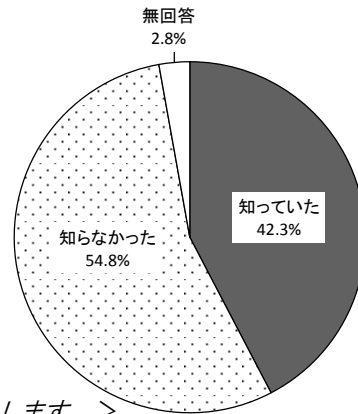
※○を2つ以上の回答をした20件は無効回答とした。

災害が発生した後の避難生活場所についてたずねると、「自宅での生活が可能であれば自宅」（58.1%）が最も高く、次いで、「避難所」（24.8%）、「わからない」（6.5%）、「親戚・知人宅等」（3.9%）、「車中泊」（3.6%）の順になっている。

理由については、「プライバシーを確保したいから」（33.8%）が最も高く、次いで、「物資が貰えるから」（12.4%）、「生活できる備蓄があるから」（12.1%）、「周りに迷惑をかけるから」（9.0%）の順になっている。

<問22で「1 避難所」を選んだ方にお伺いします。>

問22-2 避難所の運営は基本的に、そこで生活する避難者が行うということを知っていますか。

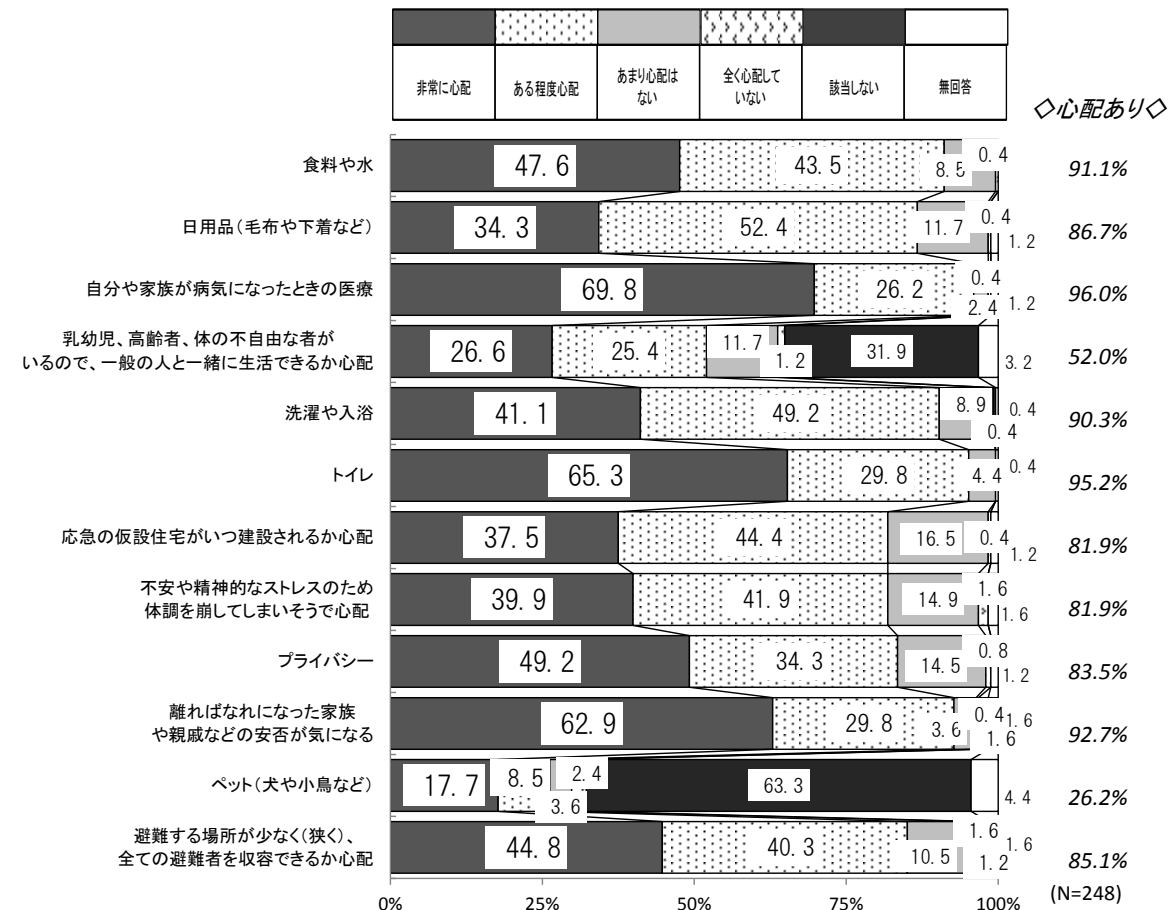


(N=248)

<問22で「1 避難所」を選んだ方にお伺いします。>

問22-3 あなたは避難所で避難生活を送る場合、どのようなことが心配ですか。

次の1～12について、あてはまる項目にそれぞれ1つつ〇をつけてください。



避難所で避難生活を送ると回答した方に運営を避難者が行うことの認知をたずねると、「知っていた」(42.3%)、「知らなかった」(54.8%)となっている。

避難所で避難生活を送る場合の心配ごとについてたずねると、「非常に心配」については、『自分や家族が病気になったときの医療』(69.8%)、『トイレ』(65.3%)、『離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる』(62.9%)の3項目が高くなっている。また、心配ありと答えた項目(「非常に心配」+「ある程度心配」)の上位5項目をみると、『自分や家族が病気になったときの医療』(96.0%)、『トイレ』(95.2%)、『離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる』(92.7%)、『食料や水』(91.1%)、『洗濯や入浴』(90.3%)となっており、いずれも9割を超えている。

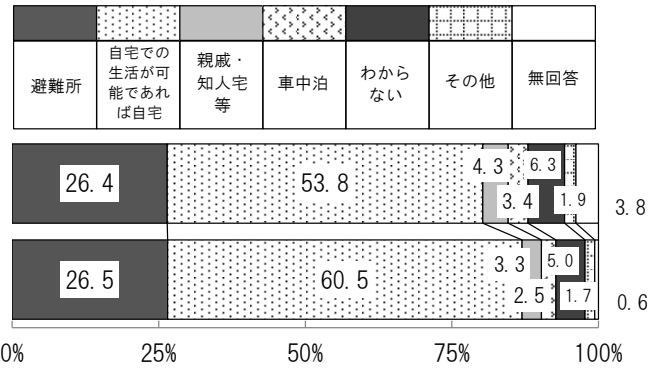
避難生活をする場所

<昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較>

昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較でみると、避難生活をする場所は、「自宅での生活が可能であれば自宅」が『昭和56年5月以前建築』（53.8%）、『昭和56年6月以降』（60.5%）となっている。

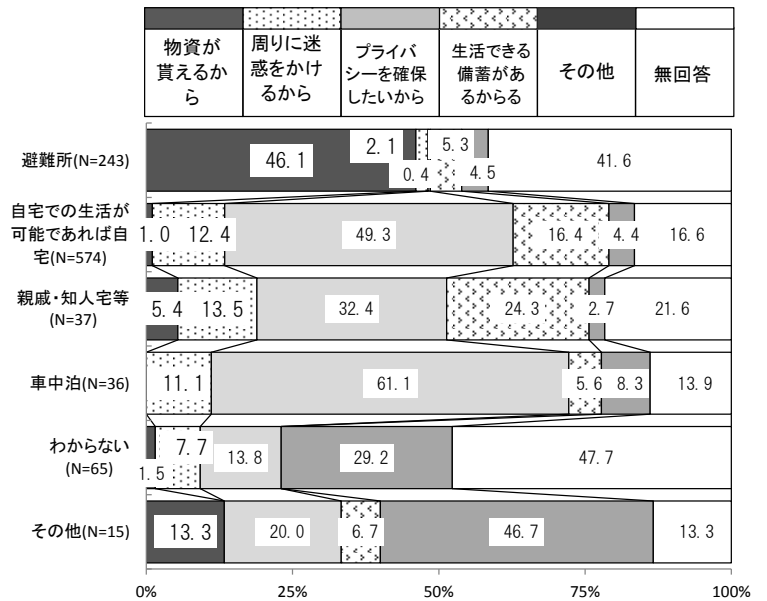
昭和56年5月以前(N=208)

昭和56年6月以降(N=483)



避難生活場所別でみると、避難生活をする場所の理由は、「物資が貰えるから」は『避難所』（46.1%）となっている。「プライバシーを確保したいから」は『自宅での生活が可能であれば自宅』（49.3%）となっている。

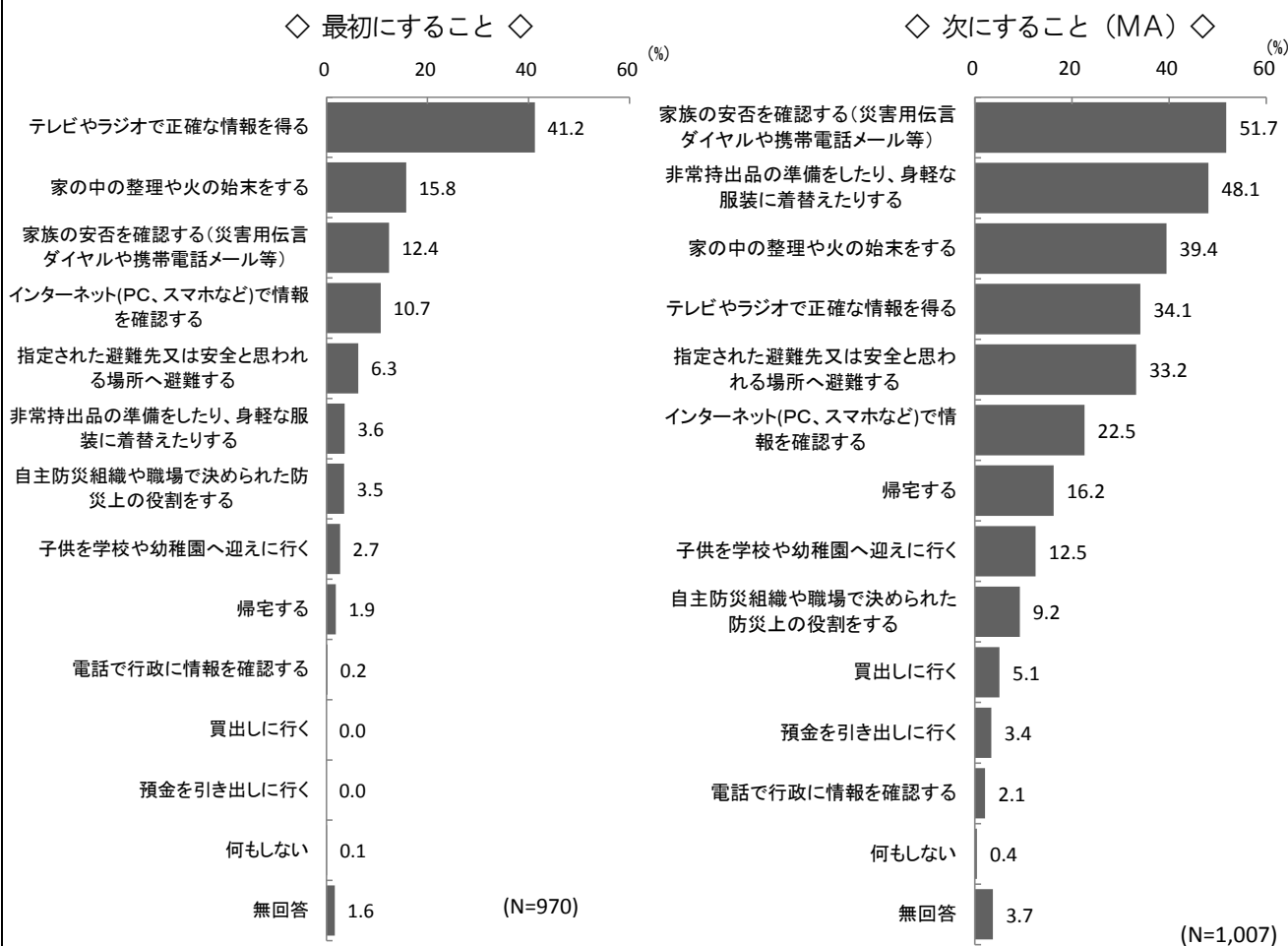
避難生活をする場所の理由<避難生活場所別>



6 南海トラフ地震（東海地震）が突然発生したときの行動について

6-1 突然地震が発生したときの行動

問23 平日の午前11時頃に突然地震が起こった場合、揺れがおさまったらあなたがまず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に○をつけてください。



※○を2つ以上の回答をした47件は無効回答とした。

※○を4つ以上の回答をした10件は無効回答とした。

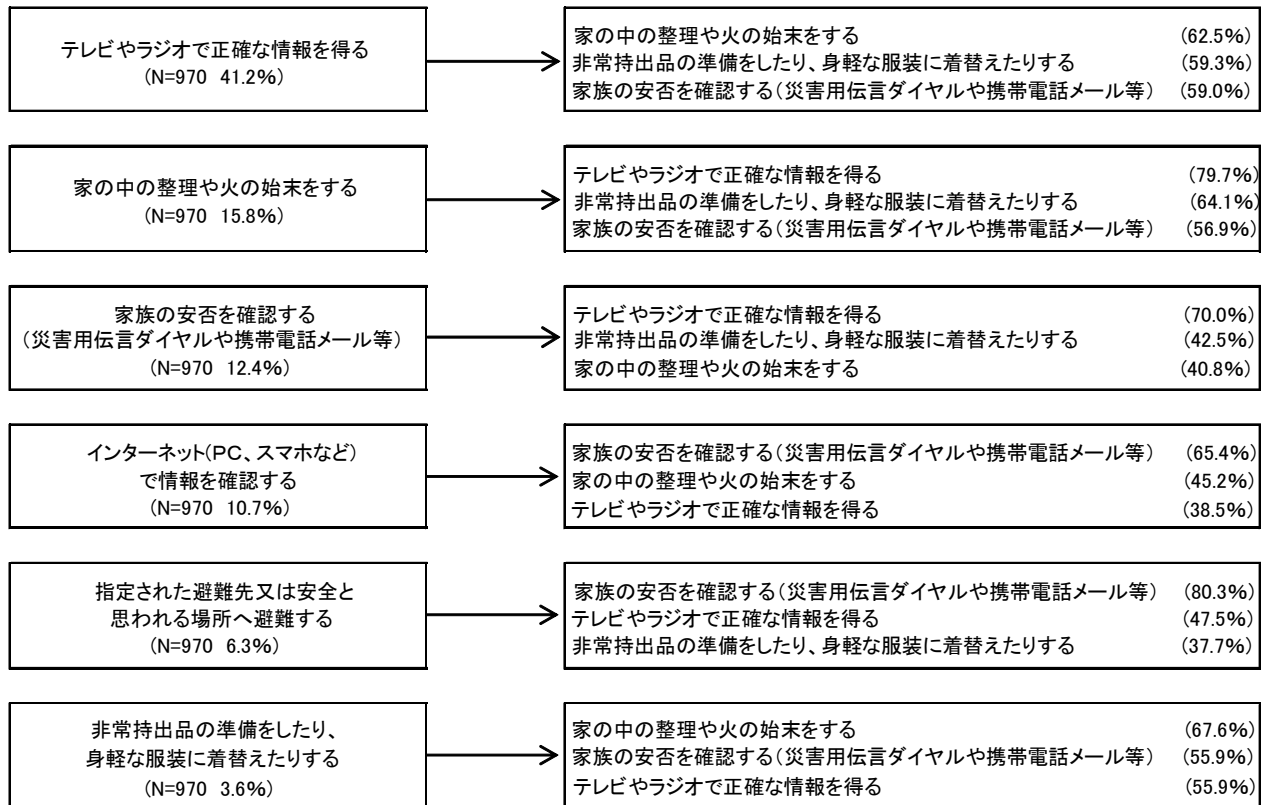
地震が突然発生したときの行動についてたずねたところ、まず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(41.2%)が最も高く、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(15.8%)、「家族の安否を確認する(災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等)」(12.4%)の順となっている。

次にすることは、「家族の安否を確認する(災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等)」(51.7%)が最も高く、次いで「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」(48.1%)、「家の中の整理や火の始末をする」(39.4%)の順となっている。

地震が突然発生したときの行動の流れをみると、まず最初にすることに「テレビやラジオで正確な情報を得る」を選んだ人は、次にすることでは「家の中の整理や火の始末をする」、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」、「家族の安否を確認する（災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等）」を上位に挙げている。

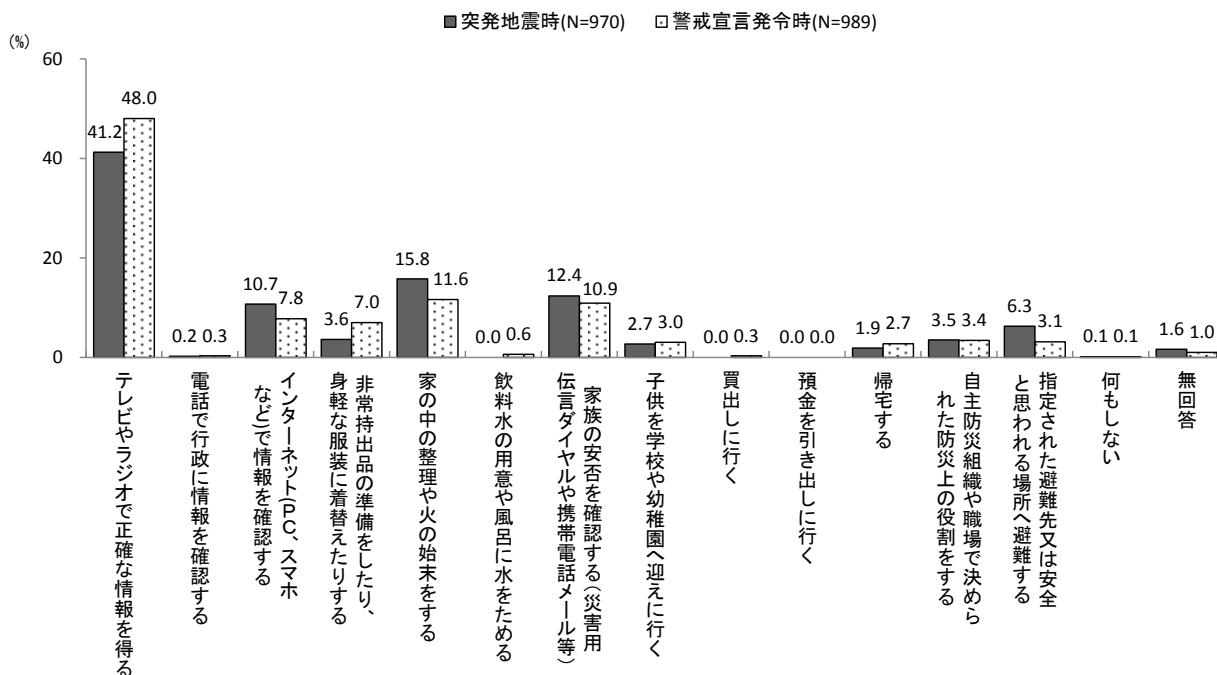
また、まず最初にすることに「家の中の整理や火の始末をする」を選んだ人は、次にすることでは「テレビやラジオで正確な情報を得る」、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」、「家族の安否を確認する（災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等）」を上位に挙げている。

地震が突然発生した時の行動の流れ 上位6位

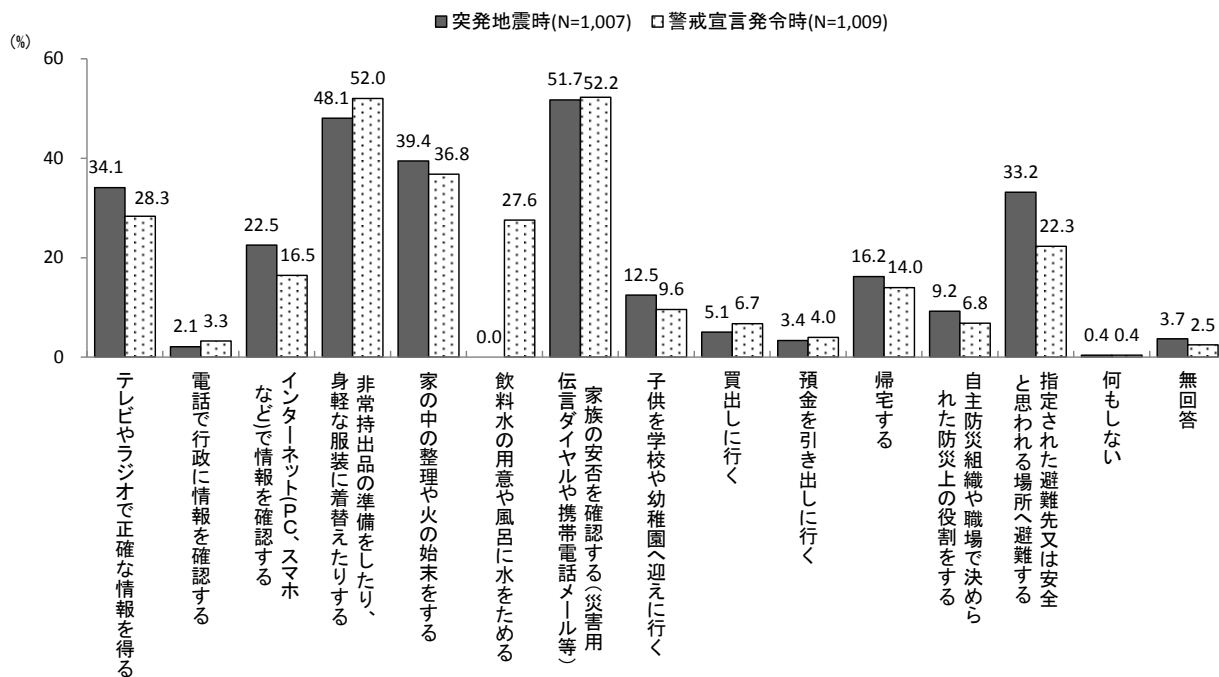


突発地震時 警戒宣言発令時の行動比較

— 最初にする行動 —



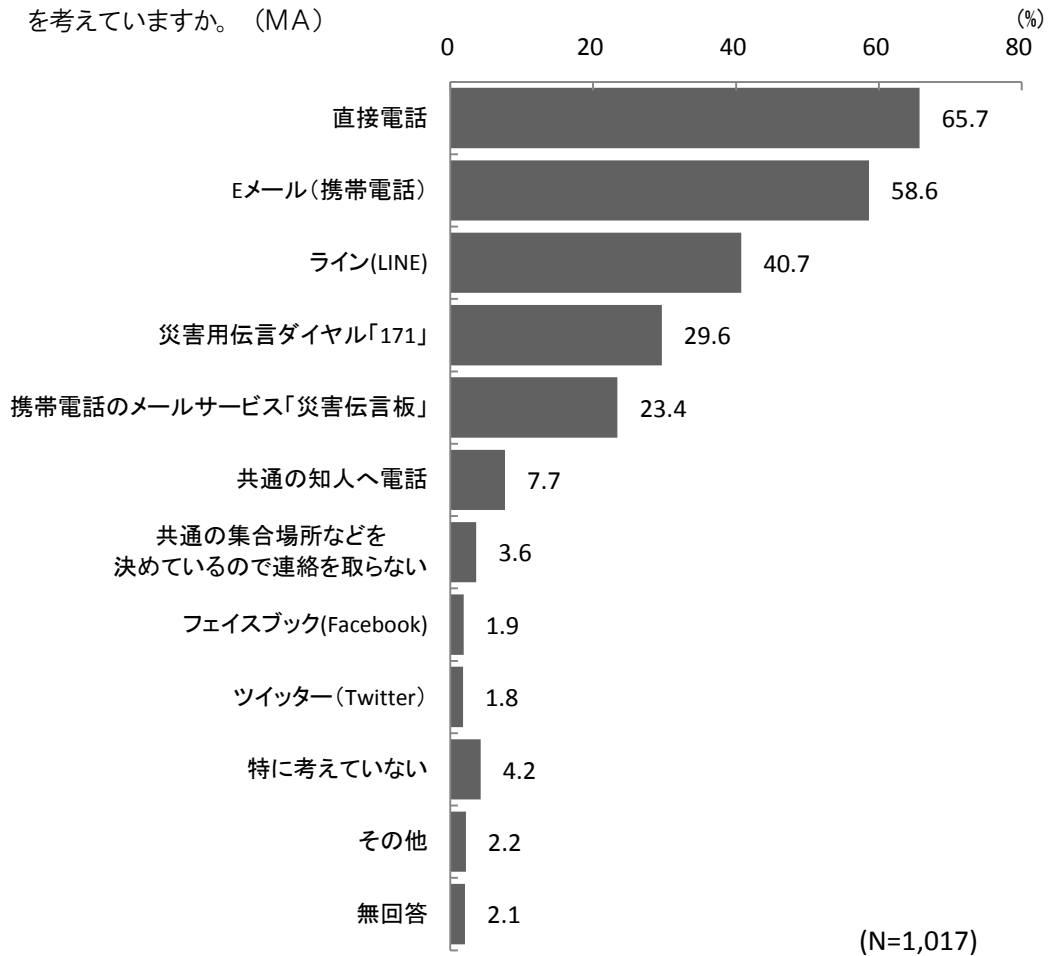
— 次にする行動 —



※警戒宣言発令時の行動は問28にて調査した項目。※突発地震時の「飲料水の用意や風呂に水をためる」は設問から除外した。

6-2 家族との安否確認手段

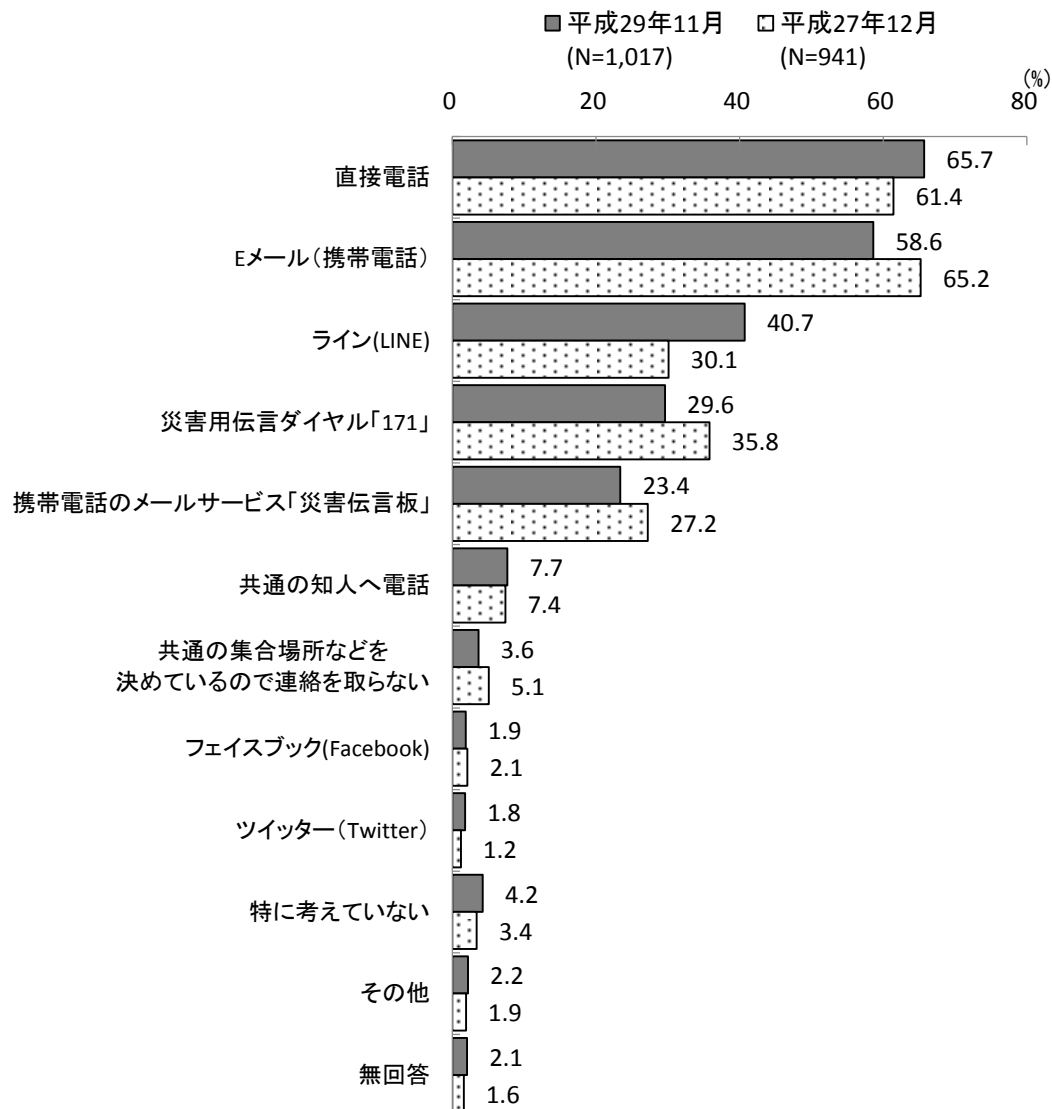
問24 家族が離ればなれとなっている時に突然、地震が起こった場合、家族の安否を確認する手段として何を使うことを考えていますか。(MA)



家族が離ればなれとなっている時に突然、地震が起こった場合、家族の安否を確認する手段として何を使うことを考えているかたずねたところ、「直接電話」(65.7%)が最も高く、次いで「Eメール(携帯電話)」(58.6%)、「ライン(LINE)」(40.7%)、「災害用伝言ダイヤル「171」」(29.6%)、「携帯電話のメールサービス「災害伝言板」」(23.4%)の順になっている。

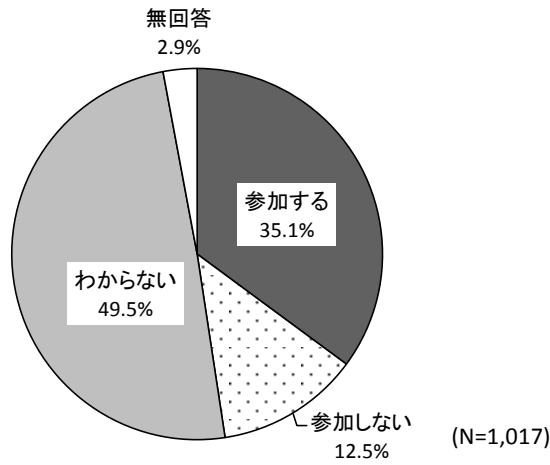
経年比較でみると、「直接電話」は、今回調査（65.7%）が、平成27年12月の前回調査（61.4%）より4.3ポイント高くなっている。「Eメール（携帯電話）」は、今回調査（58.6%）が、前回調査（65.2%）より6.6ポイント低くなっている。

家族との安否確認手段＜経年比較＞

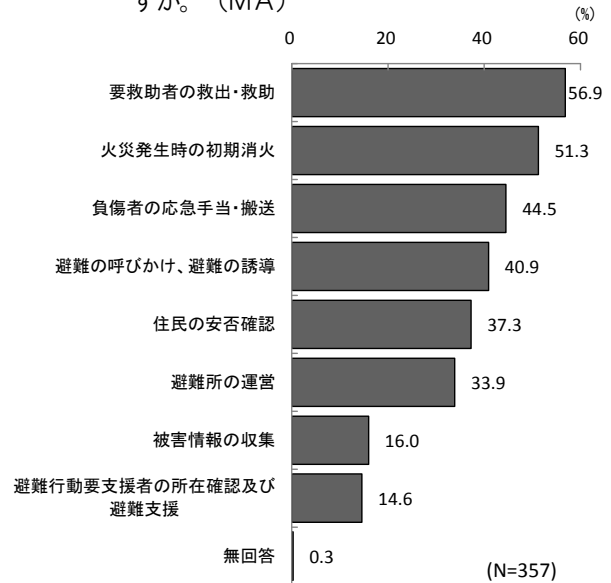


6-3 地震発生後の防災活動への参加意向

問25 突然、地震が起こった場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。



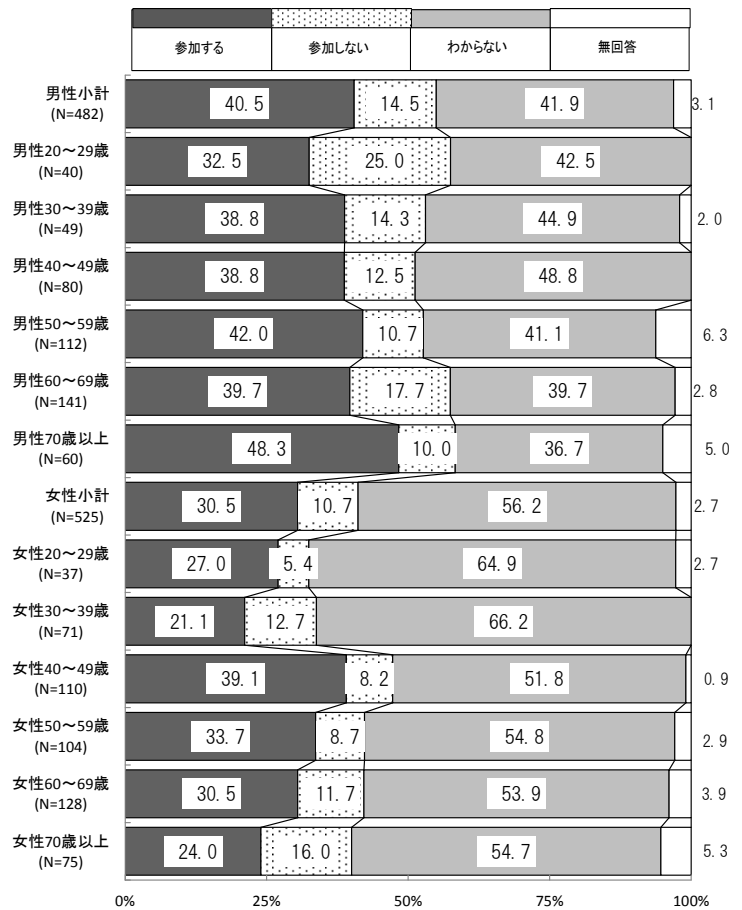
<問25で「参加する」を選んだ方にお伺いします。>
問25-1 どのような活動に参加することを考えていますか。(MA)



地震発生後の防災活動への参加意向についてたずねたところ、「わからない」(49.5%)が最も高く、次いで「参加する」(35.1%)、「参加しない」(12.5%)の順となっている。また、問25で「参加する」と回答した人の参加意向については、「要救助者の救出・救助」(56.9%)が最も高く、次いで「火災発生時の初期消火」(51.3%)、「負傷者の応急手当・搬送」(44.5%)の順となっている。

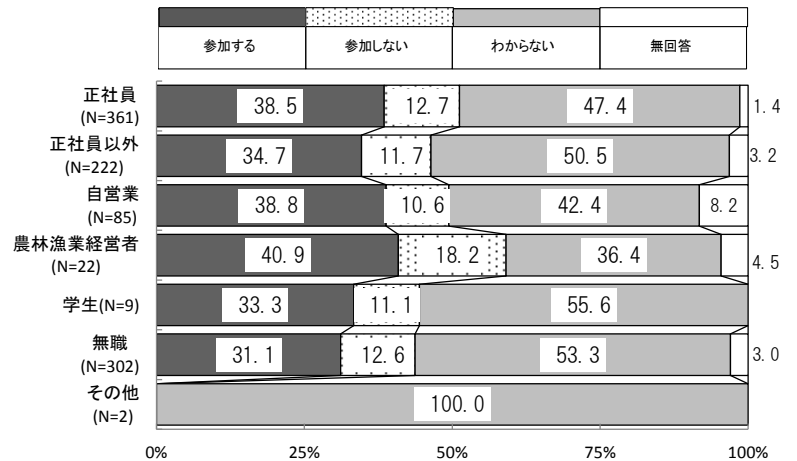
地震発生後の防災活動への参加率を性・年齢別で見ると、地震発生後の防災活動に「参加する」は、『男性』が40.5%、『女性』が30.5%となっており、年齢別においても『男性』が『女性』よりも高くなっている。また、「参加する」は、最も高い『男性70歳以上』(48.3%)と、最も低い『女性30～39歳』(21.1%)では27.2ポイントの差が見られる。

地震発生後の防災活動への参加<性・年齢別>



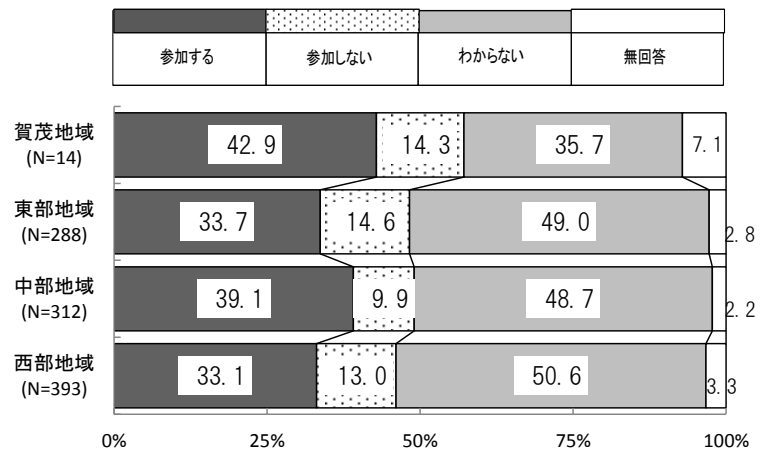
職業別でみると、「参加する」は『農林漁業経営者』（40.9%）が最も高く、次いで『自営業』（38.8%）、『正社員』（38.5%）の順となっている。

地震発生後の防災活動への参加<職業別>



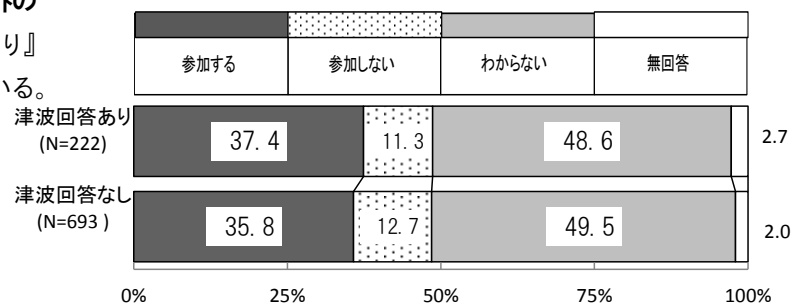
地域別でみると、「参加する」は、最も高い『賀茂』（42.9%）と、最も低い『西部』（33.1%）では9.8ポイントの差が見られる。

地震発生後の防災活動への参加<地域別>



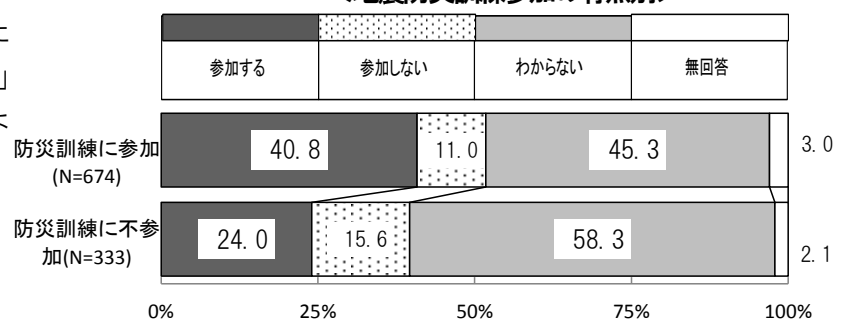
予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、「参加する」は、『津波回答あり』（37.4%）、『津波回答なし』（35.8%）となっている。

地震発生後の防災活動への参加<予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>



地震防災訓練参加の有無別でみると、自主的に防災活動に『参加する』人は、「防災訓練に参加」（40.8%）が「防災訓練に不参加」（24.0%）より16.8ポイント高くなっている。

地震発生後の防災活動への参加<地震防災訓練参加の有無別>



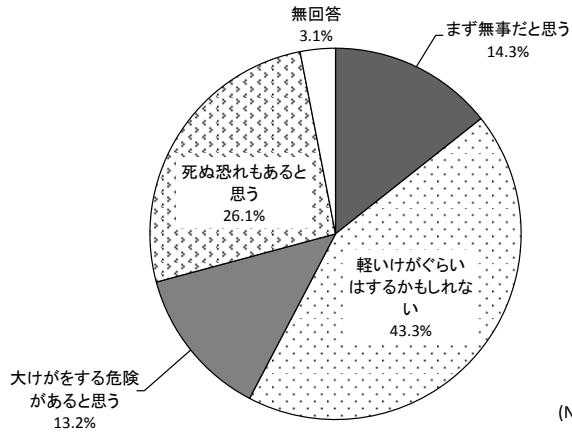
参加意向のある地震発生後の防災活動を性・年齢別でみると、「要救助者の救出・救助」は『男性』(70.8%)が『女性』(39.4%)より31.4ポイント上回っている。特に『男性40～49歳』(74.2%)と『女性40～49歳』(39.5%)は34.7ポイント差が見られる。また、「火災発生時の初期消火」は『男性』(66.2%)が『女性』(32.5%)より33.7ポイント上回っている。特に『男性50～59歳』(70.2%)と『女性50～59歳』(31.4%)は38.8ポイント差が見られる。一方「避難所の運営」は『女性』(36.3%)が『男性』(31.8%)より4.5ポイント上回っている。特に『女性30～39歳』(46.7%)と『男性30～39歳』(21.1%)は25.6ポイント差が見られる。

参加意向のある地震発生後の防災活動<性・年齢別>

		回答者数	要救助者の救出・救助	火災発生時の初期消火	負傷者の応急手当・搬送	避難の呼びかけ、避難の誘導	住民の安否確認	避難所の運営	被害情報の収集	避難行動要支援者の所在確認及び避難支援	無回答
全体		357	56.9	51.3	44.5	40.9	37.3	33.9	16.0	14.6	0.3
性・年齢別	男性	195	70.8	66.2	49.7	40.5	39.5	31.8	17.4	13.3	0.0
	男性20～29歳	13	76.9	53.8	46.2	69.2	38.5	46.2	53.8	30.8	0.0
	男性30～39歳	19	57.9	57.9	42.1	47.4	31.6	21.1	21.1	10.5	0.0
	男性40～49歳	31	74.2	58.1	58.1	35.5	29.0	29.0	16.1	19.4	0.0
	男性50～59歳	47	68.1	70.2	53.2	36.2	42.6	38.3	21.3	14.9	0.0
	男性60～69歳	56	69.6	66.1	42.9	37.5	42.9	28.6	5.4	7.1	0.0
	男性70歳以上	29	79.3	79.3	55.2	41.4	44.8	31.0	17.2	10.3	0.0
	女性	160	39.4	32.5	38.1	41.3	33.8	36.3	13.8	16.3	0.6
	女性20～29歳	10	30.0	0.0	40.0	10.0	20.0	50.0	30.0	0.0	0.0
	女性30～39歳	15	46.7	33.3	46.7	60.0	33.3	46.7	26.7	20.0	0.0
	女性40～49歳	43	39.5	25.6	44.2	30.2	25.6	44.2	9.3	9.3	0.0
	女性50～59歳	35	40.0	31.4	45.7	48.6	34.3	40.0	11.4	14.3	0.0
	女性60～69歳	39	46.2	43.6	28.2	51.3	43.6	20.5	10.3	25.6	0.0
女性70歳以上	18	22.2	44.4	22.2	33.3	38.9	27.8	16.7	22.2	5.6	

6-4 地震が突然発生したときの自分自身の安全状況

問26 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。



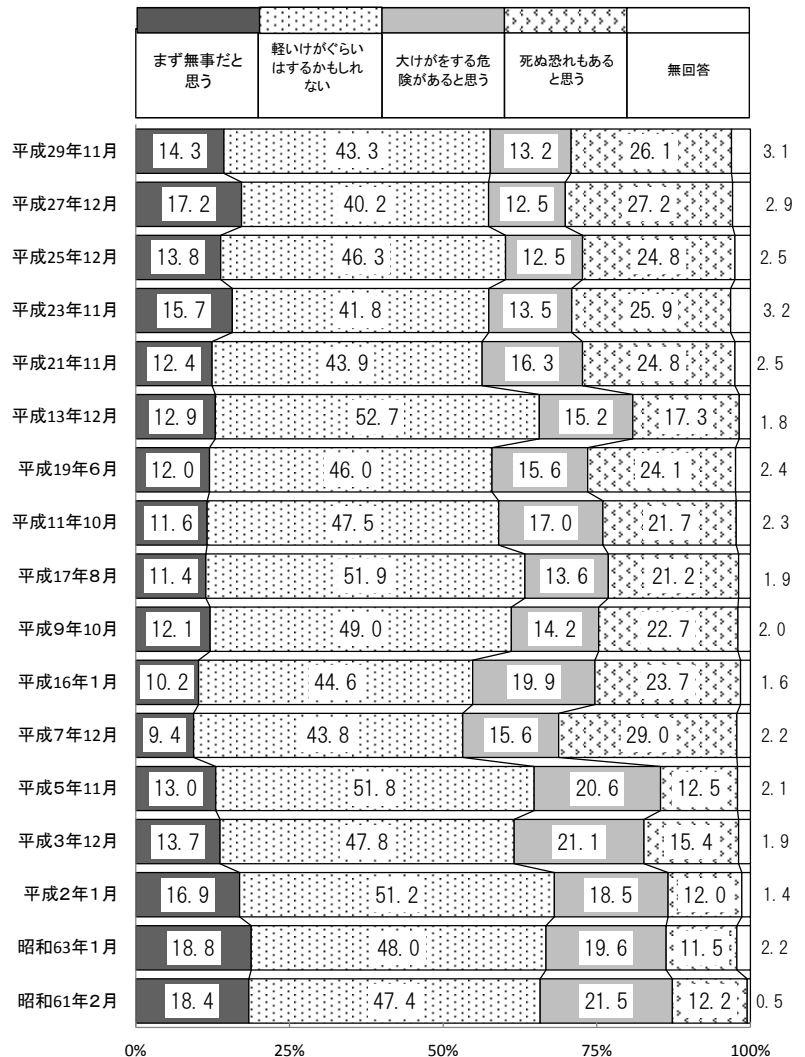
(N=1,011)

※○を2つ以上の回答をした6件は無効回答とした。

地震が突然発生したときの自分自身の安全状況についてたずねると、「軽いけがぐらいはするかもしれない」(43.3%)が最も高く、次いで「死ぬ恐れもあると思う」(26.1%)、「まず無事だと思う」(14.3%)、「大けがをする危険があると思う」(13.2%)の順となっている。

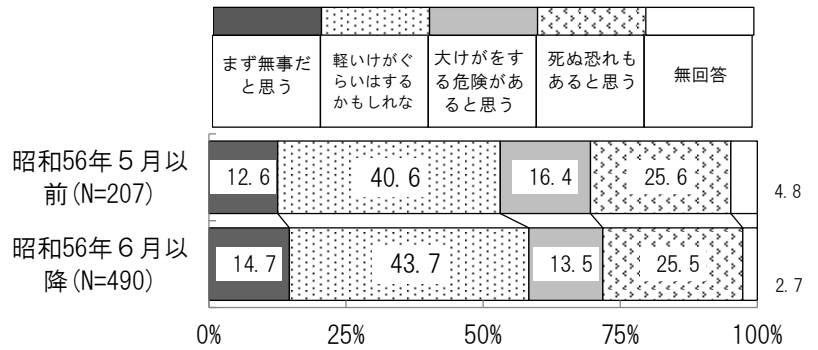
地震が突然発生したときの自分自身の安全性 <経年比較>

経年比較でみると、「死ぬ恐れもあると思う」が、阪神・淡路大震災(平成7年1月)の起きた『平成7年12月の調査』(29.0%)において過去最高になった以降は、平成13年度を除き、2割超で推移しているが、今回調査(26.1%)では平成27年12月の前回調査(27.2%)よりも1.1ポイント低くなっている。また、「まず無事だと思う」も今回調査(14.3%)では前回調査(17.2%)よりも2.9ポイント低くなっている。



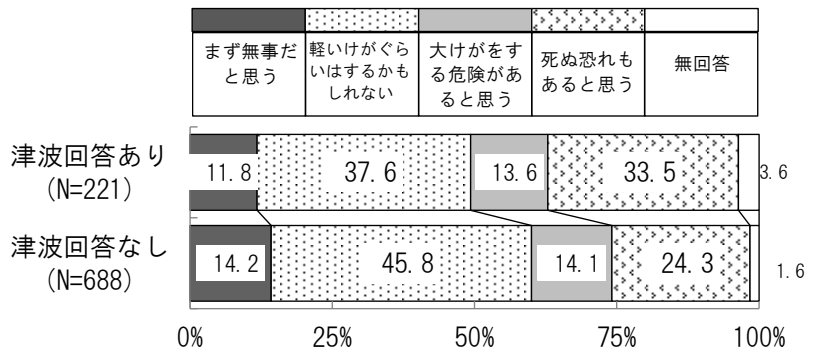
地震が突然発生したときの自分自身の安全性
 <昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較>

昭和56年5月以前建築と昭和56年6月以降との比較でみると、地震が突然発生したときの自分自身の安全性は、「大けがをすする危険があると思う」が『昭和56年5月以前建築』（16.4%）が『昭和56年6月以降』（13.5%）より2.9ポイント高くなっている。



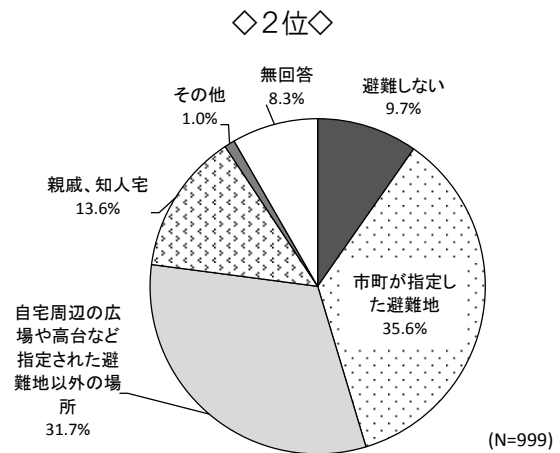
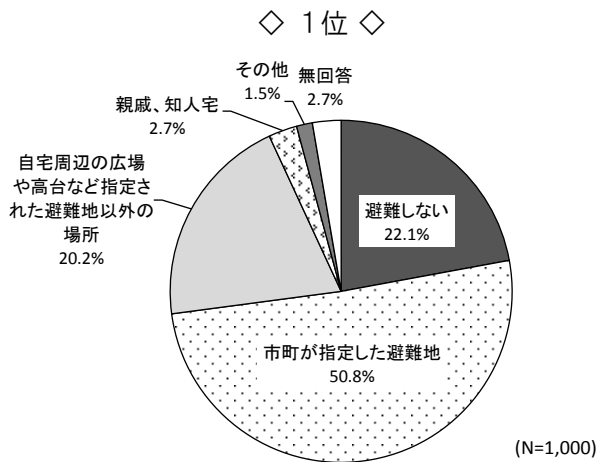
地震が突然発生したときの自分自身の安全性
 <予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>

予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、地震が突然発生したときの自分自身の安全性は、「死ぬ恐れもあると思う」が『津波回答あり』（33.5%）、『津波回答なし』（24.3%）より9.2ポイント高くなっている。



6-5 地震が突然発生したときの避難行動

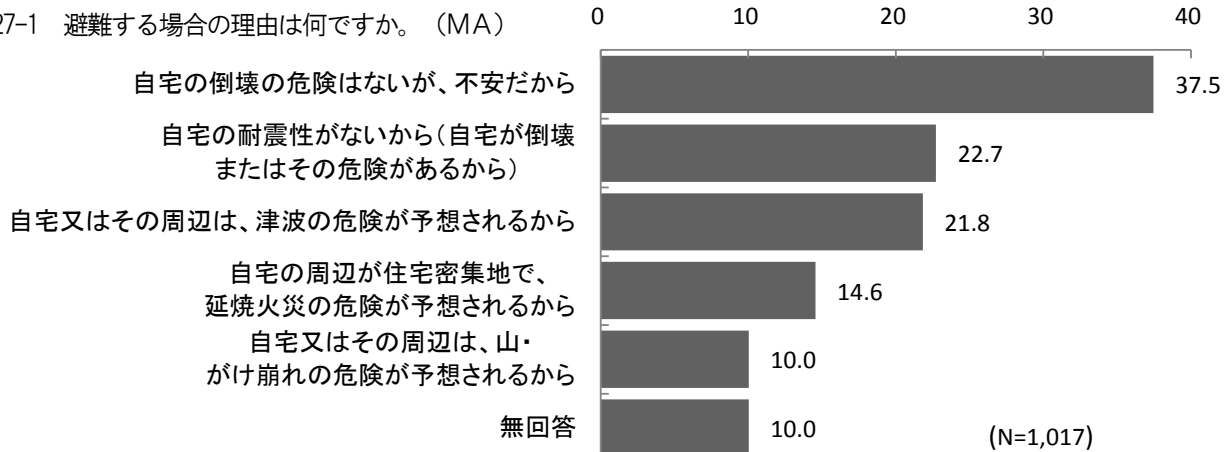
問27 あなたがご自宅にいるときに、突然地震が起こった場合、あなたやご家族が一時的に避難する場所として、可能性が高い場所の1位、2位にそれぞれ○をつけてください。



※○を2つ以上の回答をした17件は無効回答とした。

※○を2つ以上の回答をした18件は無効回答とした。

問27-1 避難する場合の理由は何ですか。(MA)

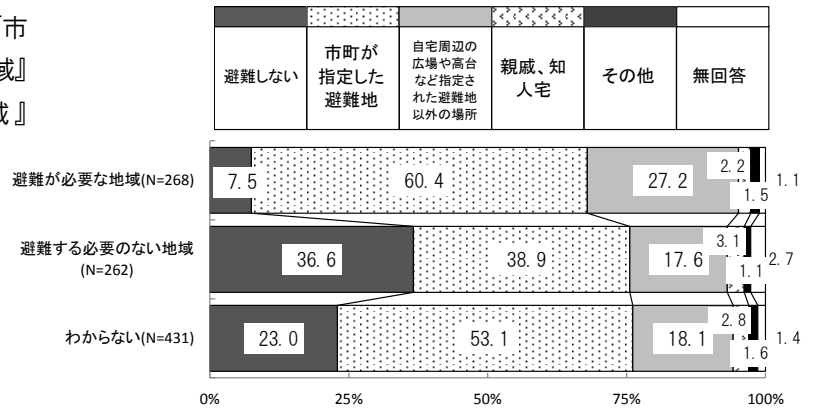


地震が突然発生したときの避難行動についてたずねたところ、1位は「市町が指定した避難地」(50.8%)が最も高く、次いで「避難しない」(22.1%)、「自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所」(20.2%)、「親戚、知人宅」(2.7%)の順となっている。屋外である「市町が指定した避難地」と「自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所」への避難は71.0%となっている。2位は「市町が指定した避難地」(35.6%)が最も高く、次いで「自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所」(31.7%)、「親戚、知人宅」(13.6%)、「避難しない」(9.7%)の順となっている。

避難する理由についてたずねたところ、「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」(37.5%)が最も高く、次いで「自宅の耐震性がないから(自宅が倒壊またはその危険があるから)」(22.7%)、「自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」(21.8%)、「自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから」(14.6%)、「自宅又はその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから」(10.0%)の順となっている。

地震が突然発生したときの避難行動
 <避難該当地域であるかの認識別>

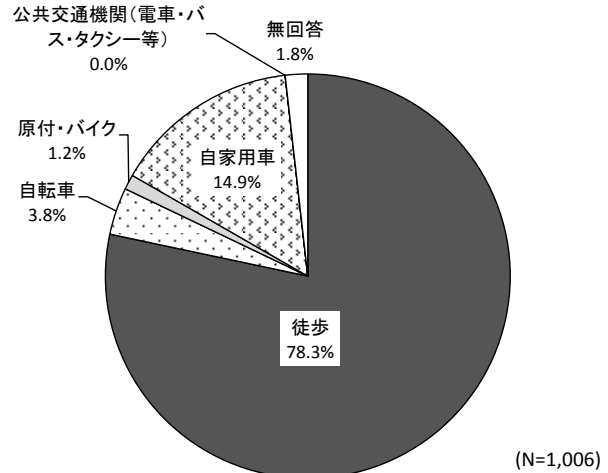
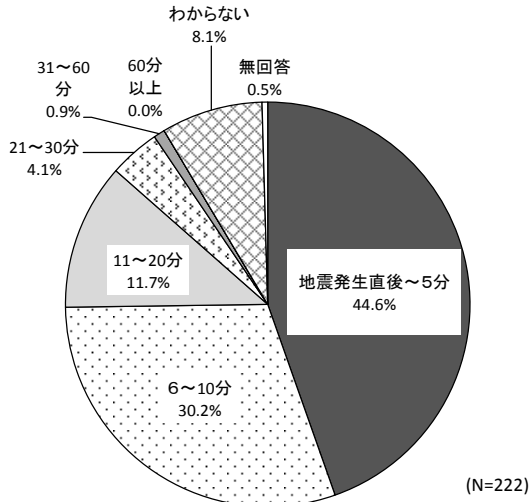
避難該当地域であるかの認識別でみると、「市町が指定した避難地」は、『避難が必要な地域』（60.4%）、『避難する必要のない地域』（38.9%）となっている。



＜問27-1で「1 自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」を選んだ方にお伺いします。＞

問27-2 地震が起こってから何分後に避難開始しますか。

問27-3 避難するときの交通手段は何ですか。



※○を2つ以上の回答をした11件は無効回答とした。

問27-1で津波の危険が予想されると回答した人に避難開始時間をたずねたところ、「地震発生直後～5分」(44.6%)が最も高く、次いで「6～10分」(30.2%)、「11～20分」(11.7%)、「わからない」(8.1%)の順となっている。

避難するときの交通手段についてたずねたところ、「徒歩」(78.3%)が最も高く8割近くを占めており、次いで「自家用車」(14.9%)、自転車(3.8%)の順となっている。

避難する理由について、**避難該当地域であるかの認識別**でみると、『避難が必要な地域』では、「自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」(53.7%)が高くなっている。『避難する必要のない地域』では、「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」(49.6%)が他より高くなっている。

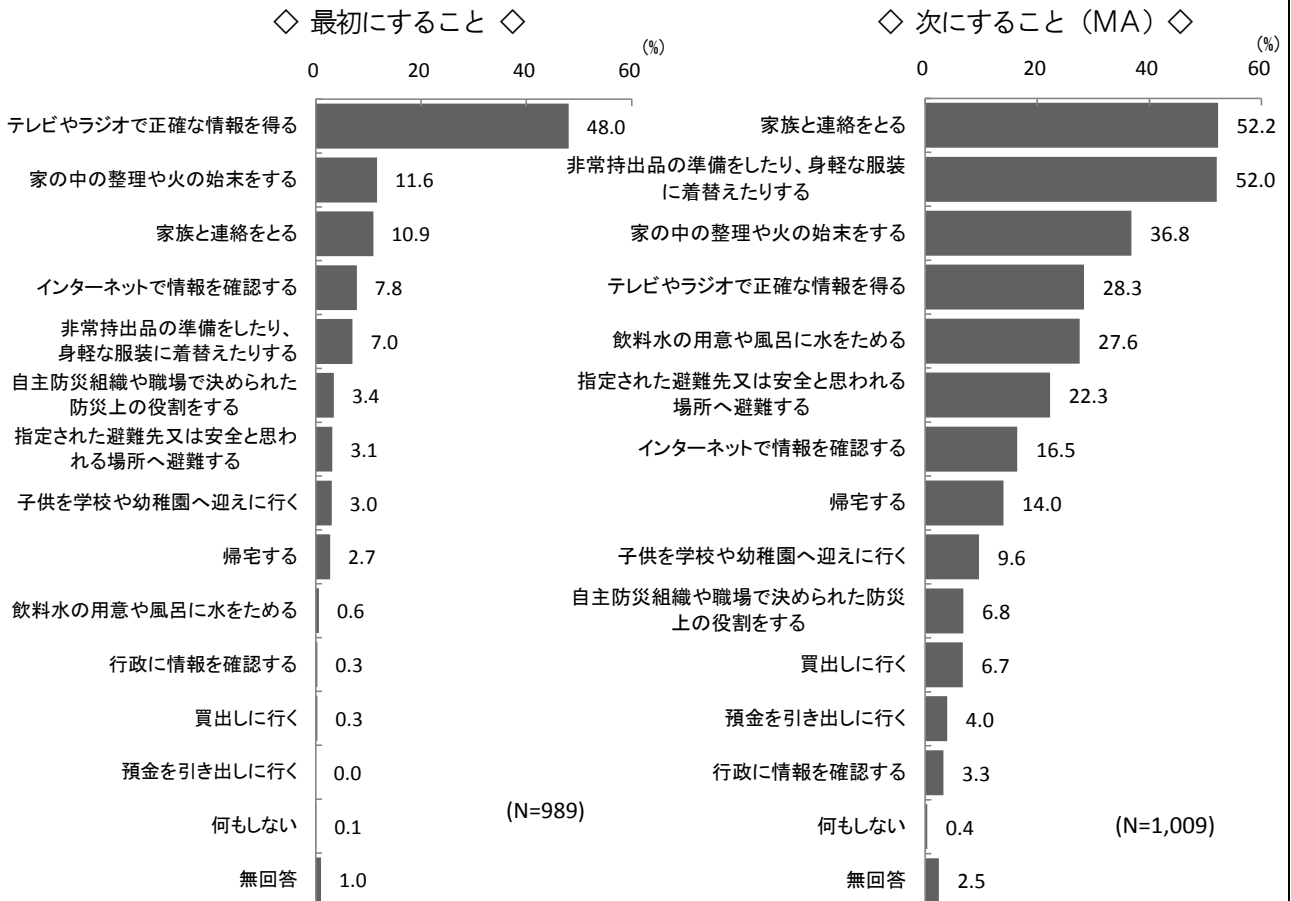
避難する理由＜避難該当地域であるかの認識別＞

		回答者数	自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから	自宅又はその周辺は、山崩れや火災の危険が予想されるから	自宅の周辺に住宅密集地があるから	自宅の耐震性が危ないから	自宅の倒壊の危険はないが、不安だから	無回答
避難該当地域であるかの認識別	避難が必要な地域	272	53.7	15.4	14.0	25.7	14.0	3.7
	避難する必要のない地域	264	5.7	6.1	12.1	20.5	49.6	15.9
	わからない	440	11.4	9.5	16.8	23.2	45.2	8.9

7 警戒宣言が発せられたときの行動について

7-1 警戒宣言発令時の行動

問28 平日の午前11時頃に警戒宣言が発せられたと仮定して、あなたがまず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に○をつけてください。



※○を2つ以上の回答をした28件は無効回答とした。

※○を4つ以上の回答をした8件は無効回答とした。

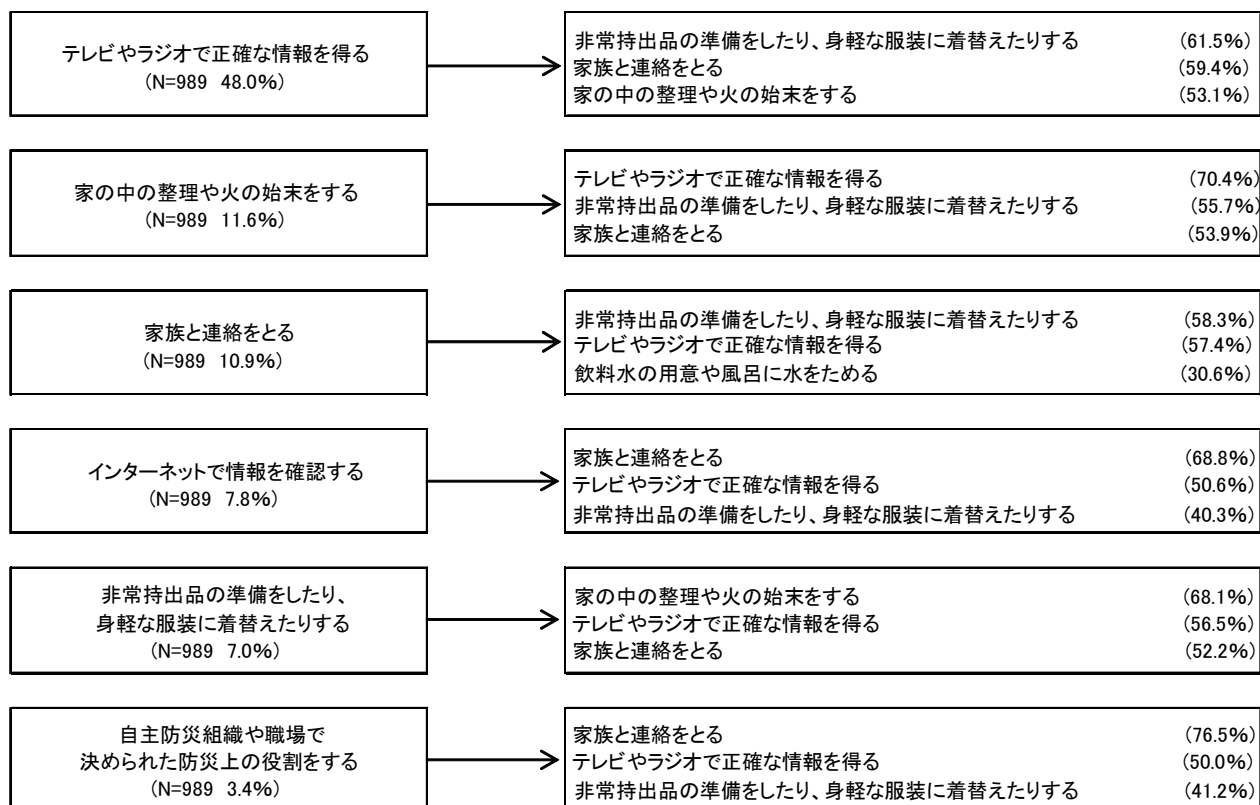
警戒宣言発令時の行動についてたずねたところ、まず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(48.0%)が最も高く、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(11.6%)、「家族と連絡をとる」(10.9%)の順となっている。

次にすることは、「家族と連絡をとる」(52.2%)が最も高く、次いで「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」(52.0%)、「家の中の整理や火の始末をする」(36.8%)となっており、これら3項目が3割を超えている。

警戒宣言発令時の行動の流れをみると、まず最初にすることに「テレビやラジオで正確な情報を得る」を選んだ人は、次にすることでは「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」、「家族と連絡をとる」、「家の中の整理や火の始末をする」を上位に挙げている。

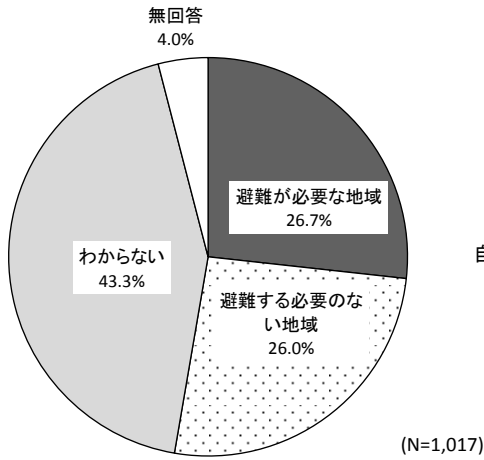
また、まず最初にすることに「家の中の整理や火の始末をする」を選んだ人は、次にすることでは「テレビやラジオで正確な情報を得る」、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」、「家族と連絡をとる」を上位に挙げている。

警戒宣言発令時の行動の流れ 上位6位



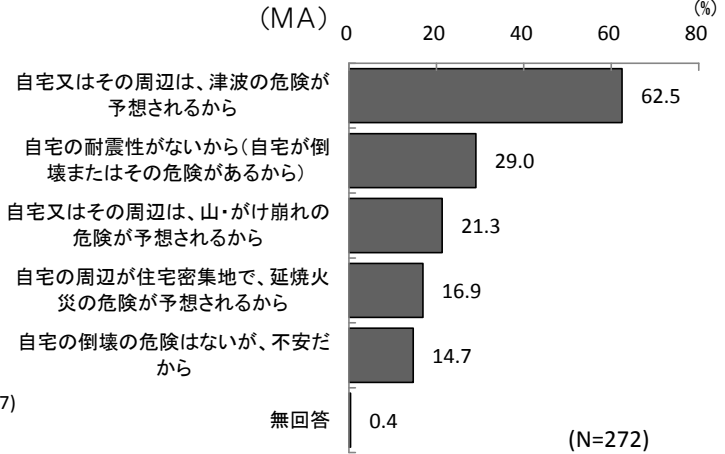
7-2 避難該当地域であるかの認識

問29 あなたのお宅は、警戒宣言が発せられたとき、避難が必要な地域ですか。



<問29で「1 避難が必要な地域」を選んだ方にお伺いします。>

問29-1 避難が必要となる理由は何ですか。



自宅が避難該当地域であるかの認識についてたずねたところ、「わからない」(43.3%)が最も高く、次いで「避難が必要な地域」(26.7%)、「避難する必要のない地域」(26.0%)の順となっている。

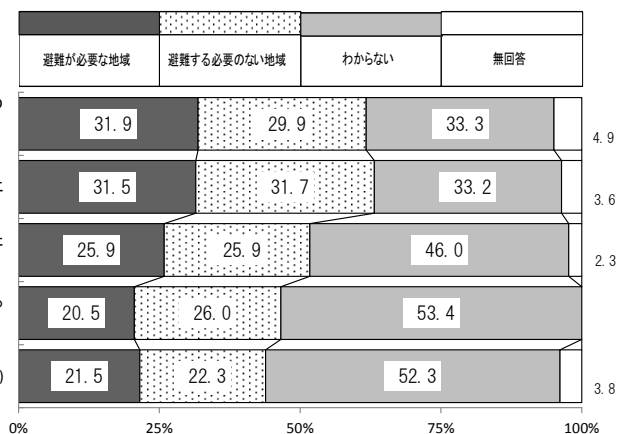
また、問29で「避難が必要な地域」と回答した人の必要なる理由についてたずねたところ、「自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」(62.5%)が最も高く、次いで「自宅の耐震性がないから(自宅が倒壊またはその危険があるから)」(29.0%)、「自宅又はその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから」(21.3%)、「自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから」(16.9%)、「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」(14.7%)の順となっている。

避難該当地域であるかの認識

<防災訓練参加状況別>

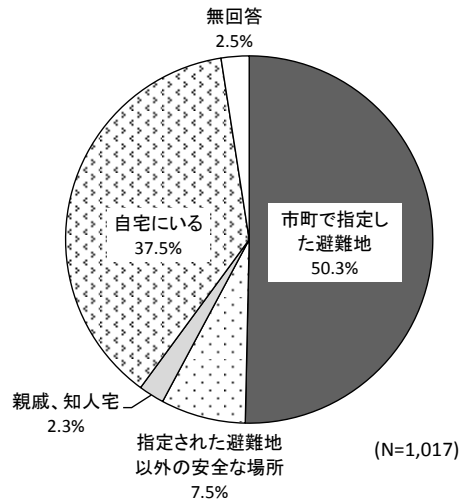
避難該当地域であるかの認識を**防災訓練参加状況別**でみると、「避難が必要な地域」では、最も高い『総合防災訓練に参加』(31.9%)と、最も低い『機会がなかった(訓練はなかった)』(20.5%)では11.4ポイントの差が見られ、いずれかの防災訓練に参加している人は、自宅が避難該当地域であるという認識が高い傾向が見られる。

総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した(N=345)
 地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した(N=391)
 その他の防災訓練に参加した(N=174)
 機会がなかった(訓練はなかった)(N=73)
 参加しなかった(N=260)



7-3 自宅で警戒宣言が発せられた場合の避難行動

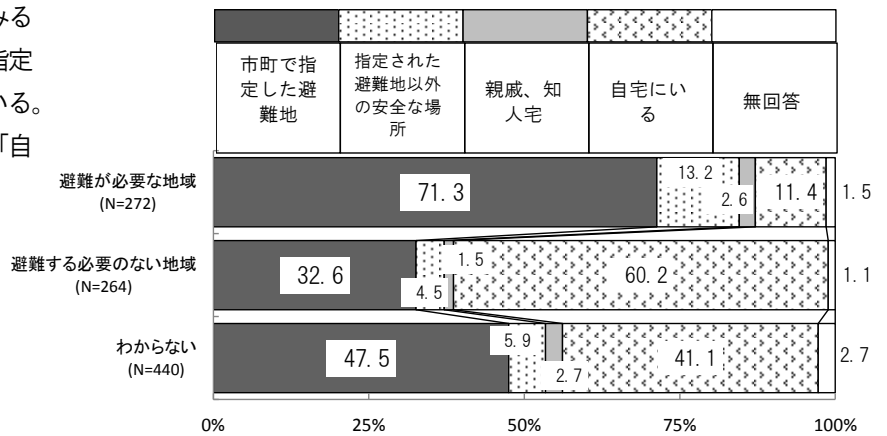
問30 あなたやご家族は、自宅にいて警戒宣言が発せられた場合、避難しますか。



自宅にいて警戒宣言が発せられた場合の避難行動についてたずねたところ、「市町で指定した避難地」(50.3%)が最も高く、次いで「自宅にいる」(37.5%)、「指定された避難地以外の安全な場所」(7.5%)、「親戚、知人宅」(2.3%)の順となっている。

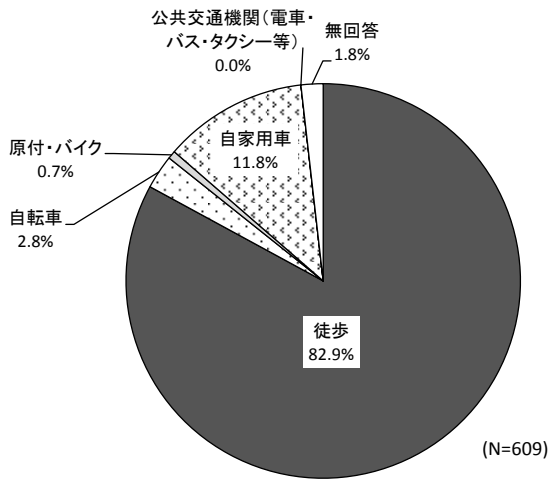
警戒宣言発令時の避難行動 ＜避難該当地域であるかの認識状況別＞

避難該当地域であるかの認識状況別でみると、『避難が必要な地域』では、「市町で指定した避難地」(71.3%)が7割を超えている。また、『避難する必要のない地域』では、「自宅にいる」(60.2%)となっている。



＜問30で「1 市町で指定した避難地」「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」のいずれかを選んだ方にお伺いします。＞

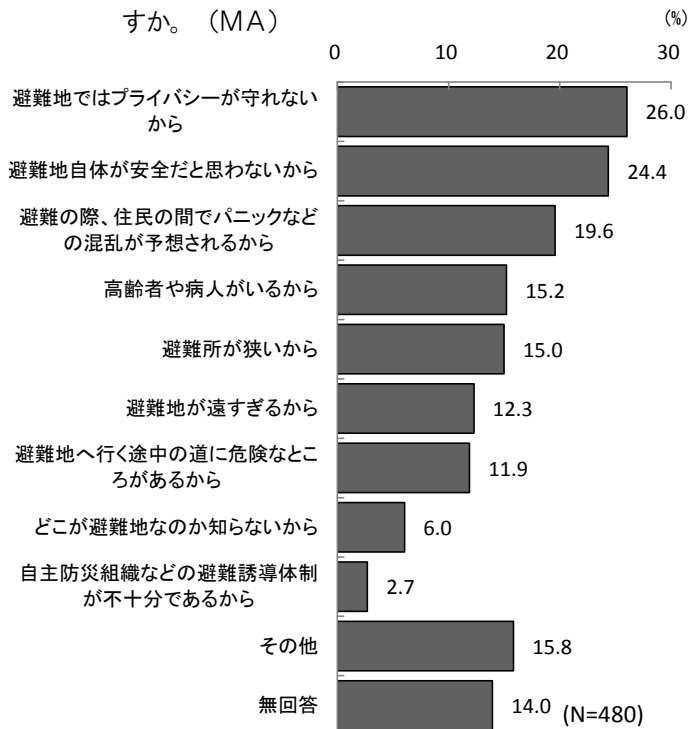
問30-1 避難するときの交通手段は何ですか。



※○を2つ以上の回答をした2件は無効回答とした。

＜問30で「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」「4 自宅にいる」のいずれかを選んだ方にお伺いします。＞

問30-2 市町で指定した避難地へ避難しない理由は何ですか。(MA)



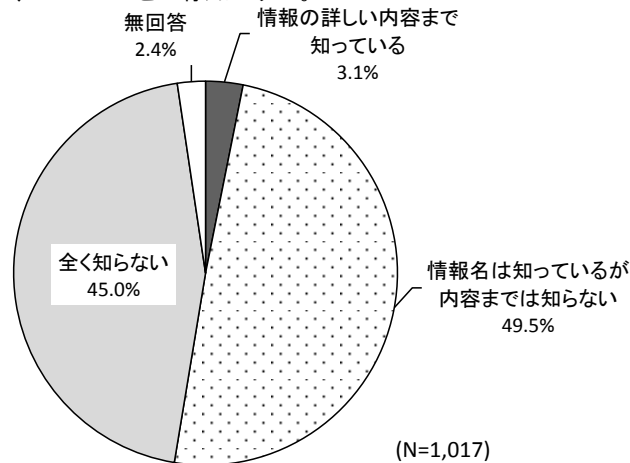
問30で「避難する」と回答した人の避難時の交通手段についてたずねたところ、「徒歩」(82.9%)が最も高く8割以上を占めており、次いで「自家用車」(11.8%)、「自転車」(2.8%)の順となっている。

問30で「指定された避難地以外の安全な場所」「親戚、知人宅」「自宅にいる」と回答した人に、市町で指定した避難地へ避難しない理由をたずねたところ、「避難地ではプライバシーが守れないから」(26.0%)が最も高く、次いで「避難地自体が安全だと思わないから」(24.4%)、「住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから」(19.6%)、「高齢者や病人がいるから」(15.2%)、「避難所が狭いから」(15.0%)の順となっている。

8 東海地震に関する情報について

8-1 東海地震に関連する情報体系の認知

問31 東海地震に関連する情報として「東海地震に関連する調査情報」「東海地震注意情報」「東海地震予知情報（警戒宣言）」の3つがあります。あなたは、このことをご存知ですか。

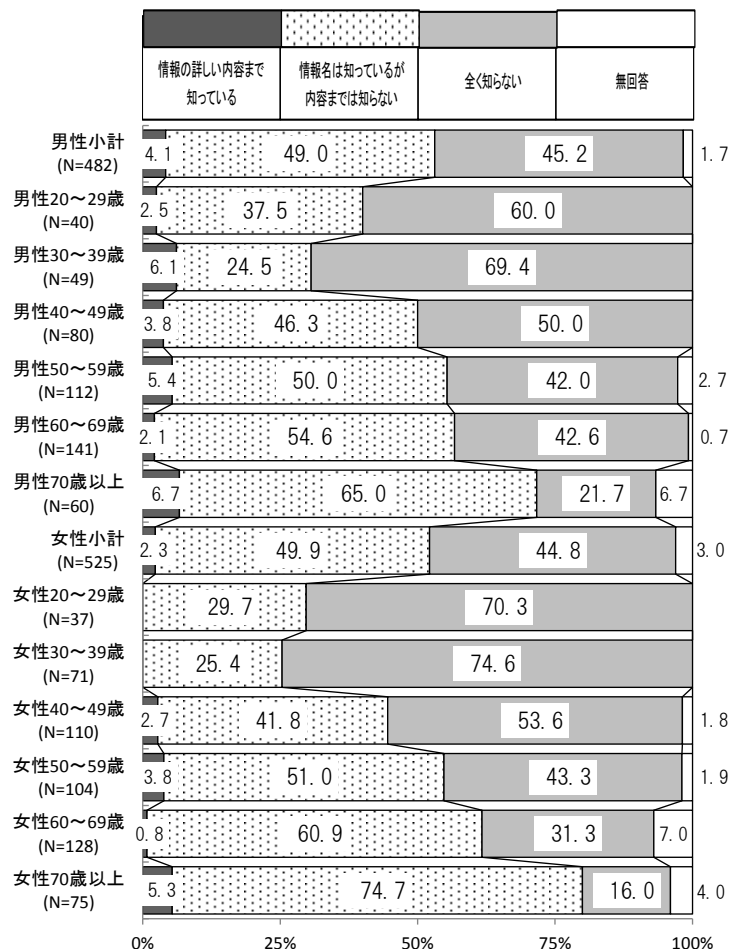


東海地震に関連する情報体系の認知についてたずねたところ、「情報名は知っているが内容までは知らない」（49.5%）が最も高く、次いで「全く知らない」（45.0%）、「情報の詳しい内容まで知っている」（3.1%）の順となっている。「情報名は知っているが内容までは知らない」、「全く知らない」を合わせた情報の内容を知らない人は94.5%となっている。

性・年齢別でみると、「全く知らない」は、『女性30～39歳』（74.6%）で最も高く、次いで『女性20～29歳』（70.3%）、『男性30～39歳』（69.4%）、『男性20～29歳』（60.0%）の順となっている。

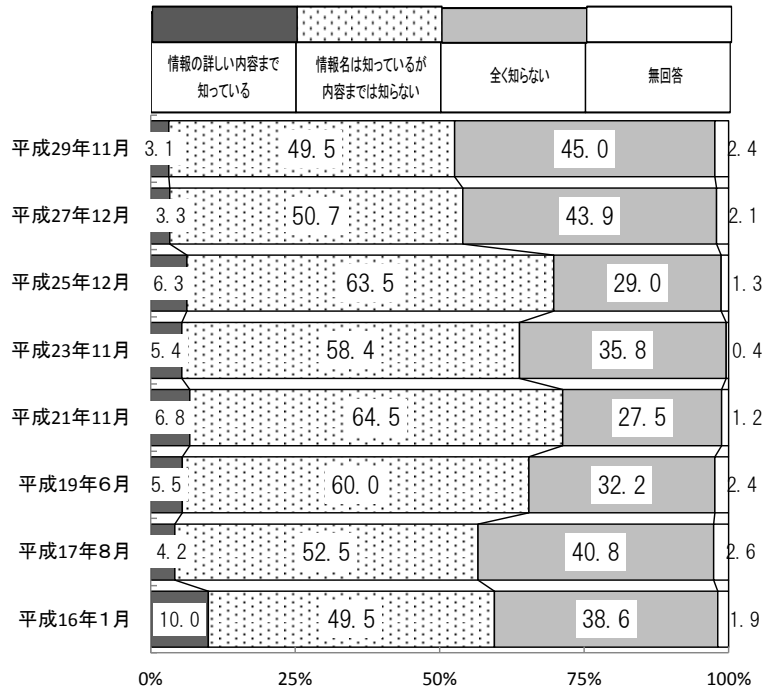
また、「情報名は知っているが内容までは知らない」は『女性70歳以上』（74.7%）が最も高く、次いで『男性70歳以上』（65.0%）の順となっている。

情報体系の認知 <性・年齢別>



情報体系の認知<経年比較>

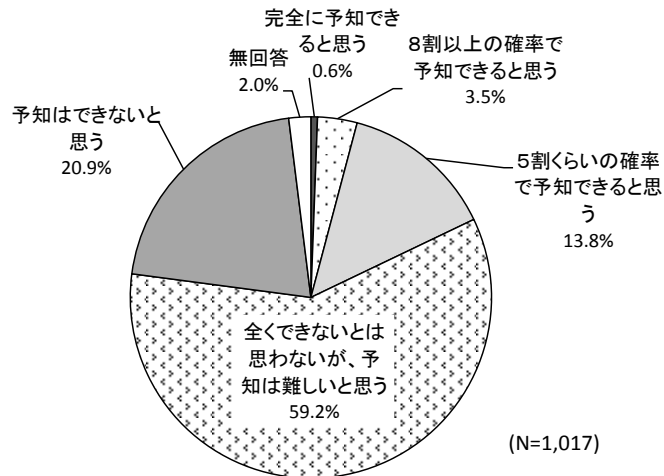
経年比較でみると、「全く知らない」の今回調査（45.0％）は、平成27年12月の前回調査（43.9％）より1.1ポイント上昇している。一方、「情報名は知っているが内容までは知らない」の今回調査（49.5％）は、前回調査（50.7％）より1.2ポイント減少している。



※平成16年度から平成19年度の「名前も内容も知らないが、改正があったことは知っている」は「情報名は知っているが内容までは知らない」に集約。

8-2 東海地震予知の可能性

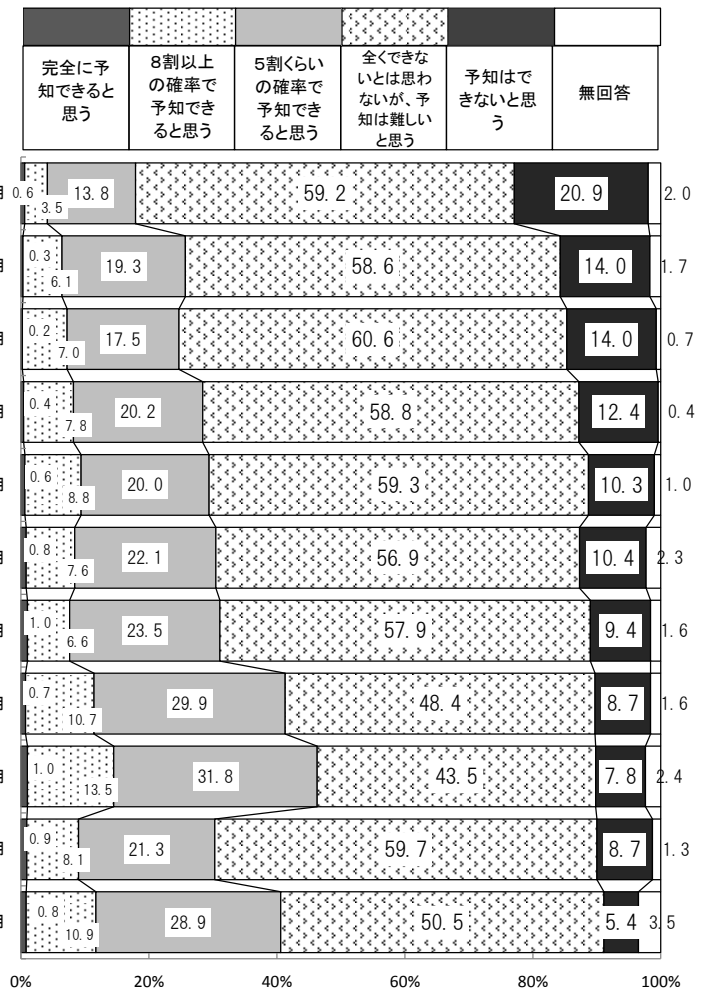
問32 あなたは、現時点で東海地震は予知できると思いますか。



東海地震の予知の可能性についてたずねたところ、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」(59.2%)が最も高く、次いで「予知はできないと思う」(20.9%)、「5割くらいの確率で予知できると思う」(13.8%)、「8割以上の確率で予知できると思う」(3.5%)、「完全に予知できると思う」(0.6%)の順となっている。

経年比較でみると、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」は今回調査(59.2%)であり、平成27年12月の前回調査(58.6%)より0.6ポイント高くなっている。「予知は出来ないと思う」は今回調査(20.9%)であり、前回調査(14.0%)より6.9ポイント高くなっている。

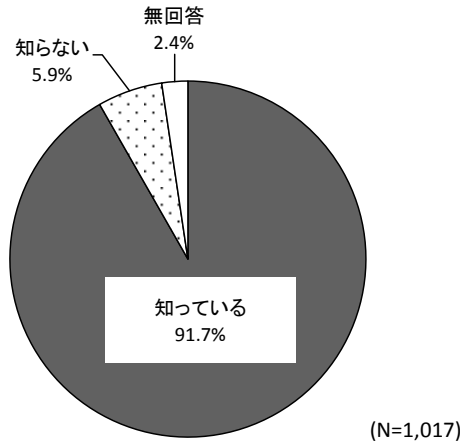
東海地震予知の可能性<経年比較>



※この調査項目は平成9年度調査から設定した。

8-3 緊急地震速報についての認知

問33 地震の強い揺れが来ることを、揺れる前にお知らせする情報である緊急地震速報が、気象庁からテレビ、ラジオ、緊急速報メール（エリアメール）などを通じて提供されています。あなたは緊急地震速報をご存知ですか。

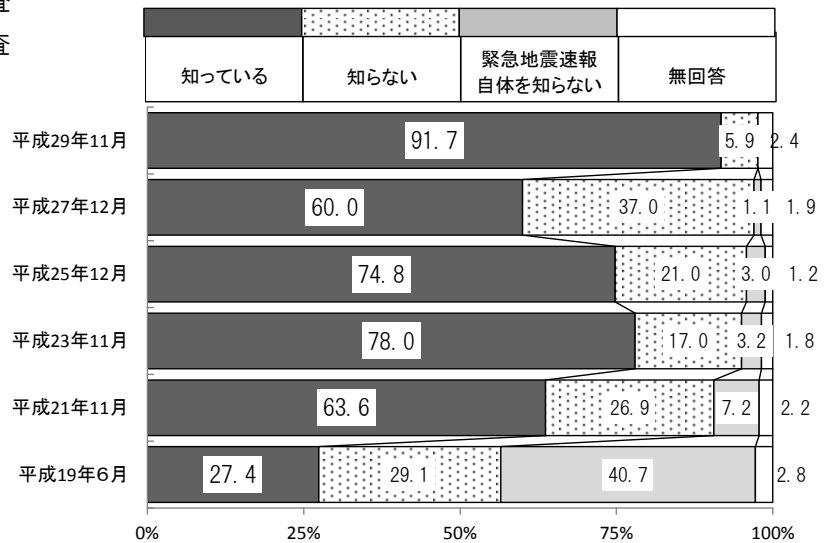


緊急地震速報の認知についてたずねたところ、「知っている」(91.7%)、「知らない」(5.9%)となっている。

緊急地震速報についての認知

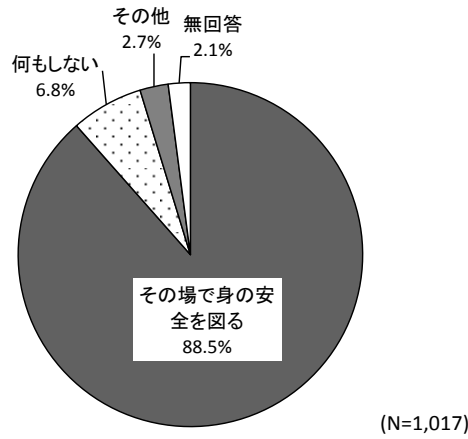
<経年比較>

経年比較でみると、「知っている」の今回調査(91.7%)は、平成27年12月の前回調査(60.0%)より31.7ポイント高くなっている。



8-4 緊急地震速報入手時の行動

問34 あなたは、屋内で緊急地震速報を受け取ったとき、まずはどのように行動しますか。

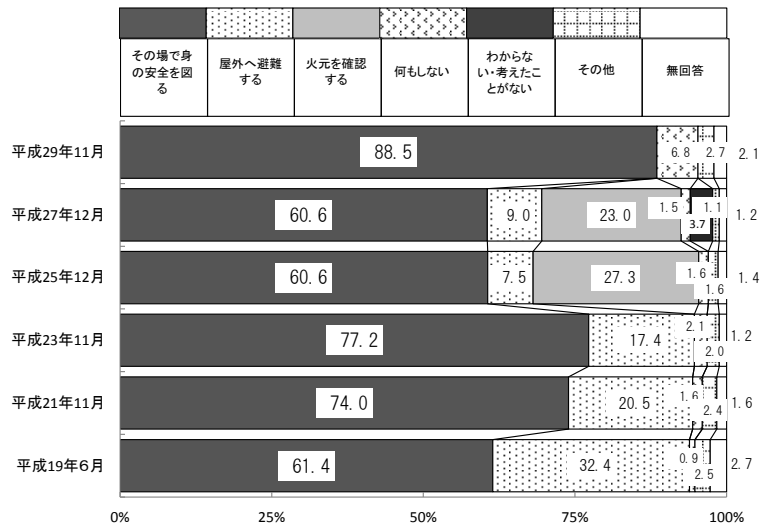


緊急地震速報入手時の行動についてたずねたところ、「その場で身の安全を図る」（88.5%）、「何もしない」（6.8%）となっている。

緊急地震速報入手時の行動

<経年比較>

経年比較でみると、「その場で身の安全を図る」は、今回調査（88.5%）と平成27年12月の前回調査（60.6%）を27.9ポイント高くなっている。

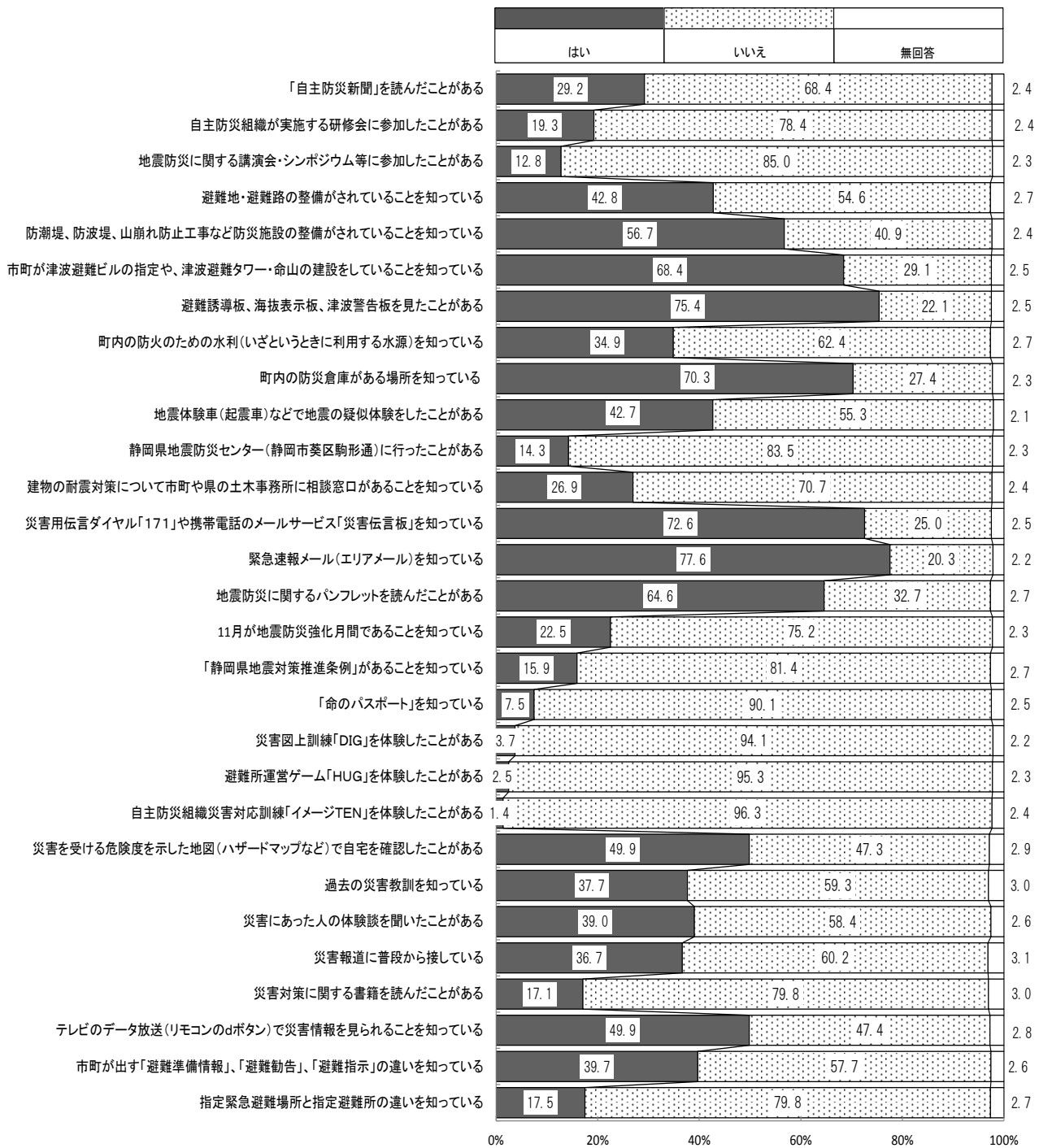


※「火元を確認する」という項目は、平成25年度設定。

※わからない・考えたことがないという項目は平成27年度から設定。

8-5 地震防災に必要な情報の入手状況

問35 次の1～30の項目について「はい」「いいえ」の欄に○をつけてください。



地震防災情報の入手についてたずねたところ、「緊急速報メール(エリアメール)を知っている」(77.6%)が最も高く、次いで「避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある」(75.4%)、「災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている」(72.6%)、「町内の防災倉庫がある場所を知っている」(70.3%)、「市町が津波避難ビルの指定や、津波避難タワー・命山の建設をしていることを知っている」(68.4%)、「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」(64.6%)の順となっており、これら6項目は6割以上の人が「はい」と答えている。しかしながら、全体的にみると、半数以上が「いいえ」と答えた項目の方が多く、30項目中20項目となっている。

地震防災情報の入手（認知率）を**経年比較**でみると、「緊急速報メール（エリアメール）を知っている」の認知率は、今回調査（77.6%）が平成27年12月の前回調査（79.5%）より1.9ポイント低くなり、「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」の認知率は、今回調査（64.6%）が前回調査（62.9%）より1.7ポイント高くなっている。

地震防災情報の入手（認知率） <経年比較>

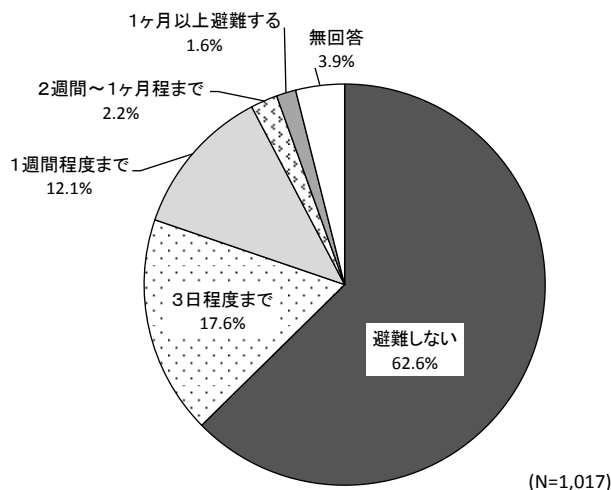
順位	地震防災情報	認知率(%)									
		平成29年 11月	平成27年 12月	平成25年 12月	平成23年 11月	平成21年 11月	平成19年 6月	平成17年 8月	平成16年 1月	平成13年 12月	平成11年 10月
1	緊急速報メール(エリアメール)を知っている	77.6	79.5	75.0	-	-	-	-	-	-	-
2	避難誘導板、海抜表示板、津波警告板を見たことがある	75.4	77.7	77.8	50.3	52.4	54.4	50.8	46.6	45.4	48.3
3	災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている	72.6	76.0	75.0	75.2	62.7	62.3	58.0	42.5	24.0	19.5
4	町内の防災倉庫がある場所を知っている	70.3	71.9	74.3	70.5	73.2	70.3	65.5	69.4	56.0	54.5
5	市町が津波避難ビルの指定や、津波避難タワー・命山の建設をしていることを知っている	68.4	70.0	68.0	32.3	18.3	19.5	18.1	12.4	12.9	12.6
6	地震防災に関するパンフレットを読んだことがある	64.6	62.9	77.6	66.0	71.6	75.0	72.5	69.4	68.3	72.3
7	防潮堤、防波堤、山崩れ防止工事など防災施設の整備がされていることを知っている	56.7	59.3	54.0	39.6	45.2	45.6	41.4	44.2	39.8	40.1
8	災害を受ける危険度を示した地図(ハザードマップなど)で自宅を確認したことがある	49.9	54.4	-	-	-	-	-	-	-	-
9	テレビのデータ放送(リモコンのdボタン)で災害情報を見られることを知っている	49.9	49.7	-	-	-	-	-	-	-	-
10	避難地・避難路の整備がされていることを知っている	42.8	40.9	40.6	32.0	35.9	36.5	33.0	32.1	31.1	34.2
11	地震体験車(起震車)などで地震の疑似体験をしたことがある	42.7	43.9	42.7	40.4	37.3	32.3	33.4	30.8	29.1	30.6
12	市町が出す「避難準備情報」、「避難勧告」、「避難指示」の違いを知っている	39.7	36.2	-	-	-	-	-	-	-	-
13	災害にあった人の体験談を聞いたことがある	39.0	40.8	-	-	-	-	-	-	-	-
14	過去の災害教訓を知っている	37.7	34.1	-	-	-	-	-	-	-	-
15	災害報道に普段から接している	36.7	33.0	-	-	-	-	-	-	-	-
16	町内の防火のための水利(いざというときに利用する水源)を知っている	34.9	33.0	39.0	36.2	37.4	37.6	35.9	39.6	44.8	44.9
17	「自主防災新聞」を読んだことがある	29.2	37.9	58.5	52.1	63.7	68.5	60.2	61.8	62.8	61.5
18	建物の耐震対策について市町や県の土木事務所に相談窓口があることを知っている	26.9	25.1	31.1	31.2	32.7	33.1	37.9	38.7	25.7	21.4
19	11月が地震防災強化月間であることを知っている	22.5	23.0	29.1	19.3	22.6	26.7	22.2	29.8	27.7	24.3
20	自主防災組織が実施する研修会に参加したことがある	19.3	14.6	21.4	16.8	21.6	20.4	17.7	18.8	19.2	19.2
21	指定緊急避難場所と指定避難所の違いを知っている	17.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22	災害対策に関する書籍を読んだことがある	17.1	16.9	-	-	-	-	-	-	-	-
23	「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている	15.9	13.9	18.5	13.9	18.5	20.4	20.8	24.5	26.2	27.1
24	静岡県地震防災センター(静岡市葵区駒形通)に行ったことがある	14.3	16.8	16.4	14.3	11.5	14.7	13.2	13.2	11.9	11.6
25	地震防災に関する講演会・シンポジウム等に参加したことがある	12.8	12.4	20.0	20.1	21.5	21.6	20.5	20.6	18.0	17.4
26	「命のパスポート」を知っている	7.5	8.8	11.4	11.1	10.9	12.4	12.2	11.3	12.6	10.1
27	災害図上訓練「DIG」を体験したことがある	3.7	3.7	4.1	-	-	-	-	-	-	-
28	避難所運営ゲーム「HUG」を体験したことがある	2.5	2.4	1.9	-	-	-	-	-	-	-
29	自主防災組織災害対応訓練「イメージTEN」を体験したことがある	1.4	1.1	1.6	-	-	-	-	-	-	-

※「緊急速報メール（エリアメール）を知っている」「県が「静岡県第4次地震被害想定」を策定したことを知っている」「災害図上訓練「DIG」を体験したことがある」「避難所運営ゲーム「HUG」を体験したことがある」「自主防災組織災害対応訓練「イメージTEN」を体験したことがある」の5項目は平成25年度に設定した。

9 不確実な地震予測情報下での避難と規制について

9-1 不確実な地震予測情報下での避難行動

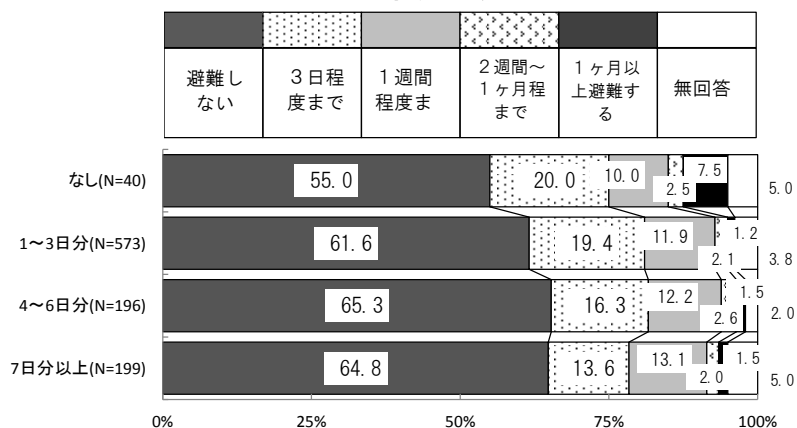
問36 このような状況においても、あなたは避難すると思いますか。避難するとお考えの場合、その期間は最長でどれ位ですか。以下に示す期間から選択してください。【新規設問】



不確実な情報下での受忍期間についてたずねたところ、「避難しない」（62.6%）が最も高く、次いで「3日程度まで」（17.6%）、「1週間程度まで」（12.1%）、「2週間～1ヶ月程まで」（2.2%）、「1ヶ月以上避難する」（1.6%）の順となっている。

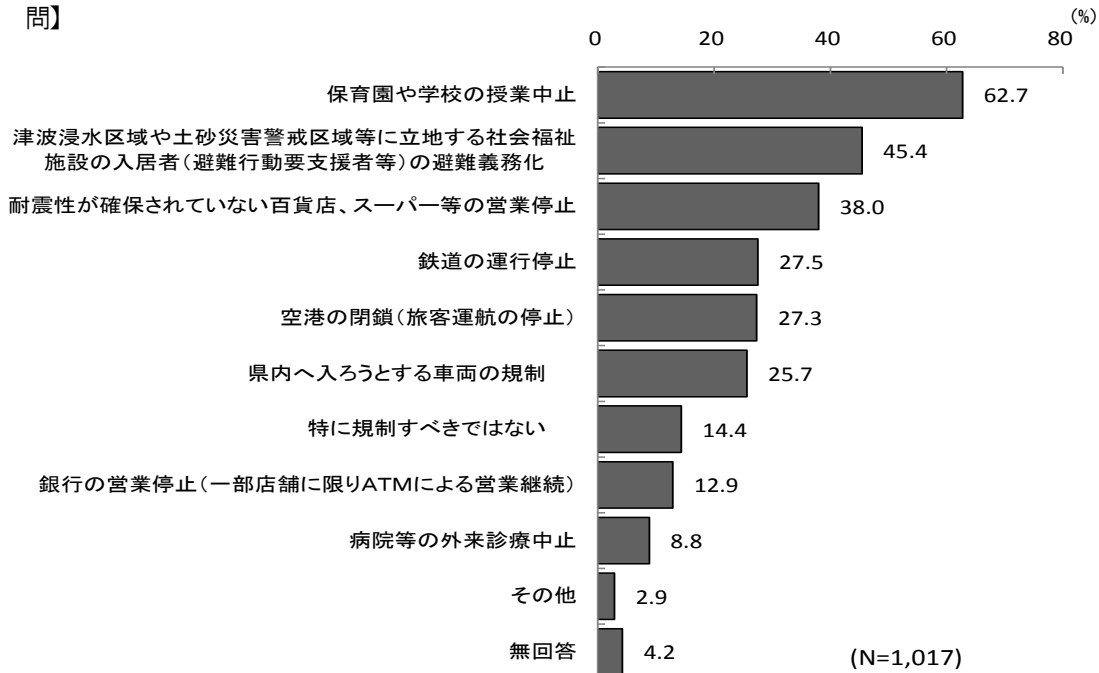
不確実な情報下での受忍期間 ＜備蓄食料数別＞

備蓄食料日数別で見ると、「避難しない」は、備蓄食料が『4～6日分』（65.3%）が最も高く、『なし』（55.0%）が最も低くなっている。



9-2 不確実な地震予測情報下での社会的規制の必要性

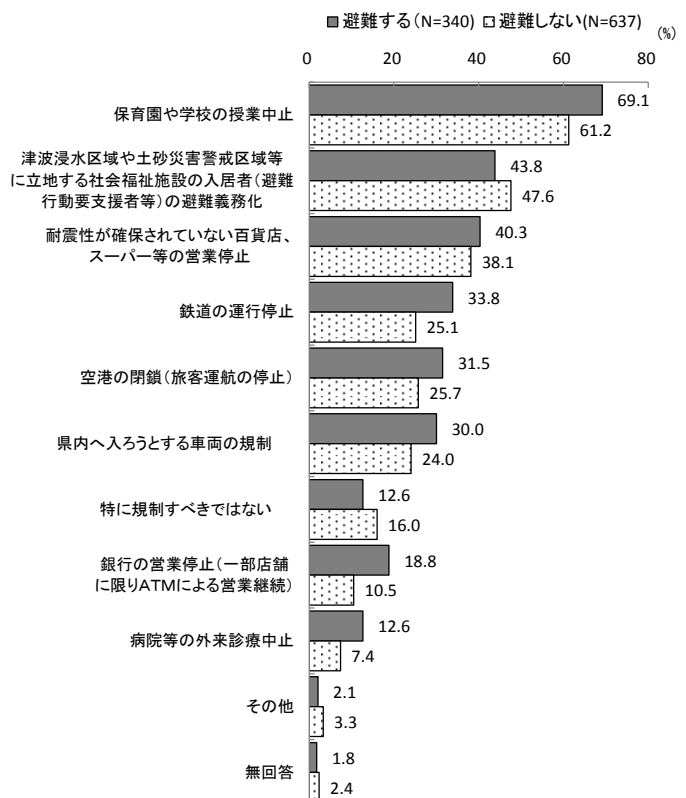
問37 このような状況で、混乱を避け万一の被害を減らすためには、何らかの社会的な規制が必要になると考えます。その時、どの程度の規制であればやむを得ないと思いますか。以下の中から選択してください。(MA)【新規設問】



不確実な情報下での社会的な規制の必要性についてたずねたところ、「保育園や学校の授業中止」(62.7%)が最も高く、次いで「津波浸水区域や土砂災害警戒区域等に立地する社会福祉施設の入居者(避難行動要支援者等)の避難義務化」(45.4%)、「耐震性が確保されていない百貨店、スーパー等の営業停止」(38.0%)、「鉄道の運行停止」(27.5%)、「空港の閉鎖(旅客運航の停止)」(27.3%)の順となっている。

社会的規制の必要性<避難するかしないか別>

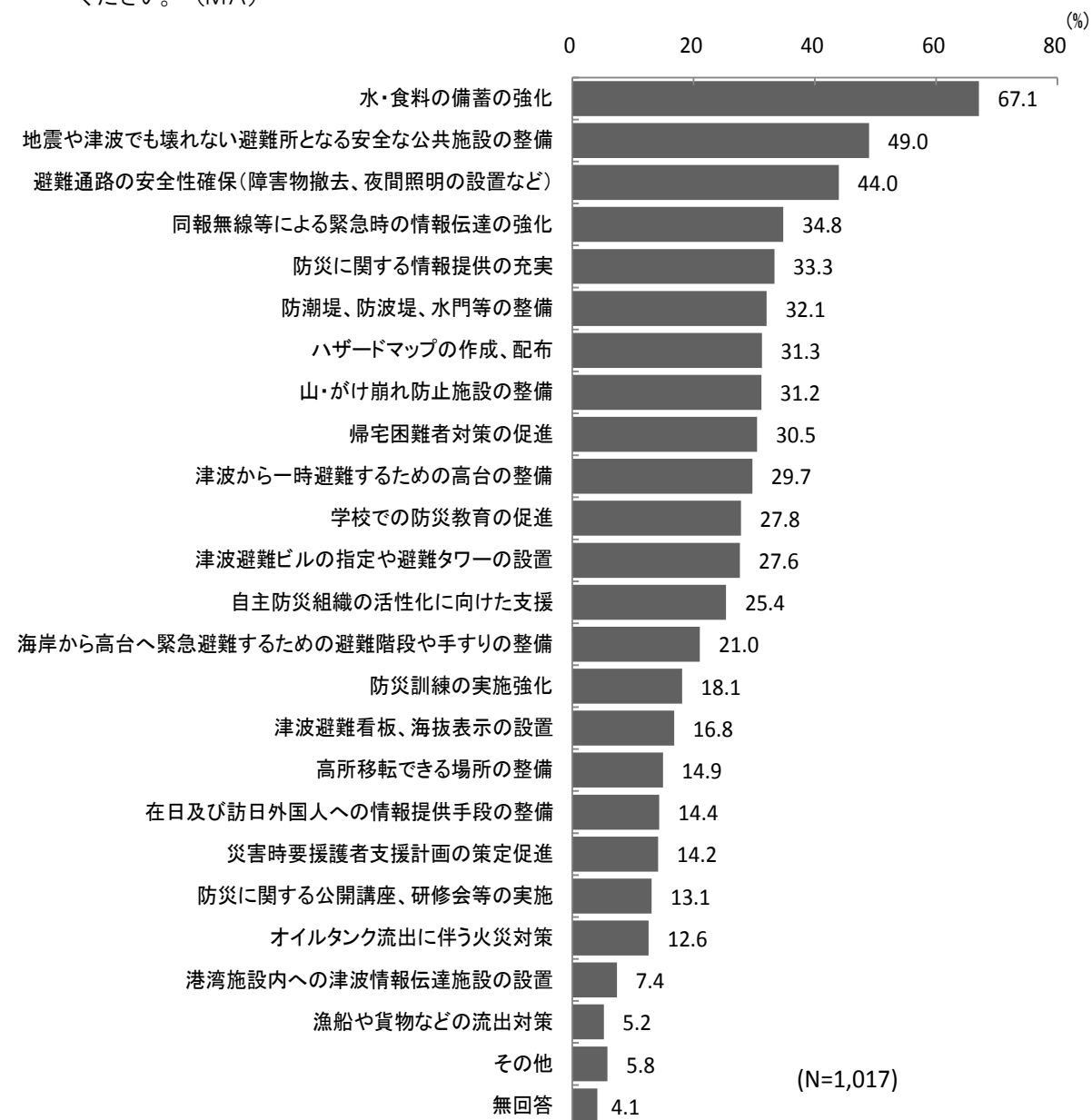
問36の避難するかしないか別でみると、「保育園や学校の授業中止」は、『避難する』(69.1%)が『避難しない』(61.2%)より7.9ポイント高くなっている。「特に規制すべきではない」は、『避難する』(12.6%)が『避難しない』(16.0%)より3.4ポイント低くなっている。



10 その他

10-1 今後の行政への要望

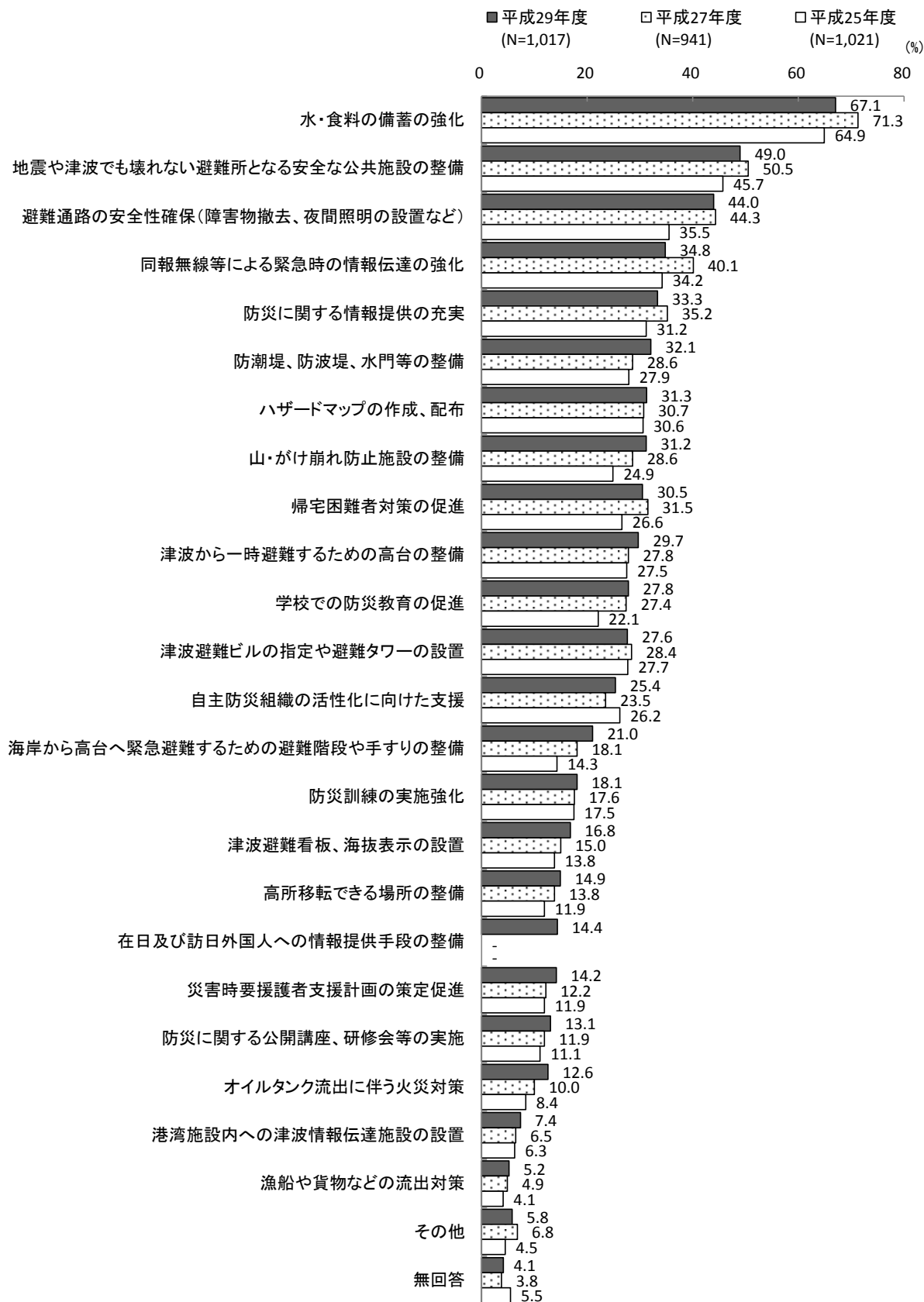
問38 あなたは、今後、県や市町に対して要望することがあります。次の中からあてはまるものをいくつでもお答えください。(MA)



今後の行政に要望することをたずねたところ、「水・食料の備蓄の強化」(67.1%)が最も高く、次いで「地震や津波でも壊れない避難所となる安全な公共施設の整備」(49.0%)、「避難通路の安全性確保(障害物撤去、夜間照明の設置など)」(44.0%)、「同報無線等による緊急時の情報伝達の強化」(34.8%)、「防災に関する情報提供の充実」(33.3%)、「防潮堤、防波堤、水門等の整備」(32.1%)、「ハザードマップの作成、配布」(31.3%)、「山・がけ崩れ防止施設の整備」(31.2%)、「帰宅困難者対策の促進」(30.5%)の順となっており、これら9項目が3割を超えている。

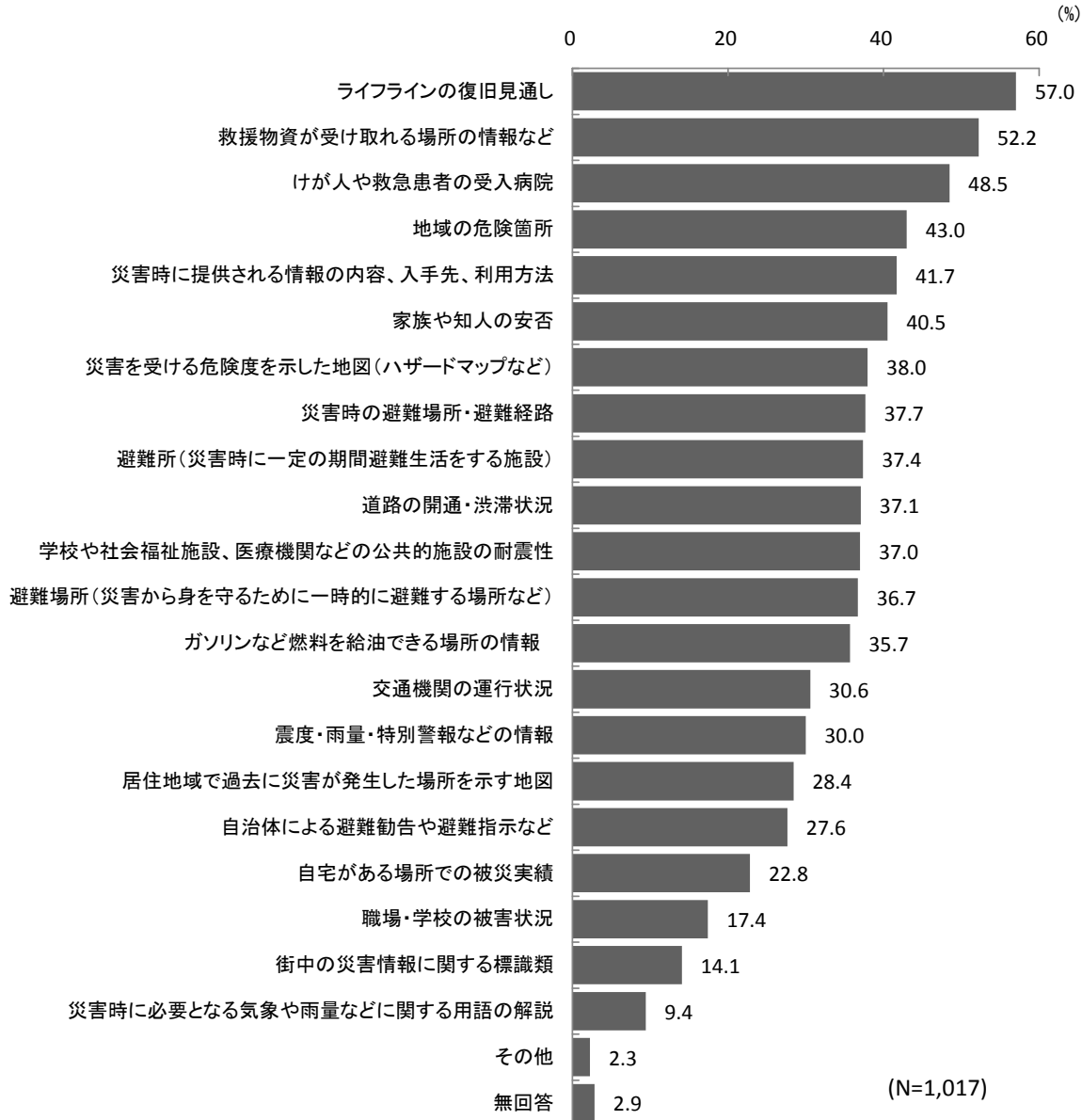
経年比較でみると「防潮堤、防波堤、水門等の整備」は、今回調査（32.1%）が平成27年12月の前回調査（28.6%）より3.5ポイント、「山・がけ崩れ防止施設の整備」は、今回調査（31.2%）が前回調査（28.6%）より2.6ポイント、「海岸から高台へ緊急避難するための避難階段や手すりの整備」は、今回調査（21.0%）が前回調査（18.1%）より2.9ポイント高くなっている。

県や市町への要望<経年比較>



10-2 充実して欲しい情報

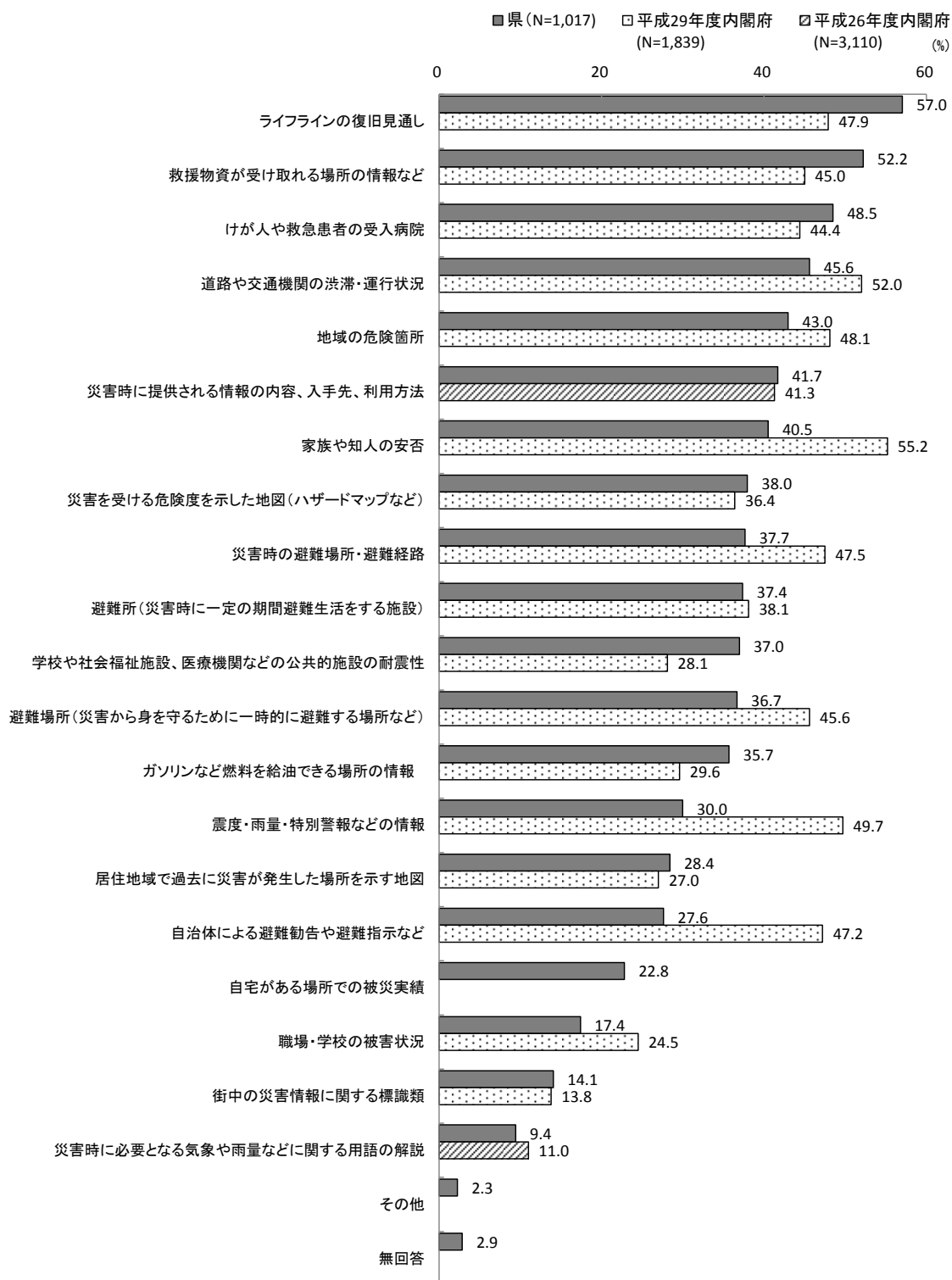
問 39 (自然災害全般についてお聞きします) あなたがお住まいになっている地域で、災害の危険性に関する情報、災害対策に役立つ情報、災害時に提供される情報で、現在より充実して欲しいものは何ですか。(MA)



災害の危険性に関する情報、災害対策に役立つ情報、災害時に提供される情報で、現在より充実して欲しいものについてたずねたところ、「ライフラインの復旧見通し」(57.0%)が最も高く、次いで「救援物資が受け取れる場所の情報など」(52.2%)、「けが人や救急患者の受入病院」(48.5%)、「地域の危険箇所」(43.0%)、「災害時に提供される情報の内容、入手先、利用方法」(41.7%)、「家族や知人の安否」(40.5%)の6項目が4割を超えている。

内閣府調査との比較でみると「ライフラインの復旧見通し」は57.0%と、『内閣府』（47.9%）より9.1ポイント上回っている。また、「救援物資が受け取れる場所の情報など」は52.2%と、『内閣府』（45.0%）より7.2ポイント上回っている。一方、「自治体による避難勧告や避難指示など」は27.6%と、『内閣府』（47.2%）より19.6ポイント下回っている。また、「家族や知人の安否」は40.5%と、『内閣府』（55.2%）より14.7ポイント下回っている。

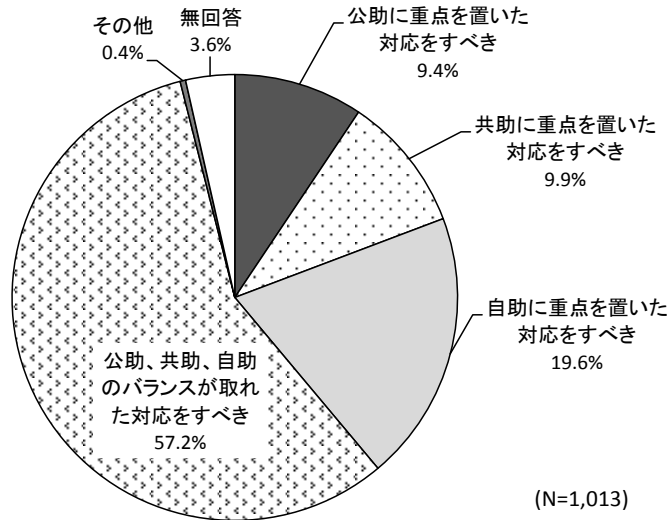
充実して欲しい情報<内閣府調査との比較>



※内閣府の調査では「災害時に提供される情報の内容、入手先、利用方法」「災害時に必要となる気象や雨量などに関する用語の解説」の選択肢がないため、平成26年度の内閣府調査のデータと比較している。また、内閣府の調査と比較するため、県の「交通機関の運行状況」「道路の開通・渋滞状況」を再集計し、内閣府の「道路や交通機関の渋滞・運行状況」と比較している。

10-3 重点を置くべき防災対策（公助、共助、自助）

問 40 災害が発生した時にその被害を軽減するため取る対応について、国や地方公共団体による「公助」、地域の住民やボランティア、企業などの連携による「共助」、自ら身を守る「自助」というものがあります。災害発生時に取るべき対応として、このなかからあなたの気持ちに最も近いものを1つお答えください。

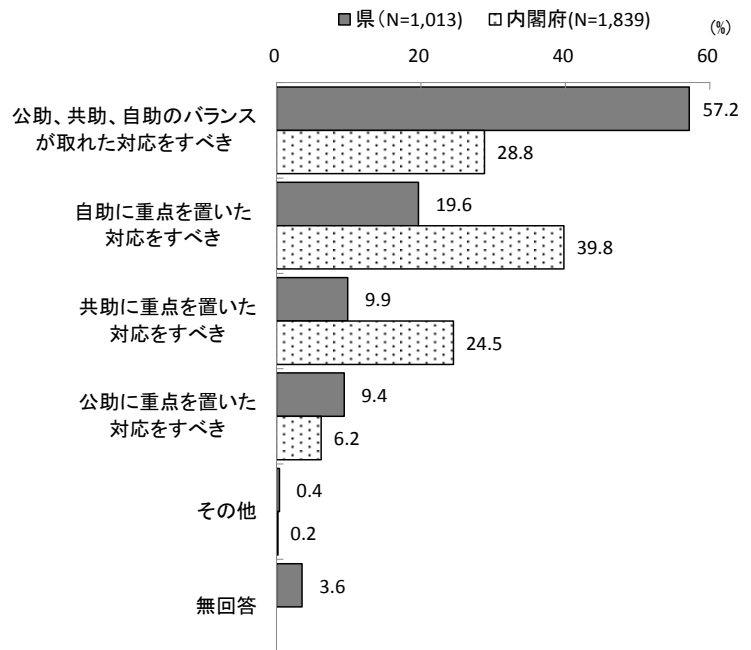


※○を2つ以上の回答をした4件は無効回答とした。

災害発生時に取るべき対応についてたずねたところ、「公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべき」（57.2%）が最も高く、次いで「自助に重点を置いた対応をすべき」（19.6%）、「共助に重点を置いた対応をすべき」（9.9%）、「公助に重点を置いた対応をすべき」（9.4%）の順となっている。

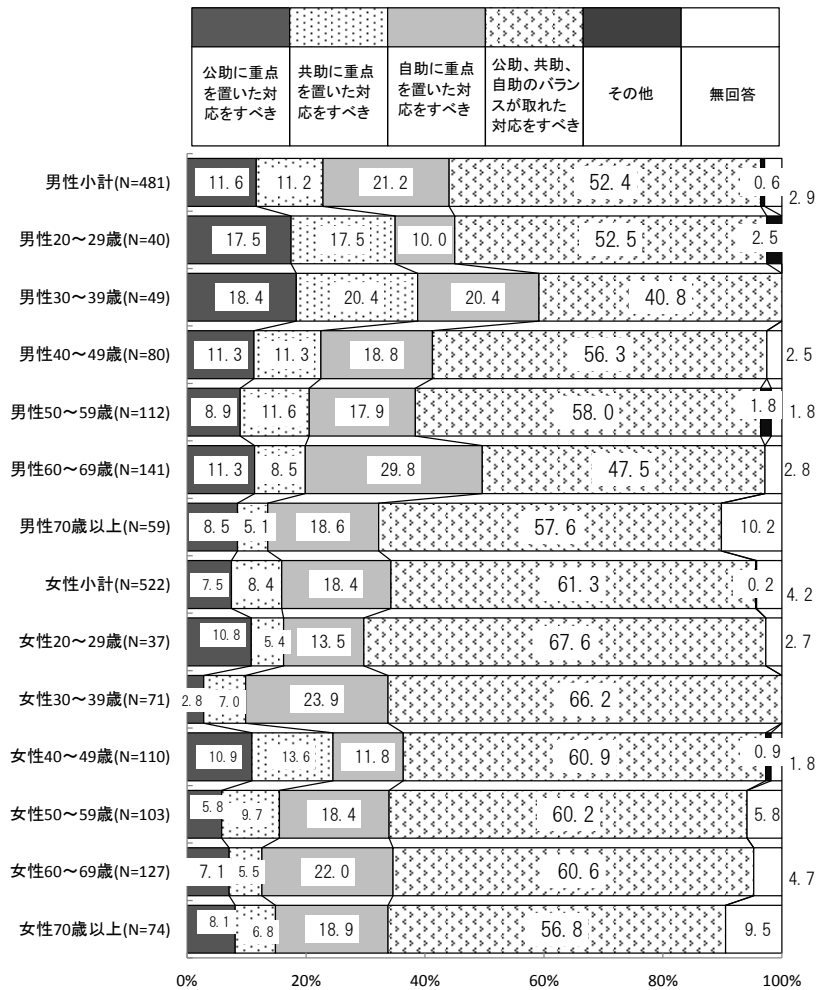
公助、共助、自助＜内閣府調査との比較＞

内閣府調査との比較でみると、「公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべき」は57.2%と、『内閣府』（28.8%）より28.4ポイント上回っている。一方、「自助に重点を置いた対応をすべき」は19.6%と、『内閣府』（39.8%）より20.2ポイント下回っている。「共助に重点を置いた対応をすべき」は9.9%と、『内閣府』（24.5%）より14.6ポイント下回っている。



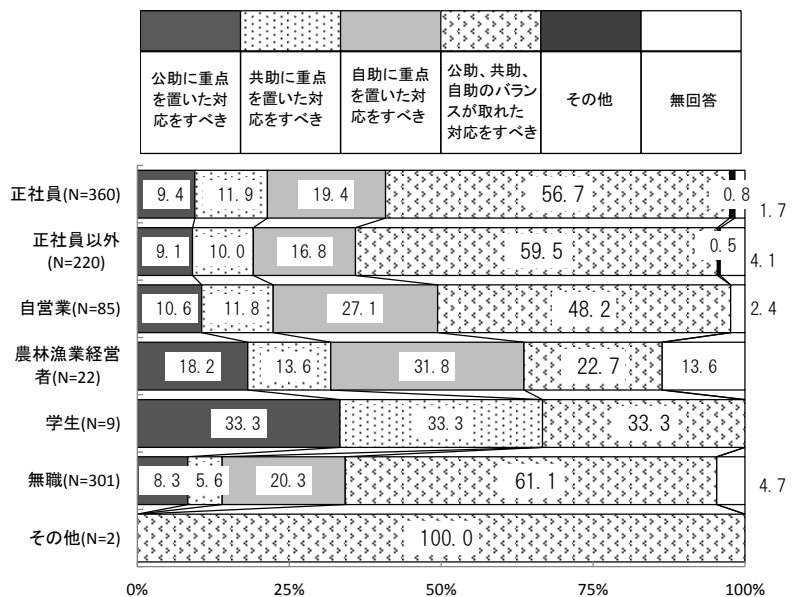
性・年齢別でみると、「公助に重点を置いた対応をすべき」は、『男性30～39歳』（18.4%）が最も高くなっている。また、「自助に重点を置いた対応をすべき」は、『男性60～69歳』（29.8%）が最も高くなっている。一方、「公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべき」は、『女性20～29歳』（67.6%）が最も高くなっている。

公助、共助、自助 <性・年齢別>



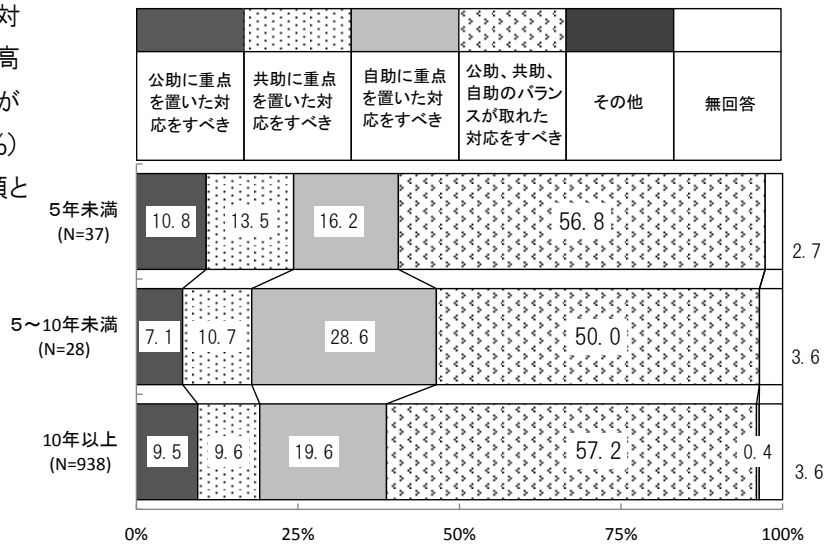
職業別でみると、いずれの職業でも「公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべき」が最も高く、『無職』（61.1%）、『正社員以外』（59.5%）、『正社員』（56.7%）が高くなっている。また、「自助に重点を置いた対応をすべき」は、『農林漁業経営者』（31.8%）が最も高くなっている。

公助、共助、自助 <職業別>



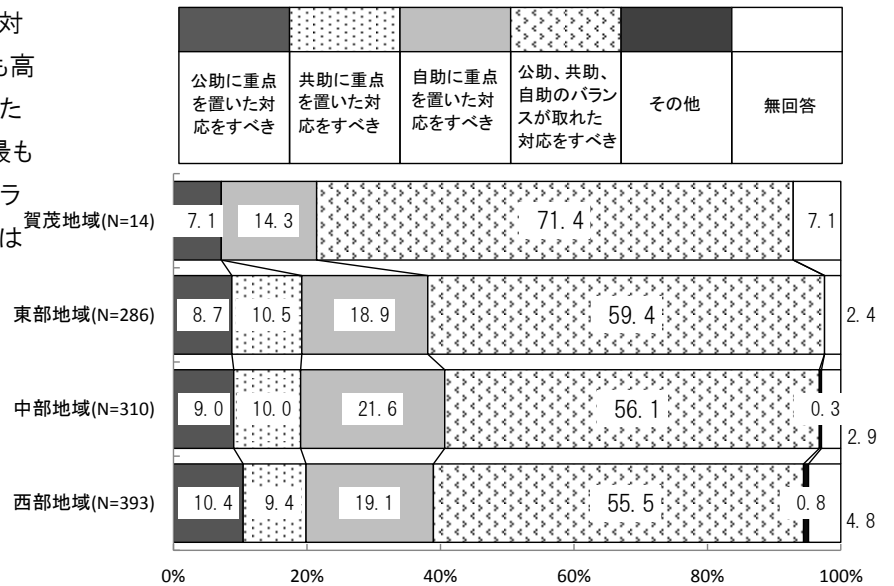
公助、共助、自助<居住年数別>

居住年数別でみると、「公助に重点を置いた対応をすべき」は、『5年未満』(10.8%)が最も高くなっている。「公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべき」は、『10年以上』(57.2%)が最も高く、次いで『5年未満』(56.8%)の順となっている。



公助、共助、自助<地域別>

地域別でみると、「公助に重点を置いた対応をすべき」は、『西部』(10.4%)が最も高くなっている。また、「自助に重点を置いた対応をすべき」は、『中部』(21.6%)が最も高くなっている。「公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべき」は、『賀茂』は(71.4%)と最も高くなっている。



南海トラフ地震（東海地震）についての県民意識調査

ご協力をお願い

ご記入にあたってのお願い

- ◆ご回答は、封書宛名のご本人がお答えください。
- ◆全体で30分程度かかります。記入へのご協力をお願いします。
- ◆ご回答は、選択肢の中から当てはまる番号や記号に○をつけてください。
「その他」の番号に○をつけた方は、（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- ◆回答によっては、一部の方だけにその後の質問にお答えいただくものがあります。
その場合、「→」などで説明を加えてありますので、説明に従ってお答えください。
- ◆ご記入は、赤以外であれば、どのような筆記用具でも構いません。
- ◆ご回答の内容は、統計的に処理を行うこととし、その秘密の保持には十分配慮しますので、ご回答いただいた方に迷惑をかけることは決してありません。
- ◆ご記入が済みましたら、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、11月2日（木）までにご投函をお願いします。
- ◆ご不明な点等がございましたら、恐れ入りますが下記までご連絡ください。

静岡県危機管理部危機情報課（担当：友寄^{ともより}、杉浦）
静岡市葵区追手町9番6号
TEL 054-221-2459
E-mail boujou@pref.shizuoka.lg.jp

まずは、あなた様やお宅のことについてご記入ください。

F 1 性別 (○は1つ)

1 男性	47.4%	2 女性	51.6%
無回答 1.0%			

F 2 出身 (○は1つ)

1 国内	98.7%	2 国外 (具体的に)	0.3%
1.0%			

F 3 年齢 (○は1つ)

1 20～29 歳	7.6%	2 30～39 歳	11.8%	3 40～49 歳	18.7%
4 50～59 歳	21.2%	5 60～69 歳	26.5%	6 70 歳以上	13.3%
1.0%					

F 4 職業 (○は1つ)

1 正社員として勤務 (会社員、公務員、医療関係を含む)	35.5%		
2 正社員以外として勤務 (パート、フリーターを含む)	21.8%	3 自営業	8.4%
4 農林漁業経営者	2.2%	5 学生	0.9%
		6 無職	29.7%
7 その他 (具体的に)	0.2%		
1.4%			

F 5 あなたは、静岡県にお住みになって何年くらいになりますか。(○は1つ)

1 1年未満	0.5%	2 1～5年未満	3.1%	3 5～10年未満	2.8%
4 10年以上	92.6%				
1.0%					

F 6 あなたのお宅は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 持家 (一戸建て)	79.5%	2 持家 (マンション)	4.5%	3 賃貸 (一戸建て)	2.6%
4 賃貸 (マンション・アパート)	12.0%	5 その他 (具体的に)	0.4%		
1.0%					

F 7 あなたのお宅には次に該当する方がいますか。(○はいくつでも)

1 小学校に入学する前の子供	13.2%	2 小学生	13.3%	3 中高生	11.1%
4 日常生活に介護を必要とする方	5.9%	5 妊産婦	1.8%	6 65歳以上の方	50.5%
7 いない	27.2%				
2.1%					

F 8 あなたは、近所づきあいをどのようにしていますか。(〇は1つ)

1	ほとんどつきあいが無い	5.2%
2	挨拶をする程度	34.7%
3	ときどき立ち話をする程度	44.6%
4	留守を頼んだり、親しく話をする	14.2%
1.3%		

F 9 あなたのお住まいの市町はどちらですか。(〇は1つ)

1	下田市	0.5%	2	東伊豆町	0.3%	3	河津町	0.1%			
4	南伊豆町	0.2%	5	松崎町	0.1%	6	西伊豆町	0.2%			
7	沼津市	4.5%	8	熱海市	0.7%	9	三島市	2.9%	10	富士宮市	3.4%
11	伊東市	1.5%	12	富士市	6.1%	13	御殿場市	2.3%	14	裾野市	1.3%
15	伊豆市	0.8%	16	伊豆の国市	1.1%	17	函南町	1.0%	18	清水町	1.0%
19	長泉町	1.5%	20	小山町	0.3%						
21	静岡市葵区	5.8%	22	静岡市駿河区	5.9%	23	静岡市清水区	5.6%			
24	島田市	3.2%	25	焼津市	3.7%	26	藤枝市	3.9%			
27	牧之原市	1.7%	28	吉田町	0.7%	29	川根本町	0.1%			
30	浜松市中区	6.8%	31	浜松市東区	3.6%	32	浜松市西区	3.0%	33	浜松市南区	3.2%
34	浜松市北区	2.4%	35	浜松市浜北区	3.3%	36	浜松市天竜区	1.0%			
37	磐田市	5.2%	38	掛川市	3.5%	39	袋井市	2.5%			
40	湖西市	1.7%	41	御前崎市	0.7%	42	菊川市	1.2%	43	森町	0.5%
1.0%											

以下の設問にある「南海トラフ地震（東海地震）」については、南海トラフ・駿河トラフ沿いの大地震や相模トラフ沿いの大地震など静岡県で甚大な被害の発生が懸念されている大規模地震をイメージしてお答えください。

1 南海トラフ地震（東海地震）について

問1 あなたは現在、南海トラフ地震（東海地震）にどの程度の関心を持っていますか。（〇は1つ）

1 非常に関心がある	36.1%
2 多少関心がある	54.1%
3 あまり関心はない	8.1%
4 全く関心はない	1.1%

0.7%

問2 あなたは、南海トラフ地震（東海地震）が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。（〇は1つ）

1 よく知っている	5.9%
2 ある程度知っている	50.9%
3 あまり知らない	36.4%
4 全く知らない	6.3%

0.5%

問3 あなたは、南海トラフ地震（東海地震）が起こった場合、どのようなことが心配ですか。（〇はいくつでも）

1 津波、浸水、堤防の決壊	50.6%	2 土砂崩れ、崖崩れ	25.4%
3 地割れ、陥没	32.6%	4 液状化現象	21.5%
5 火災の発生	55.7%	6 ガスなどの危険物の爆発	24.9%
7 建物（自宅を含む）の倒壊	80.7%	8 タンス・冷蔵庫などの家具類の転倒	39.0%
9 外出先での避難方法がわからないこと	24.3%	10 外出先・勤務先から帰宅できなくなること	38.0%
11 家族の安否の確認ができなくなること	60.7%	12 生産活動の停止	15.6%
13 治安の混乱	17.8%	14 近くに避難場所がないこと	6.1%
15 食料や飲料水の確保が困難になること	68.1%	16 ガソリン・灯油などの燃料不足	27.9%
17 日用品の不足	46.5%	18 電気、水道、ガスの供給停止	67.2%
19 原子力発電所事故	37.7%	20 避難所生活	52.5%
21 心配なことはない	0.2%		
22 その他（具体的に)	3.7%

0.5%

問4 あなたが海岸付近にいる際に突発的に南海トラフ地震（東海地震）があり津波が発生した場合、どのタイミングで避難すると思うかについてお答えください。（○は1つ）

1	揺れが収まったら	55.1%
2	スマートフォンなどで津波の危険性があるか確認し、危険を認知したら	11.6%
3	津波警報を見聞きしたら（自治体からの呼びかけ含む）	22.2%
4	周りの人が避難している姿を見たら	5.1%
5	海の水が引いているのを見たら	3.2%
6	沖合に高い波が見えたら	0.6%
7	足下に水が来たら	0.1%
8	その他（具体的に	） 1.1%

1.0%

問5 南海トラフ地震（東海地震）が発生した場合、津波は、一番はやいところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来ると思いますか。（○は1つ）

1	地震発生直後～5分	43.8%	2	6～10分	31.4%	3	11～20分	9.9%
4	21～30分	4.0%	5	31～60分	1.9%	6	わからない	8.3%

0.8%

問6 平常時に県や市町から南海トラフ地震（東海地震）等の情報を提供する場合、皆さまに確実に伝わると思う方法は次のどれですか。（○は3つまで）

1	新聞記事	20.2%
2	パンフレットの全戸配布	29.2%
3	新聞の折り込みチラシ	4.6%
4	インターネットでの受信	9.1%
5	Eメール（パソコン）での受信	2.7%
6	Eメール（携帯電話）	35.1%
7	県や市町の広報誌	15.8%
8	テレビによる報道	69.7%
9	ラジオによる報道	22.4%
10	自主防災新聞	1.8%
11	スマホアプリ	13.3%
12	ツイッター、フェイスブック	5.0%
13	市町の同報無線による放送（こちらは広報○○です で始まる放送）	43.7%

0.4% 無効回答31件

2 日ごろの防災対策について

まずはこちらをご覧ください。↓↓

水・食料は1週間以上!!無理せず備蓄する「ローリングストック」を進めましょう!

南海トラフ巨大地震のような大規模災害時、公的な支援物資はすぐに届かないかもしれません。また、スーパー・コンビニなどのお店にも人が殺到し、すぐに品切れになることも予想されます。家庭で自活するためにも、家庭において水・食料とも、1週間分以上の備蓄をお願いします。

1週間を想定した工夫と備えの例



1~2日目 冷凍・冷蔵庫の食材を活用してみよう。



食パン・野菜は、そのまま自然解凍して食べてもOK

氷は溶かせば貴重な飲料水にもなります!!



冷蔵庫を上手に活用し、ご飯やパン、野菜、冷凍食品などを少し多めに備蓄しましょう!!



3~7日目 ローリングストック法(回転備蓄)を使って非常食などを活用!!

ローリングストック法とは?

日常使う食材や非常用食料を、定期的に食べて、食べた分を買い足し備蓄していく方法。インスタントラーメンやレトルト食品も非常食として扱えます。



備蓄しておくといよもの

缶詰
野菜や果物の缶詰で栄養補給ができます。



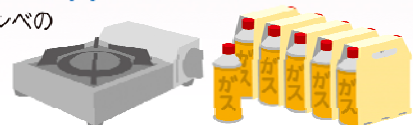
フリーズドライ食品
スープ類は食欲がないときでも摂りやすい食品です。

※乾物や漬物、チョコレートなどのお菓子も災害時には貴重な食料となり得ます。



災害時は停電などのため、調理にはカセットコンロとガスボンベが欠かせません。

お気に入りのレトルト食品を災害時でもおいしくいただくために、カセットボンベの買い置きを少し多めに(15~20本程度)用意して、災害時に備えましょう!



非常時の買い占めよりも、普段の生活で食べるものを中心に、ローリングストックで、少しの努力で無理なく、おいしく、備えましょう!!

問7 左ページで解説したローリングストック法について知っていましたか。

1 知っていた	49.2%	2 知らなかった	47.7%
---------	-------	----------	-------

3.1%

問8 今、災害が発生したと仮定して、あなたのお宅では、利用できる食料は家族の何日分ありますか。
(該当箇所に○を1つ)

なし	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	それ以上
3.9	6.0	16.8	33.5	5.2	13.3	0.8	12.6	0.5	0.0	3.7	0.0	0.1	0.0	0.4	2.3

<問8で7日未満に該当した方にお伺いします。>

0.9%

問8-1 県では現在、各家庭で災害時に利用できる食料として、家族の7日以上用の用意を勧めています。
あなたのお宅で現在のところ7日以上用の食料を用意してしないのはどのような理由からですか。
(○はいくつでも)

1 手間がかかるから	27.3%
2 費用がかかるから	31.6%
3 何を準備するとよいかわからないから	23.5%
4 保管する場所がないから	41.0%
5 行政や自主防災組織が用意してくれると思うから	8.8%
6 南海トラフ地震(東海地震)が起こるとは思わないから	4.2%
7 7日以上が必要とは知らなかったから	38.2%
8 その他(具体的に)	9.4%

<問8で7日未満に該当した方にお伺いします。>

1.0%

問8-2 食料が必要となった場合はどのようにして確保しますか。(○はいくつでも)

1 地震が起きてから準備する	10.9%	2 東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する	25.7%
3 自主防災組織からもらう	23.9%	4 避難所でもらう	51.2%
5 考えていない	21.1%	6 その他(具体的に)	7.0%

3.2%

<問8で「なし」以外を選んだ方にお伺いします。>

問8-3 災害時に利用できる食料の用意のために何をしていますか。(○はいくつでも)

1 非常食(アルファ化米、乾パン・缶詰等)を備蓄している	33.5%
2 日常的に利用する保存・調理が容易な食品(レトルト食品・インスタントラーメン・果物等)を備蓄している	60.6%
3 普段から多めに食料等を買うようにしている	19.7%
4 その他(具体的に)	3.2%

24.8%

<全ての方にお伺いします。>

問9 改めて伺います。あなたのお宅にある食料を全てかき集めれば(菜園があればそれも含む)家族で1週間だけなら耐えしのぐ事はできますか。(○は1つ)

1 できる	57.7%	2 できない	40.7%
-------	-------	--------	-------

1.6%

問10 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。(○は1つ)

1 備蓄していない	21.4%	2 1～3日分	45.5%	3 4～6日分	16.4%	4 7日以上	15.5%
-----------	-------	---------	-------	---------	-------	--------	-------

1.1%

<問10で「4 7日以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問10-1 県では現在、災害時に備えて、各家庭で家族の7日以上の飲料水の備蓄を勧めています。あなたのお宅で現在のところ7日以上の飲料水を備蓄していないのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1 手間がかかるから	24.6%
2 費用がかかるから	22.3%
3 何を準備するとよいかわからないから	4.4%
4 保管する場所がないから	44.9%
5 行政や自主防災組織が用意してくれるから	8.6%
6 南海トラフ地震(東海地震)が起こるとは思わないから	3.1%
7 7日以上が必要とは知らなかったから	31.8%
8 その他(具体的に)	8.0%

13.0%

<問10で「4 7日以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問10-2 飲料水が必要となった場合はどのようにして確保しますか。(○はいくつでも)

1 地震が起きてから準備する	13.3%
2 東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する	23.9%
3 自主防災組織からもらう	23.9%
4 避難所でもらう	48.8%
5 考えていない	17.0%
6 その他(具体的に)	8.4%

11.6%

<全ての方にお伺いします。>

問11 あなたのお宅では、何日分の携帯トイレ・簡易トイレ(ビニール袋などによる代用を含む)を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり5回分で計算してください。(○は1つ)

1 備蓄していない	56.4%	2 1～3日分	22.8%	3 4～6日分	7.9%	4 7日以上	11.8%
-----------	-------	---------	-------	---------	------	--------	-------

1.1%

<問11で「1 備蓄していない」を選んだ方にお伺いします>

問11-1 被災時にはどのような対応を想定していますか。(○は1つ)

1 自宅のトイレが使えると思う	13.8%
2 考えていない	65.5%
3 その他(具体的に)	19.0%

1.7%

<全ての方にお伺いします。>

問12 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。(〇は1つ)

1 大部分固定している	21.4%
2 一部固定している	42.9%
3 固定していない	34.5%

<問12で「2 一部固定している」または「3 固定していない」を選んだ方にお伺いします。> 1.2%

問12-1 どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

1 建物や家具を傷めるから	11.7%
2 手間がかかるから	33.5%
3 費用がかかるから	22.0%
4 家具類を置いていない安全な部屋があるから	23.0%
5 固定をしても被害は出ると思うから	14.7%
6 南海トラフ地震(東海地震)が起こると思わないから	1.7%
7 借家だから	10.7%
8 固定方法がわからないから	9.1%
9 部屋の見た目が悪くなるから	4.7%
10 タンスなどには下に重い物を、上に軽い物を収納しているから	4.1%
11 固定方法がわかっても自分で固定できないと思うから	9.8%
12 やろうと思っているが先延ばしにしているから	41.0%
13 地震が起きても転倒・落下・移動しないと思うから	2.0%
14 転倒・落下・移動しても危険ではないと思うから	5.6%
15 その他(具体的に)	8.9%

<全ての方にお伺いします。>

1.4%

問13 あなたのお宅では、ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。(〇は1つ)

1 点検している	13.1%	2 点検していない	31.6%
3 ブロック塀や門柱などはない	54.2%		

<問13で「1 点検している」を選んだ方にお伺いします。> 1.2%

問13-1 点検結果はいかがでしたか。(〇は1つ)

1 安全	79.7%	2 安全ではない	17.3%
------	-------	----------	-------

<問13で「1 点検している」または「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。> 3.0%

問13-2 現在、静岡県では危険なブロック塀の撤去、改善に対して補助する制度がありますが、このことをご存知ですか。(〇は1つ)

1 知っている	17.2%	2 知らなかった	75.1%
---------	-------	----------	-------

<問13で「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。> 7.7%

問13-3 どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

1 点検するまでもなく危険だから	5.9%	2 点検方法が分からないから	40.8%
3 費用がかかるから	22.7%	4 借家だから	9.0%
5 手間がかかるから	17.4%	6 点検しなくても大丈夫だと思うから	26.2%
7 防災対策をしても被害が出ると思うから	6.9%	8 南海トラフ地震(東海地震)が起こると思わないから	1.6%
9 その他(具体的に)	15.9%		

<全ての方にお伺いします。>

問 14 次にあげるものの中で、南海トラフ地震（東海地震）に備えて自宅や日常生活で実施している防災対策がありますか。質問項目のA欄～D欄のどれか一つに○をお付けください。

(※D欄 質問項目は該当しないとは、例 家具を固定済、ガスを使っていない、石油ストーブなしなど)

質 問 項 目	A欄 実施している	B欄 平成30年12月 までに実施 する予定	C欄 実施しない	D欄 質問項目は 該当しない
1 家具を何も置いていない部屋を寝室にしている	39.4%	4.6%	41.1%	9.1%
2 ガスを使わないときには元栓を締めるようにしている	30.2%	5.6%	36.5%	23.4%
3 火気器具のまわりを整理するようにしている	74.0%	3.6%	9.6%	8.1%
4 石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにしている	52.5%	0.7%	4.2%	38.9%
5 風呂に水を入れるようにしている	35.3%	5.0%	51.9%	2.5%
6 消火器や水を入れたバケツなどを用意するようにしている	41.8%	7.5%	44.2%	2.2%
7 ガラス飛散防止をしている	17.1%	7.3%	67.6%	3.1%
8 防災用品（非常持出品を含む）を準備している	52.6%	18.4%	23.6%	1.4%
9 棚の上の重いものをおろしている	55.8%	8.4%	27.3%	4.7%
10 割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意している	58.1%	12.5%	24.2%	1.2%
11 防災についての家族の役割を話しあっている	17.0%	22.7%	49.7%	4.8%
12 家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めている	38.8%	18.0%	35.7%	2.6%
13 家族との連絡方法を決めている	36.6%	22.4%	32.4%	3.5%
14 地震の時に避難する場所を決めている	55.0%	15.4%	23.6%	1.6%
15 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めている	35.6%	22.0%	32.7%	4.3%
16 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認している	44.3%	17.6%	28.7%	3.5%
17 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めている	18.9%	2.7%	9.0%	62.0%
18 感震ブレーカー（揺れを感知して電気を止める器具）を設置している	25.4%	7.9%	52.1%	6.9%
19 外出時には、携帯電話やスマートフォンなどの予備電池を携帯している	23.5%	15.2%	52.0%	4.3%

<問 14 で「8 防災用品（非常持出品を含む）を準備している」のA欄、B欄で○が付いた方にお伺いします。>

問 14-1 非常持出品として何を用意している、もしくは用意する予定ですか。(○はいくつでも)

1 携帯ラジオ	69.7%	2 懐中電灯	90.4%	3 予備の乾電池	50.0%
4 ヘルメット・防災頭巾	43.2%	5 非常食	74.0%	6 飲料水	69.9%
7 ティッシュペーパー・トイレトペーパー	66.9%	8 スプーン・はし・カップ	35.7%	9 下着・くつ下	43.1%
10 救急薬品・常備薬	50.1%	11 お薬手帳	26.0%	12 タオル	58.3%
13 手ぶくろ	48.3%	14 現金	36.7%	15 雨具	37.1%
16 毛布又は寝袋	30.7%	17 ビニール袋	50.8%	18 筆記用具・ノート	25.3%
19 ライター・マッチ	35.7%	20 ナイフ・缶切り	25.5%	21 生理用品・おむつ	26.0%
22 くつ・スリッパ	36.7%	23 携帯電話のバッテリー充電器	32.3%	24 カセットコンロ	34.5%

<全ての方にお伺いします。>

問15 あなたのお宅はどのような建物や家財に関わる保険に加入していますか。(〇はいくつでも)

1	地震保険	48.0%
2	火災保険	68.9%
3	家財等の保険	31.8%
4	農協の建物更生共済(建更)	20.1%
5	加入していない	9.6%
6	わからない	8.5%

<問15で「1 地震保険」を選ばなかった方にお伺いします。> 1.3%

問15-1 地震保険に加入していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1	保険料が高いから	39.5%	2	地震が起きても建物被害を受けないと思うから	6.6%
3	地震保険だけでは、家を再建できないと思うから	22.5%	4	借家だから	20.3%
5	地震は起こらないと思うから	1.0%	6	地震保険の内容がよくわからないから	10.7%
7	地震保険の加入を勧められなかったから	6.4%	8	どこに相談したらよいかわからなかったから	3.9%
9	その他(具体的に)	8.7%

11.4%

<全ての方にお伺いします。>

問16 あなたは、日常において防災対策を検討するにあたり具体的に相談したいのはどこですか(〇はいくつでも)

1	地元の消防団	8.6%	2	地元の自主防災組織(町内会)	28.6%
3	国	3.0%	4	県	5.4%
5	市区町	38.7%	6	防災士	5.5%
7	防災ボランティア	4.8%	8	勤務先	7.0%
9	学校	2.6%	10	近所の人	15.3%
11	地元の警察署	2.7%	12	家族や知人	30.6%
13	相談したいところはない	6.5%	14	その他(具体的に	2.7%
15	特になし	16.6%			

1.7%

問17 南海トラフ地震(東海地震)が予知され警戒宣言が発せられたときや、突然起きたときの避難のため、市町はあらかじめ避難地を指定していますが、あなたの住む地域の避難地をご存知ですか。(〇は1つ)

1	どこが避難地であるか知っている	82.3%	2	避難地があることは知っているが場所は知らない	10.9%
3	全く知らない	5.7%			

1.1%

3 住宅の耐震補強について

昭和56年以前の木造住宅は、古い耐震基準の建物で、予想される南海トラフ地震（東海地震）が発生した場合には、立地する地盤等にもよりますが、大きな被害が起こる可能性があるかと推測されます。このことを踏まえた上でお答えください。

問 18 あなたのお住まいの家は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

1 木造住宅	69.5%
2 鉄骨造住宅	14.5%
3 鉄筋コンクリート造住宅	13.9%

⇒木造住宅以外の方は、問 19 へ進んでください。 2.2%

＜問 18 で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。＞

問 18-1 あなたのお住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。（○は1つ）

1 昭和56年5月以前	29.8%	2 昭和56年6月以降	69.6%
-------------	-------	-------------	-------

⇒昭和56年6月以降の方は、問 19 へ進んでください。 0.6%

＜問 18-1 で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。＞

問 18-2 市町では、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料で実施していることを知っていますか。（○は1つ）

1 知っている	67.8%	2 知らない	30.8%
---------	-------	--------	-------

1.4%

問 18-3 今後、あなたのお住まいの家の耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがあります。次の中からあてはまるものをお選びください。（○はいくつでも）

1 相談窓口の設置	27.5%	2 地区ごとの説明会の実施	18.0%
3 専門家の派遣	18.5%	4 耐震補強工事に対する助成制度の拡充	45.5%
5 低金利資金による貸付	17.1%	6 アパート等のオーナーに対する指導	6.6%
7 なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット	16.6%		

16.6%

問 18-4 耐震診断をしたことがありますか。（○は1つ）

1 ある	30.3%	2 検討中	8.1%	3 ない	60.2%
------	-------	-------	------	------	-------

＜問 18-4 で「3 ない」を選んだ方にお伺いします。＞

1.4%

問 18-5 耐震診断をしないのはなぜですか。（○はいくつでも）

1 診断方法がわからないから	23.6%	2 手間がかかるから	26.0%
3 費用がかかるから	40.2%	4 診断しても大地震の被害は避けられないと思うから	37.0%
5 南海トラフ地震等が起こると思わないから	3.9%	6 借家だから	13.4%
7 診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わないから			8.7%
8 その他（具体的に			14.2%

1.6%

現在、静岡県では木造住宅の耐震化促進事業『プロジェクト「TOUKAI（東海・倒壊）-0（ゼロ）」』を推進しています。これは東海地震による被害を減らすため、昭和56年5月以前に建設された旧建築基準の木造住宅（約38万戸）の耐震化を促進し、震災時における人命の安全を確保するため進めている事業です。この事業内容は①専門家による無料耐震診断 ②耐震補強計画策定への補助 ③耐震補強工事への補助の3つの項目からなっています。

<全ての方にお伺いします。>

問19 あなたは『プロジェクト“TOUKAI（東海・倒壊）-0（ゼロ）”』をご存知ですか。（○は1つ）

1 知っている	14.4%	2 名前だけしか知らない	16.2%	3 知らなかった	66.9%
---------	-------	--------------	-------	----------	-------

<問19で「1 知っている」を選んだ方にお伺いします。> 2.6%

問19-1 あなたは『プロジェクト“TOUKAI（東海・倒壊）-0（ゼロ）”』をどのようにして知りましたか。（○はいくつでも）

1 新聞記事	42.5%	2 県や市町の広報誌	58.2%	3 県や市町のパンフレット	22.6%
4 県や市町に直接聞いた	3.4%	5 自主防災新聞	4.8%	6 テレビ・ラジオ	35.6%
7 回覧板	15.1%	8 県のホームページ	5.5%	9 市町のホームページ	2.7%
10 市町からのアンケート調査	2.1%	11 その他（具体的に			6.8%
					1.4%

問19-2 あなたは『プロジェクト“TOUKAI（東海・倒壊）-0（ゼロ）”』を知って、何か行った行動（現在行っている場合を含む）はありますか。次の中からあてはまるものをお選びください。（○はいくつでも）

1 簡易耐震診断を自分で行った	4.8%
2 専門家による耐震診断を実施した	15.1%
3 耐震補強計画を作成した	4.8%
4 自宅の耐震補強工事を実施した	9.6%
5 今後、自宅の耐震補強をしたいと考えている	8.9%
6 今の自宅を建て替えることにした	2.1%
7 自宅は木造住宅ではないので、特に何もしていない	14.4%
8 自宅は木造住宅であるが、耐震性は確保されているので特に何もしていない	29.5%
9 自宅は木造住宅であり、耐震性は確保されていない（または明らかではない）が、特に何もしていない	24.7%

6.8%

4 自主防災組織・防災訓練について

<全ての方にお伺いします。>

問 20 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。(〇は1つ)

1 入っている	59.7%	2 入っていない	13.5%
3 自主防災組織はない	0.4%	4 わからない	24.7%

1.8%

<問20で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

問 20-1 あなた自身は、自主防災組織の活動に参加していますか。(〇は1つ)

1 自主防災組織の会長や副会長、防災委員など、自主防災組織の役員として参加している	9.1%
2 役員以外の自主防災組織内で定まった役割(消火班、避難誘導班など)で参加している	16.0%
3 自主防災組織内で定まった役割がないが、防災訓練など何らかの活動に参加している	61.1%
4 参加していない	13.2%

0.7%

問 20-2 あなたの地区の自主防災組織の活動は活発と思いますか。(〇は1つ)

1 活発である	10.4%
2 まあまあ活発である	51.9%
3 あまり活発ではない	23.2%
4 活発ではない	5.8%
5 わからない	8.6%

0.2%

<全ての方にお伺いします。>

問21 あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

1	総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した	33.9%
2	地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した	38.4%
3	その他の防災訓練に参加した	17.1%
4	機会がなかった(訓練はなかった)	7.2%
5	参加しなかった	25.6%

1.0%

<問21で「1 総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した」「2 地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問21-1 その防災訓練はどちらで参加しましたか。(〇はいくつでも)

1	自主防災組織(町内会)での訓練に参加した	76.7%
2	職場や学校での訓練に参加した	32.6%
3	その他(訓練の実施主体を具体的に) 1.3%

0.7%

問21-2 参加してみてどのようなことを感じましたか。(〇はいくつでも)

1	防災の大切さを知る機会となった	41.1%
2	災害時に自らが取るべき行動について知る機会となった	38.7%
3	災害時の防災組織の活動について知る機会となった	27.0%
4	内容が形式的であったりイベント化したりしていた	32.5%
5	住民・企業・ボランティアなど地域全体の連携がとれていなかった	4.2%
6	参加者が限られているので、より多くの人に参加できるようにするとよいと思った	26.0%
7	家庭で防災について話し合いをするきっかけとなった	11.1%
8	その他(具体的に) 3.6%

1.0%

<問21で「5 参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。>

問21-3 参加しなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも) ◀

1	仕事や用事があったから	55.0%	2	訓練実施を知らなかったから	14.6%
3	面倒だったから	15.0%	4	参加の必要性を感じないから	5.4%
5	毎回同じ訓練内容だから	11.5%	6	具体的な日時・場所・申込方法がわからなかったから	10.0%
7	関心・興味がなかったから	6.5%	8	時間的に拘束されると思ったから	9.6%
9	自分は災害に遭わないと思ったから	0.0%			
10	その他(具体的に) 14.2%

0.8%

5 避難所について

<全ての方にお伺いします。>

問 22 災害が発生した後、自宅が損壊した場合やライフラインが使えない場合、あなたはどこで避難生活をしますか。(〇は1つ)

1 避難所	24.8%
2 自宅での生活が可能であれば自宅	58.1%
3 親戚・知人宅等	3.9%
4 車中泊	3.6%
5 わからない	6.5%
6 その他(具体的には) 1.6%

問 22-1 また、その理由はなぜですか。(〇は1つ)

1.6% 無効回答 15 件

1 物資が貰えるから	12.4%
2 周りに迷惑をかけるから	9.0%
3 プライバシーを確保したいから	33.8%
4 生活できる備蓄があるから	12.1%
5 その他(具体的には) 6.6%

26.0% 無効回答 20 件

<問 22 で「1 避難所」を選んだ方にお伺いします。>

問 22-2 避難所の運営は基本的に、そこで生活する避難者が行うということを知っていますか(〇は1つ)

1 知っていた	42.3%	2 知らなかった	54.8%
---------	-------	----------	-------

問 22-3 あなたは避難所で避難生活を送る場合、どのようなことが心配ですか。

2.8%

次の1~12について、あてはまる項目にそれぞれ1つずつ〇をつけてください。

質 問 項 目	非常に心配	ある程度心配	あまり心配はない	全く心配していない	該当しない
1 食料や水	47.6	43.5	8.5	0.4	0.0
2 日用品(毛布や下着など)	34.3	52.4	11.7	0.4	0.0
3 自分や家族が病気になったときの医療	69.8	26.2	2.4	0.4	0.0
4 乳幼児、高齢者、体の不自由な者がいるので、一般の人と一緒に生活できるか心配	26.6	25.4	11.7	1.2	31.9
5 洗濯や入浴	41.1	49.2	8.9	0.0	0.4
6 トイレ	65.3	29.8	4.4	0.0	0.0
7 応急の仮設住宅がいつ建設されるか心配	37.5	44.4	16.5	0.4	0.0
8 不安や精神的なストレスのため体調を崩してしまいそうで心配	39.9	41.9	14.9	1.6	0.0
9 プライバシー	49.2	34.3	14.5	0.8	0.0
10 離ればなれになった家族や親戚などの安否が気になる	62.9	29.8	3.6	0.4	1.6
11 ペット(犬や小鳥など)	17.7	8.5	3.6	2.4	63.3
12 避難する場所が少なく(狭く)、全ての避難者を収容できるか心配	44.8	40.3	10.5	1.6	1.2

6 南海トラフ地震（東海地震）が突然発生したときの行動について

以下の質問は、突然、震度6強（固定していない家具類はほとんど倒れ、足元をすくわれ、立っていることができないような揺れ）以上の地震が起こった場合を想定してお伺いします。

<全ての方にお伺いします。>

問 23 平日の午前 11 時頃に突然地震が起こった場合、揺れがおさまったらあなたがまず最初にすることを下記の項目の中から 1 つ選び、A 欄に○をつけてください。また、その次にすることを 3 つ選んで B 欄に○をつけてください。

選 択 項 目	A 欄 まず最初にすること (○は1つ)	B 欄 その次にすること (○は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	41.2%	34.1%
2 電話で行政に情報を確認する	0.2%	2.1%
3 インターネット(PC、スマホなど)で情報を確認する	10.7%	22.5%
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする	3.6%	48.1%
5 家の中の整理や火の始末をする	15.8%	39.4%
6 家族の安否を確認する(災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等)	12.4%	51.7%
7 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	2.7%	12.5%
8 買出しに行く	0.0%	5.1%
9 預金を引き出しに行く	0.0%	3.4%
10 帰宅する	1.9%	16.2%
11 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	3.5%	9.2%
12 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	6.3%	33.2%
13 何もしない	0.1%	0.4%

1.6% 無効回答 47 件 3.7% 無効回答 10 件

問 24 家族が離ればなれとなっている時に突然、地震が起こった場合、家族の安否を確認する手段として何を使うことを考えていますか。(○はいくつでも)

1 Eメール(携帯電話)	58.6%
2 直接電話	65.7%
3 共通の知人へ電話	7.7%
4 ツイッター(Twitter)	1.8%
5 フェイスブック(Facebook)	1.9%
6 ライン(LINE)	40.7%
7 災害用伝言ダイヤル「171」	29.6%
8 携帯電話のメールサービス「災害伝言板」	23.4%
9 共通の集合場所などを決めているので連絡を取らない	3.6%
10 特に考えていない	4.2%
11 その他(具体的に)	2.2%

2.1%

問25 突然、地震が起こった場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。(○は1つ)

1 参加する	35.1%	2 参加しない	12.5%	3 わからない	49.5%
--------	-------	---------	-------	---------	-------

<問25で「参加する」を選んだ方にお伺いします。> 2.9%

問25-1 どのような活動に参加することを考えていますか。(○はいくつでも)

1 火災発生時の初期消火	51.3%	2 要救助者の救出・救助	56.9%
3 負傷者の応急手当・搬送	44.5%	4 避難の呼びかけ、避難の誘導	40.9%
5 避難所の運営	33.9%	6 住民の安否確認	37.3%
7 避難行動要支援者の所在確認及び避難支援	14.6%	8 被害情報の収集	16.0%
			0.3%

<全ての方にお伺いします。>

問26 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。

1 まず無事だと思う	14.3%	2 軽いけがぐらいはするかもしれない	43.3%
3 大けがをする危険があると思う	13.2%	4 死ぬ恐れもあると思う	26.1%

3.1% 無効回答6件

問27 あなたがご自宅にいるときに、突然地震が起こった場合、あなたやご家族が一時的に避難する場所として、可能性が高い場所の1位、2位にそれぞれ○をつけてください。

選 択 項 目	避難する可能性が高い1位の場所	避難する可能性が高い2位の場所
1 避難しない	22.1%	9.7%
2 市町が指定した避難地	50.8%	35.6%
3 自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所	20.2%	31.7%
4 親戚、知人宅	2.7%	13.6%
5 その他(具体的に)	1.5%	1.0%

2.7% 無効回答17件 8.3% 無効回答18件

問27-1 避難する場合の理由は何ですか。(○はいくつでも)

1 自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから	21.8%
2 自宅又はその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから	10.0%
3 自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから	14.6%
4 自宅の耐震性がないから(自宅が倒壊またはその危険があるから)	22.7%
5 自宅の倒壊の危険はないが、不安だから	37.5%

<問27-1で「1 自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」を選んだ方にお伺いします。> 10.0%

問27-2 地震が起こってから何分後に避難開始しますか。(○は1つ)

1 地震発生直後～5分	44.6%	2 6～10分	30.2%	3 11～20分	11.7%
4 21～30分	4.1%	5 31～60分	0.9%	6 60分以上	0.0%
7 わからない	8.1%				

<全ての方にお伺いします。> 0.5%

問27-3 避難するときの交通手段は何ですか。(○は1つ)

1 徒歩	78.3%	2 自転車	3.8%	3 原付・バイク	1.2%	4 自家用車	14.9%
5 公共交通機関(電車・バス・タクシー等)	0.0%						

1.8% 無効回答11件

7 警戒宣言が発せられたときの行動について

以下の質問は、南海トラフ地震のうち駿河トラフ沿いで大地震（東海地震）が発生するおそれがあると認められ、内閣総理大臣から「警戒宣言」が発せられた場合を想定してお伺いします。

問 28 平日の午前11時頃に警戒宣言が発せられたと仮定して、あなたがまず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に○をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初にすること (○は1つ)	B欄 その次にすること (○は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	48.0%	28.3%
2 行政に情報を確認する	0.3%	3.3%
3 インターネットで情報を確認する	7.8%	16.5%
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする	7.0%	52.0%
5 家の中の整理や火の始末をする	11.6%	36.8%
6 飲料水の用意や風呂に水をためる	0.6%	27.6%
7 家族と連絡をとる	10.9%	52.2%
8 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	3.0%	9.6%
9 買出しに行く	0.3%	6.7%
10 預金を引き出しに行く	0.0%	4.0%
11 帰宅する	2.7%	14.0%
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	3.4%	6.8%
13 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	3.1%	22.3%
14 何もしない	0.1%	0.4%

1.0% 無効回答 28 件

2.5% 無効回答 8 件

問 29 あなたのお宅は、警戒宣言が発せられたとき、避難が必要な地域ですか。(○は1つ)

1 避難が必要な地域 26.7% 2 避難する必要のない地域 26.0% 3 わからない 43.3%

4.0%

<問 29 で「1 避難が必要な地域」を選んだ方にお伺いします。>

問 29-1 避難が必要となる理由は何ですか。(○はいくつでも)

1 自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから	62.5%
2 自宅又はその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから	21.3%
3 自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから	16.9%
4 自宅の耐震性がないから（自宅が倒壊またはその危険があるから）	29.0%
5 自宅の倒壊の危険はないが、不安だから	14.7%

0.4%

<全ての方にお伺いします。>

問30 あなたやご家族は、自宅にいて警戒宣言が発せられた場合、避難しますか。(〇は1つ)

1	市町で指定した避難地	50.3%
2	指定された避難地以外の安全な場所	7.5%
3	親戚、知人宅	2.3%
4	自宅にいる	37.5%

⇒問29-2へ

<問30で「1 市町で指定した避難地」「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問30-1 避難するときの交通手段は何ですか。(〇は1つ)

1	徒歩	82.9%	2	自転車	2.8%	3	原付・バイク	0.7%	4	自家用車	11.8%
5	公共交通機関 (電車・バス・タクシー等)	0.0%							1.8%	無効回答	2件

<問30で「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」「4 自宅にいる」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問30-2 市町で指定した避難地へ避難しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)◀

1	避難地が遠すぎるから	12.3%	2	避難地へ行く途中の道に危険なところがあるから	11.9%
3	避難地自体が安全だと思わないから	24.4%	4	避難所が狭いから	15.0%
5	どこが避難地なのか知らないから	6.0%	6	避難の際、住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから	19.6%
7	高齢者や病人がいるから	15.2%	8	自主防災組織などの避難誘導體制が不十分であるから	2.7%
9	避難地ではプライバシーが守れないから	26.0%	10	その他 (具体的に)	15.8%

8 東海地震に関する情報について

14.0%

<全ての方にお伺いします。>

問31 東海地震に関連する情報として「東海地震に関連する調査情報」「東海地震注意情報」「東海地震予知情報 (警戒宣言)」の3つがあります。あなたは、このことをご存知ですか。(〇は1つ)

1	情報の詳しい内容まで知っている	3.1%	2	情報名は知っているが内容までは知らない	49.5%
3	全く知らない	45.0%			

問32 あなたは、現時点で東海地震は予知できると思いますか。(〇は1つ)

2.4%

1	完全に予知できると思う	0.6%	2	8割以上の確率で予知できると思う	3.5%
3	5割くらいの確率で予知できると思う	13.8%	4	全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う	59.2%
5	予知はできないと思う	20.9%			2.0%

問33 地震の強い揺れが来ることを、揺れる前にお知らせする情報である緊急地震速報が、気象庁からテレビ、ラジオ、緊急速報メール (エリアメール) などを通じて提供されています。あなたは緊急地震速報をご存知ですか。(〇は1つ)

1	知っている	91.7%	2	知らない	5.9%
---	-------	-------	---	------	------

問34 あなたは、屋内で緊急地震速報を受け取ったとき、まずはどのように行動しますか。(〇は1つ)

2.4%

1	その場で身の安全を図る	88.5%	2	何もしない	6.8%	3	その他 (具体的に)	2.7%
---	-------------	-------	---	-------	------	---	-------------	------

2.1%

問 35 次の1～30の項目について「はい」「いいえ」の欄に○をつけてください。

質 問 項 目	はい	いいえ
1 「自主防災新聞」を読んだことがある	29.2%	68.4%
2 自主防災組織が実施する研修会に参加したことがある	19.3%	78.4%
3 地震防災に関する講演会・シンポジウム等に参加したことがある	12.8%	85.0%
4 避難地・避難路の整備がされていることを知っている	42.8%	54.6%
5 防潮堤、防波堤、山崩れ防止工事など防災施設の整備がされていることを知っている	56.7%	40.9%
6 市町が津波避難ビルの指定や、津波避難タワー・命山の建設をしていることを知っている	68.4%	29.1%
7 避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある	75.4%	22.1%
8 町内の防火のための水利（いざというときに利用する水源）を知っている	34.9%	62.4%
9 町内の防災倉庫がある場所を知っている	70.3%	27.4%
10 地震体験車（起震車）などで地震の疑似体験をしたことがある	42.7%	55.3%
11 静岡県地震防災センター（静岡市葵区駒形通）に行ったことがある	14.3%	83.5%
12 建物の耐震対策について市町や県の土木事務所に相談窓口があることを知っている	26.9%	70.7%
13 災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている	72.6%	25.0%
14 緊急速報メール（エリアメール）を知っている	77.6%	20.3%
15 地震防災に関するパンフレットを読んだことがある	64.6%	32.7%
16 11月が地震防災強化月間であることを知っている	22.5%	75.2%
17 「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている	15.9%	81.4%
18 「命のパスポート」を知っている	7.5%	90.1%
19 災害図上訓練「DIG」を体験したことがある	3.7%	94.1%
20 避難所運営ゲーム「HUG」を体験したことがある	2.5%	95.3%
21 自主防災組織災害対応訓練「イメージTEN」を体験したことがある	1.4%	96.3%
22 災害を受ける危険度を示した地図（ハザードマップなど）で自宅を確認したことがある	49.9%	47.3%
23 過去の災害教訓を知っている	37.7%	59.3%
24 災害にあった人の体験談を聞いたことがある	39.0%	58.4%
25 災害報道に普段から接している	36.7%	60.2%
26 災害対策に関する書籍を読んだことがある	17.1%	79.8%
27 テレビのデータ放送（リモコンのdボタン）で災害情報を見られることを知っている	49.9%	47.4%
29 市町が出す「避難準備情報」、「避難勧告」、「避難指示」の違いを知っている	39.7%	57.7%
30 指定緊急避難場所と指定避難所の違いを知っている	17.5%	79.8%

9 不確実な地震予測情報下での避難と規制について

仮に南海トラフ沿いの和歌山県沖から高知県沖にかけての地域で大規模な地震（M8程度）が発生したとします。このとき、マスコミを通じて「しばらくの間、静岡県周辺でも大規模な地震が発生する可能性が高い。」という情報が出たことを想定し、以下の質問にお答えください。

問36 このような状況においても、あなたは避難すると思いますか。避難するとお考えの場合、その期間は最長でどれ位ですか。以下に示す期間から選択してください。（○は1つ）

1 避難しない	62.6%	2 3日程度まで	17.6%	3 1週間程度まで	12.1%
4 2週間～1ヶ月程まで	2.2%	5 1ヶ月以上避難する	1.6%		

3.9%

問37 このような状況で、混乱を避け万一の被害を減らすためには、何らかの社会的な規制が必要になると考えます。その時、どの程度の規制であればやむを得ないと思いますか。以下の中から選択してください。（○はいくつでも）

1 特に規制すべきではない	14.4%
2 県内へ入ろうとする車両の規制	25.7%
3 鉄道の運行停止	27.5%
4 空港の閉鎖（旅客運航の停止）	27.3%
5 保育園や学校の授業中止	62.7%
6 病院等の外来診療中止	8.8%
7 銀行の営業停止（一部店舗に限りATMによる営業継続）	12.9%
8 耐震性が確保されていない百貨店、スーパー等の営業停止	38.0%
9 津波浸水区域や土砂災害警戒区域等に立地する社会福祉施設の入居者（避難行動要支援者等）の避難義務化	45.4%
10 その他（以下へ具体的に記入してください。）	2.9%

[

]

4.2%

10 その他

問38 あなたは、今後、県や市町に対して要望することがありますか。次の中からあてはまるものをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも)

1	防潮堤、防波堤、水門等の整備	32.1%
2	津波から一時避難するための高台の整備	29.7%
3	津波避難ビルの指定や避難タワーの設置	27.6%
4	海岸から高台へ緊急避難するための避難階段や手すりの整備	21.0%
5	避難通路の安全性確保（障害物撤去、夜間照明の設置など）	44.0%
6	地震や津波でも壊れない避難所となる安全な公共施設の整備	49.0%
7	高所移転できる場所の整備	14.9%
8	津波避難看板、海拔表示の設置	16.8%
9	山・がけ崩れ防止施設の整備	31.2%
10	自主防災組織の活性化に向けた支援	25.4%
11	防災に関する公開講座、研修会等の実施	13.1%
12	学校での防災教育の促進	27.8%
13	防災訓練の実施強化	18.1%
14	災害時要援護者支援計画の策定促進	14.2%
15	帰宅困難者対策の促進	30.5%
16	ハザードマップの作成、配布	31.3%
17	水・食料の備蓄の強化	67.1%
18	同報無線等による緊急時の情報伝達の強化	34.8%
19	防災に関する情報提供の充実	33.3%
20	漁船や貨物などの流出対策	5.2%
21	オイルタンク流出に伴う火災対策	12.6%
22	在日及び訪日外国人への情報提供手段の整備	14.4%
23	港湾施設内への津波情報伝達施設の設置	7.4%
24	その他（具体的に)	5.8%

4.1%

問 39 (自然災害全般についてお聞きします) あなたがお住まいになっている地域で、災害の危険性に関する情報、災害対策に役立つ情報、災害時に提供される情報で、現在より充実して欲しいものは何ですか。
(〇はいくつでも)

1	居住地域で過去に災害が発生した場所を示す地図	28.4%
2	自宅がある場所での被災実績	22.8%
3	災害時の避難場所・避難経路	37.7%
4	災害を受ける危険度を示した地図(ハザードマップなど)	38.0%
5	街中の災害情報に関する標識類	14.1%
6	学校や社会福祉施設、医療機関などの公共的施設の耐震性	37.0%
7	災害時に提供される情報の内容、入手先、利用方法	41.7%
8	災害時に必要となる気象や雨量などに関する用語の解説	9.4%
9	震度・雨量・特別警報などの情報	30.0%
10	地域の危険箇所	43.0%
11	職場・学校の被害状況	17.4%
12	交通機関の運行状況	30.6%
13	道路の開通・渋滞状況	37.1%
14	自治体による避難勧告や避難指示など	27.6%
15	避難場所(災害から身を守るために一時的に避難する場所など)	36.7%
16	避難所(災害時に一定の期間避難生活をする施設)	37.4%
17	家族や知人の安否	40.5%
18	けが人や救急患者の受入病院	48.5%
19	救援物資が受け取れる場所の情報など	52.2%
20	ガソリンなど燃料を給油できる場所の情報	35.7%
21	ライフラインの復旧見通し	57.0%
22	その他(具体的に)	2.3%

2.9%

問 40 災害が発生した時にその被害を軽減するために取る対応について、国や地方公共団体による「公助」、地域の住民やボランティア、企業などの連携による「共助」、自ら身を守る「自助」というものがあります。災害発生時に取るべき対応として、このなかからあなたの気持ちに最も近いものを1つお答えください。
(〇は1つ)

1	公助に重点を置いた対応をすべき	9.4%
2	共助に重点を置いた対応をすべき	9.9%
3	自助に重点を置いた対応をすべき	19.6%
4	公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべき	57.2%
5	その他(具体的に)	0.4%

3.6% 無効回答4件

お疲れ様でした。

質問は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。